

岡山県子育て家庭環境調査

報 告 書

平成 28 年 1 月

岡 山 県

目次

I 調査概要

1 調査目的	1
2 調査項目	1
3 調査設計	1
4 調査の協力者	1
5 回収結果	1
6 回答者の属性	1
7 本報告書を見る際の留意点	2

II 調査結果

1 基本属性

SC1.居住地区	3
SC2.性別	3
SC3.年齢	3
Q1.結婚持続期間	5
Q2.子どもの有無	6
Q3.子どもの人数	7
Q4.世帯構成	8
Q5.世帯年収	9

2 家族についての意識

Q6.結婚観	10
Q7.家族の役割として重要なこと	13
Q8.理想の家族の住まい方	17

3 家庭における出産や子育てについての意識

Q9.理想子ども数	21
Q10.予定子ども数	22
Q11.希望の時期	24
Q12.理想子ども数を持たない理由	28
Q13.予定子ども数を実現できない可能性	40
Q14.家庭での育児や家事の役割	45
Q15.育児や家事で夫も行った方がよいと思うこと	48
Q16.祖父母の育児や家事の手助け	53
Q17.祖母に期待する手助け	56
Q18.祖父に期待する手助け	56

4 地域での子育て支援環境づくりについての意識

Q19.子どもの世話を頼める親族等の有無	64
Q20.子育てする人にとっての地域の支えの重要性	66
Q21.地域で子育てを支えるために重要なこと	69

5 多子世帯に関する意識	
Q22.子どもに対する考え方	74
Q23.(これ以上)子どもが欲しくない理由	78
Q24.現在の就労状況	85
Q25.配偶者の現在の就労状況	85
Q26.就労の理由	90
Q27.会社・職場(上司)の育児制度の活用や子育てについての理解の度合い	93
Q28.就労していない理由	98
Q29.家庭での育児の役割	101
Q30.家庭での家事の役割	101
Q31.子育て支援制度や施設等の利用状況	106
Q32.住居の状況	111
Q33.祖父母の住居との距離	114
Q34.祖父母(夫方の親)からの子育て支援	121
Q35.祖父母(妻方の親)からの子育て支援	121
Q36.祖父母(夫方の親)からの子育て支援の内容	128
Q37.祖父母(妻方の親)からの子育て支援の内容	128
Q38.子育てにかかる経済的負担	137
Q39.子育てをされていて負担・不安に思うこと	140
Q40.妊娠・出産に積極的になる要素	144
6 三世同居・近居に関する意識	
Q41.同居又は近居したきっかけ	151
Q42.同居又は近居のメリット	154
Q43.同居又は近居のデメリット	158
Q44.同居又は近居していない人の理想の家族の住まい方	162
Q45.同居が好ましいと思う理由	165
Q46.同居が好ましいと思うのに同居していない理由	167
Q47.同居が好ましいと思わない理由	170
Q48.近居が好ましいと思う理由	173
Q49.近居が好ましいと思うのに近居していない理由	175
Q50.近居が好ましいと思わない理由	177
III 考察	179

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、地域の実情に合わせたきめ細やかな少子化対策を推進するため、県民の出産及び子育てに関する意識に加え、多子世帯、三世帯同居及び近居等に関する意識を把握し、効果的な施策立案を行うための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 家族についての意識
- (2) 家庭における出産や子育てについての意識
- (3) 地域での子育て支援環境づくりについての意識
- (4) 多子世帯に関する意識
- (5) 三世帯同居・近居に関する意識

3 調査設計

- (1) 調査地域 岡山県全域
- (2) 調査対象 20歳から49歳までの既婚男女（既婚に、離死別は含まない。）
- (3) 調査方法 インターネット調査
- (4) 実施時期 平成27年8月18日～平成27年9月9日

4 調査の協力者

本調査を効果的に遂行するため、学識経験者の協力を得て、調査対象、調査項目及び設問内容の検討を行い、結果の分析・考察を行っていただいた。御協力いただいた学識経験者については次のとおり。

柏 まり （就実大学教育学部初等教育学科准教授）

佐藤 和順 （岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科教授）

（50音順・敬称略）

5 回収結果

有効回答数 2,571人

6 回答者の属性

- (1) 居住地 （県民局別）

	総数	備前県民局	備中県民局	美作県民局
回答数	2571	1401	964	206
割合	100.0	54.5	37.5	8.0

※各県民局の対象地域は次のとおり。

備前県民局管内：岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町

備中県民局管内：倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町

美作県民局管内：津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町

(2) 性別

	総数	男性	女性
回答数	2571	1165	1406
割合	100.0	45.3	54.7

(3) 年齢（性別・年代別）

		20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全体	回答数	36	186	396	607	708	638
	割合	1.4	7.2	15.4	23.6	27.5	24.8
男性	回答数	5	40	105	239	385	391
	割合	0.4	3.4	9.0	20.5	33.0	33.6
女性	回答数	31	146	291	368	323	247
	割合	2.2	10.4	20.7	26.2	23.0	17.6

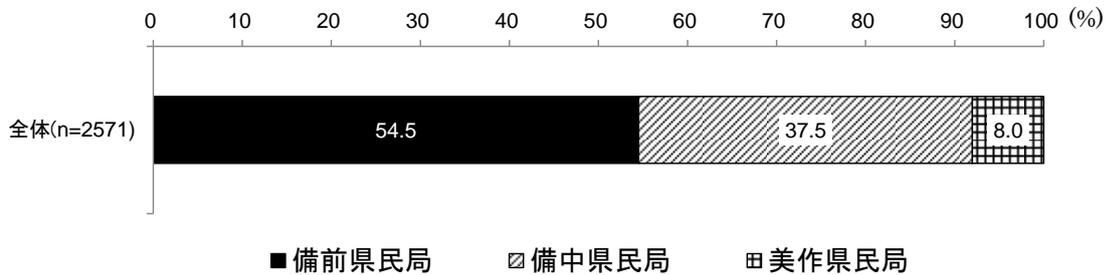
7 本報告書を見る際の留意点

- (1) 結果数値(%)は表章単位未満を四捨五入しているため、内訳の計が合計に一致しないことがある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、表記の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- (4) 報告書中の図表について、質問に対する回答者数で、100.0%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数となる数を「全体n = ()」で示している。

II 調査結果

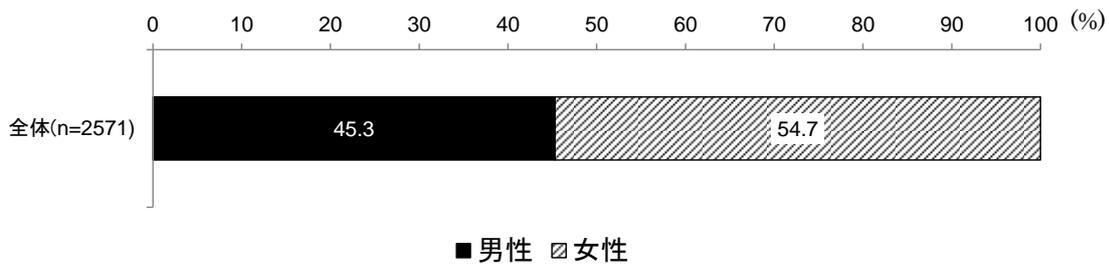
SC1.あなたのお住まいはどちらですか。

備前県民局が 54.5%、備中県民局が 37.5%、美作県民局が 8.0%である。



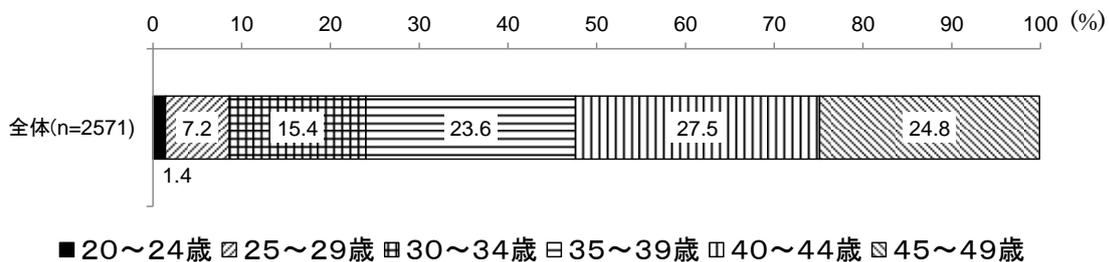
SC2.あなたの性別を教えてください。

男性が 45.3%、女性が 54.7%である。



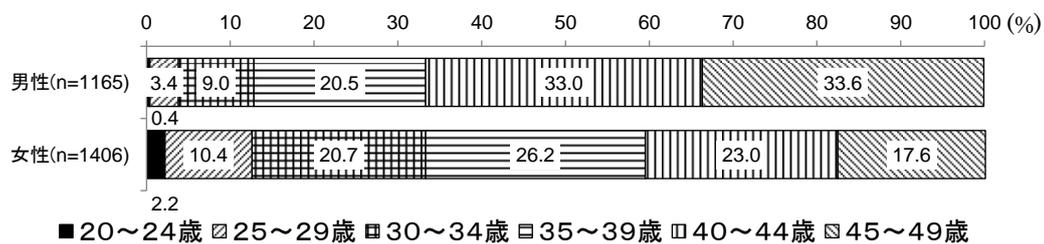
SC3.あなたの年齢を教えてください。

「40～44 歳」が 27.5%と最も高く、次いで「45～49 歳」(24.8%)、「35～39 歳」(23.6%)である。



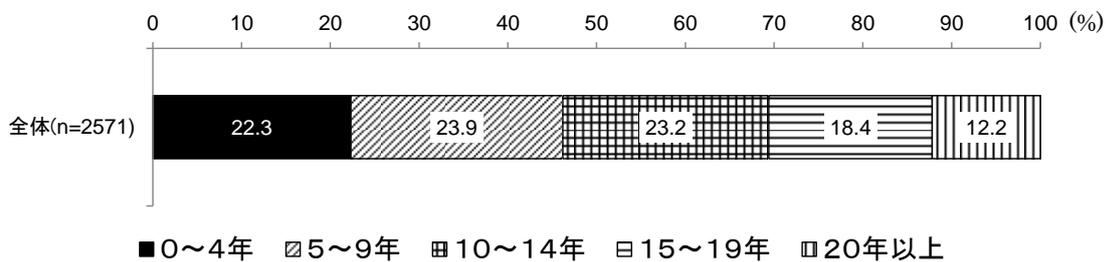
【性別】

男性では、女性と比べて、「40～44歳」「45～49歳」と回答した割合が高く、「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」と回答した割合が低い。



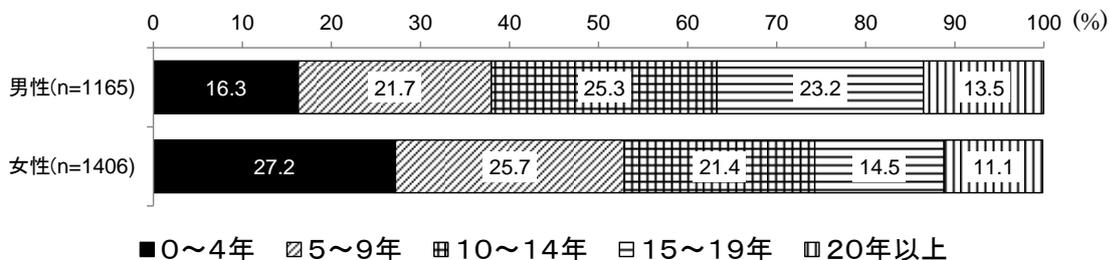
Q1.結婚からの経過期間を教えてください。

「5～9年」が23.9%と最も高く、次いで「10～14年」(23.2%)、「0～4年」(22.3%)となっている。



【性別】

男性では、女性と比べて、「15～19年」と回答した割合が高く、「0～4年」と回答した割合が低い。



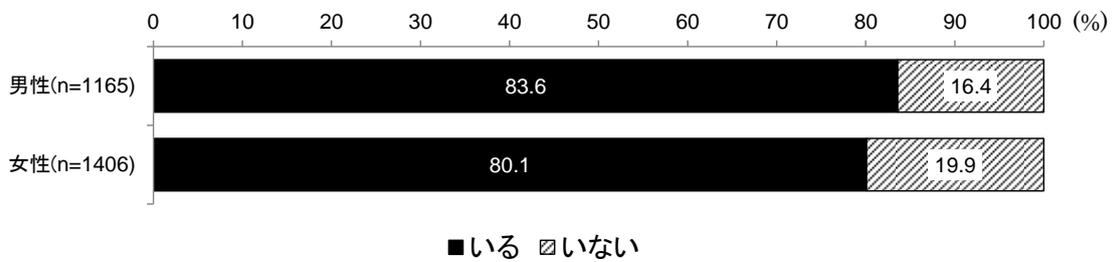
Q2.あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

「いる」が81.7%、「いない」が18.3%である。



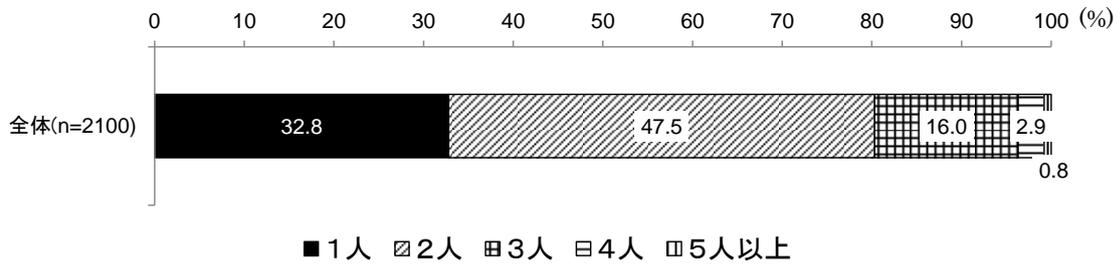
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



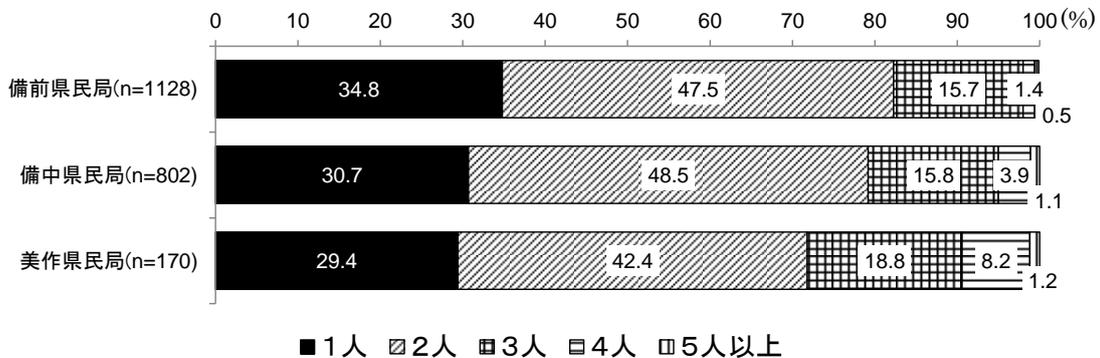
Q3.お子さんの人数を教えてください。

「1人」が32.8%、「2人」が47.5%、「3人」が16.0%、「4人」が2.9%、「5人以上」が0.8%である。



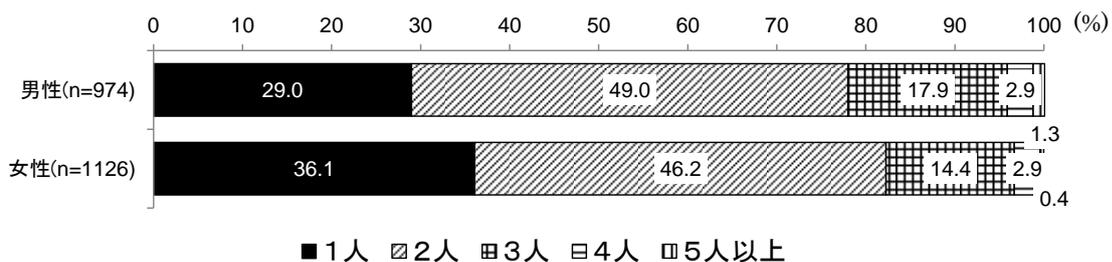
【居住地別】

居住地別では、備前県民局・備中県民局と比べて、美作県民局で「4人」「5人以上」と回答した割合が高い。



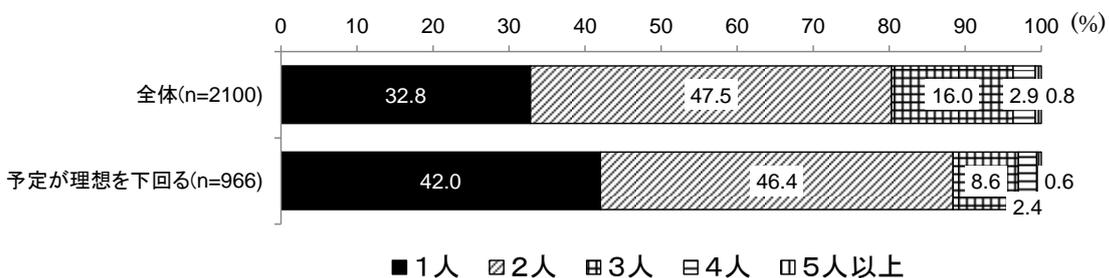
【性別】

男性では、女性と比べて、「1人」と回答した割合が低い。



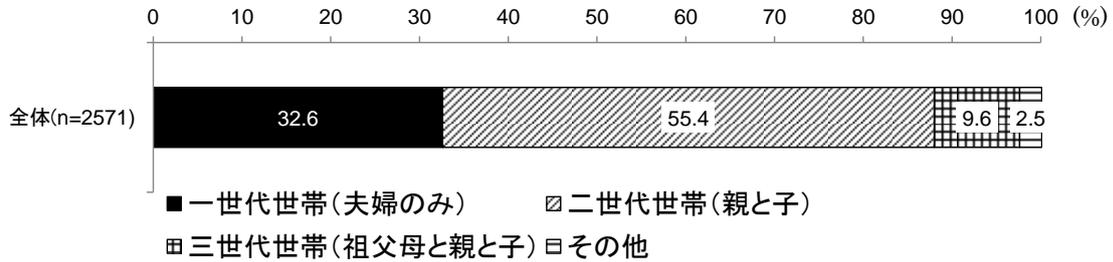
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、全体と比べて、「1人」と回答した割合が高い。



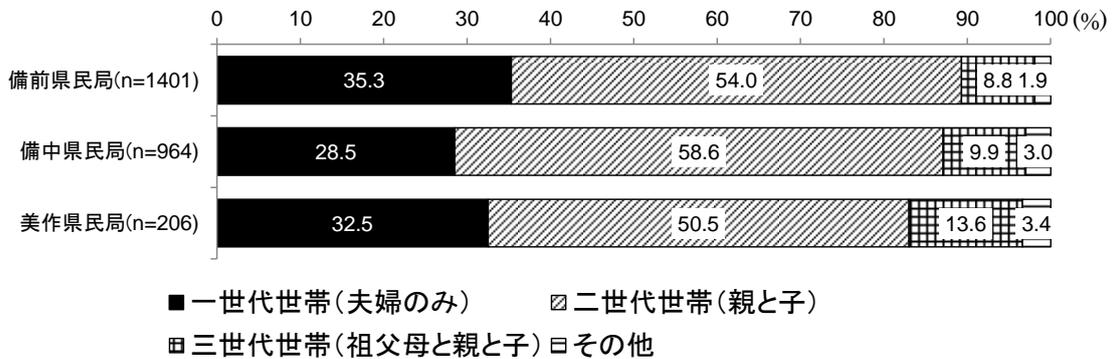
Q4.あなたの世帯構成を教えてください。

「二世帯世帯（親と子）」が 55.4%と最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」（32.6%）、「三世帯世帯（祖父母と親と子）」（9.6%）となっている。



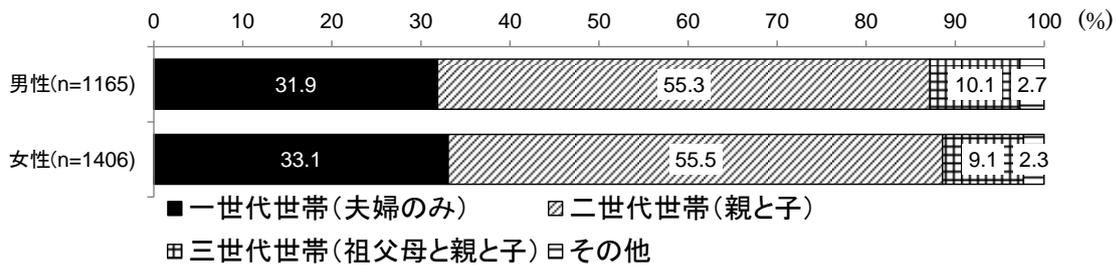
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で三世帯世帯（祖父母と親と子）と回答した割合が高い。



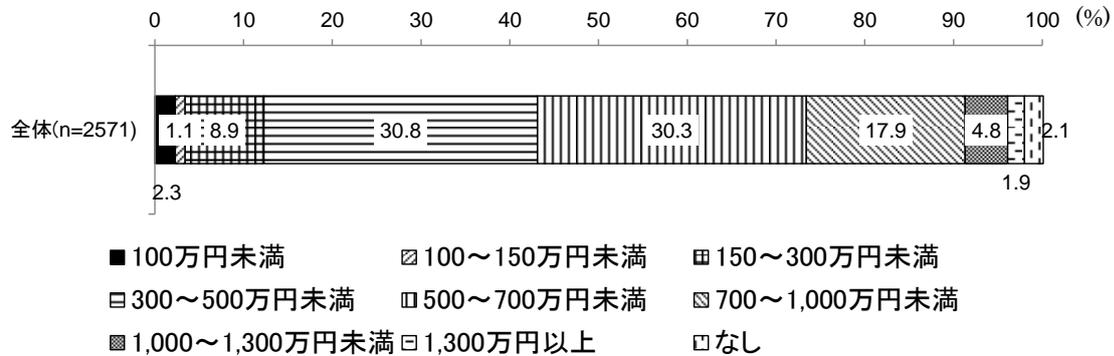
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



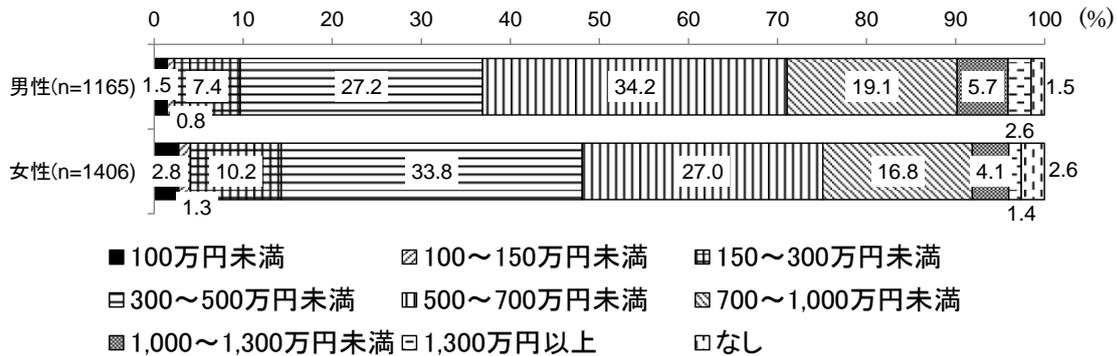
Q5.あなたの世帯の合計年収を教えてください。

「300～500万円未満」が30.8%と最も高く、次いで「500～700万円未満」(30.3%)、「700～1,000万円未満」(17.9%)となっている。



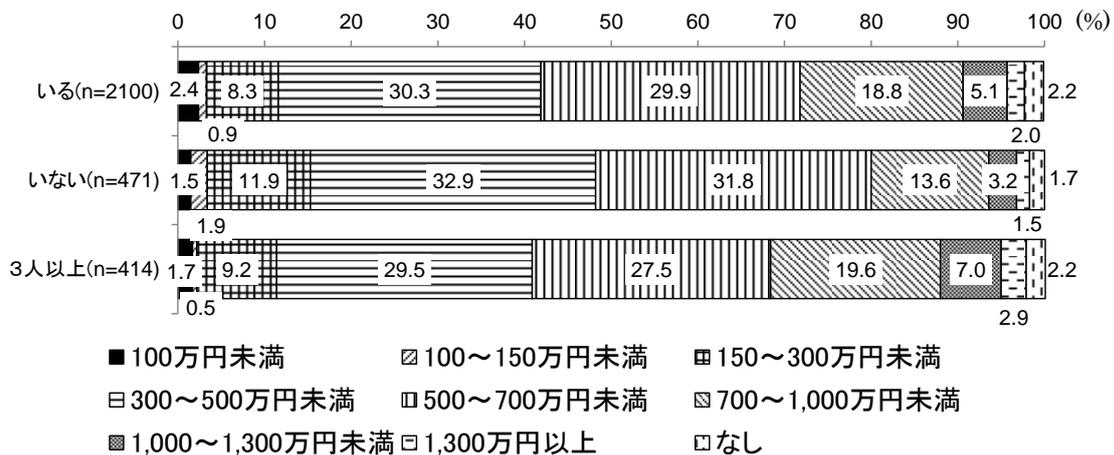
【性別】

男性では、女性と比べて、「500～700万円未満」と回答した割合が高く、「300～500万円未満」と回答した割合が低い。



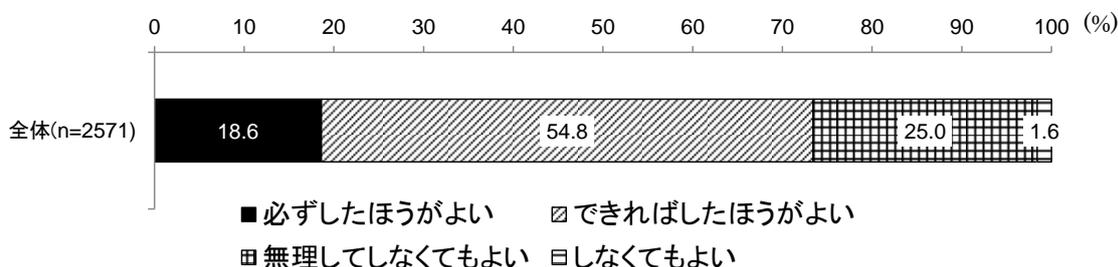
【子ども有無別】

子どもがいないでは、500万円未満と回答した割合が高くなっている。



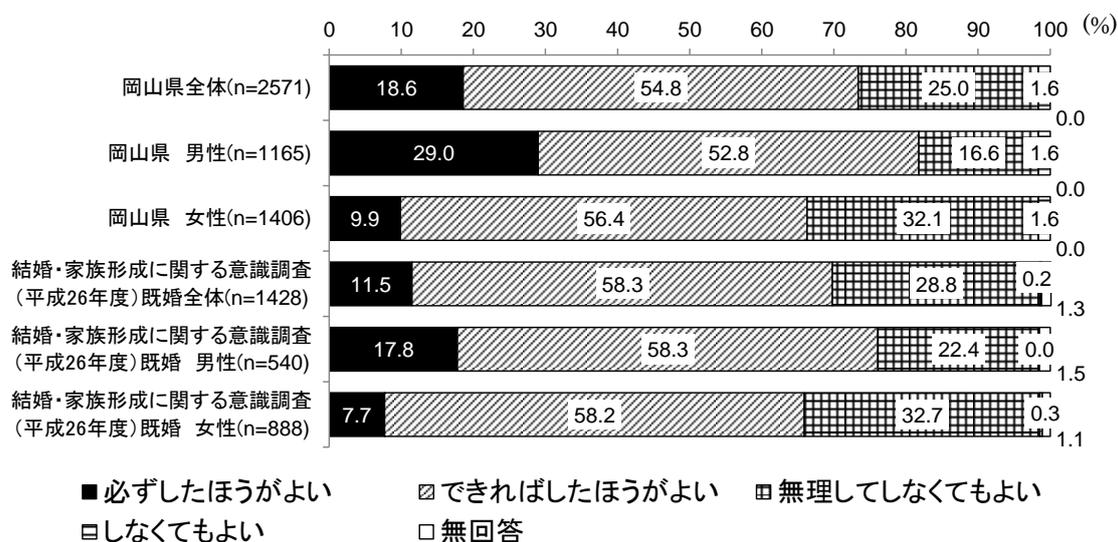
Q6.あなたは、結婚についてどのようにお考えですか。(〇は1つ)

「できればしたほうがよい」が54.8%と最も高く、次いで「無理してしなくてもよい」(25.0%)、「必ずしたほうがよい」(18.6%)となっている。



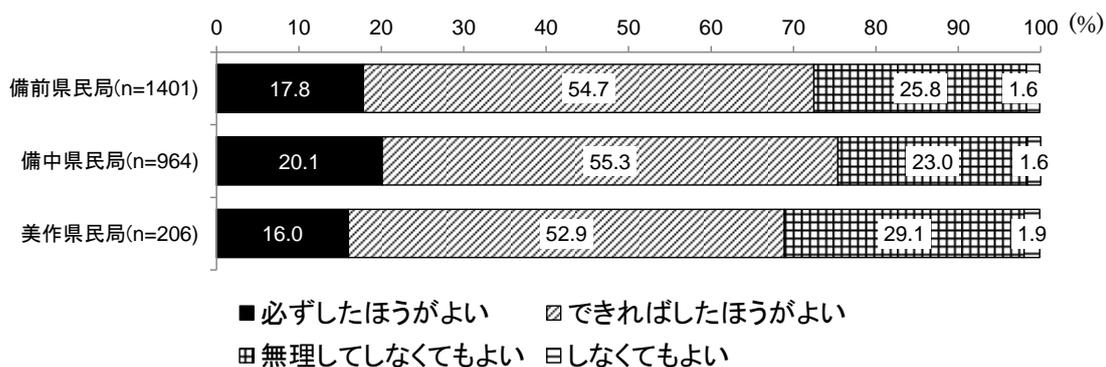
【全国調査との比較】

全国調査と比べて、特に男性では、「必ずしたほうがよい」と回答した割合が高い。



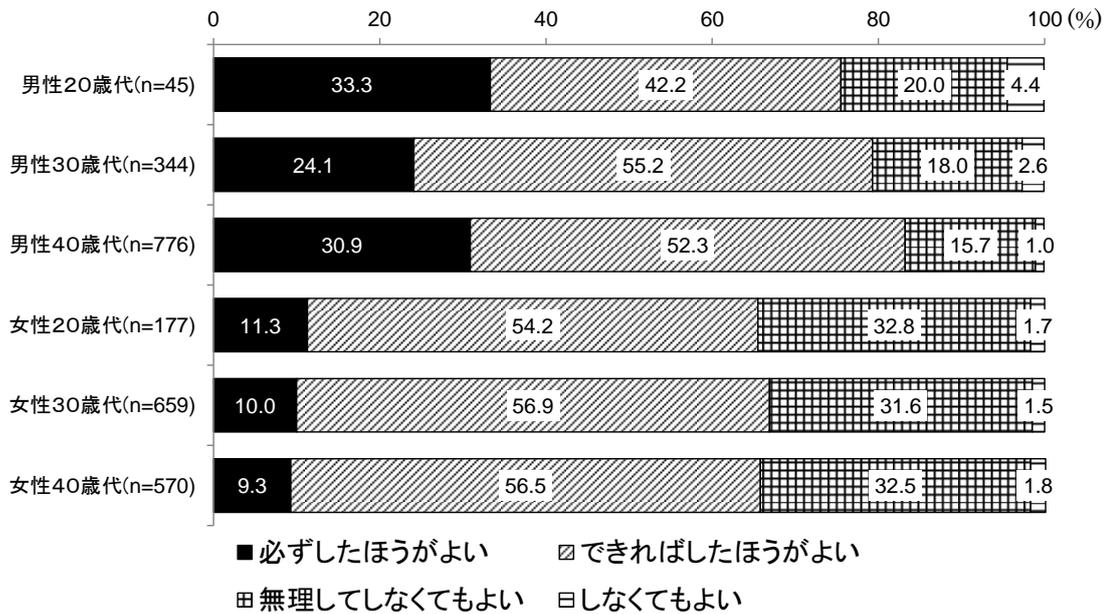
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で「無理してしなくてもよい」と回答した割合が高い。



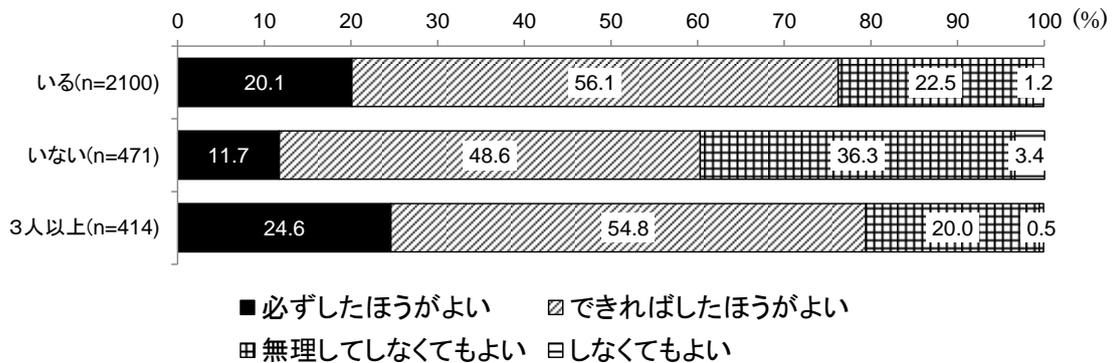
【性別・年代別】

男性 20 歳代・男性 40 歳代では、「必ずしたほうがよい」と回答した割合が 3 割以上と高い。



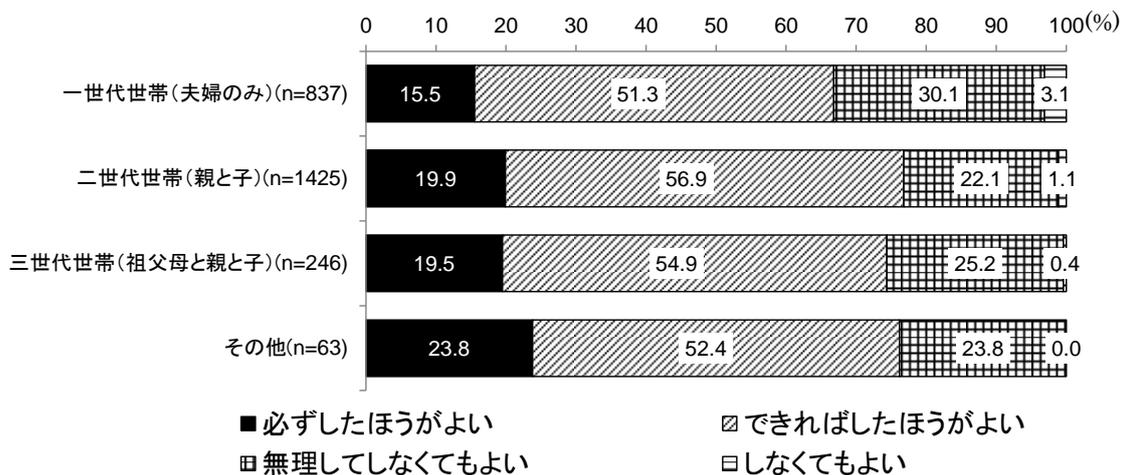
【子ども有無別】

子どもがいる又は 3 人以上では、子どもがいないと比べて、「必ずしたほうがよい」と回答した割合が高く、「無理してしなくてもよい」と回答した割合が低い。



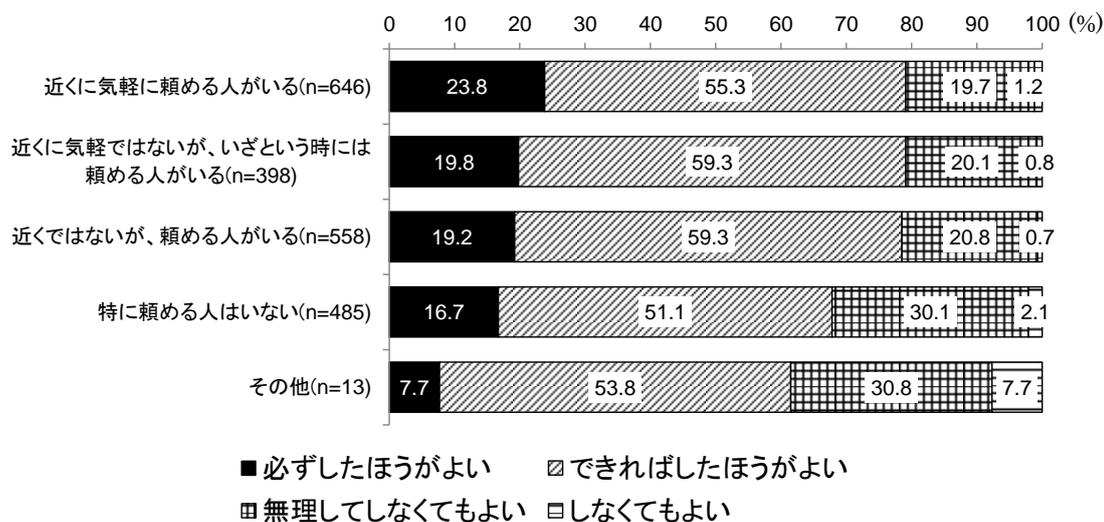
【世帯構成別】

世帯構成別では、一世代世帯（夫婦のみ）で「無理してしなくてもよい」と回答した割合が高い。



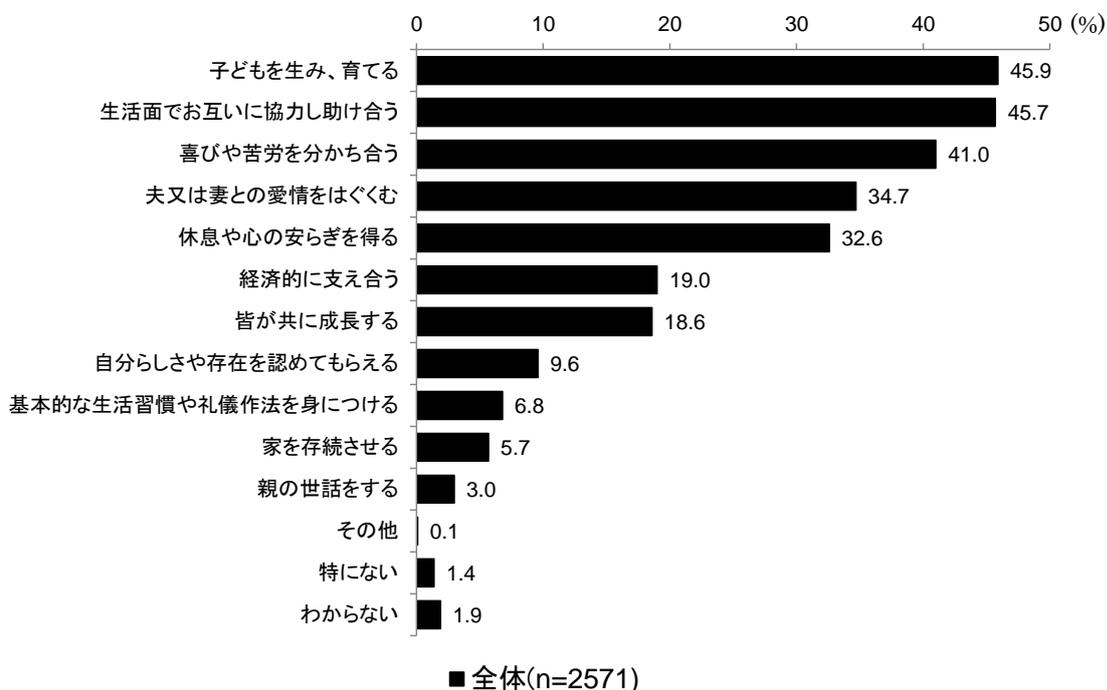
【世話を頼める知人等の有無別】

近くに気軽に頼める人がいるでは「必ずしたほうがよい」、特に頼める人はいないでは「無理してしなくてもよい」と回答した割合が高い。



Q7.あなたが、家族の役割として重要だと思うものは何ですか。(〇は3つまで)

「子どもを生み、育てる」が 45.9%と最も高く、次いで「生活面でお互いに協力し助け合う」(45.7%)、「喜びや苦勞を分かち合う」(41.0%)となっている。



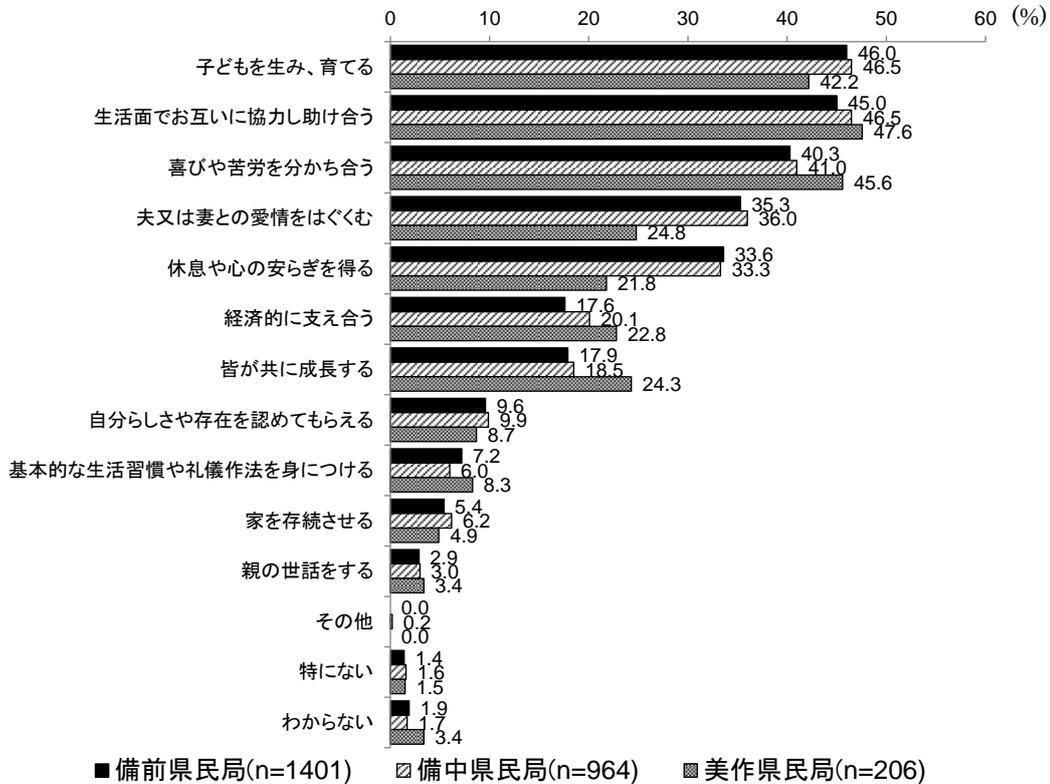
【全国調査との比較】

男性では、全国調査と比べて、「子どもを生み、育てる」「喜びや苦勞を分かち合う」「休息や心の安らぎを得る」と回答した割合が高く、「経済的に支え合う」と回答した割合が低い。

	子どもを生み、育てる	生活面でお互いに協力し助け合う	喜びや苦勞を分かち合う	夫又は妻との愛情をはぐくむ	休息や心の安らぎを得る	経済的に支え合う	皆が共に成長する	自分らしさや存在を認められる	基本的な生活習慣や礼儀作法を身につける	家を存続させる	親の世話をする	その他	特にない	わからない
岡山県男性(n=1165)	50.5%	43.0%	37.0%	39.1%	27.0%	20.0%	15.5%	4.0%	7.3%	8.9%	3.5%	0.0%	1.2%	2.7%
岡山県女性(n=1406)	42.1%	48.0%	44.2%	31.0%	37.1%	18.1%	21.3%	14.2%	6.5%	3.0%	2.5%	0.1%	1.6%	1.3%
家族と地域における子育てに関する意識調査(平成25年度)男性有配偶(n=543)	35.0%	50.3%	27.3%	48.6%	16.8%	41.6%	20.4%	5.3%	7.2%	17.3%	10.3%	0.0%	0.2%	0.9%
家族と地域における子育てに関する意識調査(平成25年度)女性有配偶(n=668)	44.0%	49.9%	38.2%	43.1%	22.6%	28.7%	20.2%	10.5%	10.6%	9.0%	11.1%	0.0%	0.3%	0.0%

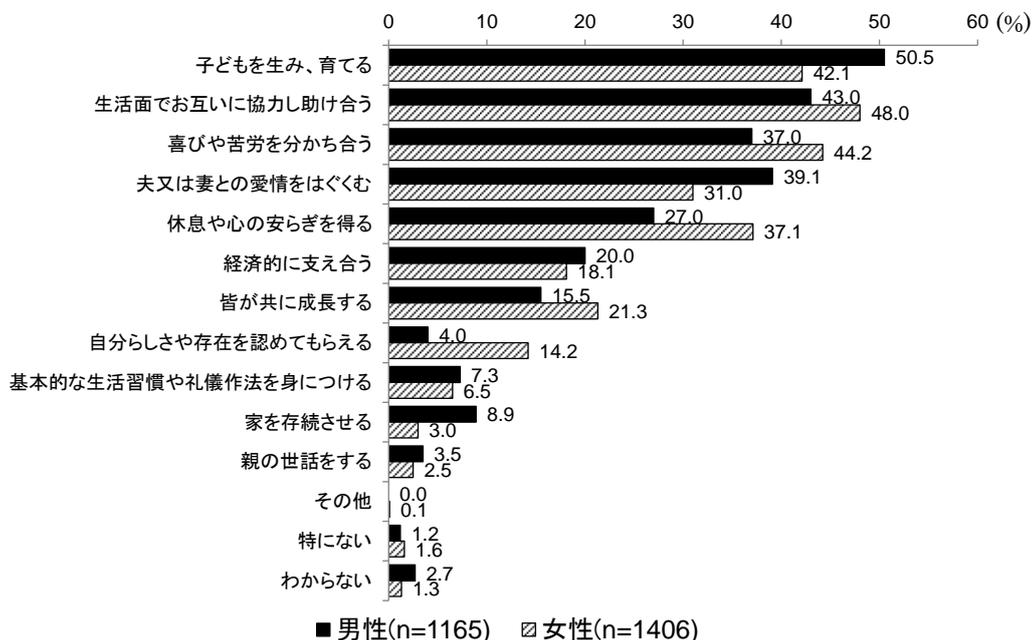
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「喜びや苦勞を分かち合う」「皆が共に成長する」と回答した割合が高く、「子どもを生み、育てる」「夫又は妻との愛情をはぐくむ」「休息や心の安らぎを得る」と回答した割合が低い。



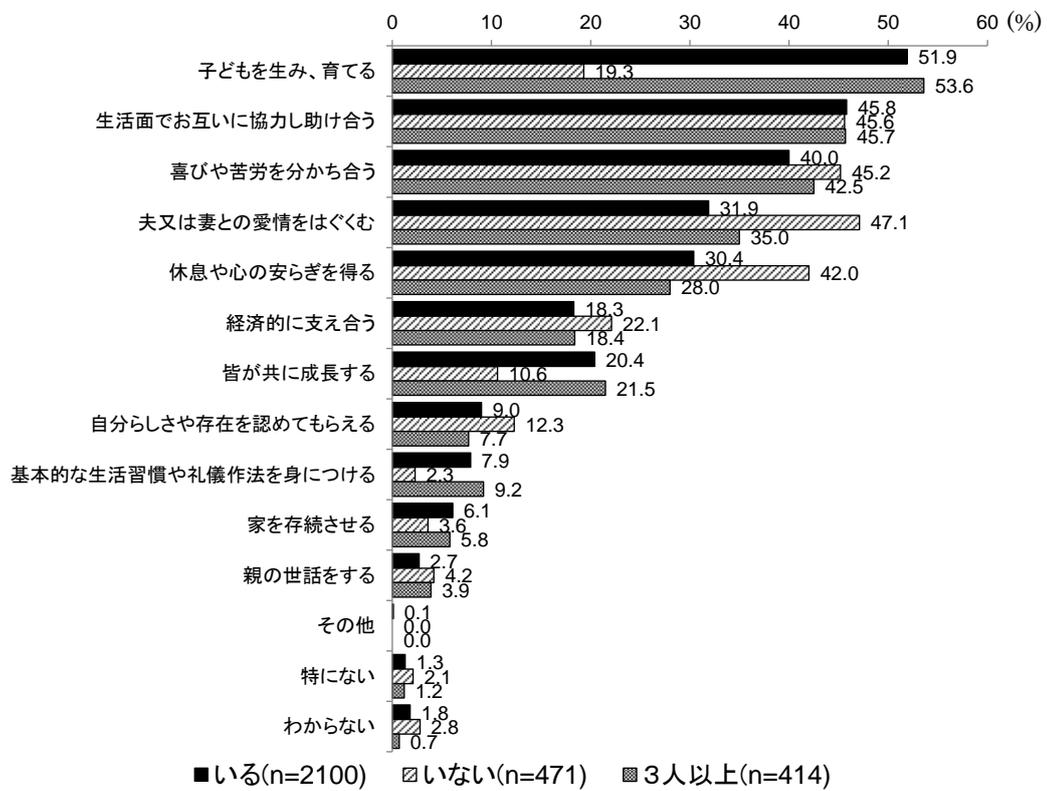
【性別】

男性では、女性と比べて、「子どもを生み、育てる」「夫又は妻との愛情をはぐくむ」「家を存続させる」と回答した割合が高く、「生活面でお互いに協力し助け合う」「喜びや苦勞を分かち合う」「休息や心の安らぎを得る」「皆が共に成長する」「自分らしさや存在を認められる」と回答した割合が低い。



【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「子どもを生み、育てる」「皆が共に成長する」「基本的な生活習慣や礼儀作法を身につける」と回答した割合が高く、「夫又は妻との愛情をはぐくむ」「休息や心の安らぎを得る」「経済的に支え合う」と回答した割合が低い。



【結婚観別】

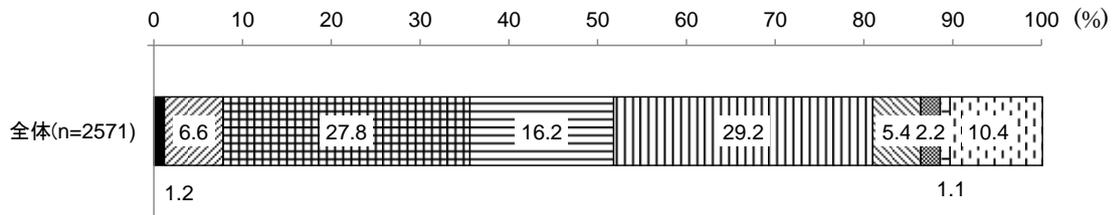
男性・女性ともに必ずしたほうがよいでは、「子どもを生み、育てる」と回答した割合が高い。また、男性の必ずしたほうがよいでは「夫又は妻との愛情をはぐくむ」「家を存続させる」、女性のできたほうがよいでは「喜びや苦労を分かち合う」、女性の無理してしなくてもよいでは「生活面でお互いに協力し助け合う」「自分らしさや存在を認めてもらえる」と回答した割合が高い。

性別・結婚観	(集計客体数)	子どもを生み、育てる	生活面でお互いに協力し助け合う	喜びや苦労を分かち合う	夫又は妻との愛情をはぐくむ	休息や心の安らぎを得る	経済的に支え合う	皆が共に成長する	自分らしさや存在を認めてもらえる	基本的な生活習慣や礼儀作法を身につける	家を存続させる	親の世話をする	その他	特になし	わからない
男性 必ずしたほうがよい	(n=338)	66.0%	35.8%	37.6%	49.1%	21.0%	17.8%	14.8%	2.1%	7.4%	11.2%	2.7%	0.0%	0.0%	1.2%
男性 できればしたほうがよい	(n=615)	50.6%	46.8%	37.1%	37.7%	28.6%	20.0%	16.7%	3.9%	7.8%	8.9%	4.2%	0.0%	0.8%	1.5%
男性 無理してしなくてもよい	(n=193)	27.5%	45.1%	38.3%	28.5%	34.7%	24.9%	13.0%	8.3%	6.2%	5.7%	2.6%	0.0%	2.6%	7.3%
男性 しなくてもよい	(n=19)	5.3%	26.3%	10.5%	15.8%	5.3%	10.5%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	21.1%	26.3%
女性 必ずしたほうがよい	(n=139)	65.5%	41.7%	38.8%	32.4%	27.3%	18.7%	20.1%	10.1%	6.5%	5.8%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性 できればしたほうがよい	(n=793)	47.7%	46.7%	47.4%	32.4%	38.2%	17.3%	22.6%	13.0%	6.4%	3.2%	2.8%	0.3%	0.4%	0.3%
女性 無理してしなくてもよい	(n=451)	26.2%	52.8%	41.7%	28.6%	39.0%	19.1%	20.2%	18.2%	6.7%	2.0%	1.3%	0.0%	3.8%	3.1%
女性 しなくてもよい	(n=23)	21.7%	39.1%	17.4%	21.7%	21.7%	26.1%	4.3%	4.3%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	13%	8.7%

Q8.あなたにとって、理想の家族の住まい方とは、どのようなものですか。(〇は1つ)

(*近居:最もよく使う交通手段でかかる時間が片道15分未満)

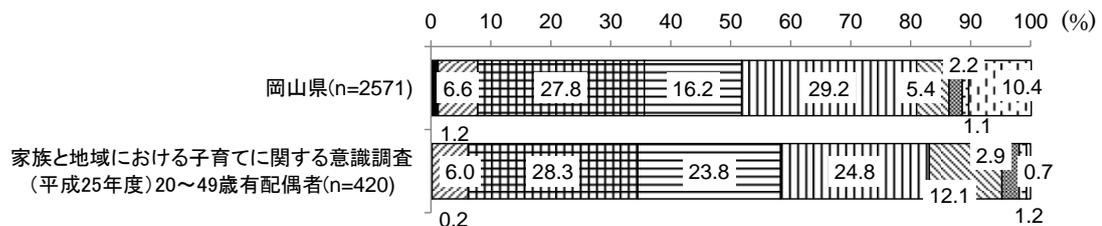
「親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居」が29.2%と最も高く、次いで「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」(27.8%)、「親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居」(16.2%)となっている。



- ひとり暮らし
- ▣ 夫婦のみの二人暮らし
- ▤ 親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む
- ▥ 親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居
- ▦ 親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居
- ▧ 親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)
- ▨ 親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世帯世帯(同居)
- その他
- わからない

【全国調査との比較】

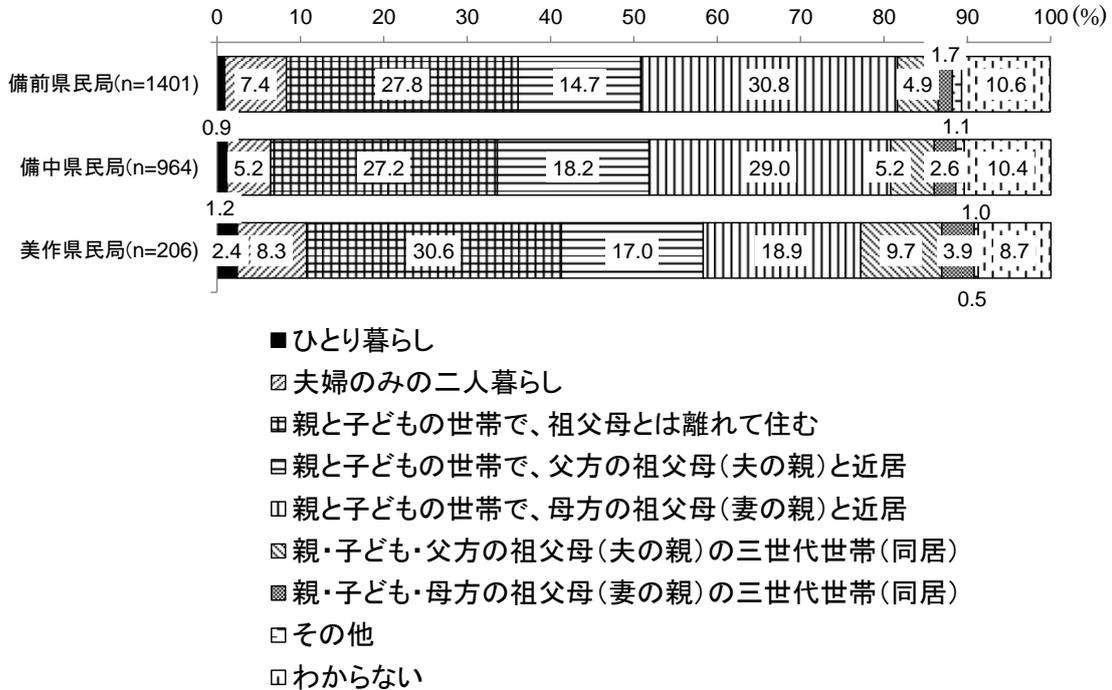
全国調査と比べて、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)」と近居」と回答した割合が高く、「親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)」と回答した割合が低い。



- ひとり暮らし
- ▣ 夫婦のみの二人暮らし
- ▤ 親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む
- ▥ 親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居
- ▦ 親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居
- ▧ 親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)
- ▨ 親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世帯世帯(同居)
- その他
- わからない

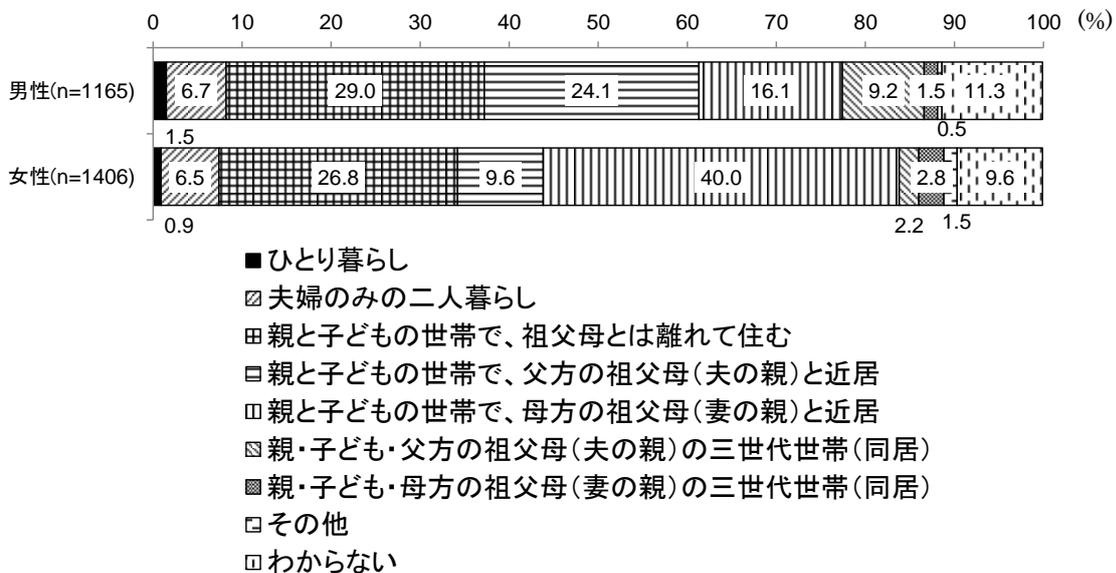
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」と回答した割合が低い。



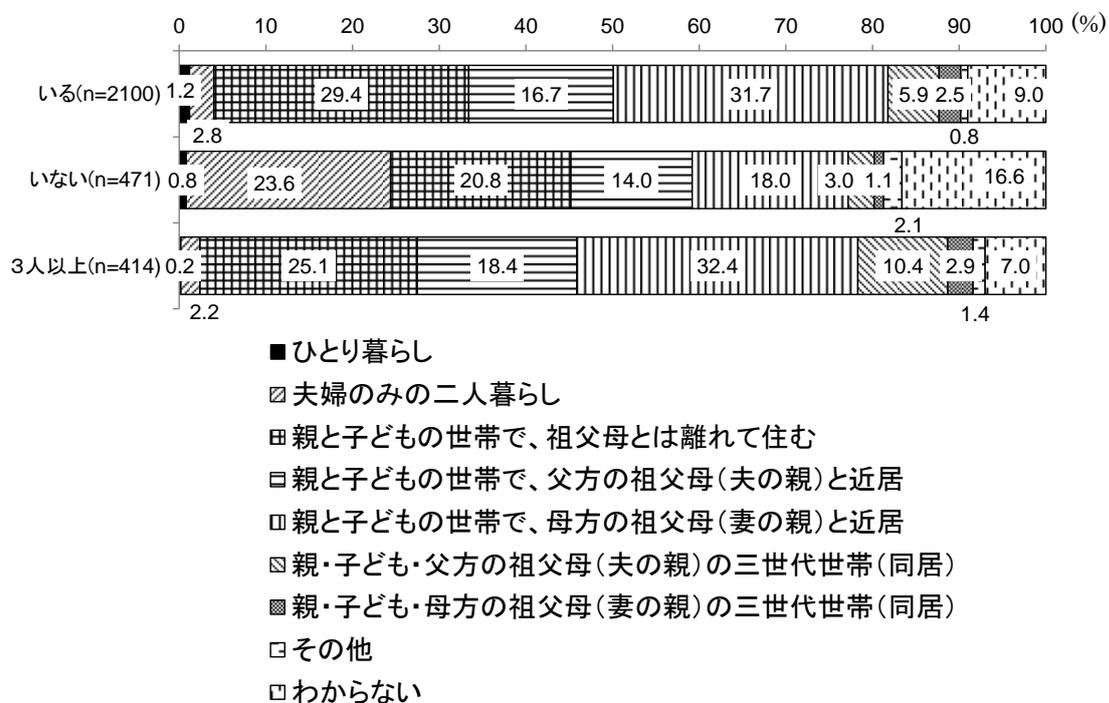
【性別】

男性では「親と子どもの世帯で、父方の祖父母（夫の親）と近居」と回答した割合が高く、女性では「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」と回答した割合が高い。



【子ども有無別】

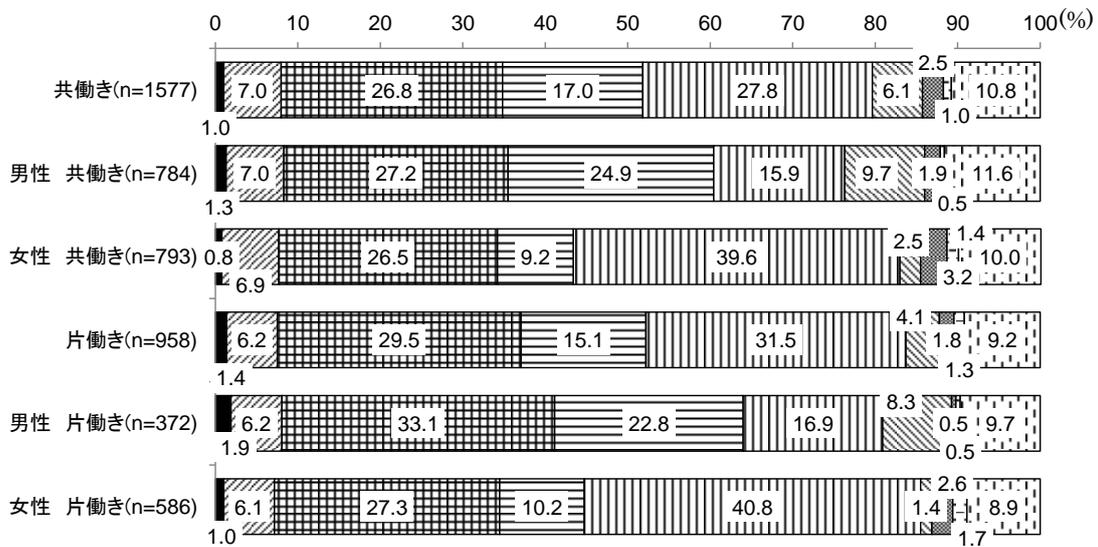
子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」と回答した割合が高く、「夫婦のみの二人暮らし」「わからない」と回答した割合が低い。



【性別・夫婦就労状況別】

共働き世帯の男性では、「親と子どもの世帯で、父方の祖父母（夫の親）と近居」と回答した割合が高く、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」と回答した割合が低い。それに対して、共働き世帯の女性では、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」と回答した割合が高く、「親と子どもの世帯で、父方の祖父母（夫の親）と近居」と回答した割合が低い。

また、片働き世帯の男性では、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」「親と子どもの世帯で、父方の祖父母（夫の親）と近居」と回答した割合が高く、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」と回答した割合が低い。それに対して、片働き世帯の女性では、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」と回答した割合が高い。



■ひとり暮らし

□夫婦のみの二人暮らし

▣親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む

□親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居

▣親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居

▣親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)

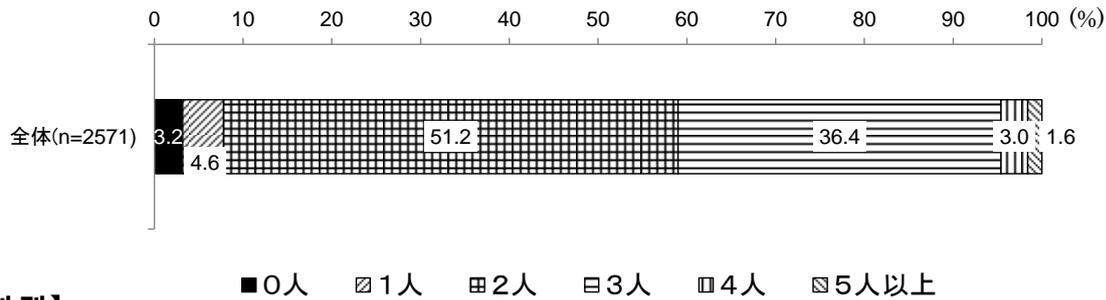
▣親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世帯世帯(同居)

□その他

□わからない

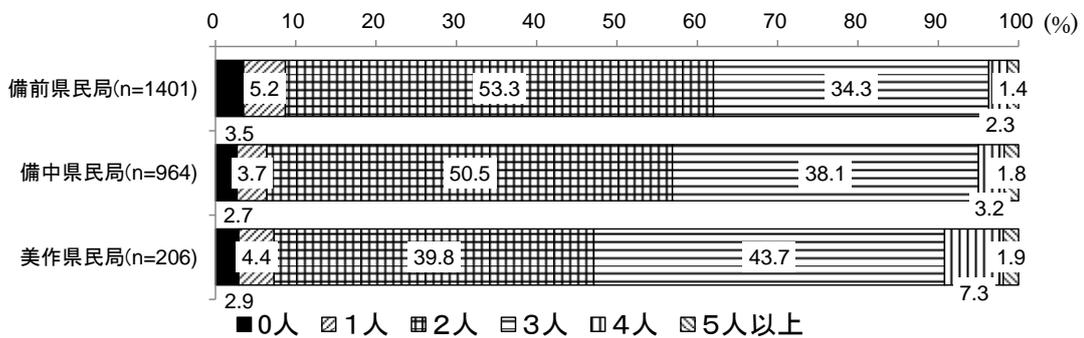
Q9.あなた方ご夫婦にとって理想的な子どもの数(理想子ども数)は何人ですか。

「1人」が4.6%、「2人」が51.2%、「3人」が36.4%、「4人」が3.0%、「5人以上」が1.6%である。



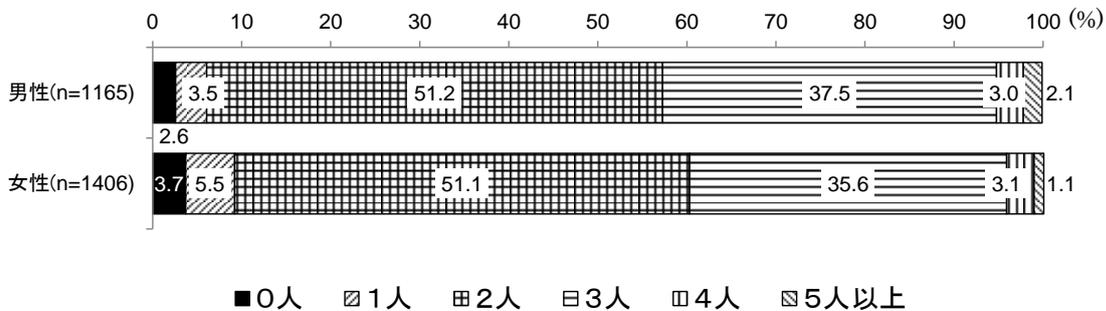
【居住地別】

居住地別では、美作県民局では「3人」と回答した割合が高い。



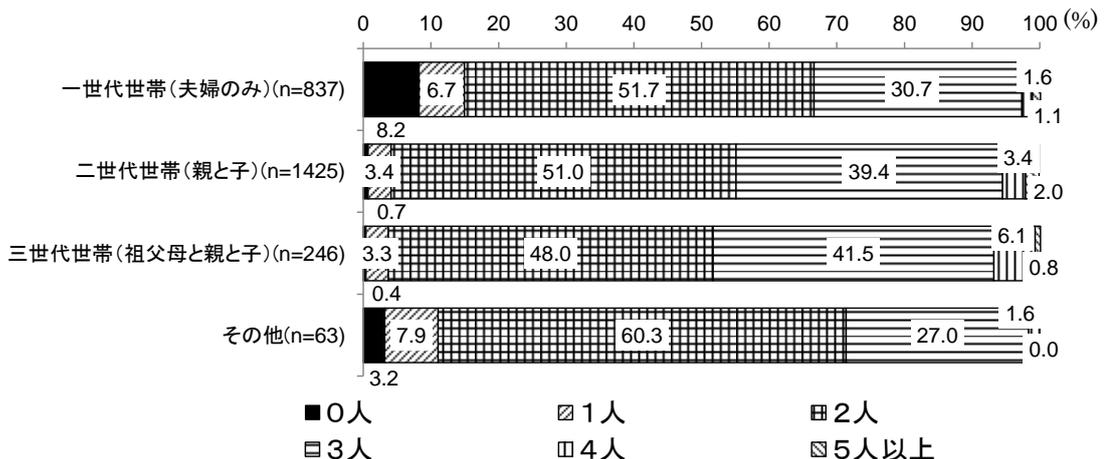
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



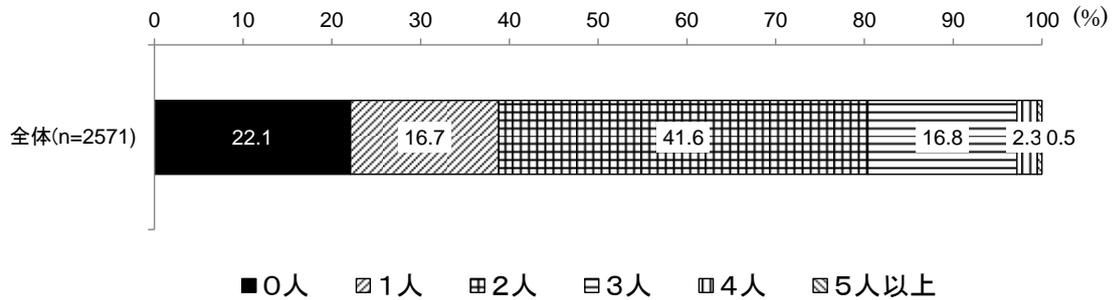
【世帯構成別】

世帯構成別では、三世帯世帯(祖父母と親と子)で「3人」と回答した割合が高い。



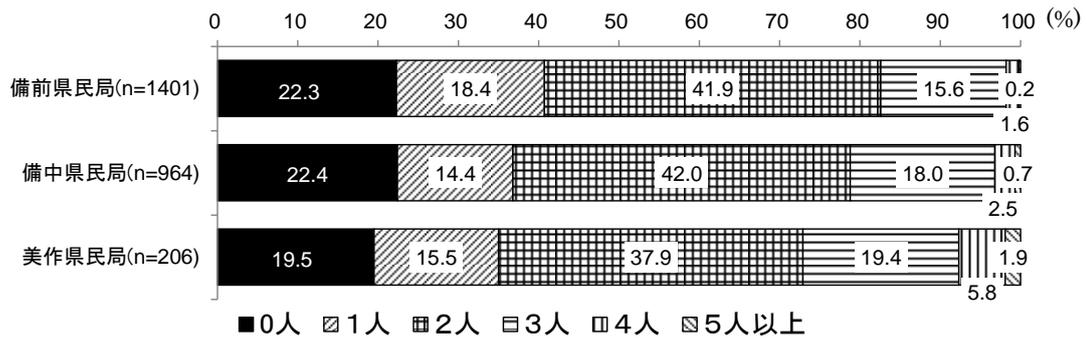
Q10.現在のお子さんを含め、今後何人の子どもを持つ予定(予定子ども数)ですか。

「1人」が16.7%、「2人」が41.6%、「3人」が16.8%、「4人」が2.3%、「5人以上」が0.5%である。



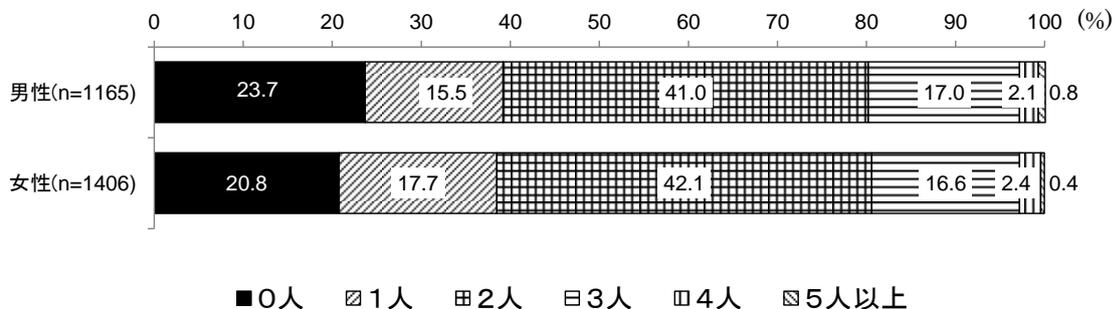
【居住地別】

居住地別では、備前県民局・備中県民局で「2人」と回答した割合が高く、美作県民局では3人以上と回答した割合が高い。



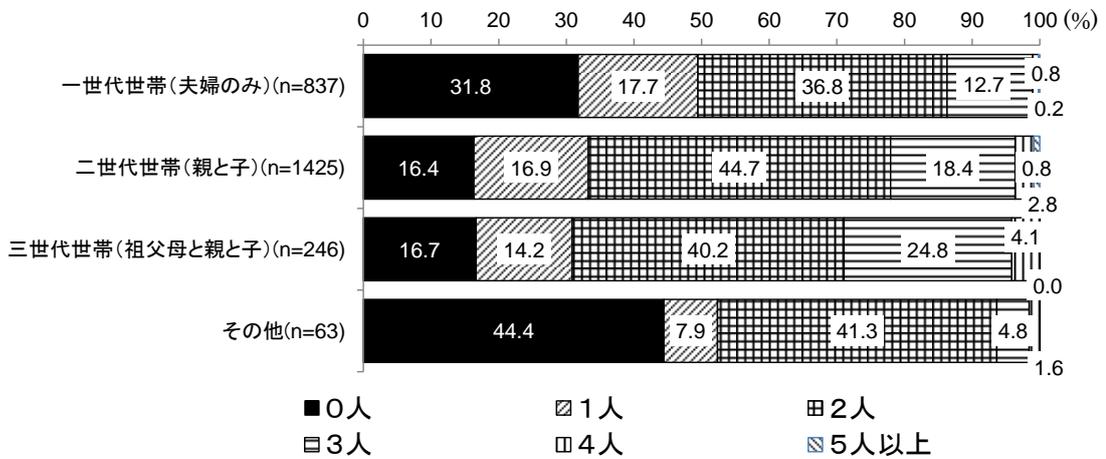
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



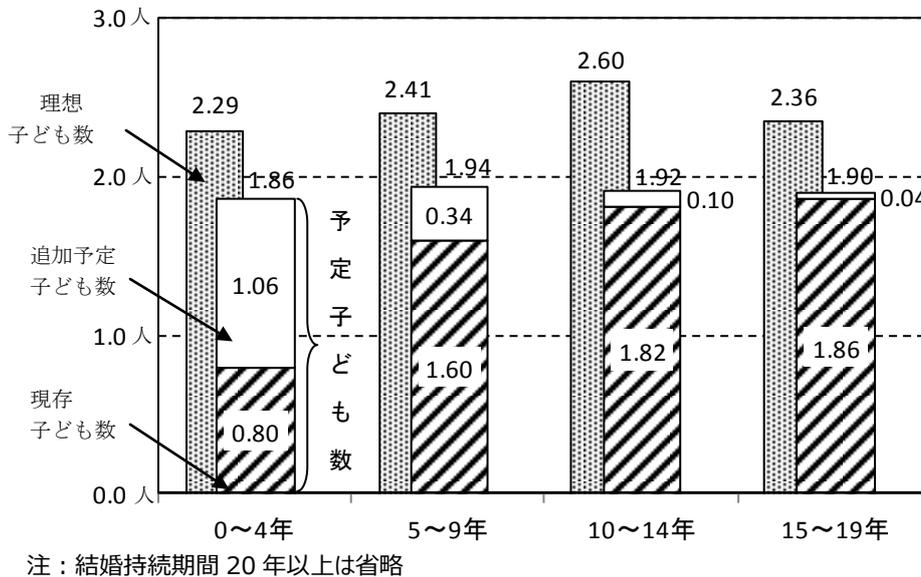
【世帯構成別】

世帯構成別では、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「3人」と回答した割合が高い。



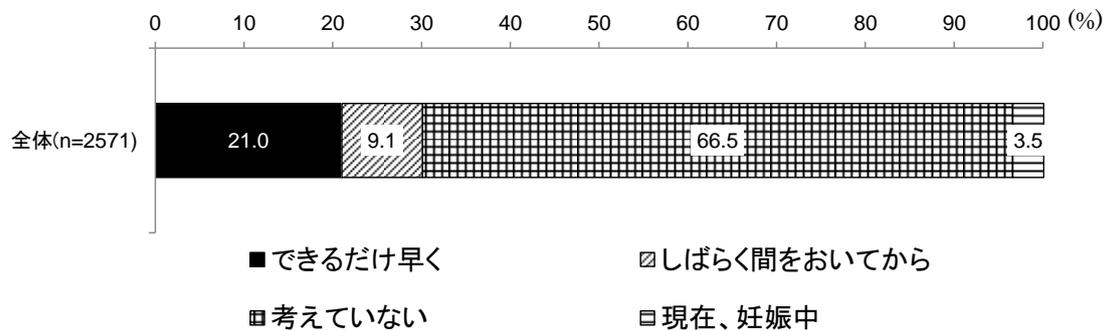
【結婚持続期間別にみた平均理想子ども数と平均予定子ども数】

予定子ども数は、結婚持続期間によって大きく変わることはない。ただし、結婚持続期間が長くなるにつれて、現存子ども数が多くなり内訳が変化していく。また、結婚持続期間 0～4 年では、追加予定子ども数は 1 人以上である。



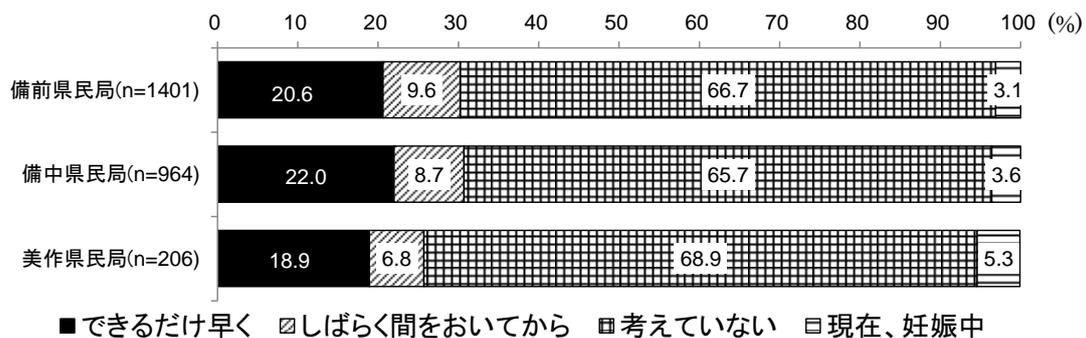
Q11.また、希望の時期について、あてはまるものを1つ選んでください。

「考えていない」が66.5%と最も高く、次いで「できるだけ早く」(21.0%)、「しばらく間をおいてから」(9.1%)となっている。



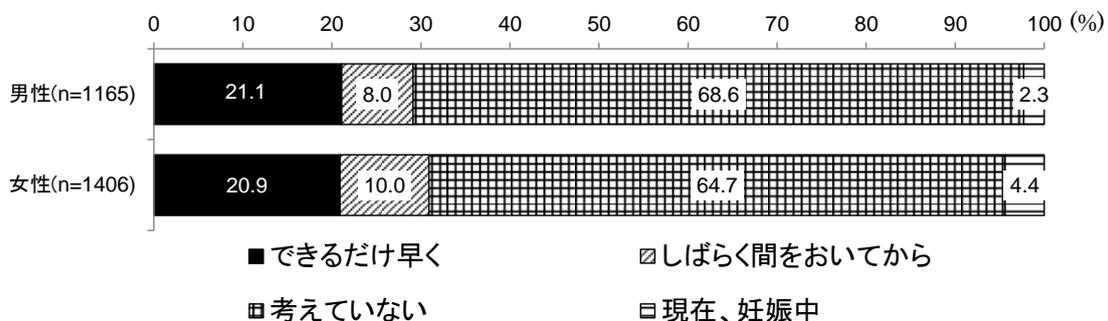
【居住地別】

居住地別では、あまり違いはみられない。



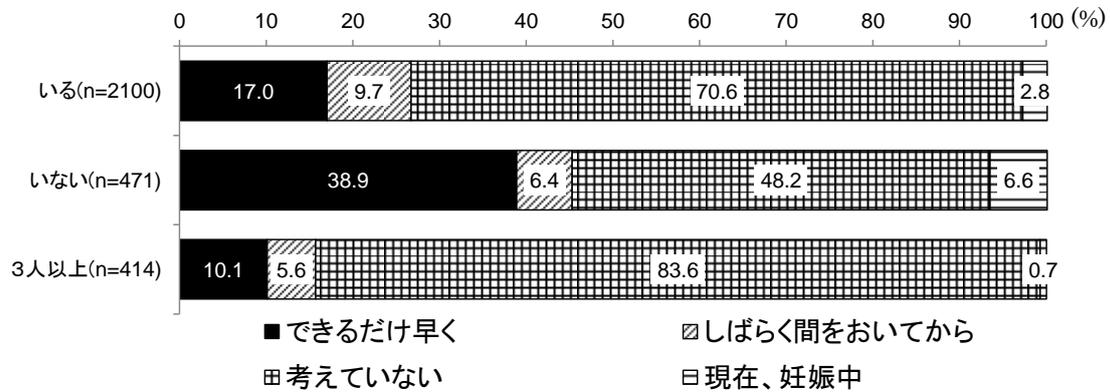
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



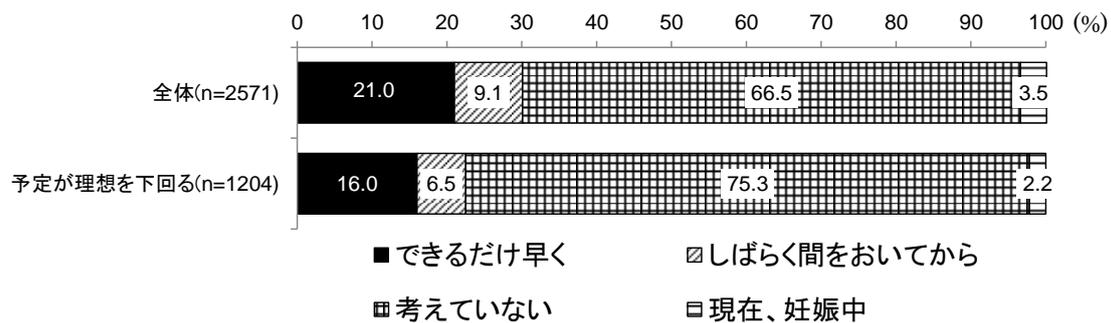
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「考えていない」と回答した割合が高く、「できるだけ早く」と回答した割合が低い。



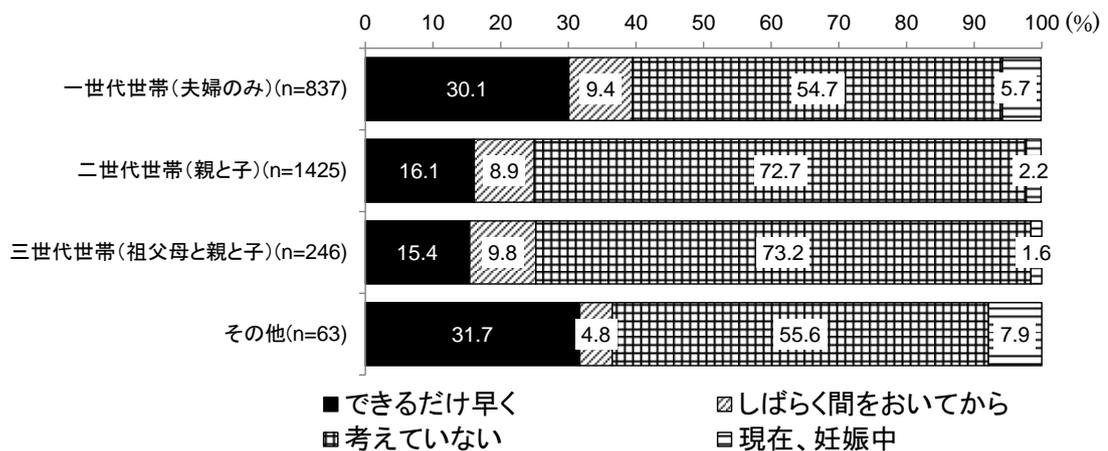
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、全体と比べて、「考えていない」と回答した割合が高い。



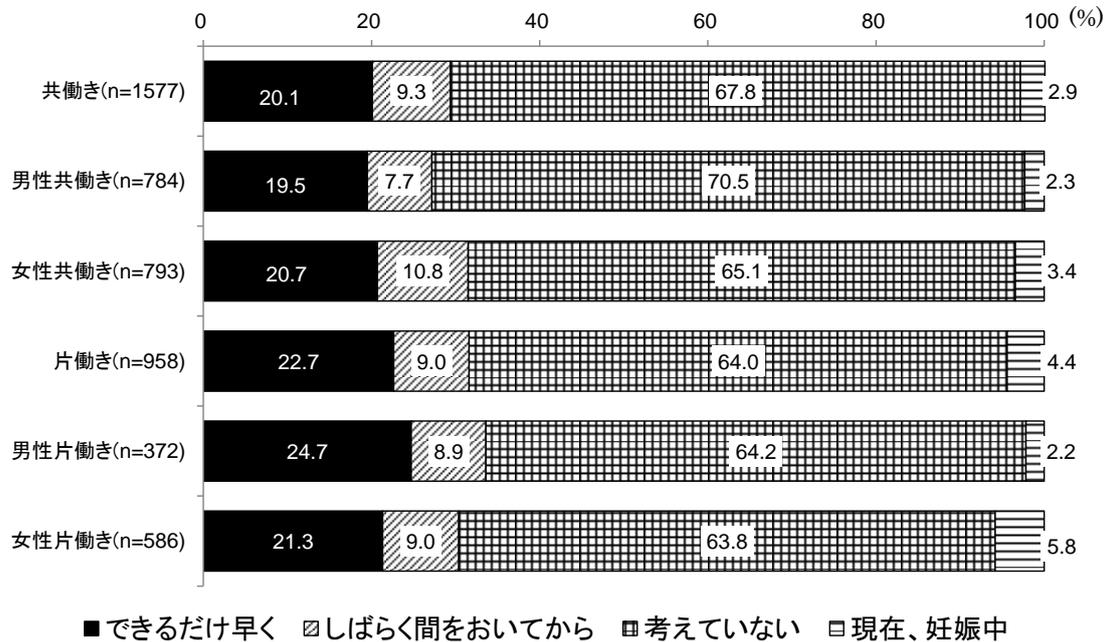
【世帯構成別】

世帯構成別では、一世代世帯（夫婦のみ）で「できるだけ早く」、二世代世帯（親と子）、三世代世帯（祖父母と親と子）で「考えていない」と回答した割合が高い。



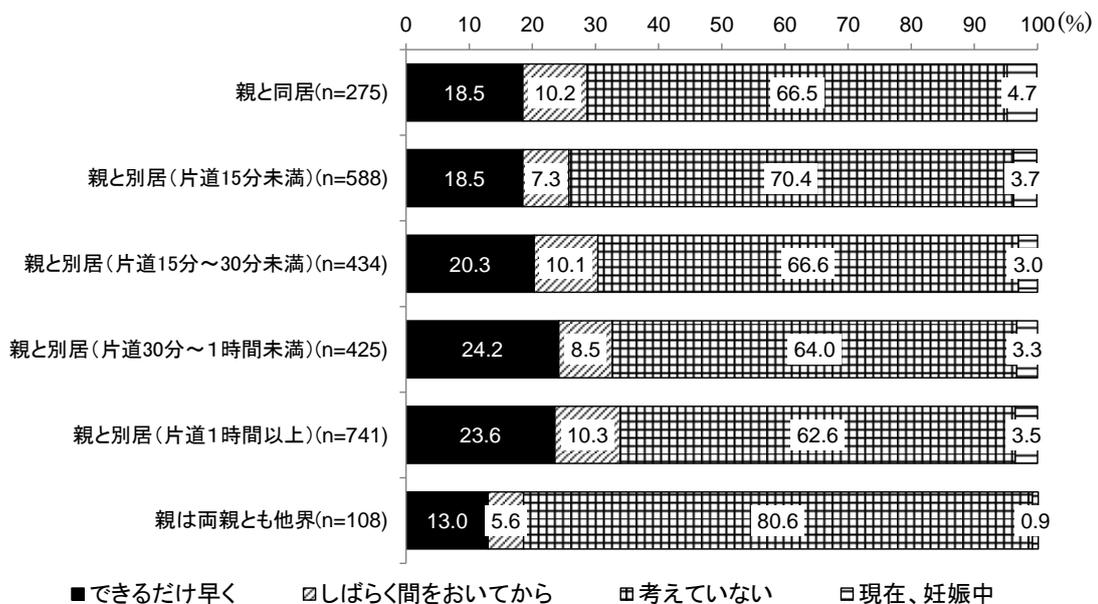
【性別・夫婦就労状況別】

性別・夫婦就労状況別では、あまり違いはみられない。

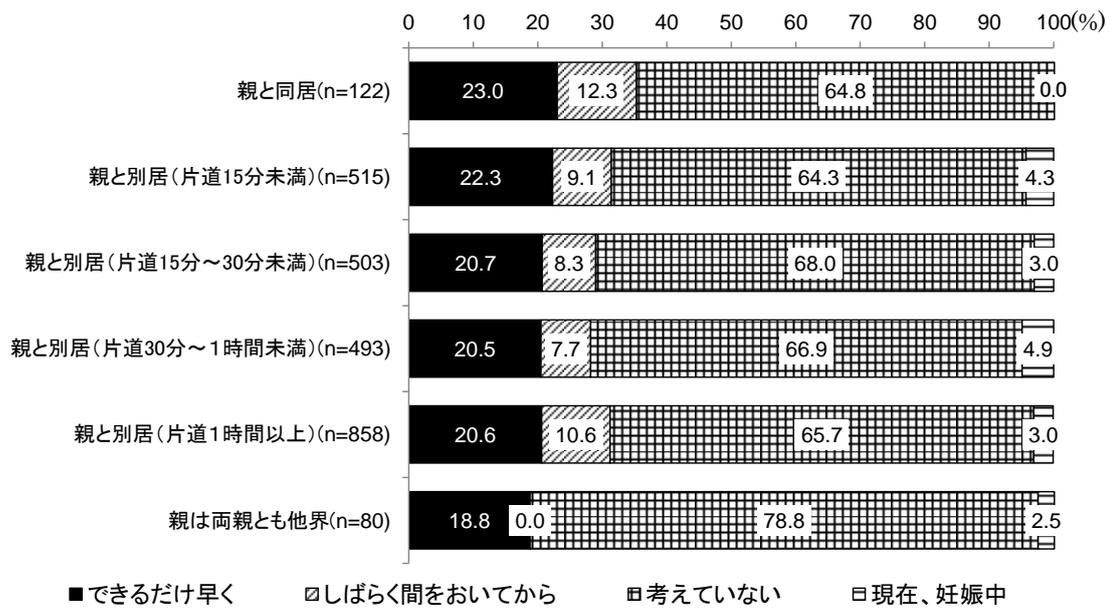


【親との居住距離別】

夫方の親の住まいとの距離では、親は両親とも他界では、「考えていない」と回答した割合が高い。



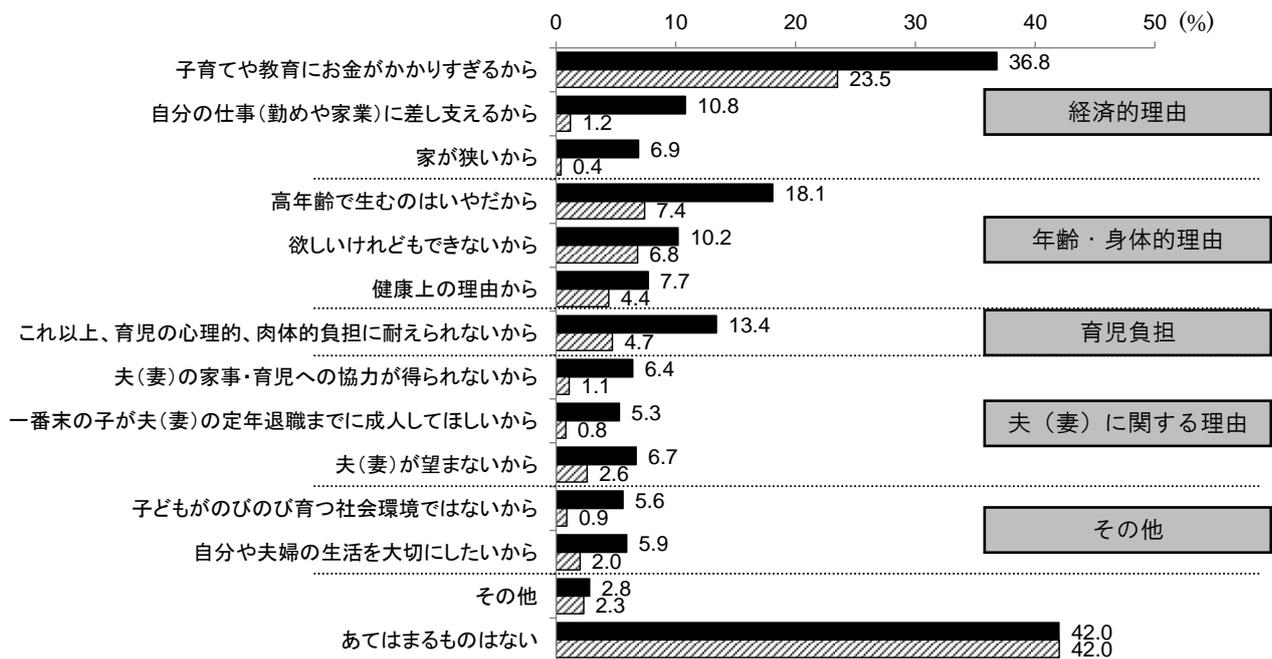
妻方の親の住まいとの距離では、あまり違いはみられない。



Q12.「理想子ども数」を持たない理由は何ですか。この中からあてはまるものを全て選び、その中で最も重要な理由を選んでください。※「理想子ども数」を持っていらっしゃる方(又は持つ予定の方)は、選択肢 14「あてはまるものはない」をお選びください。

持たない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 36.8%と最も高く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」(18.1%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(13.4%)となっている。

持たない最も重要な理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 23.5%と最も高く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」(7.4%)、「欲しいけれどもできないから」(6.8%)となっている。

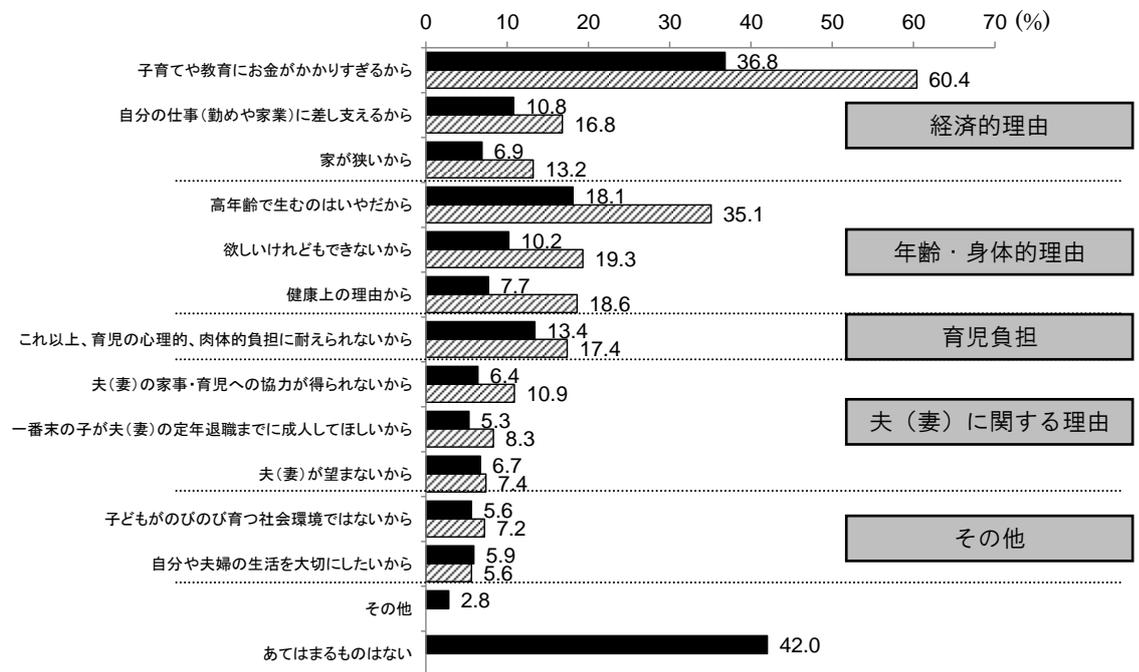


■ 理想子ども数を持たない理由(n=2571)

▣ 理想子ども数を持たない最も重要な理由(n=2571)

【全国調査との比較】

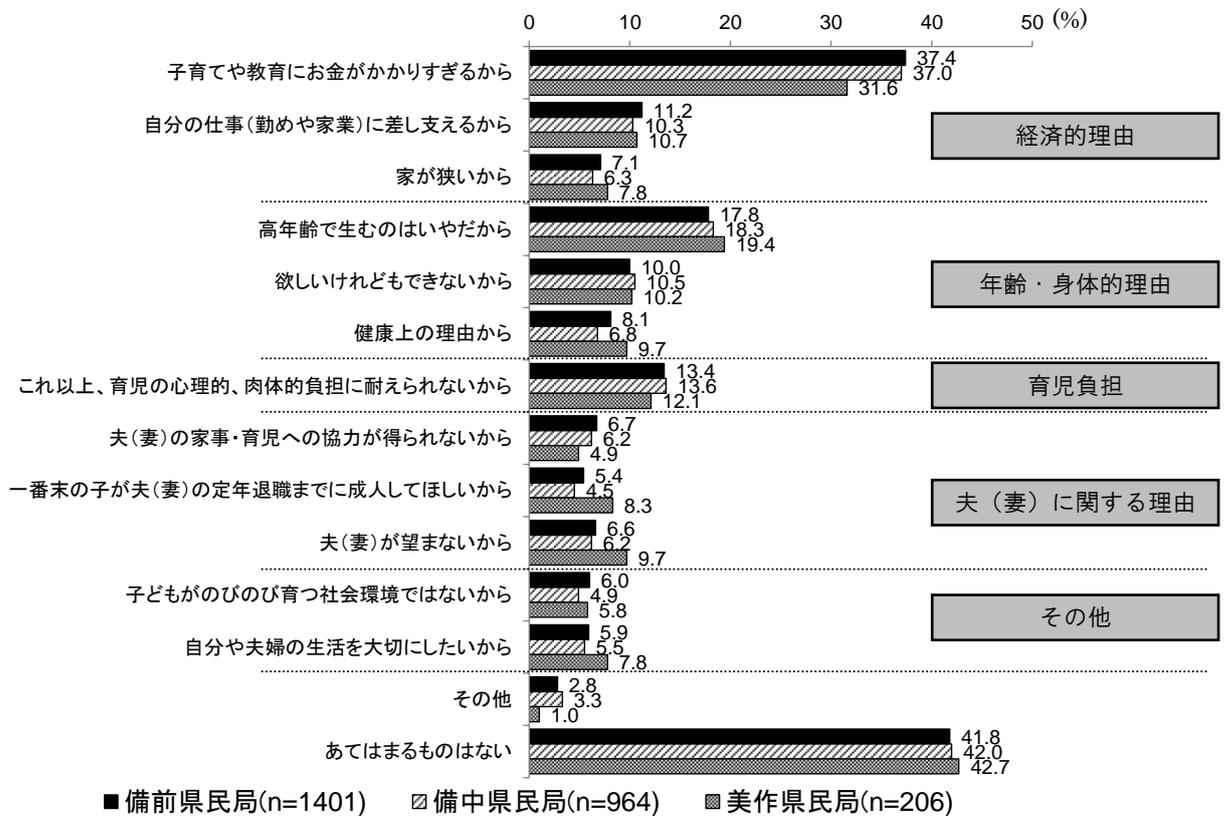
持たない理由は、岡山県と全国調査とも「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高い。



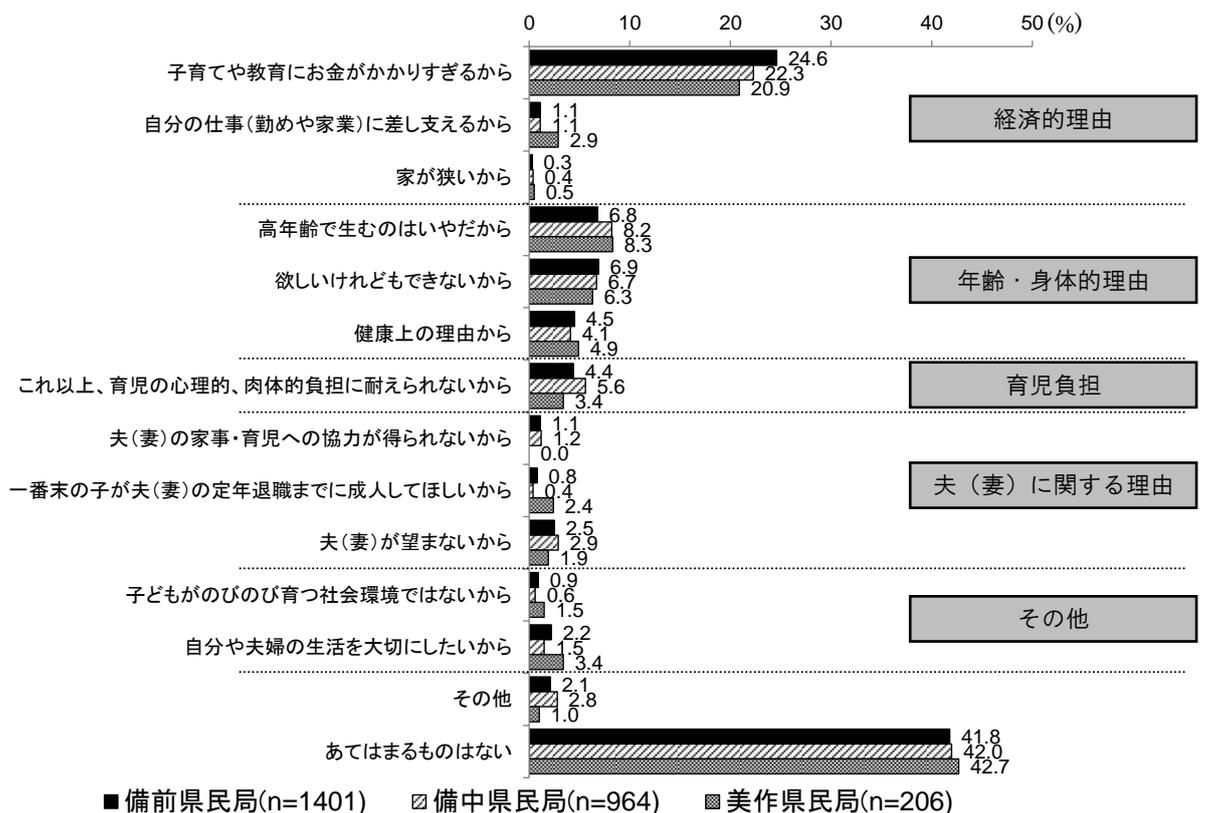
■ 岡山県(n=2571) ▨ 結婚と出産に関する全国調査(n=1835)

【居住地別】

持たない理由は、居住地別では、美作県民局で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した割合が低い。

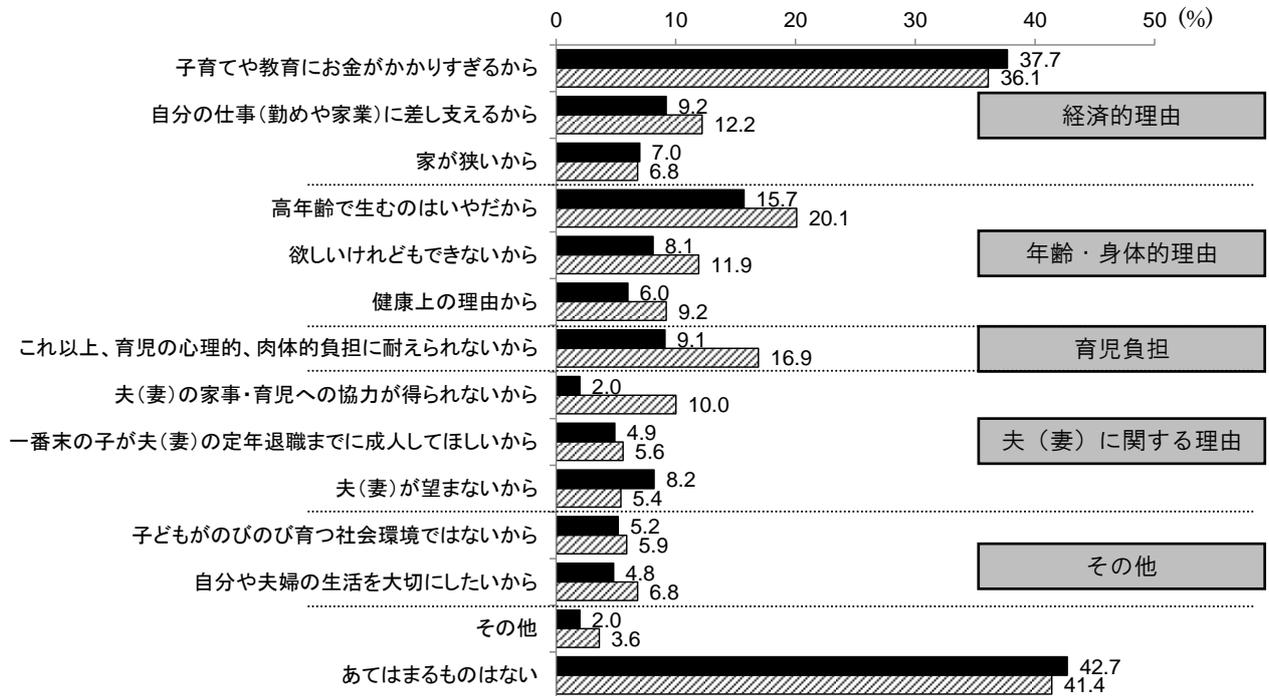


持たない最も重要な理由は、居住地別では、あまり違いはみられない。



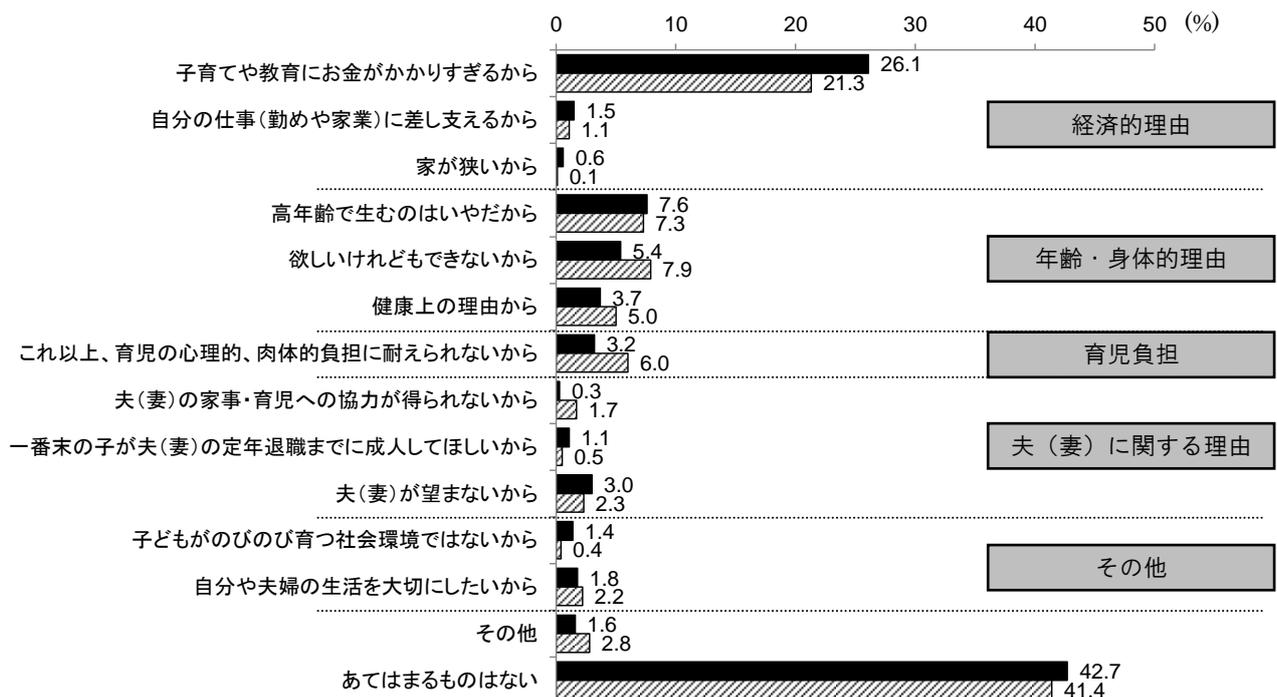
【性別】

持たない理由は、女性では、男性と比べて、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支える」「高年齢で生むのはいやだから」「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」「夫（妻）の家事・育児への協力が得られないから」と回答した割合が高い。



■ 男性(n=1165) □ 女性(n=1406)

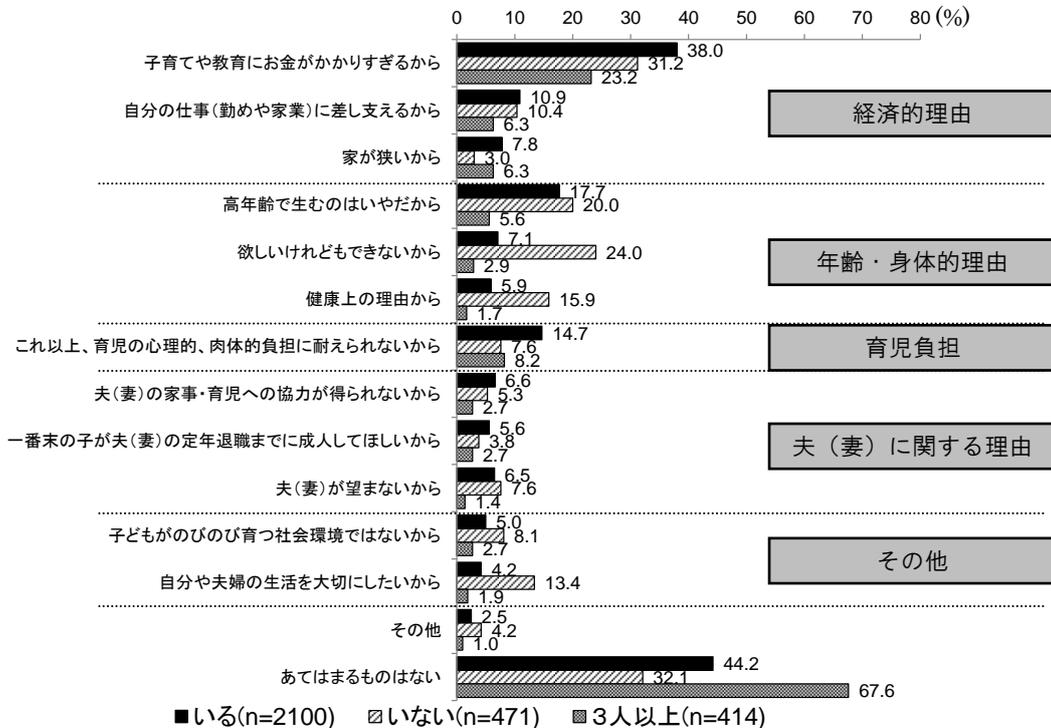
持たない最も重要な理由は、男性では、女性と比べて、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した割合が高く、「欲しいけれどもできないから」「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」と回答した割合が低い。



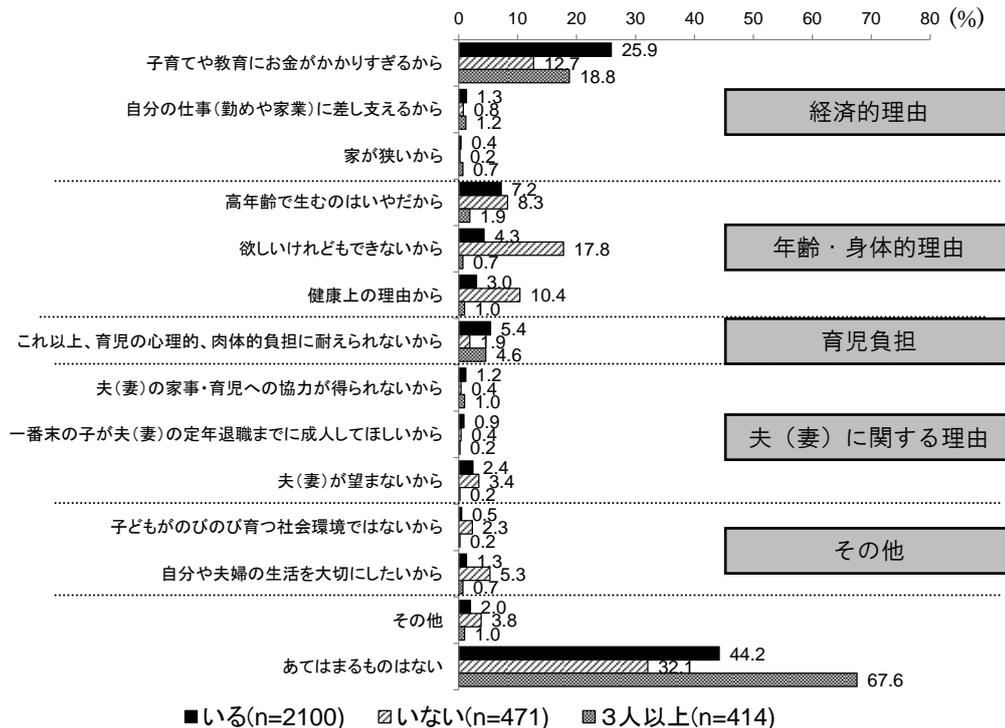
■ 男性(n=1165) □ 女性(n=1406)

【子ども有無別】

持たない理由は、子どもがいるでは、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」、子どもがいないでは「欲しいけれどもできないから」「健康上の理由から」「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」と回答した割合が高い。また、子どもが3人以上では、「あてはまるものはない」と回答した割合が高く、「高年齢で生むのはいやだから」と回答した割合が低い。

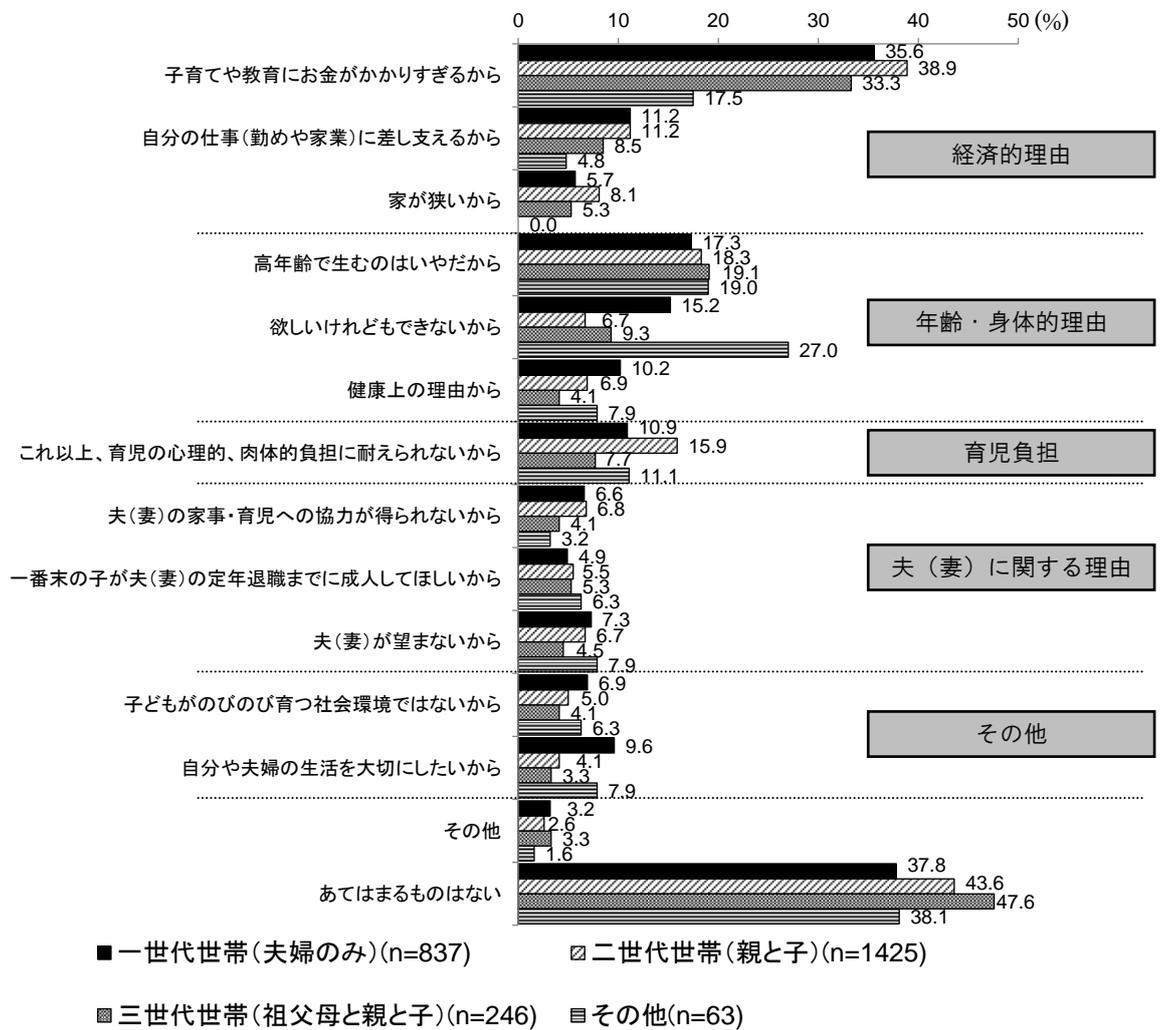


持たない最も重要な理由は、子どもがいるでは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、子どもがいないでは「欲しいけれどもできないから」「健康上の理由から」と回答した割合が高い。また、子どもが3人以上では、「あてはまるものはない」と回答した割合が高く、「高年齢で生むのはいやだから」と回答した割合が低い。

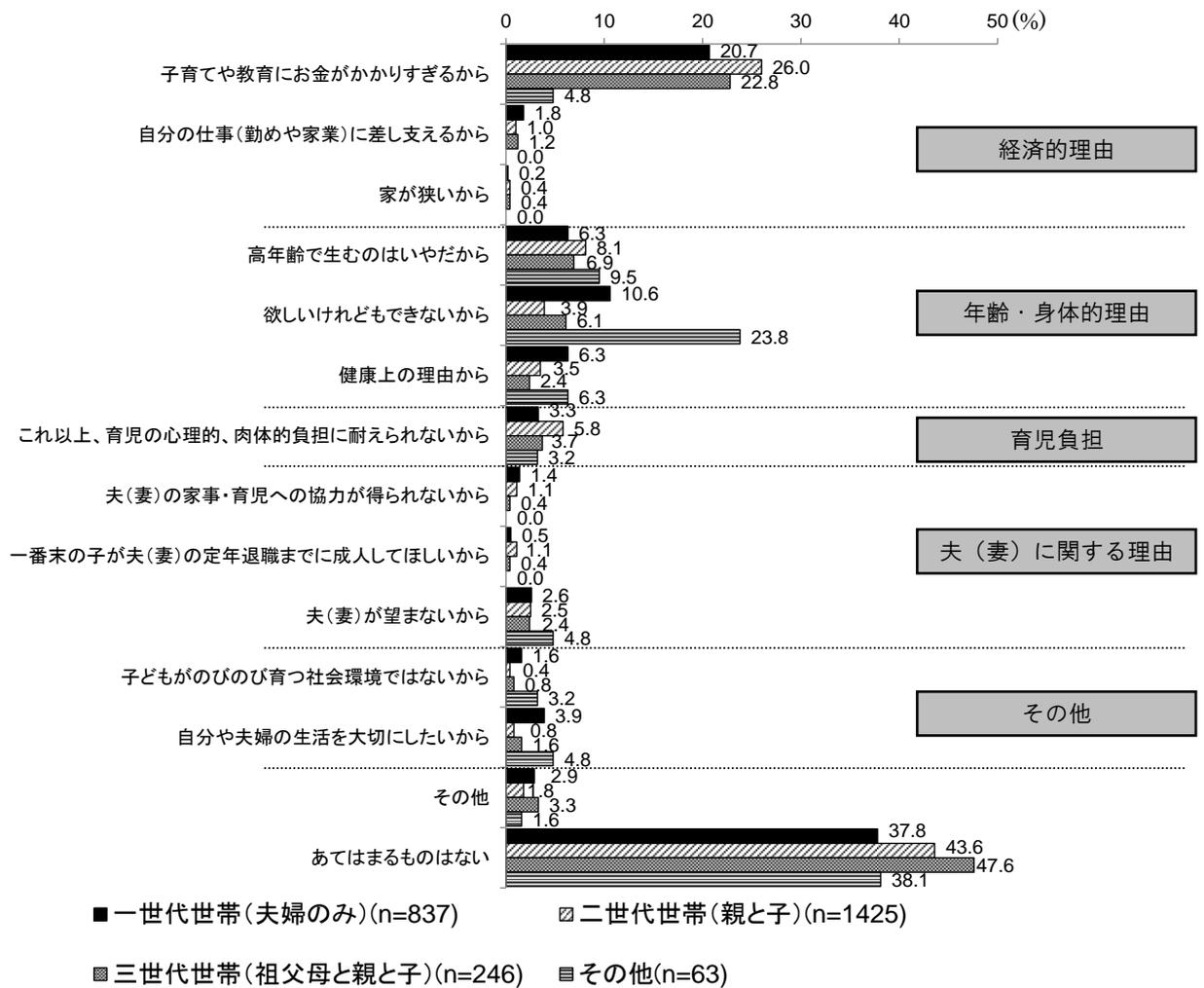


【世帯構成別】

世帯構成別では、一世代世帯（夫婦のみ）で「欲しいけれどもできないから」、三世代世帯（祖父母と親と子）で「あてはまるものはない」と回答した割合が高い。



持たない最も重要な理由についても、一世代世帯（夫婦のみ）で「欲しいけれどもできないから」、三世代世帯（祖父母と親と子）で「あてはまるものはない」と回答した割合が高い。



【世帯年収別】

持たない理由は、世帯年収 100 万円未満では、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」「家が狭いから」「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」と回答した割合が高い。また、世帯年収が 500 万円未満では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した割合が 4 割以上と高い。

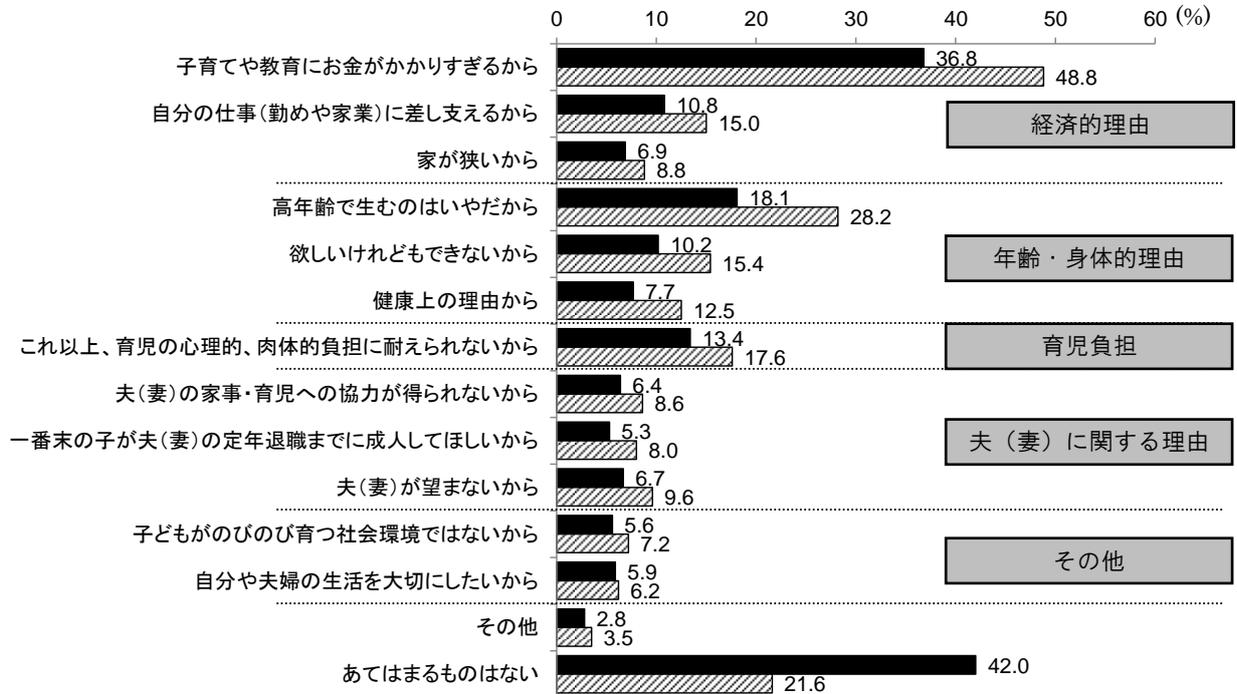
世帯年収	(集計客体数)	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫(妻)に関する理由			その他		その他	あてはまるものはない
		子育てや教育にお金がかかりすぎるから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	家が狭いから	高齢で生むのはいやだから	欲しいけれどもできないから	健康上の理由から	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	夫(妻)の家事・育児への協力が得られないから	職まで成人してほしいから	夫(妻)が望まないから	子どもがのびのび育つ社会環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから		
100万円未満	(n=58)	50.0%	17.2%	13.8%	15.5%	20.7%	10.3%	19.0%	13.8%	8.6%	1.7%	8.6%	12.1%	1.7%	32.8%
100～150万円未満	(n=27)	40.7%	3.7%	3.7%	14.8%	11.1%	14.8%	22.2%	11.1%	0.0%	14.8%	14.8%	7.4%	3.7%	44.4%
150～300万円未満	(n=230)	41.3%	10.9%	9.1%	16.5%	13.5%	9.1%	14.8%	7.0%	3.0%	7.4%	9.1%	6.1%	3.0%	39.6%
300～500万円未満	(n=792)	40.9%	9.2%	9.0%	15.8%	9.6%	8.8%	13.3%	6.9%	4.3%	6.9%	5.7%	4.9%	2.3%	41.0%
500～700万円未満	(n=778)	36.5%	12.7%	5.4%	20.3%	11.7%	6.4%	13.6%	5.9%	6.0%	7.3%	4.5%	6.8%	2.8%	40.9%
700～1,000万円未満	(n=459)	30.5%	10.5%	4.8%	18.1%	7.6%	7.2%	13.5%	4.6%	5.9%	5.7%	5.2%	4.6%	3.5%	45.5%
1,000～1,300万円未満	(n=123)	26.0%	11.4%	4.1%	20.3%	7.3%	6.5%	9.8%	7.3%	8.9%	4.9%	2.4%	6.5%	4.9%	48.0%
1,300万円以上	(n=50)	26.0%	6.0%	8.0%	22.0%	0.0%	4.0%	6.0%	4.0%	8.0%	8.0%	6.0%	10.0%	2.0%	44.0%
なし	(n=54)	33.3%	9.3%	5.6%	22.2%	9.3%	9.3%	9.3%	7.4%	1.9%	3.7%	5.6%	3.7%	1.9%	44.4%

持たない最も重要な理由は、世帯年収 100 万円未満では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」「家が狭いから」「欲しいけれどもできないから」と回答した割合が高い。また、世帯年収が 1,000 万円以上では、「高齢で生むのはいやだから」と回答した割合が 1 割以上と高い。

世帯年収	(集計客体数)	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫(妻)に関する理由			その他		その他	あてはまるものはない
		子育てや教育にお金がかかりすぎるから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	家が狭いから	高齢で生むのはいやだから	欲しいけれどもできないから	健康上の理由から	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	夫(妻)の家事・育児への協力が得られないから	職まで成人してほしいから	夫(妻)が望まないから	子どもがのびのび育つ社会環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから		
100万円未満	(n=58)	32.8%	5.2%	1.7%	6.9%	10.3%	3.4%	3.4%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	32.8%
100～150万円未満	(n=27)	25.9%	0.0%	0.0%	3.7%	7.4%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	3.7%	3.7%	44.4%
150～300万円未満	(n=230)	27.4%	1.7%	0.4%	7.0%	8.3%	5.2%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%	0.4%	2.2%	2.6%	39.6%
300～500万円未満	(n=792)	28.7%	0.6%	0.5%	4.9%	5.8%	5.4%	4.3%	1.3%	0.3%	2.9%	0.9%	1.5%	1.9%	41.0%
500～700万円未満	(n=778)	20.6%	1.4%	0.3%	8.2%	8.1%	3.6%	5.8%	1.3%	1.3%	2.7%	0.9%	3.0%	2.1%	40.9%
700～1,000万円未満	(n=459)	20.0%	1.3%	0.2%	7.2%	5.9%	4.6%	5.0%	1.1%	1.1%	2.0%	1.1%	1.5%	3.5%	45.5%
1,000～1,300万円未満	(n=123)	13.0%	1.6%	0.0%	12.2%	6.5%	2.4%	6.5%	0.8%	1.6%	2.4%	0.0%	2.4%	2.4%	48.0%
1,300万円以上	(n=50)	14.0%	2.0%	0.0%	20.0%	0.0%	4.0%	4.0%	2.0%	2.0%	6.0%	0.0%	0.0%	2.0%	44.0%
なし	(n=54)	22.2%	0.0%	0.0%	16.7%	5.6%	3.7%	1.9%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	1.9%	44.4%

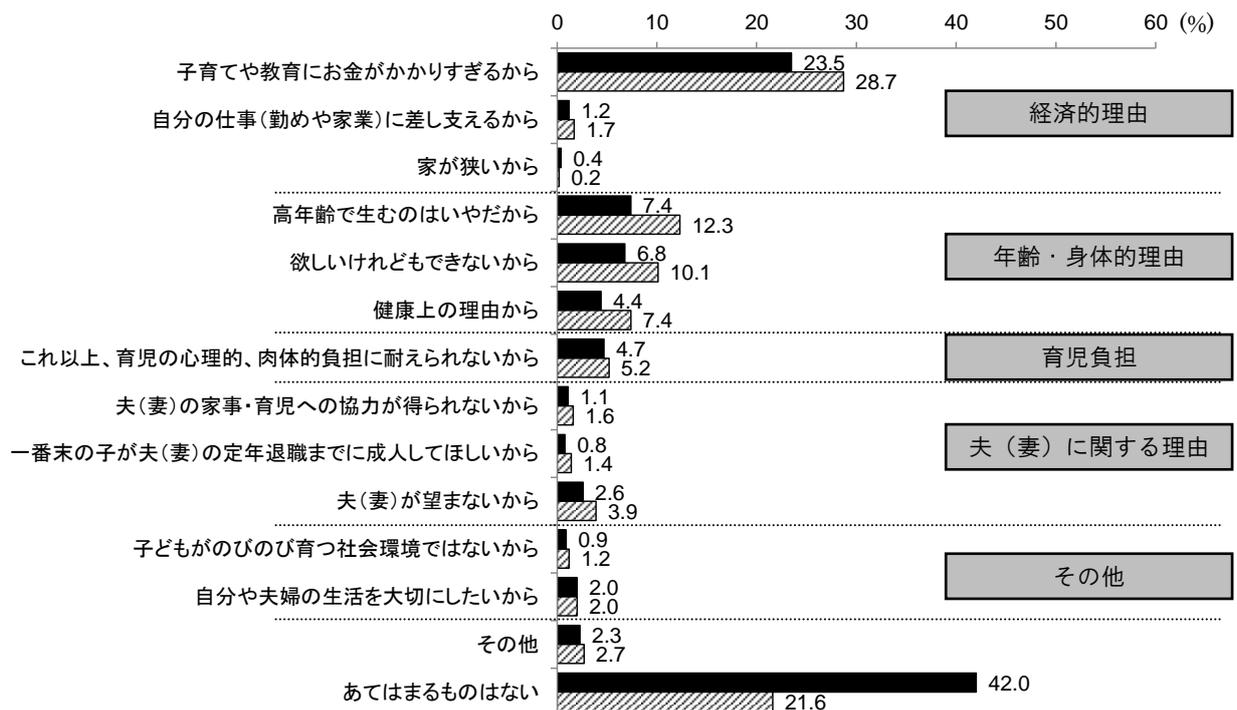
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

持たない理由は、予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、全体と比べて、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「高年齢で生むのはいやだから」と回答した割合が高く、「あてはまるものはない」と回答した割合が低い。



■ 全体(n=2571) ▨ 予定が理想を下回る(n=1204)

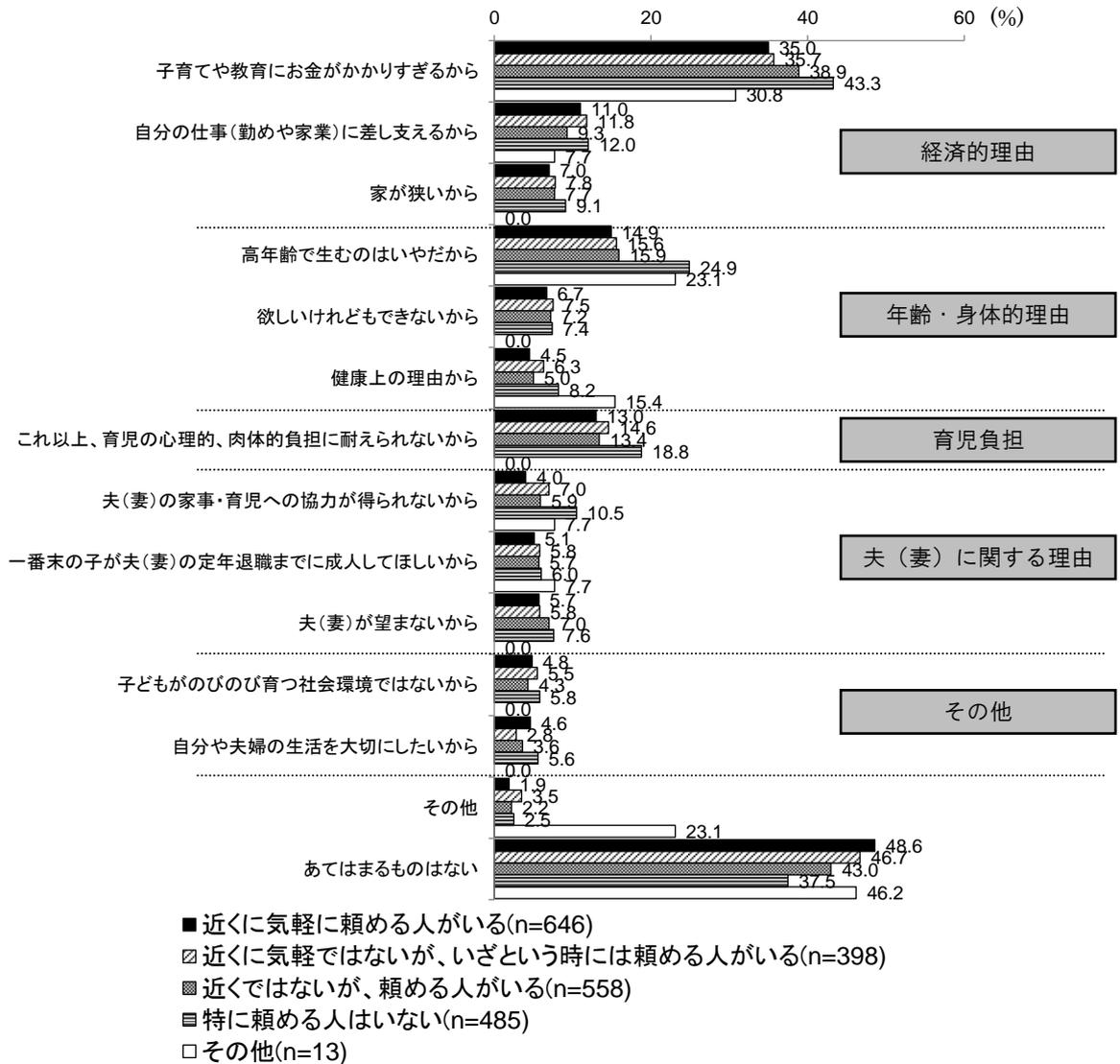
持たない最も重要な理由は、予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、全体と比べて、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した割合が高く、「あてはまるものはない」と回答した割合が低い。



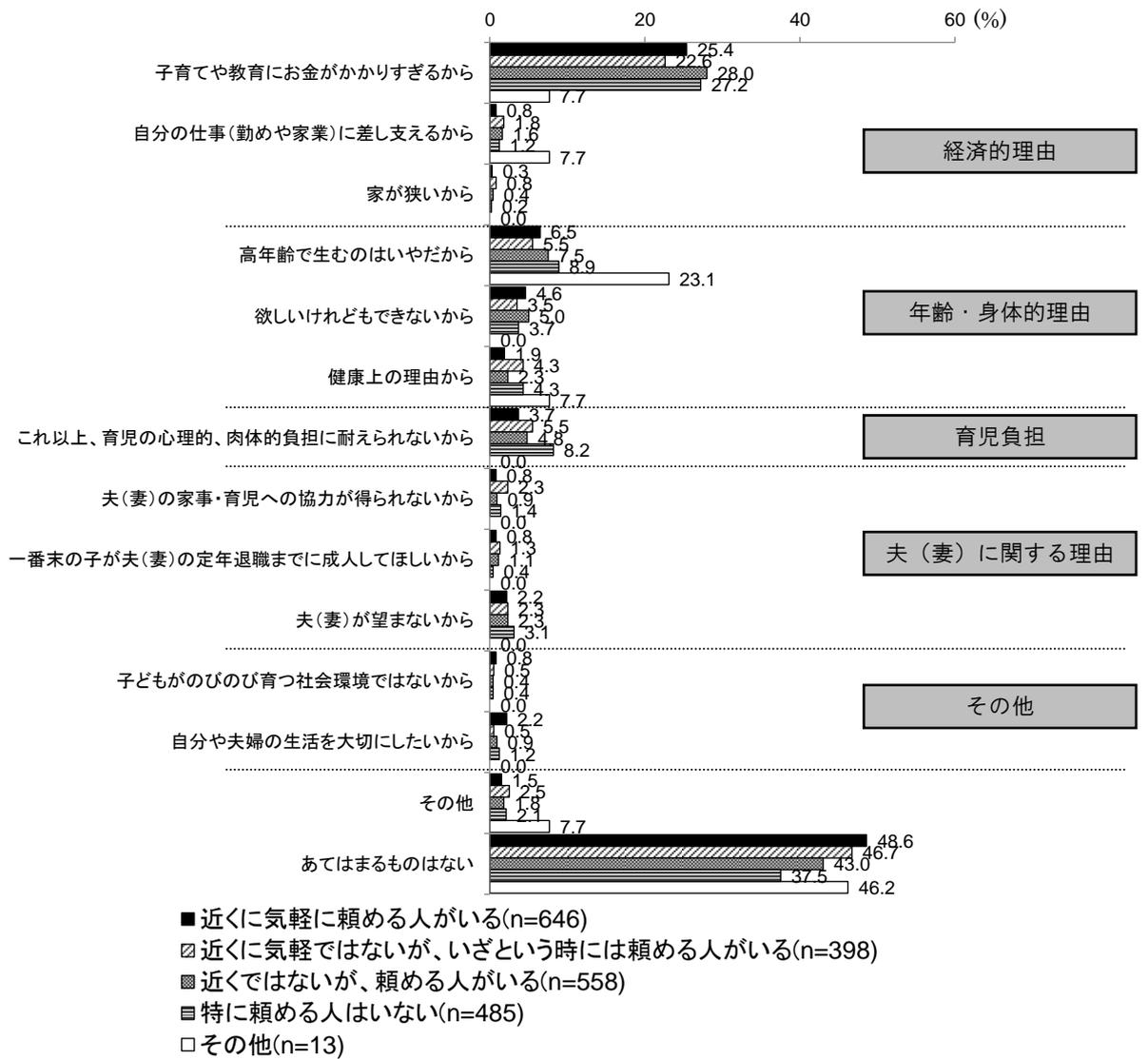
■ 全体(n=2571) ▨ 予定が理想を下回る(n=1204)

【世話を頼める知人等の有無別】

持たない理由は、近くに気軽に頼める人がいるでは「あてはまるものはない」、特に頼める人はいないでは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「高齢で生むのはいやだから」と回答した割合が高い。



持たない最も重要な理由は、特に頼める人はいないでは、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」と回答した割合が高い。



【妻の年齢別】

予定子ども数が理想子ども数を下回る理由として最も多いのは、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」である。

年齢が30歳未満では、「家が狭いから」「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」と回答した割合が高い。

35歳以上では、「高齢で生むのはいやだから」「欲しいけれどもできないから」「健康上の理由から」という年齢・身体的理由を回答する割合が高い。

妻の年齢	(集計客体数)	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担 これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	夫に関する理由			その他			
		子育てや教育にお金がかかりすぎるから	自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから	家が狭いから	高齢で生むのはいやだから	欲しいけれどもできないから	健康上の理由から		夫が望まないから	一番末の子が夫の定年退職までに成人してほしいから	夫の家事・育児への協力が得られないから	子どもがのびのび育つ社会環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	その他	あてはまるものはない
全体	(n=643)	48.2%	17.7%	8.9%	30.9%	18.4%	14.3%	22.2%	13.7%	8.1%	7.3%	7.8%	7.8%	4.0%	19.9%
30歳未満	(n=46)	54.3%	23.9%	17.4%	2.2%	10.9%	6.5%	21.7%	10.9%	4.3%	10.9%	15.2%	13.0%	4.3%	26.1%
30～34歳	(n=109)	59.6%	15.6%	5.5%	17.4%	17.4%	7.3%	22.9%	13.8%	5.5%	9.2%	7.3%	7.3%	1.8%	22.9%
35～39歳	(n=173)	61.3%	31.2%	13.9%	36.4%	20.8%	12.1%	24.3%	20.2%	10.4%	10.4%	8.1%	10.4%	5.8%	13.3%
40～49歳	(n=315)	36.2%	10.2%	6.0%	36.8%	18.4%	19.0%	21.0%	10.5%	8.3%	4.4%	6.7%	5.7%	3.8%	21.6%

※対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る者

※回答者が男性の場合、妻の年齢が不明なため、対象を女性に限定した。

【理想・予定子ども数の組み合わせ別】

理想3人以上予定2人以上では、経済的理由を回答した割合が高い。また、理想2人以上予定1人では、年齢・身体的理由を回答した割合が高い。

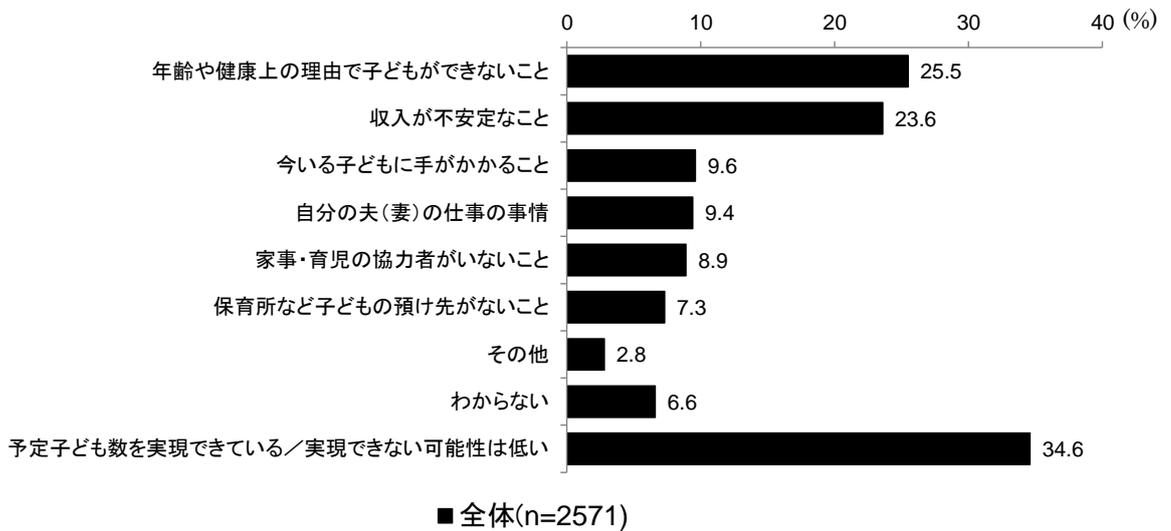
理想が1人以上の予定0人では、「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」「あてはまるものはない」と回答した割合が高く、全国調査と比べると、経済的理由を回答した割合が高い。

予定子ども数が理想子ども数を下回る組み合わせ	(集計客体数)	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担 これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	夫(妻)に関する理由			その他			
		子育てや教育にお金がかかりすぎるから	自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから	家が狭いから	高齢で生むのはいやだから	欲しいけれどもできないから	健康上の理由から		夫(妻)が望まないから	一番末の子が夫(妻)の定年退職までに成人してほしいから	夫(妻)の家事・育児への協力が得られないから	子どもがのびのび育つ社会環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	その他	あてはまるものはない
岡山県															
全体	(n=1204)	48.8%	15.0%	8.8%	28.2%	15.4%	12.5%	17.6%	8.6%	8.0%	9.6%	7.2%	6.2%	3.5%	21.6%
理想1人以上予定0人	(n=493)	40.8%	13.0%	8.1%	28.4%	16.6%	13.8%	16.8%	7.9%	8.9%	6.7%	7.1%	8.7%	3.9%	27.2%
理想2人以上予定1人	(n=351)	47.6%	15.1%	8.5%	31.1%	18.8%	15.7%	16.0%	10.0%	6.3%	10.0%	7.7%	4.3%	3.7%	19.7%
理想3人以上予定2人以上	(n=360)	60.8%	17.8%	10.0%	25.0%	10.3%	7.5%	20.3%	8.1%	8.3%	13.1%	6.9%	4.7%	2.8%	15.8%
第14回出生動向基本調査															
全体	(n=1835)	60.4%	16.8%	13.2%	35.1%	19.3%	18.6%	17.4%	10.9%	8.3%	7.4%	7.2%	5.6%		
理想1人以上予定0人	(n=83)	18.1%	7.2%	1.2%	41.0%	60.2%	26.5%	1.2%	3.6%	6.0%	4.8%	7.2%	9.6%		
理想2人以上予定1人	(n=561)	44.0%	14.1%	0.2%	36.7%	33.3%	23.2%	13.9%	10.9%	5.5%	8.4%	5.9%	4.8%		
理想3人以上予定2人以上	(n=1191)	71.1%	18.7%	17.1%	34.0%	9.8%	16.0%	20.2%	11.4%	9.7%	7.1%	7.9%	5.7%		

※対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る者

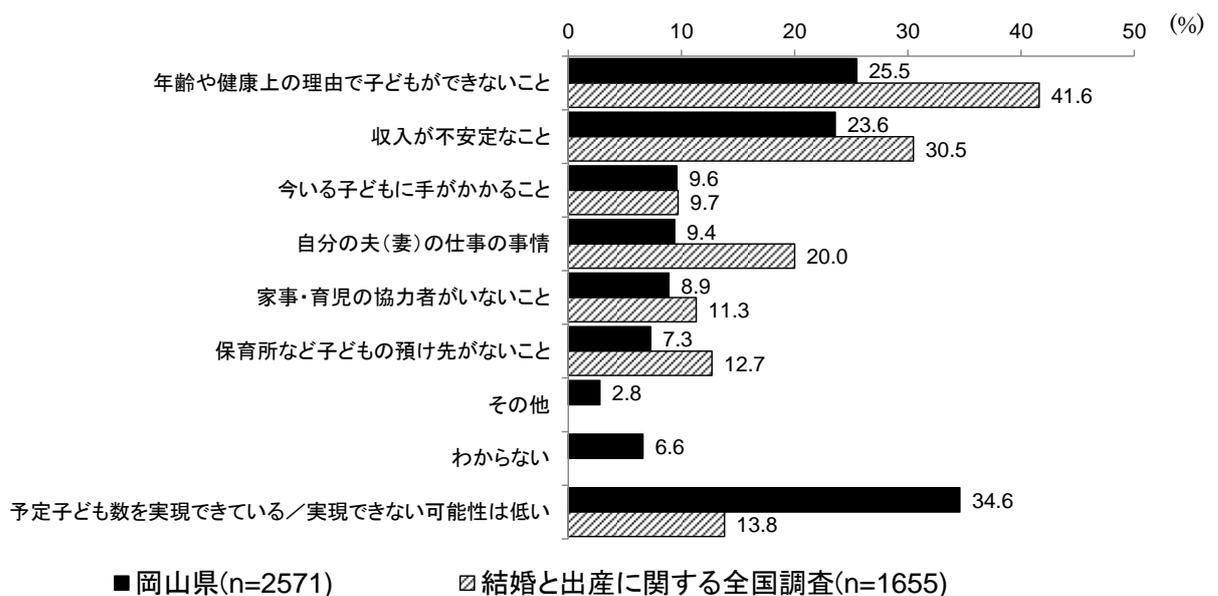
Q13.今後持つおつもりのお子さんの数が、もし結果的に持てないことがあるとしたら、その原因は何である可能性が高いですか。この中からあてはまるものを全て選んでください。※既に予定通りお子さんがいらっしゃる方は、9「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」をお選びください。

「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」が34.6%と最も高く、次いで「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」(25.5%)、「収入が不安定なこと」(23.6%)となっている。



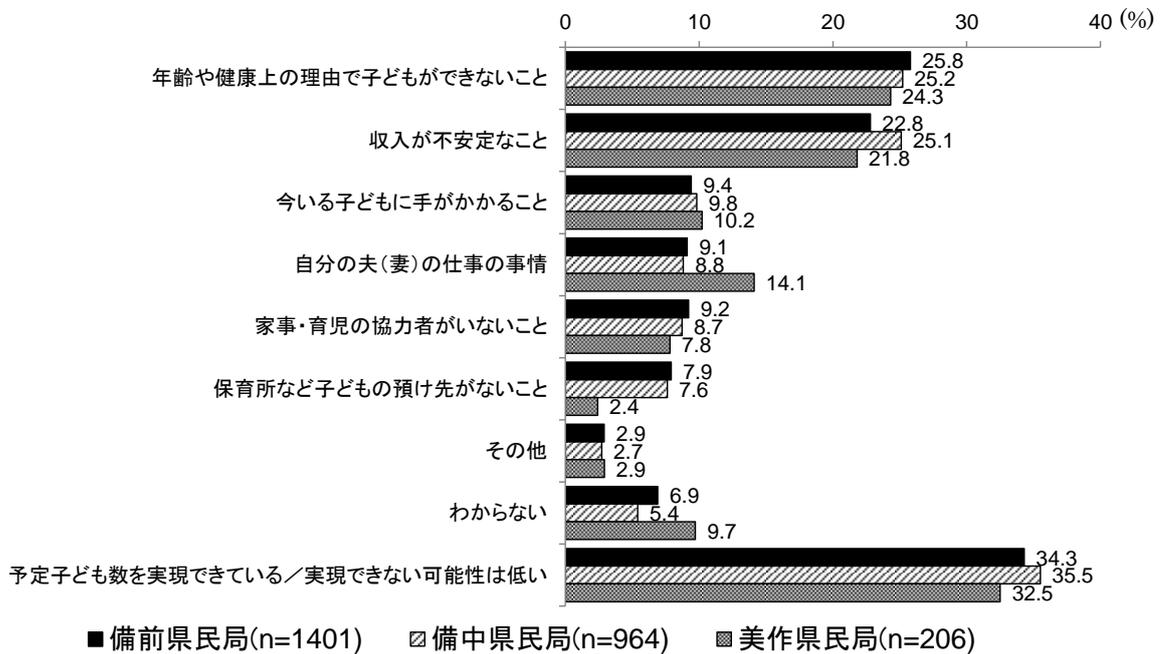
【全国調査との比較】

全国調査と比べて、「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」「収入が不安定なこと」「自分の夫(妻)の仕事の事情」と回答した割合が低く、「予定子ども数を実現できている／実現できる可能性は低い」と回答した割合が高い。



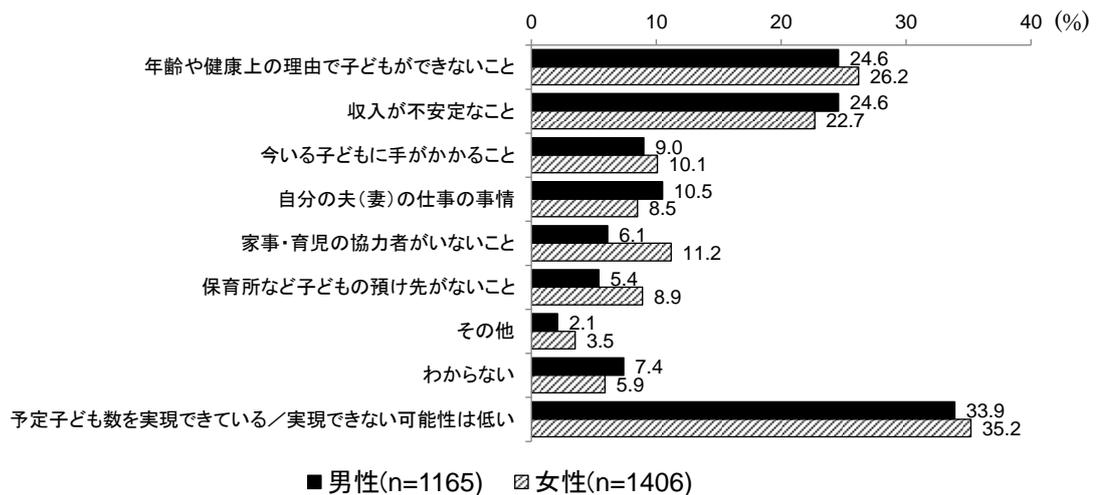
【居住地別】

居住地別では、備中県民局で「収入が不安定なこと」、美作県民局で「自分の夫（妻）の仕事の事情」と回答した割合が高い。また、美作県民局で「保育所など子どもの預け先がないこと」と回答した割合が低い。



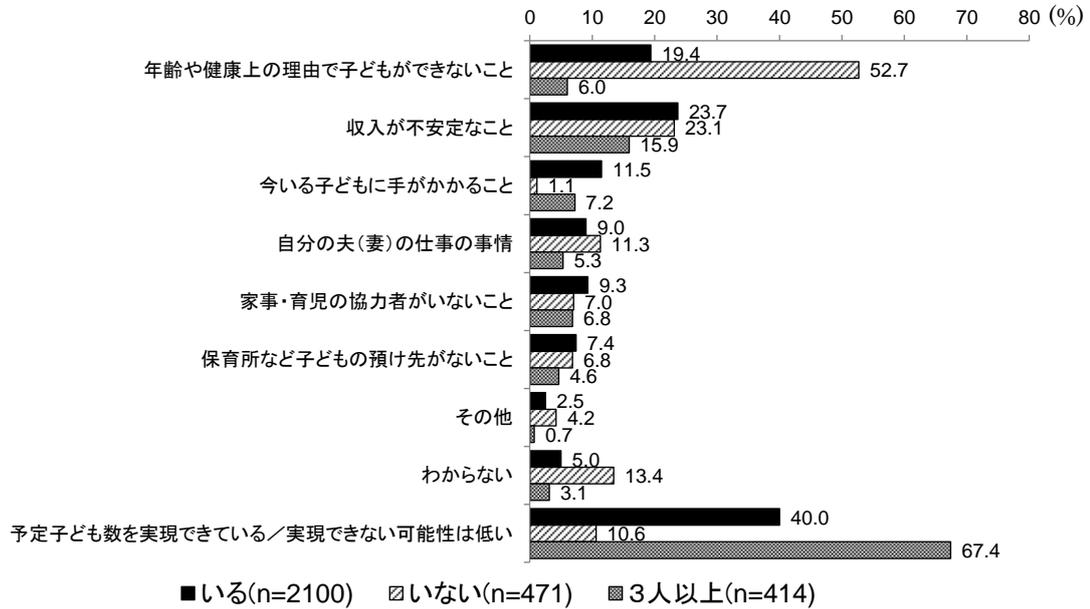
【性別】

女性では、男性と比べて、「家事・育児の協力者がいないこと」と回答した割合が高い。



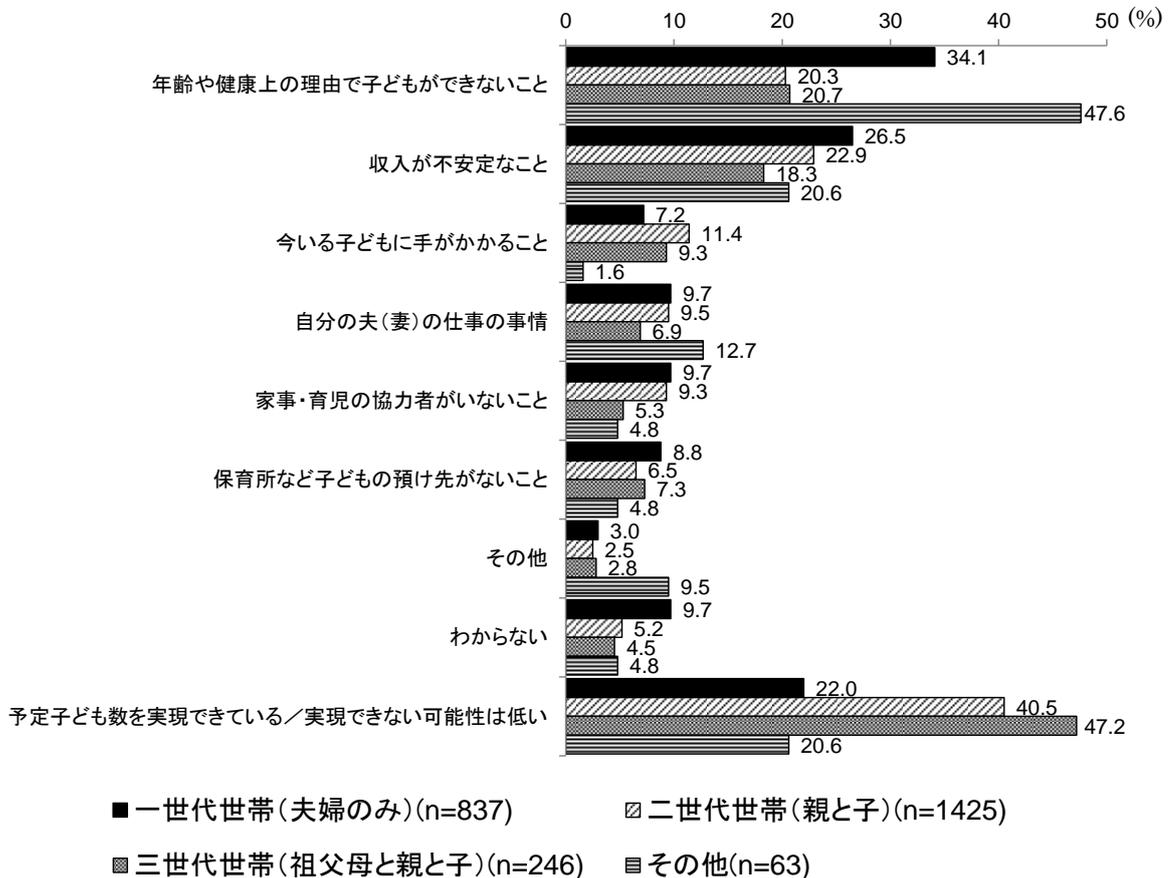
【子ども有無別】

子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」「わからない」と回答した割合が高く、「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」と回答した割合が低い。また、子どもが3人以上では、「収入が不安定なこと」と回答した割合が低い。



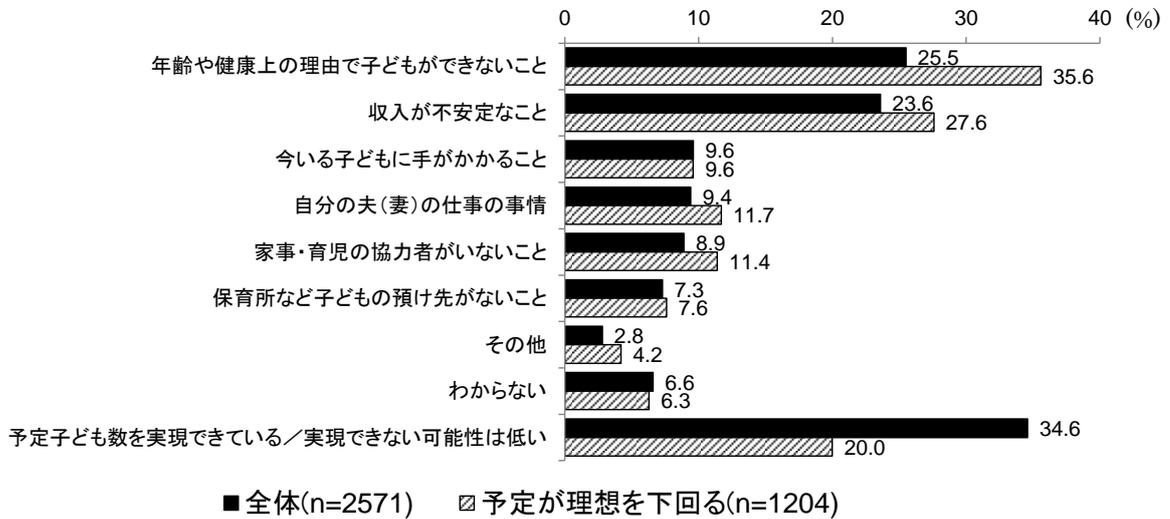
【世帯構成別】

世帯構成別では、一世代世帯（夫婦のみ）で「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」「収入が不安定なこと」と回答した割合が高い。



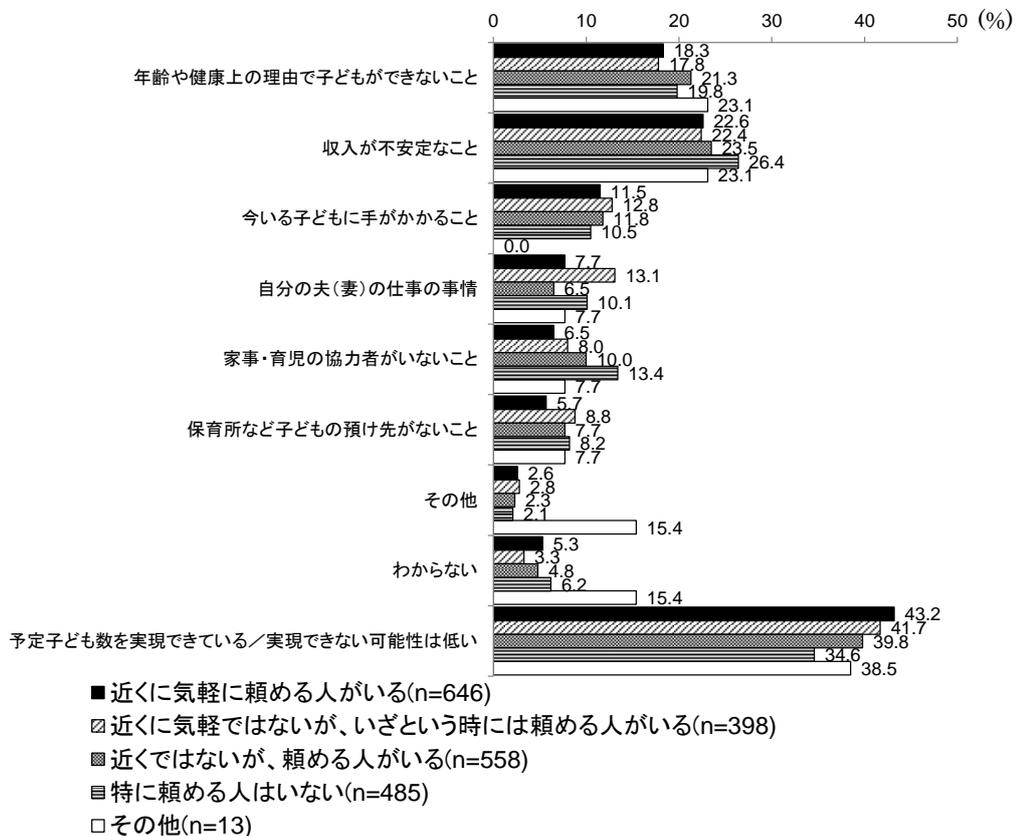
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、全体と比べて、「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」「収入が不安定なこと」と回答した割合が高く、「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」と回答した割合が低い。



【世話を頼める知人等の有無別】

近くに気軽に頼める人がいるでは「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」、特に頼める人はいないでは「家事・育児の協力者がいないこと」と回答した割合が高い。



【妻の年齢別】

今後子どもを生む予定がある女性に、予定の子ども数を実現できないとしたときに考えられる理由を尋ねたところ、年齢が30歳未満では「収入が不安定なこと」、30～34歳では「今いる子どもに手がかかること」、40～49歳では「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」と回答した割合が高い。

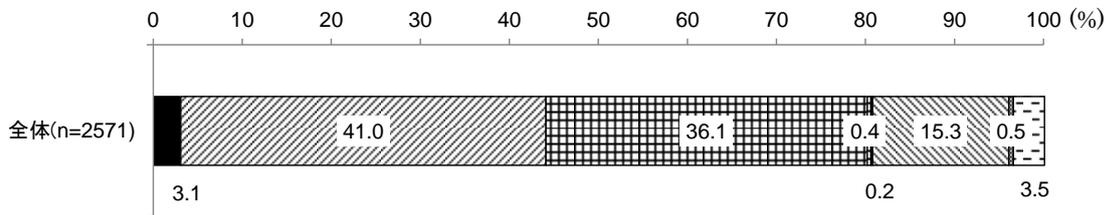
妻の年齢	(集計対象数)	年齢や健康上の理由で子ども ができないこと	収入が不安定なこと	今いる子どもに手がかかること	自分の夫の仕事の事情	家事・育児の協力者がいないこと	保育所など子どもの預け先がないこと	その他	わからない	予定子ども数を実現できている ／実現できない可能性は低い
全体	(n=1114)	23.8%	23.5%	11.5%	9.3%	11.2%	9.5%	3.4%	5.0%	36.5%
30歳未満	(n=164)	17.7%	41.5%	11.0%	15.2%	7.9%	13.4%	4.9%	5.5%	25.0%
30～34歳	(n=265)	26.8%	27.9%	17.7%	9.4%	14.0%	14.0%	3.0%	6.0%	27.5%
35～39歳	(n=302)	22.8%	21.2%	12.3%	11.3%	13.2%	9.9%	4.0%	6.0%	37.7%
40～49歳	(n=383)	25.1%	14.6%	6.8%	5.2%	9.1%	4.4%	2.6%	3.4%	46.7%

※対象は追加予定子ども数が1人以上の者

※回答者が男性の場合、妻の年齢が不明なため、対象を女性に限定した。

Q14.あなたは、家庭での育児や家事は、だれの役割だと思いますか。(〇は1つ)

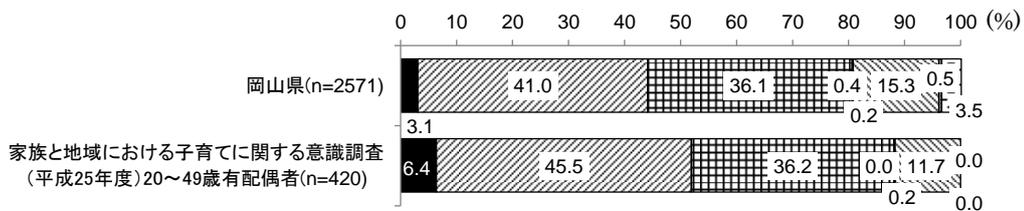
「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝える程度」が41.0%と最も高く、次いで「妻も夫も同様に行う」(36.1%)、「どちらか、できる方がすればよい」(15.3%)となっている。



- 妻の役割である
- ▣ 基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝える程度
- ▤ 妻も夫も同様に行う
- ▥ 基本的に夫の役割であり、妻はそれを手伝える程度
- ▦ 夫の役割である
- ▧ どちらか、できる方がすればよい
- ▨ その他
- わからない

【全国調査との比較】

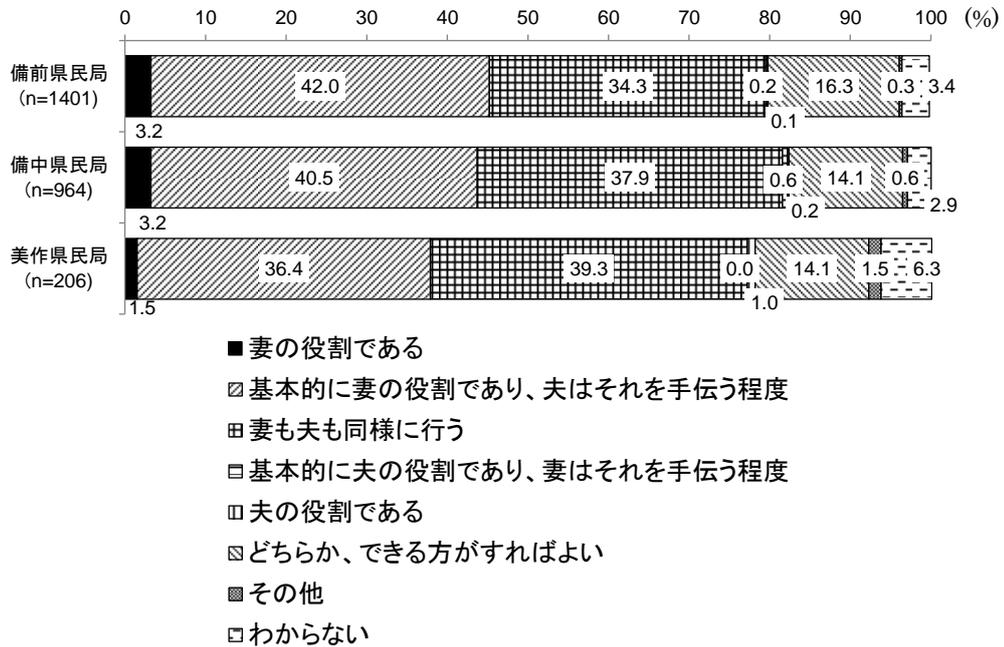
全国調査と比べて、「妻の役割である」「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝える程度」と回答した割合が低い。



- 妻の役割である
- ▣ 基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝える程度
- ▤ 妻も夫も同様に行う
- ▥ 基本的に夫の役割であり、妻はそれを手伝える程度
- ▦ 夫の役割である
- ▧ どちらか、できる方がすればよい
- ▨ その他
- わからない

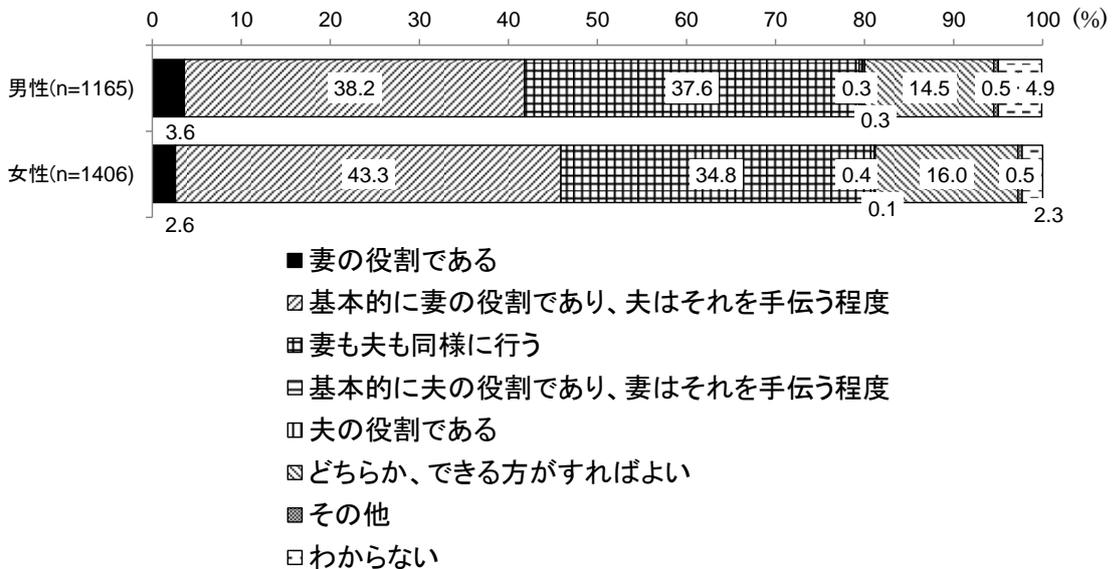
【居住地別】

居住地別では、あまり違いはみられない。



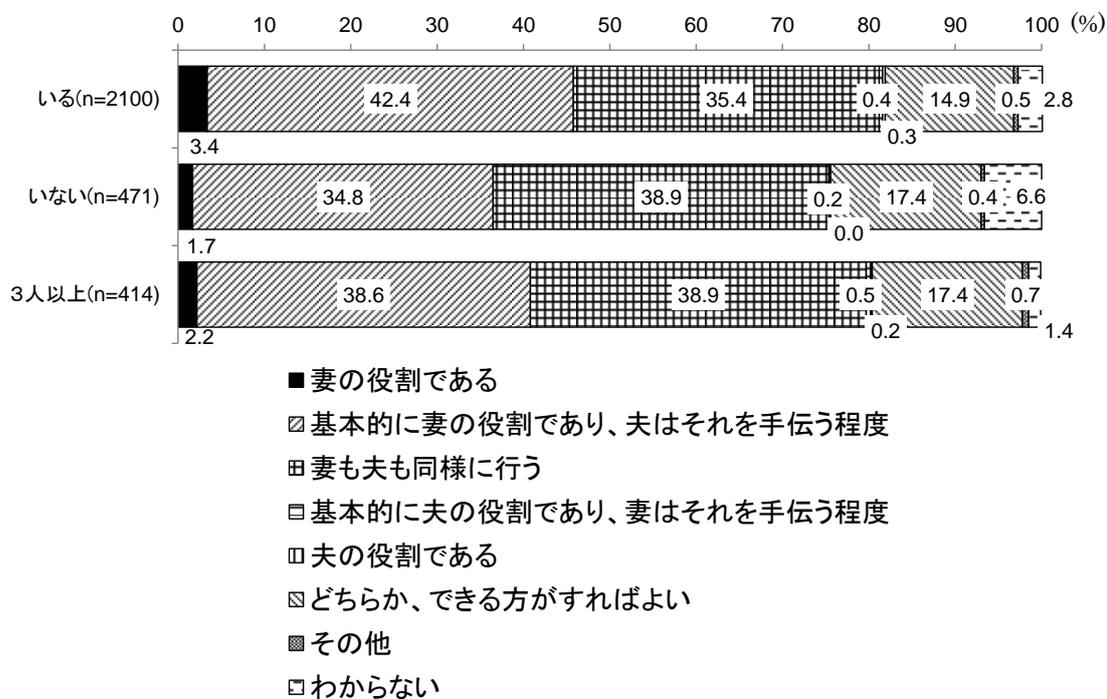
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



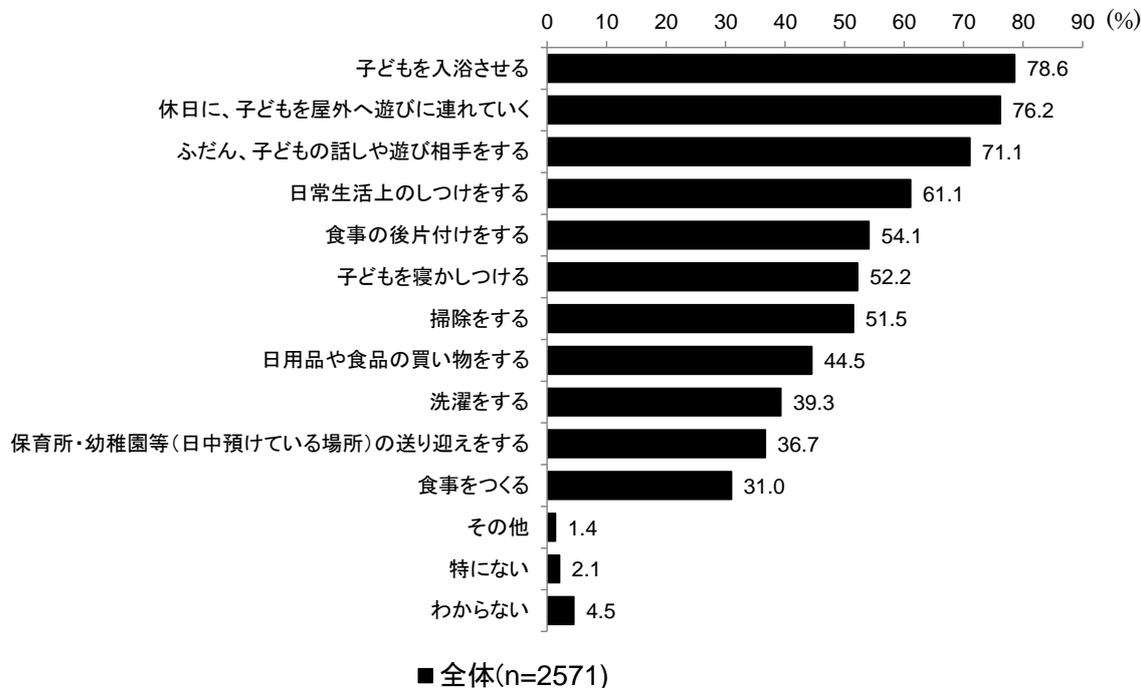
【子ども有無別】

子どもがいるでは、子どもがいない又は3人以上と比べて、「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」と回答した割合が高い。



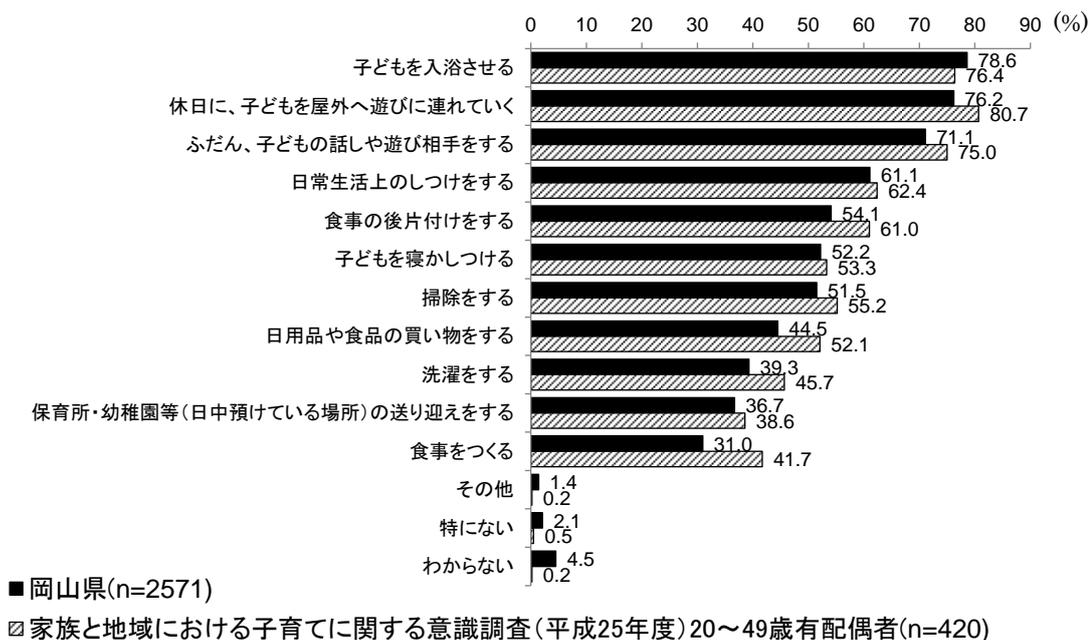
Q15.子どもが小学校に入学するまでの間、育児や家事の中で、夫も行った方がよいと思うことを、この中からいくつでも選んでください。

「子どもを入浴させる」が78.6%と最も高く、次いで「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」(76.2%)、「ふだん、子どもの話しや遊び相手をする」(71.1%)となっている。



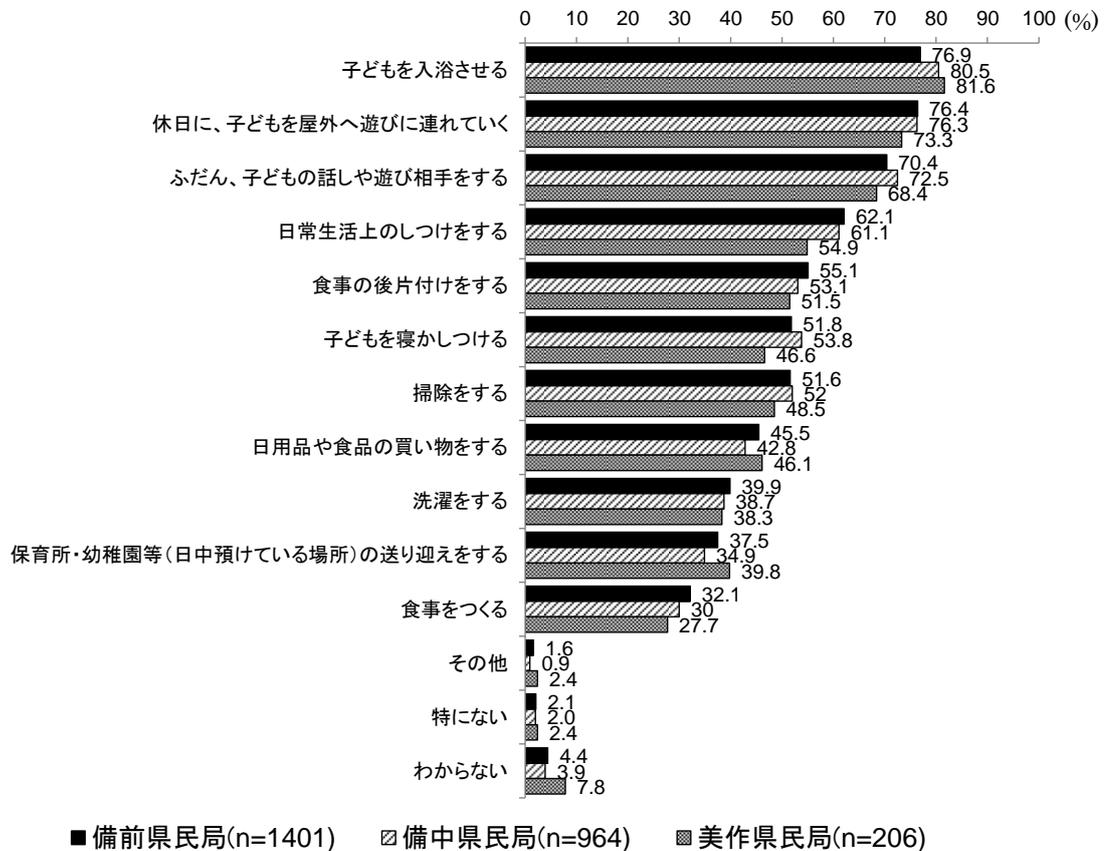
【全国調査との比較】

全国調査と比べて、「食事をつくる」と回答した割合が10ポイント以上低い。



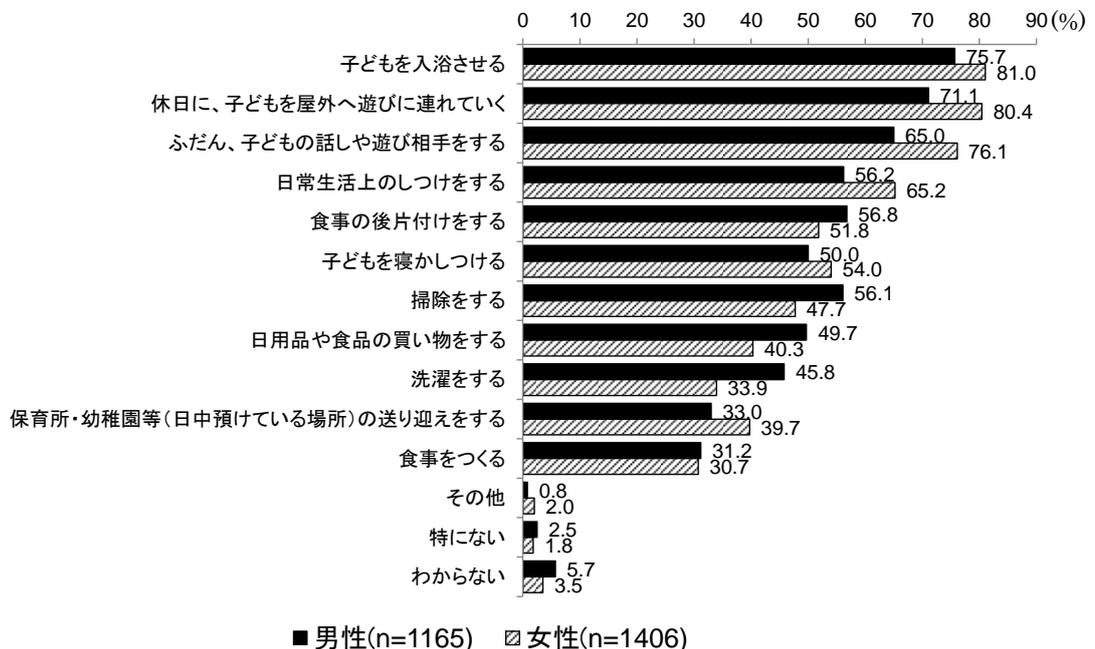
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で「日常生活上のしつけをする」「子どもを寝かしつける」と回答した割合が低い。



【性別】

男性では、女性と比べて、「食事の後片付けをする」「掃除をする」「日用品や食品の買い物をする」「洗濯をする」と回答した割合が高く、「子どもを入浴させる」「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」「ふだん、子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」と回答した割合が低い。



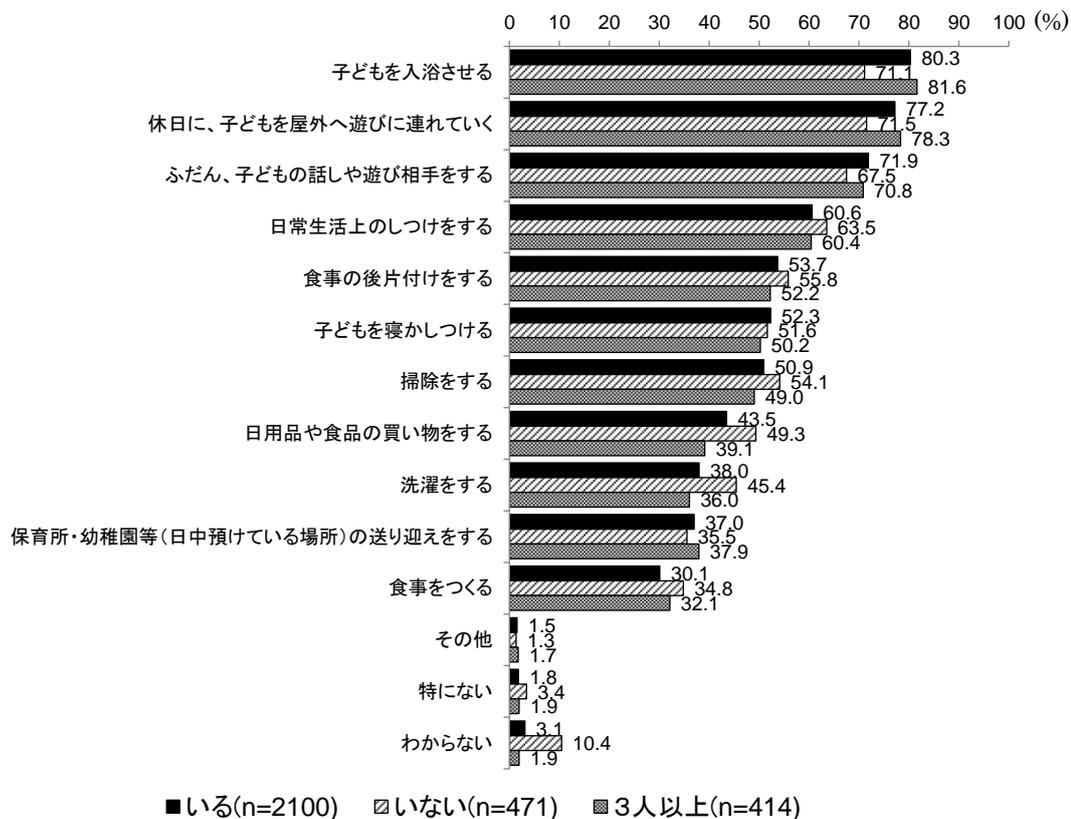
【性別・夫婦就労状況別】

共働き世帯では、片働き世帯と比べて、「掃除をする」「洗濯をする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」と回答した割合が高い。また、共働き・片働き世帯とも、男性は女性と比べて、「日用品や食品の買い物をする」「洗濯をする」と回答した割合が高く、「子どもを入浴させる」「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」「ふだん、子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」と回答した割合が低い。

性別・夫婦 就労状況	(集計 客体数)	子どもを入浴させる	休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく	ふだん、子どもの話しや遊び相手をする	日常生活上のしつけをする	食事の後片付けをする	子どもを寝かしつける	掃除をする	日用品や食品の買い物をする	洗濯をする	保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする	食事をつくる	その他	特 に ない	わ か ら ない
共働き	(n=1577)	77.7%	74.3%	69.8%	60.8%	56.4%	53.1%	54.3%	45.3%	42.9%	40.1%	33.2%	1.8%	2.1%	4.3%
男性共働き	(n=784)	75.0%	69.6%	64.2%	56.1%	57.3%	50.8%	58.2%	50.0%	47.3%	36.0%	32.9%	0.9%	2.9%	5.2%
女性共働き	(n=793)	80.3%	78.8%	75.3%	65.4%	55.5%	55.4%	50.4%	40.7%	38.6%	44.1%	33.5%	2.6%	1.3%	3.4%
片働き	(n=958)	80.6%	79.9%	73.8%	62.3%	51.3%	51.5%	47.5%	43.4%	34.0%	31.7%	27.6%	0.9%	2.1%	4.3%
男性片働き	(n=372)	78.2%	74.5%	67.7%	56.7%	56.7%	48.9%	52.2%	49.5%	43.0%	27.2%	28.0%	0.5%	1.6%	5.6%
女性片働き	(n=586)	82.1%	83.3%	77.6%	65.9%	47.8%	53.1%	44.5%	39.6%	28.3%	34.6%	27.3%	1.2%	2.4%	3.4%

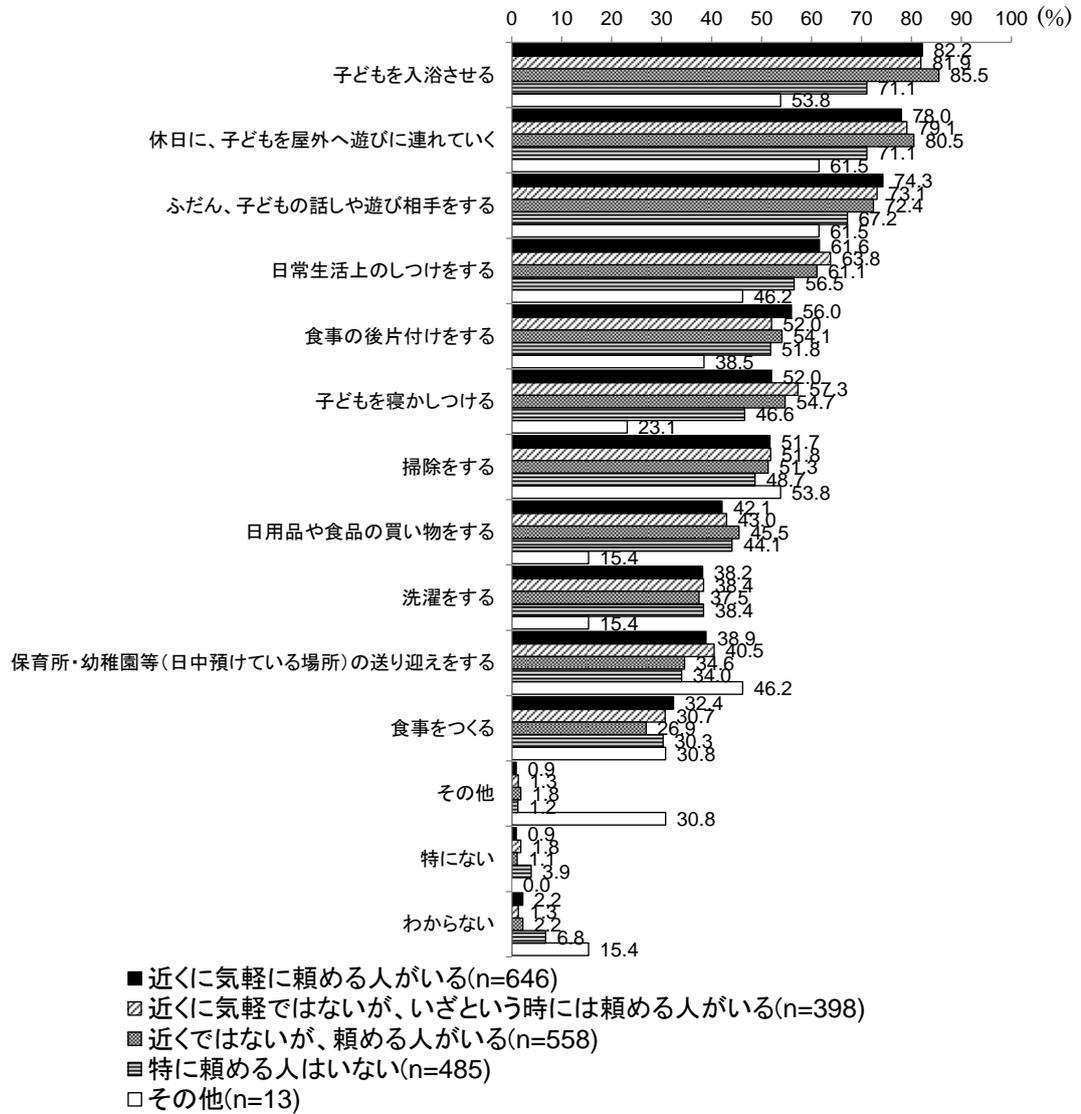
【子ども有無別】

子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「日用品や食品の買い物をする」「洗濯をする」と回答した割合が高く、「子どもを入浴させる」「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」と回答した割合が低い。



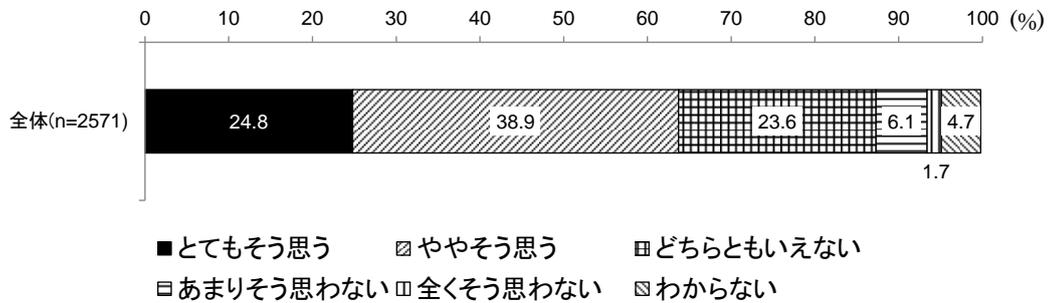
【世話を頼める知人等の有無別】

特に頼める人はいないでは、「子どもを入浴させる」「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」「ふだん、子どもの話しや遊び相手をする」と回答した割合が低い。



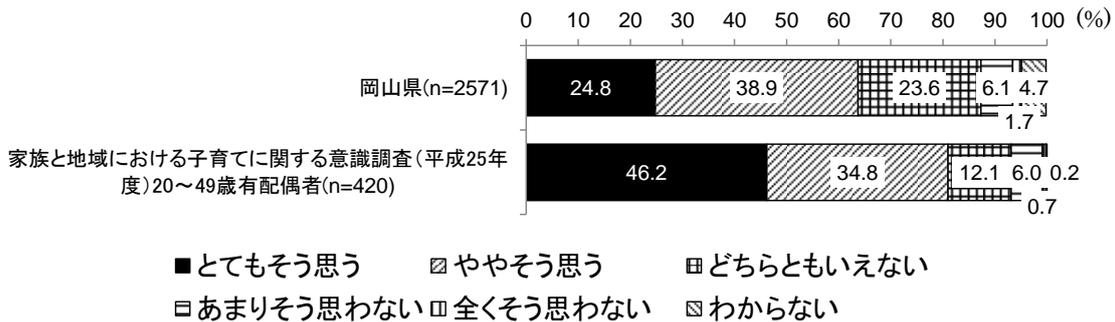
Q16.子どもが小学校に入学するまでの間、子どもからみた祖父母が、育児や家事の手助けをすることは望ましいと思いますか。(〇は1つ)

「ややそう思う」が38.9%と最も高く、次いで「とてもそう思う」(24.8%)、「どちらともいえない」(23.6%)となっている。



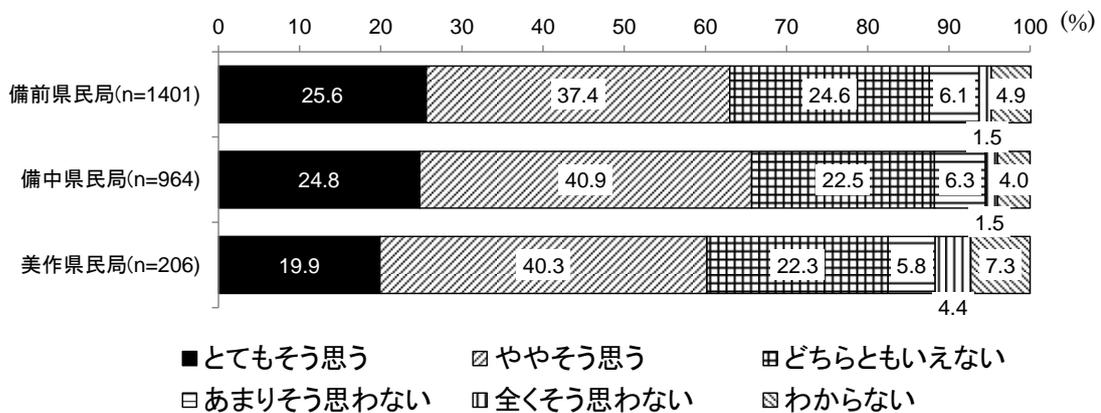
【全国調査との比較】

全国調査と比べて、「ややそう思う」「どちらともいえない」と回答した割合が高く、「とてもそう思う」と回答した割合が低い。



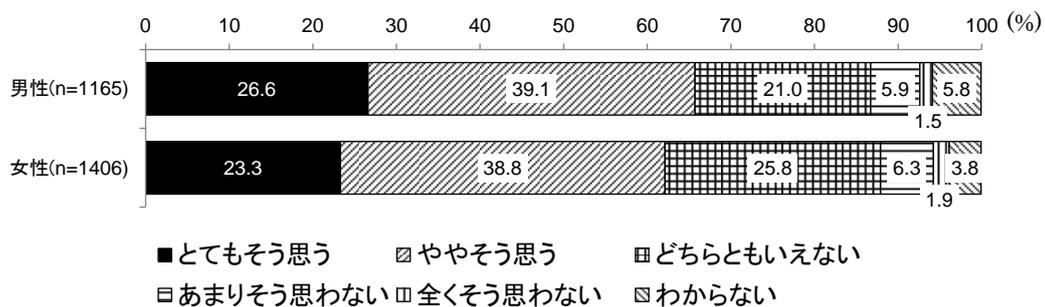
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で「とてもそう思う」と回答した割合が低い。



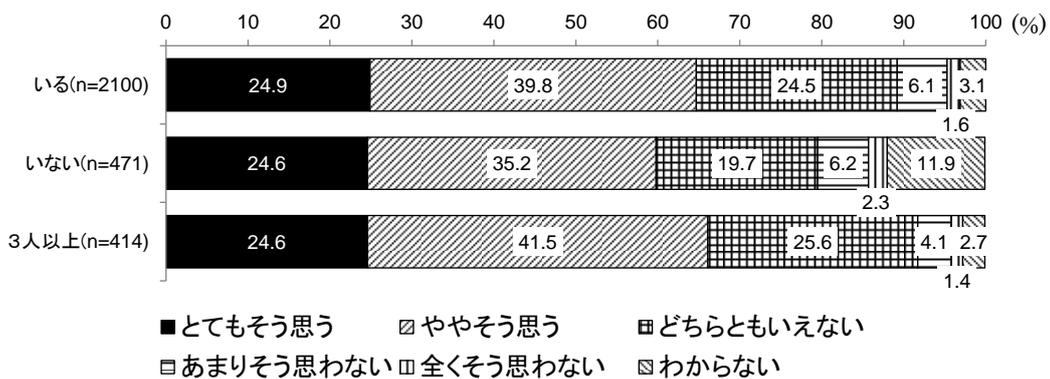
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



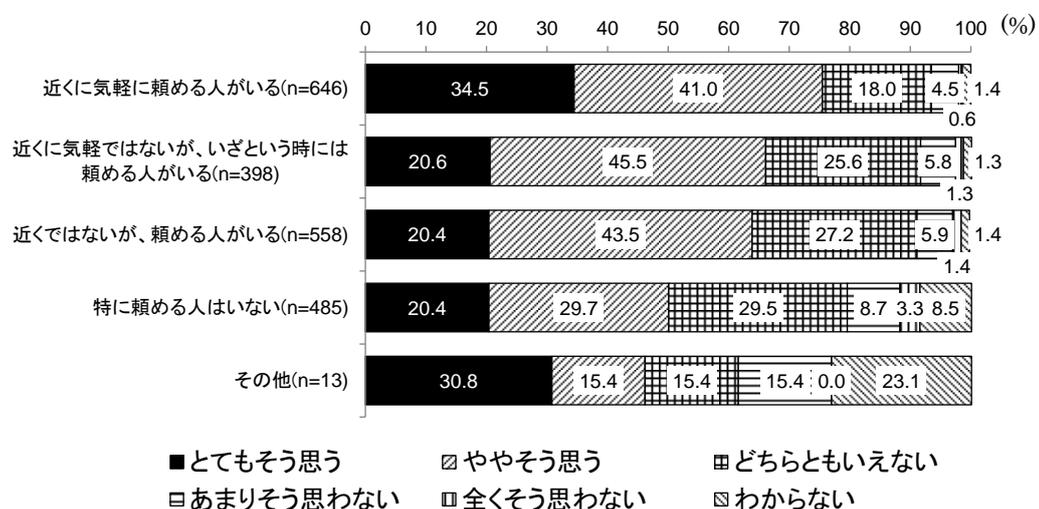
【子ども有無別】

子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「わからない」と回答した割合が高く、「ややそう思う」「どちらともいえない」と回答した割合が低い。



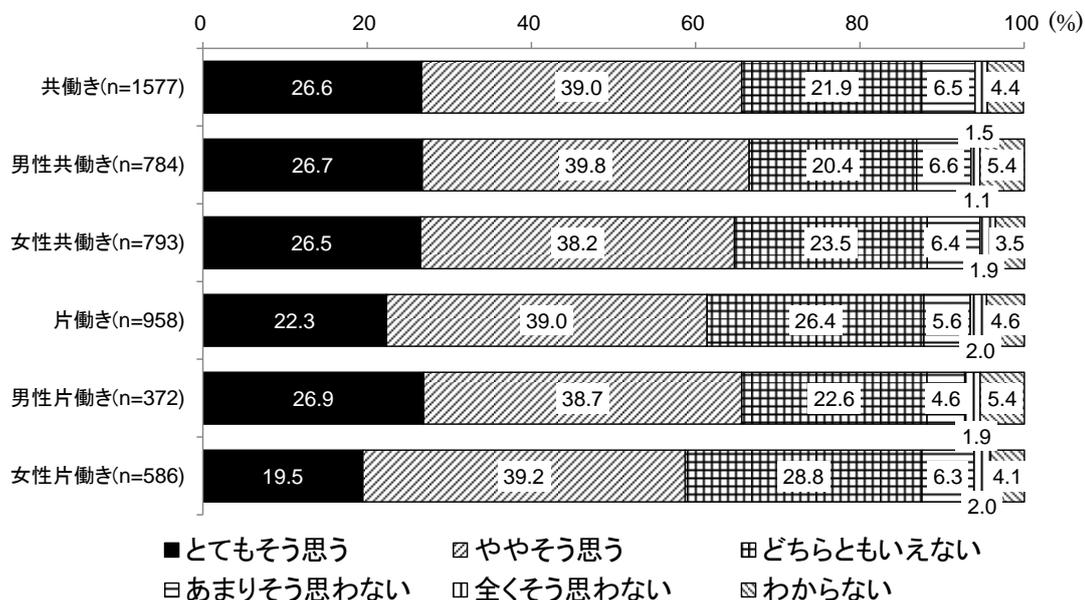
【世話を頼める知人等の有無別】

近くに気軽に頼める人がいるでは、「とてもそう思う」と回答した割合が高い。また、特に頼める人はいないでは、「ややそう思う」と回答した割合が低い。



【性別・夫婦就労状況別】

片働き世帯の女性では、「どちらともいえない」と回答した割合が高く、「とてもそう思う」と回答した割合が低い。

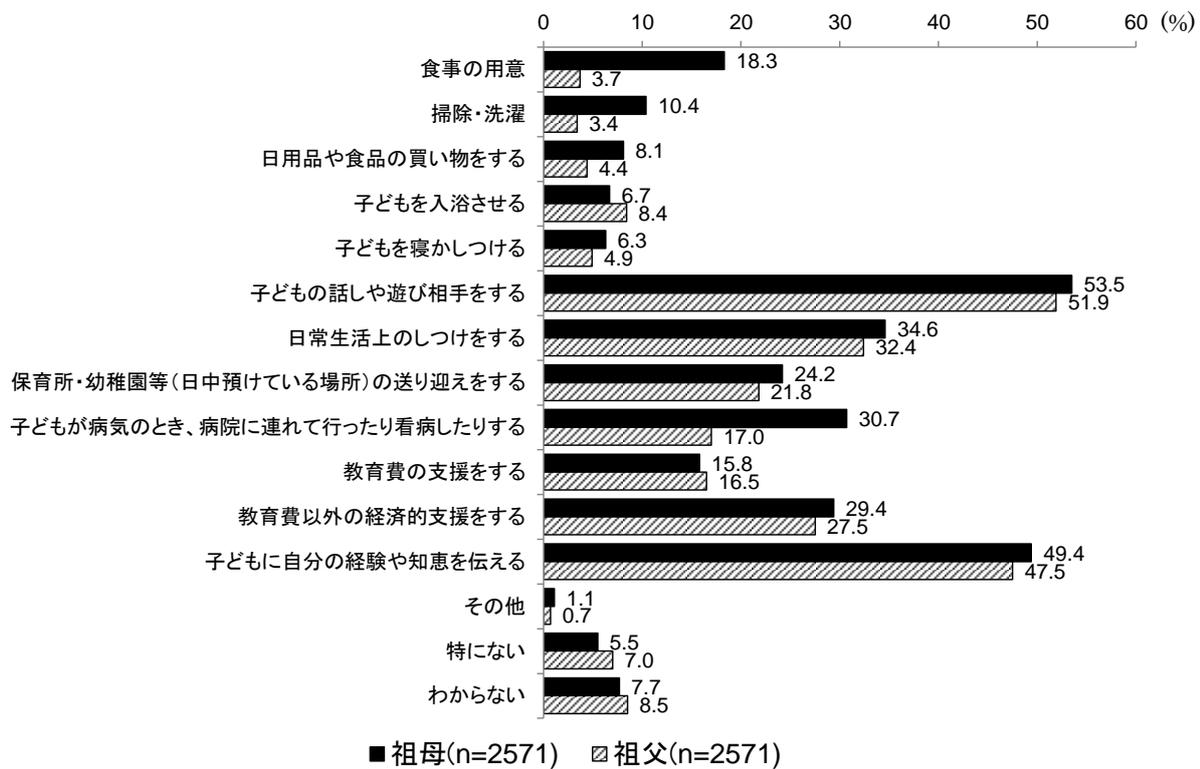


Q17. 18.一般的に、子どもが小学校に入学するまでの間、子どもからみた祖父母は、育児や家事の中で、どんな手助けをしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

祖母では、「子どもの話しや遊び相手をする」が53.5%と最も高く、次いで「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(49.4%)、「日常生活上のしつけをする」(34.6%)となっている。

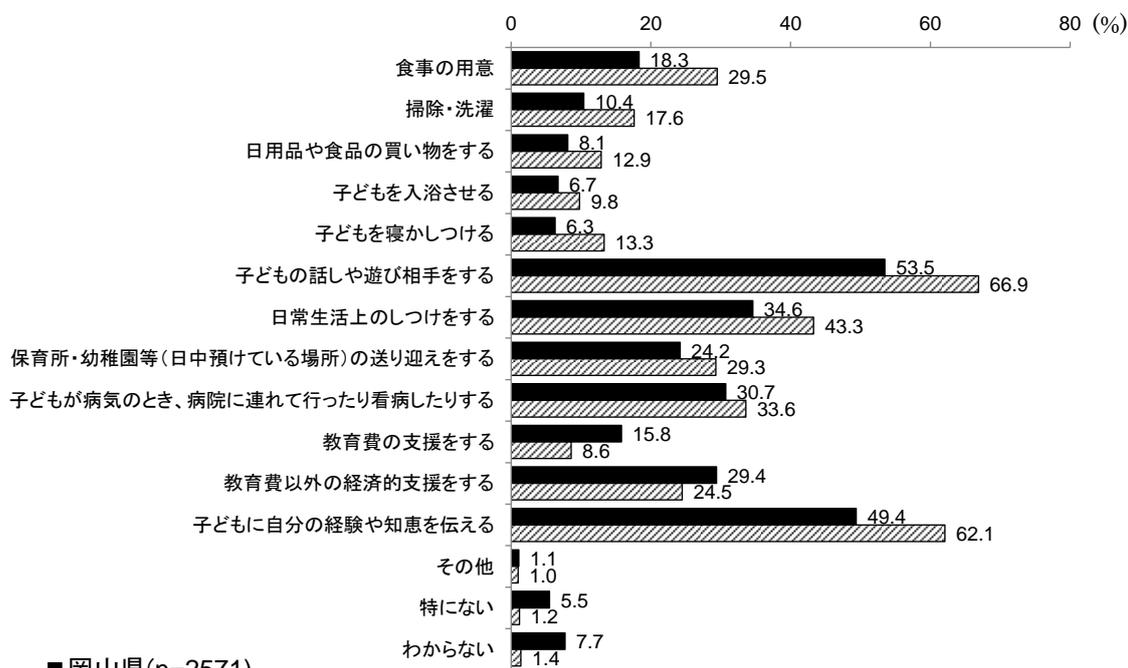
祖父では、「子どもの話しや遊び相手をする」が51.9%と最も高く、次いで「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(47.5%)、「日常生活上のしつけをする」(32.4%)となっている。

祖母と祖父を比べると、祖母では、「食事の用意」「掃除・洗濯」「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」と回答した割合が高い。



【全国調査との比較】

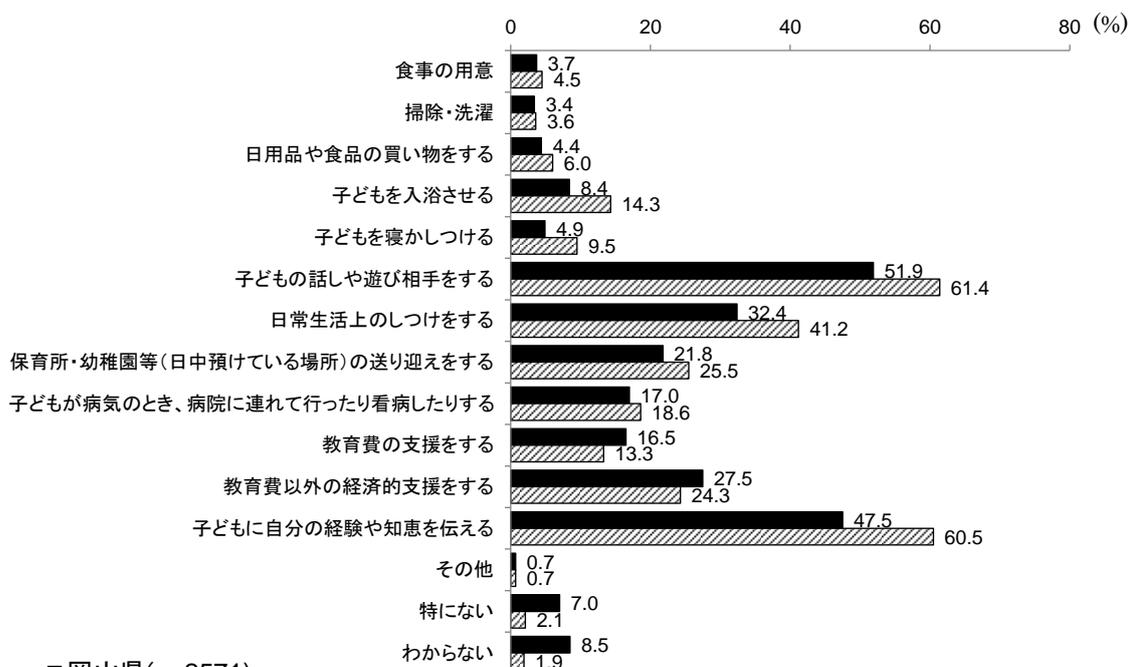
祖母では、全国調査と比べて、「食事の用意」「子どもの話しや遊び相手をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が10ポイント以上低い。



■ 岡山県(n=2571)

□ 家族と地域における子育てに関する意識調査(平成25年度)20~49歳有配偶者(n=420)

祖父では、全国調査と比べて、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が10ポイント以上低い。

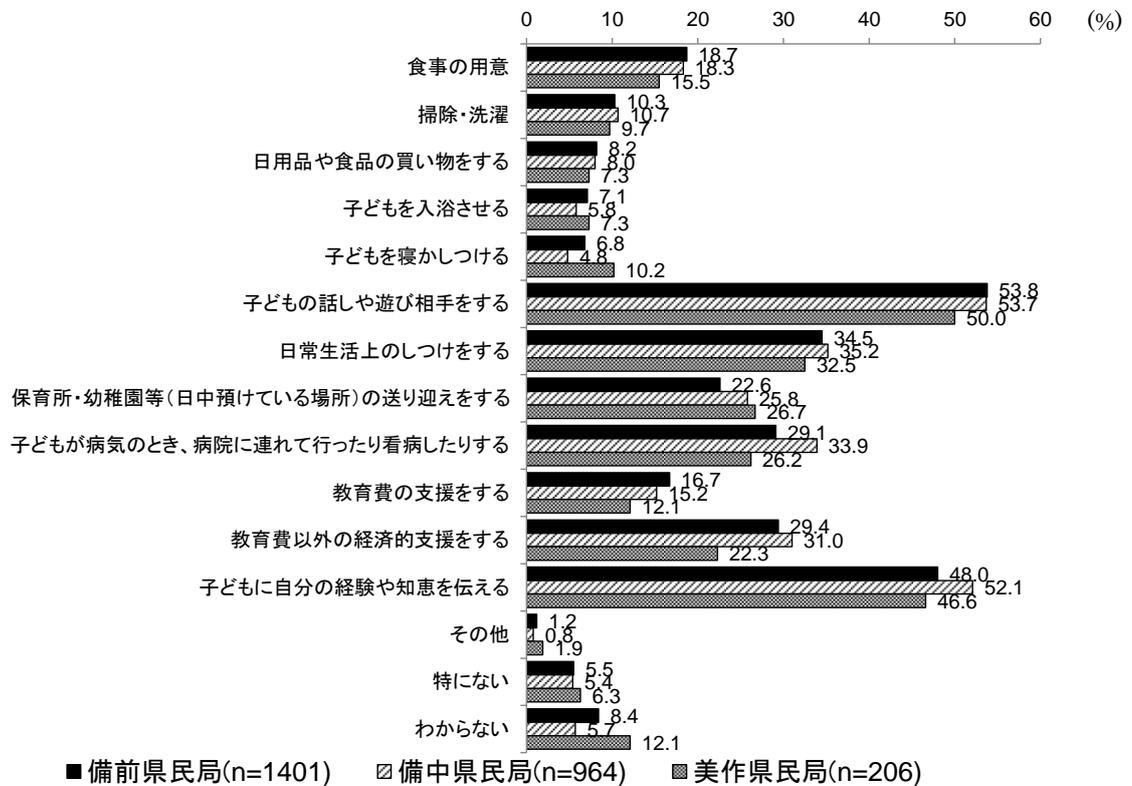


■ 岡山県(n=2571)

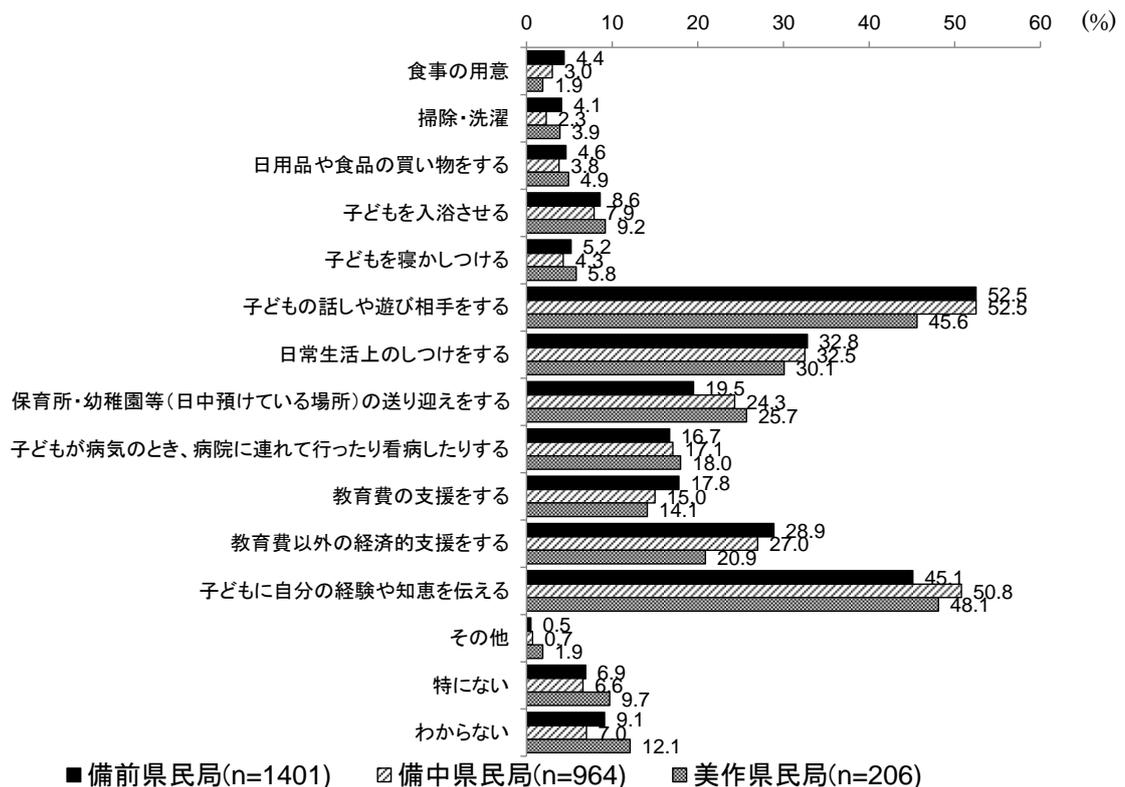
□ 家族と地域における子育てに関する意識調査(平成25年度)20~49歳有配偶者(n=420)

【居住地別】

祖母では、居住地別でどの地域も、「子どもの話しや遊び相手をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が高い。

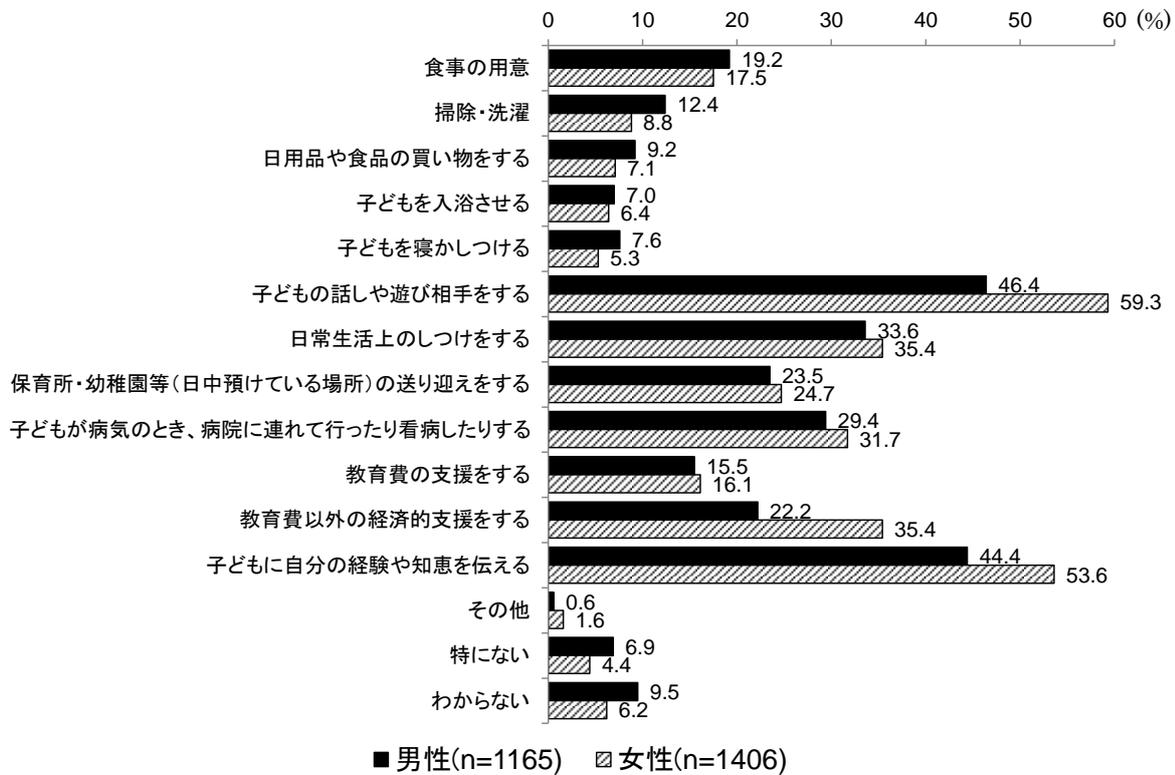


祖父では、居住地別でどの地域も、「子どもの話しや遊び相手をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が高い。また、美作県民局では、「子どもの話しや遊び相手をする」「教育費以外の経済的支援をする」と回答した割合が低い。

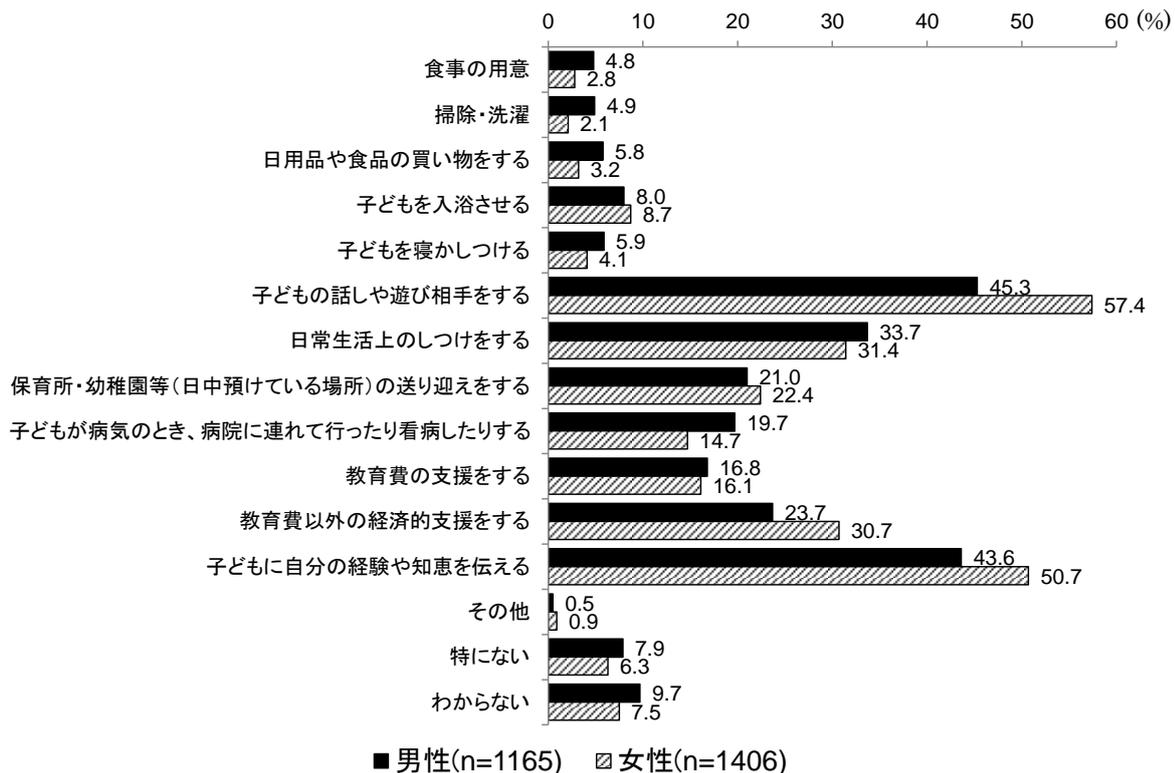


【性別】

祖母では、女性では男性と比べて、「子どもの話しや遊び相手をする」「教育費以外の経済的支援をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が高い。

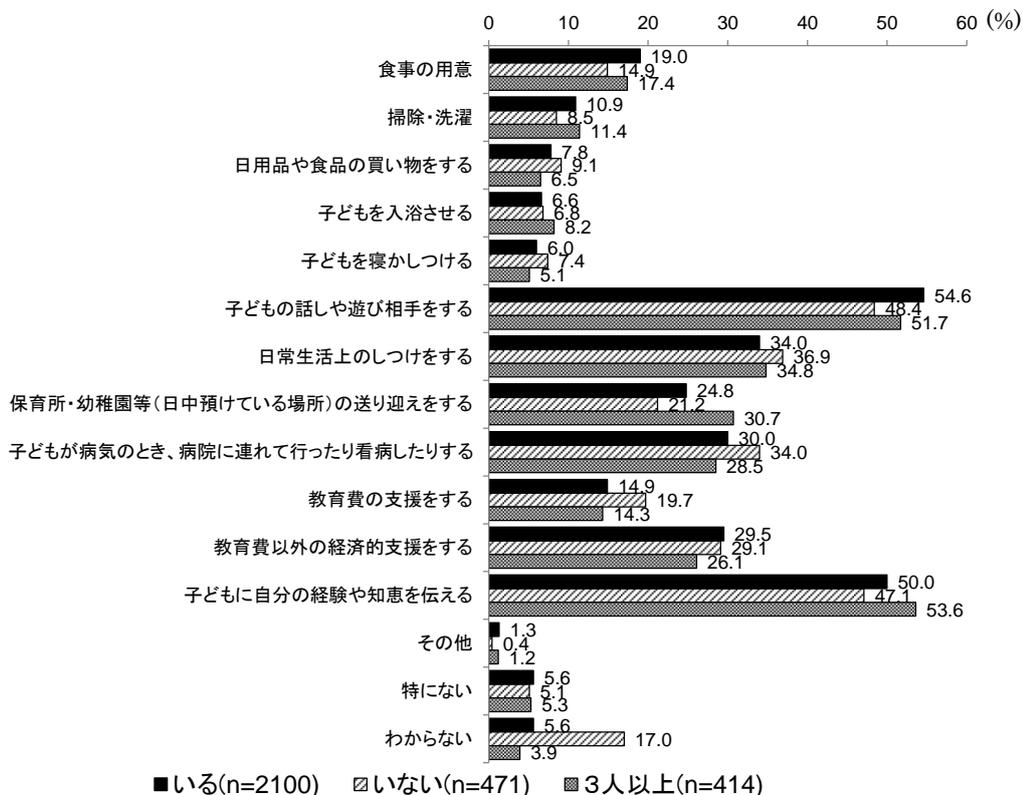


祖父では、男性では女性と比べて、「子どもが病気のとて、病院に連れて行ったり看病したりする」と回答した割合が高く、「子どもの話しや遊び相手をする」「教育費以外の経済的支援をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が低い。

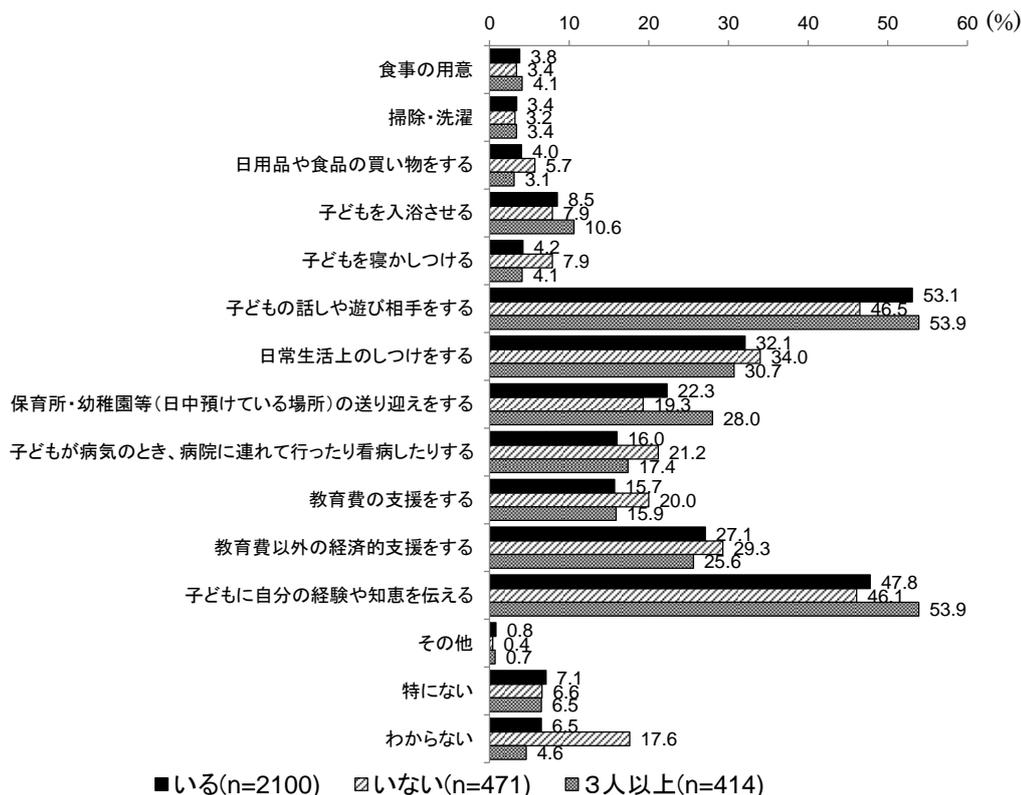


【子ども有無別】

祖母では、子どもがいないでは「わからない」、子どもが3人以上いるでは「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」と回答した割合が高い。

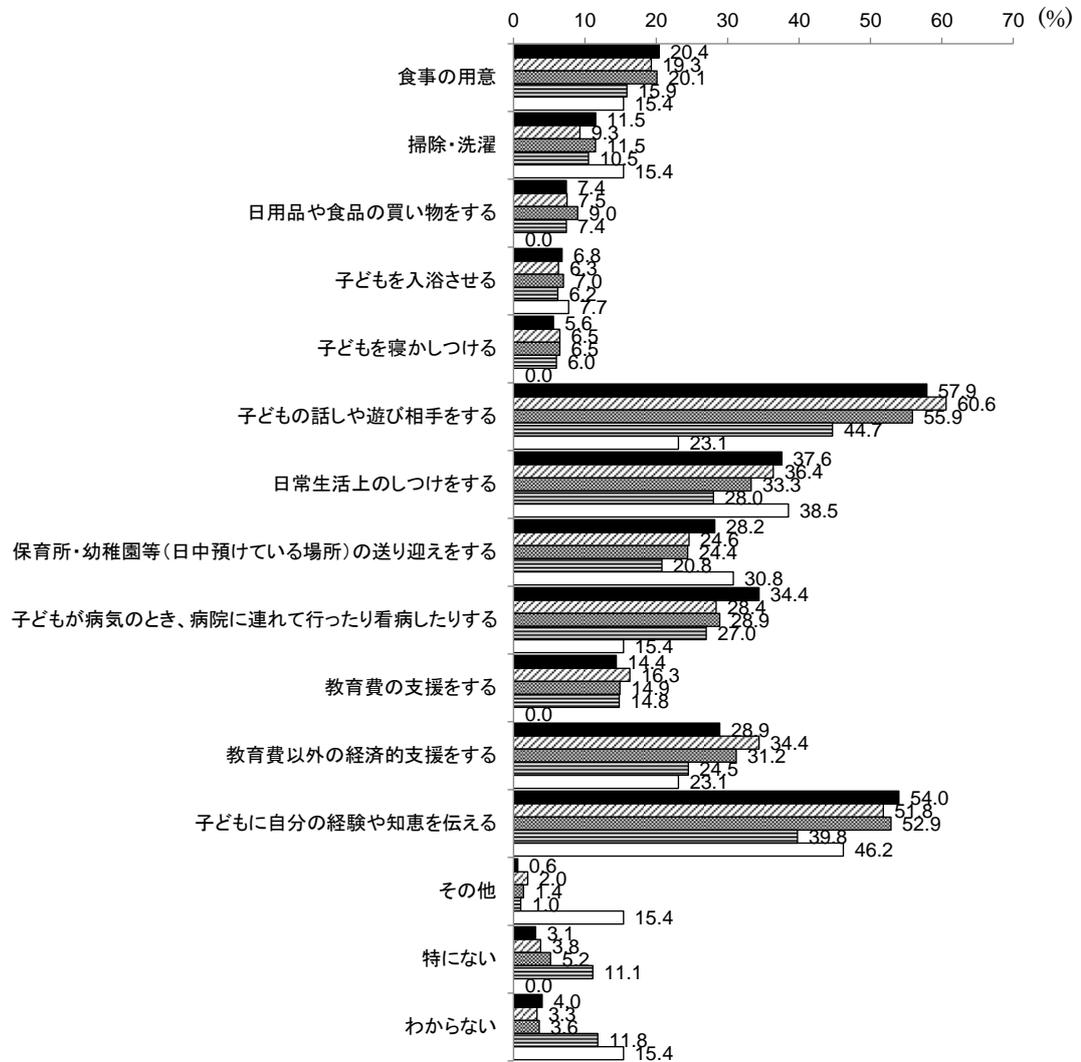


祖父では、子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」「わからない」と回答した割合が高く、「子どもの話しや遊び相手をする」と回答した割合が低い。また、子どもが3人以上では、「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が高い。



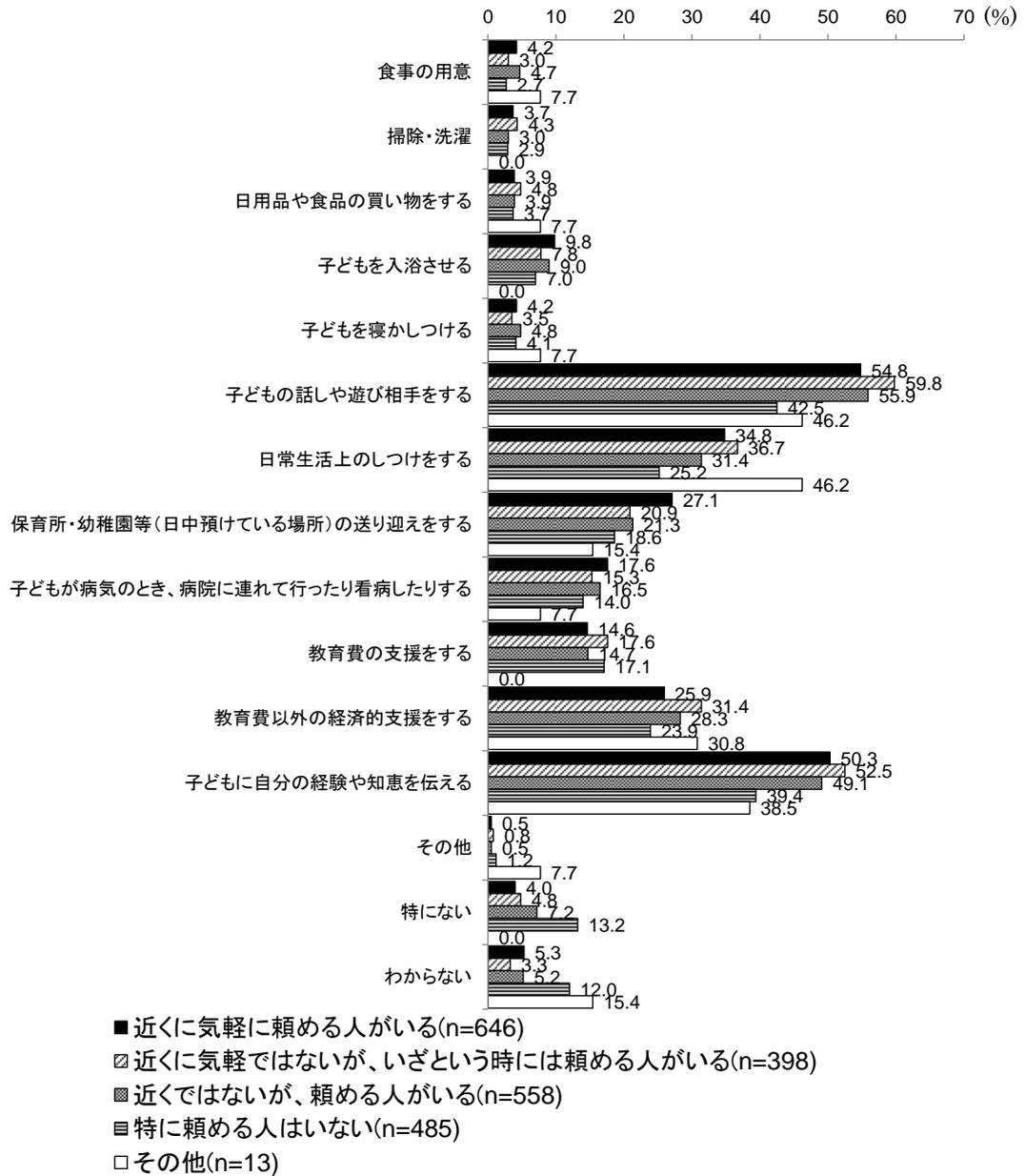
【世話を頼める知人等の有無別】

祖母では、特に頼める人はいないでは、「特にない」と回答した割合が高く、「子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」「教育費以外の経済的支援をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が低い。



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=646)
- ▣ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=398)
- ▤ 近くではないが、頼める人がいる(n=558)
- ▥ 特に頼める人はいない(n=485)
- その他(n=13)

祖父では、特に頼める人はいないでは、「特にない」と回答した割合が高く、「子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が低い。



【性別・夫婦就労状況別】

祖母では、共働き世帯では片働き世帯と比べて、「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」と回答した割合が高く、「子どもの話しや遊び相手をする」と回答した割合が低い。また、共働き・片働き世帯とも、男性は女性と比べて、「子どもの話しや遊び相手をする」「教育費以外の経済的支援をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が低い。

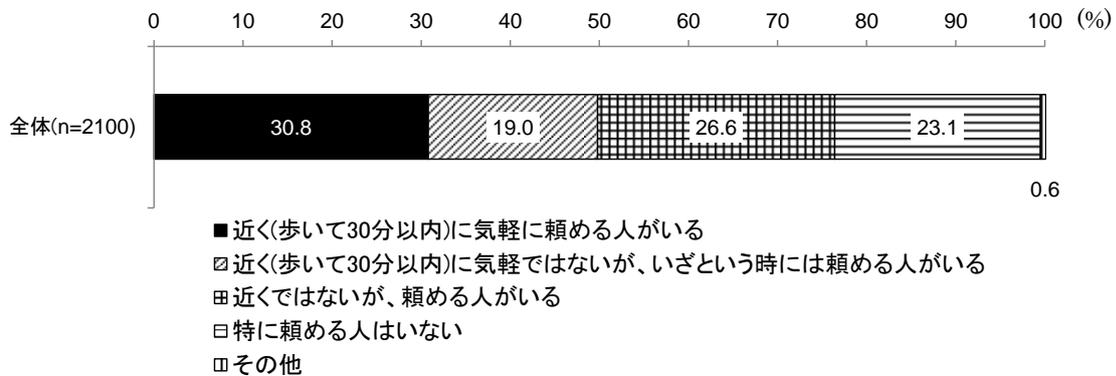
性別・夫婦就労状況	食事の用意	掃除・洗濯	日用品や食品の買い物をする	子どもを入浴させる	子どもを寝かしつける	子どもの話しや遊び相手をする	日常生活上のしつけをする	保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする	子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする	教育費の支援をする	教育費以外の経済的支援をする	子どもに自分の経験や知恵を伝える	その他	特にない	わからない
共働き (n=1577)	18.5%	11.0%	7.9%	6.8%	6.5%	50.9%	34.4%	27.3%	34.8%	14.6%	28.1%	48.8%	1.1%	5.5%	7.6%
男性 共働き (n=784)	19.0%	12.4%	8.7%	7.0%	7.9%	45.2%	33.2%	26.0%	32.1%	14.2%	20.8%	43.6%	0.6%	7.5%	9.2%
女性 共働き (n=793)	17.9%	9.6%	7.1%	6.6%	5.0%	56.6%	35.7%	28.5%	37.5%	15.1%	35.3%	54.0%	1.6%	3.5%	6.1%
片働き (n=958)	18.2%	9.7%	8.5%	6.5%	6.1%	58.0%	35.0%	19.5%	24.3%	18.0%	31.8%	50.9%	1.1%	5.6%	7.3%
男性 片働き (n=372)	20.2%	12.6%	10.5%	7.0%	6.7%	50.0%	34.7%	18.8%	24.5%	18.5%	25.3%	46.8%	0.5%	5.6%	8.9%
女性 片働き (n=586)	16.9%	7.8%	7.2%	6.1%	5.6%	63.1%	35.2%	20.0%	24.2%	17.6%	36.0%	53.6%	1.5%	5.6%	6.3%

祖父では、共働き世帯では片働き世帯と比べて、「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」と回答した割合が高く、「子どもの話しや遊び相手をする」と回答した割合が低い。また、共働き・片働き世帯とも、男性は女性と比べて、「子どもの話しや遊び相手をする」と回答した割合が低く、共働き世帯では、男性は女性と比べて、「教育費以外の経済的支援をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が低い。

性別・夫婦就労状況	食事の用意	掃除・洗濯	日用品や食品の買い物をする	子どもを入浴させる	子どもを寝かしつける	子どもの話しや遊び相手をする	日常生活上のしつけをする	保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする	子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする	教育費の支援をする	教育費以外の経済的支援をする	子どもに自分の経験や知恵を伝える	その他	特にない	わからない
共働き (n=1577)	3.9%	3.6%	4.9%	8.9%	5.5%	50.1%	33.1%	24.8%	19.0%	15.4%	26.4%	46.7%	0.8%	6.8%	8.8%
男性 共働き (n=784)	5.1%	5.0%	5.9%	7.8%	6.0%	43.6%	34.2%	22.8%	20.9%	15.4%	21.4%	42.2%	0.5%	8.0%	9.8%
女性 共働き (n=793)	2.8%	2.3%	3.9%	10.0%	4.9%	56.5%	32.0%	26.7%	17.0%	15.4%	31.4%	51.2%	1.1%	5.5%	7.7%
片働き (n=958)	3.2%	3.0%	3.5%	7.4%	4.0%	55.5%	31.5%	17.1%	14.0%	18.4%	29.5%	49.4%	0.5%	6.9%	7.9%
男性 片働き (n=372)	4.3%	4.8%	5.6%	8.3%	5.6%	49.7%	33.1%	17.5%	17.2%	20.2%	28.5%	47.3%	0.5%	7.0%	8.9%
女性 片働き (n=586)	2.6%	1.9%	2.2%	6.8%	2.9%	59.2%	30.5%	16.9%	11.9%	17.2%	30.2%	50.7%	0.5%	6.8%	7.3%

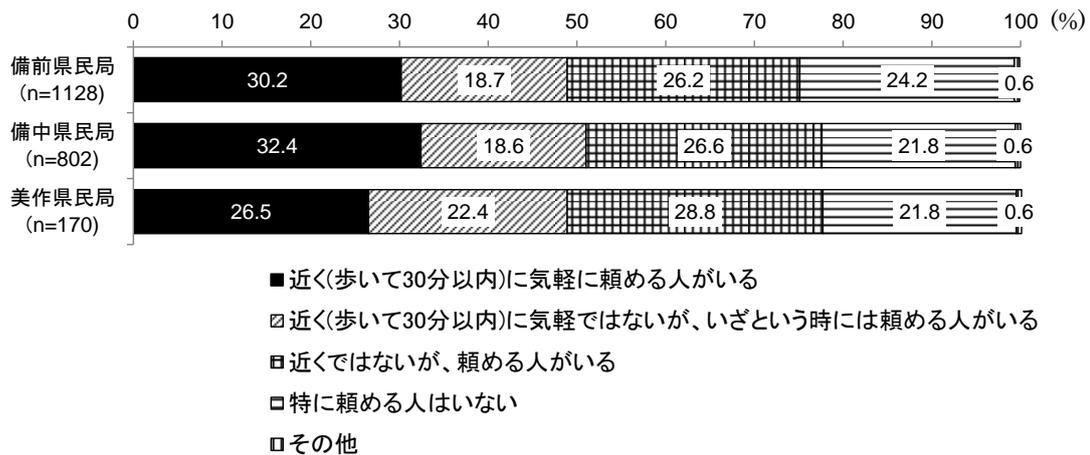
Q19.お子さんの世話を頼める親族、友人、知人がいますか。(〇は1つ)

「近く(歩いて30分以内)に気軽に頼める人がいる」が30.8%と最も高く、次いで「近くではないが、頼める人がいる」(26.6%)、「特に頼める人はいない」(23.1%)となっている。



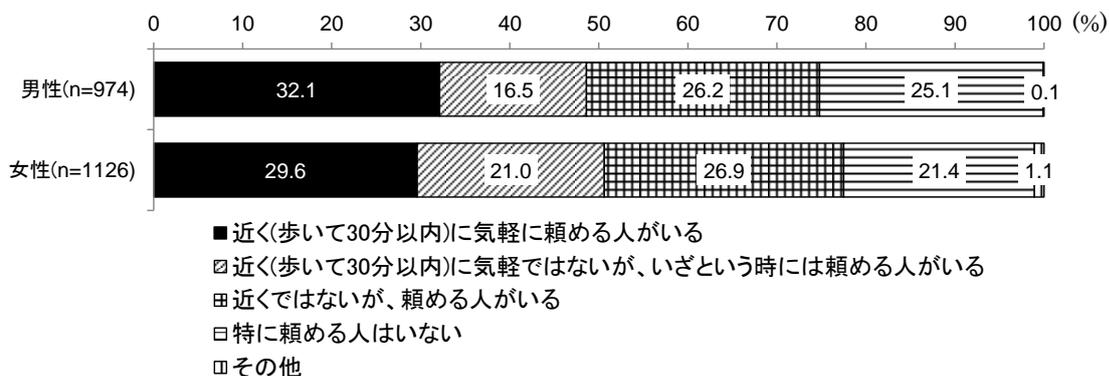
【居住地別】

居住地別では、あまり違いはみられない。



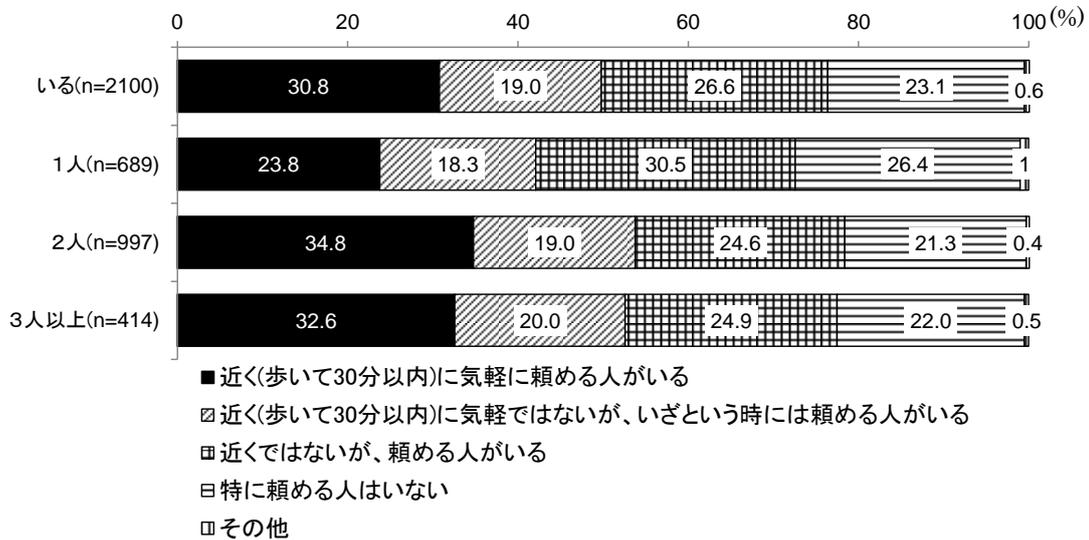
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



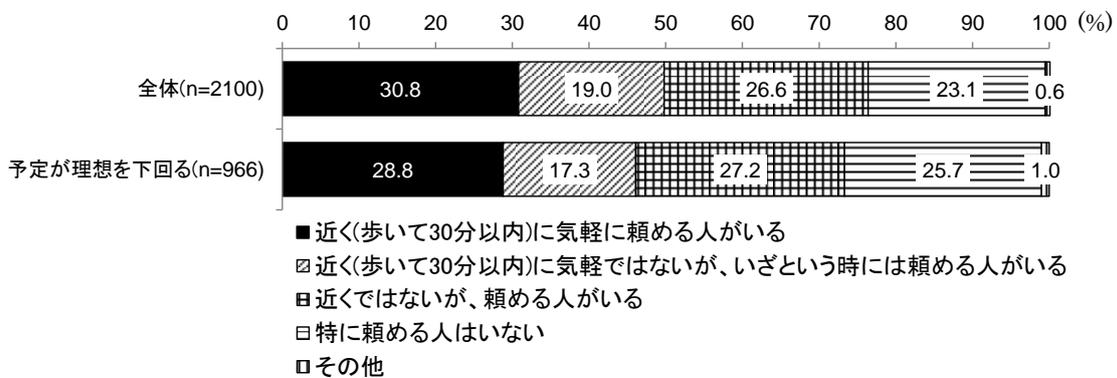
【子ども数別】

子ども数別では、1人では「近くではないが、頼める人がいる」と回答した割合が高く、「近く（歩いて30分以内）に気軽に頼める人がいる」と回答した割合が低い。



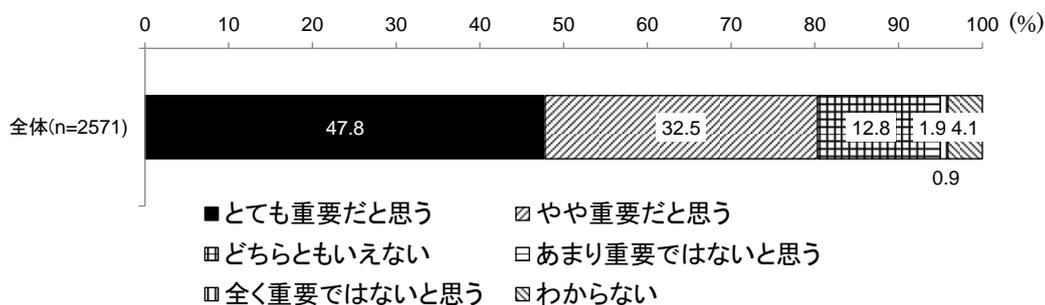
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



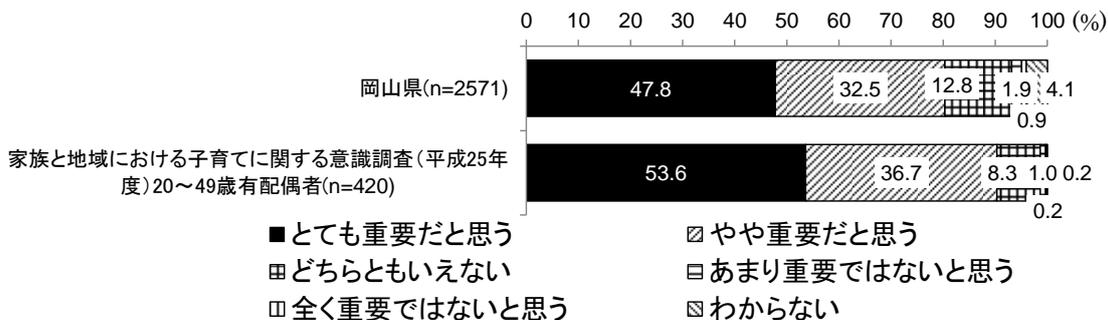
Q20.子育てをする人にとって、地域の支えは重要だと思いますか。(〇は1つ)

「とても重要だと思う」が47.8%と最も高く、次いで「やや重要だと思う」(32.5%)、「どちらともいえない」(12.8%)となっている。



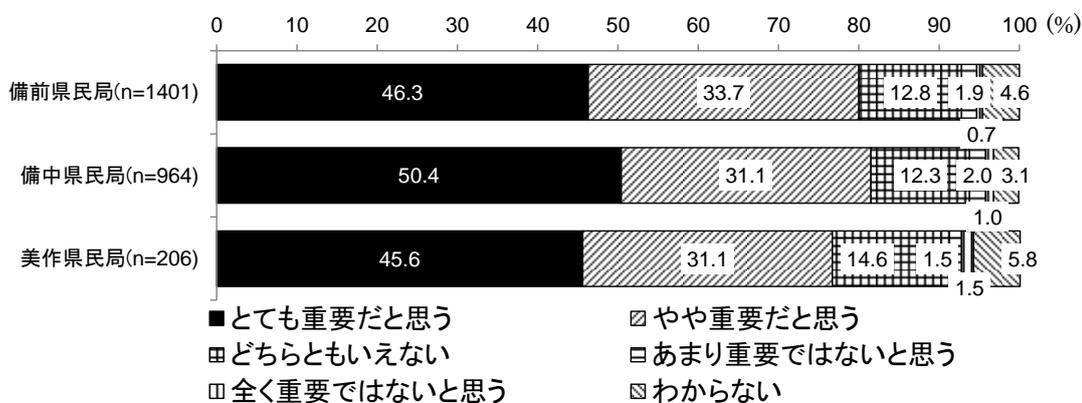
【全国調査との比較】

全国調査と比べると、「とても重要だと思う」と回答した割合が低い。



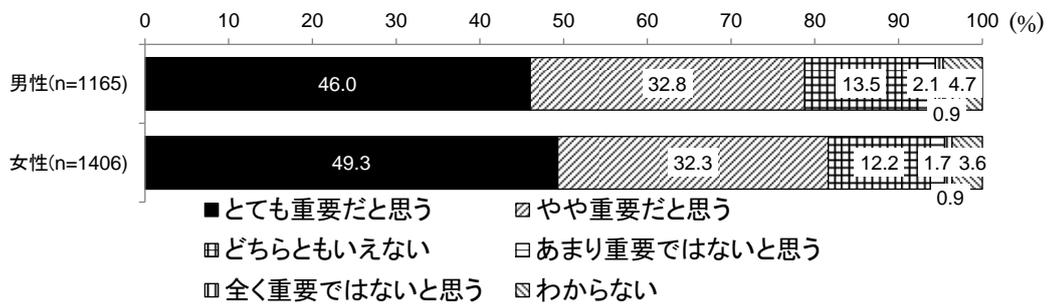
【居住地別】

居住地別では、備前県民局で、「とても重要だと思う」と回答した割合が高く、「わからない」と回答した割合が低い。



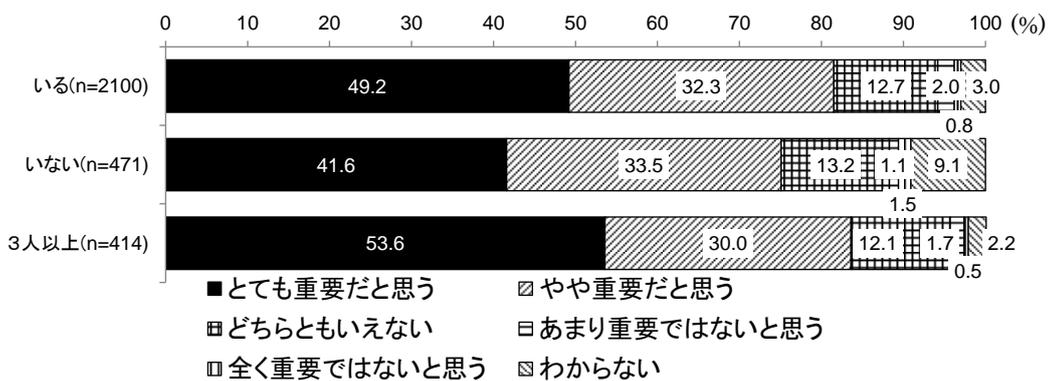
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



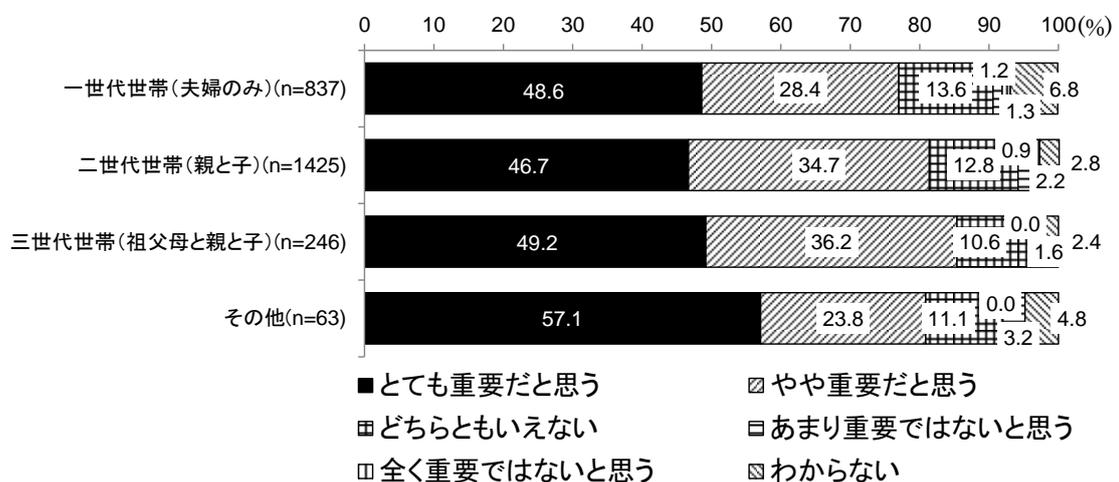
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、「とても重要だと思う」と回答した割合が高い。



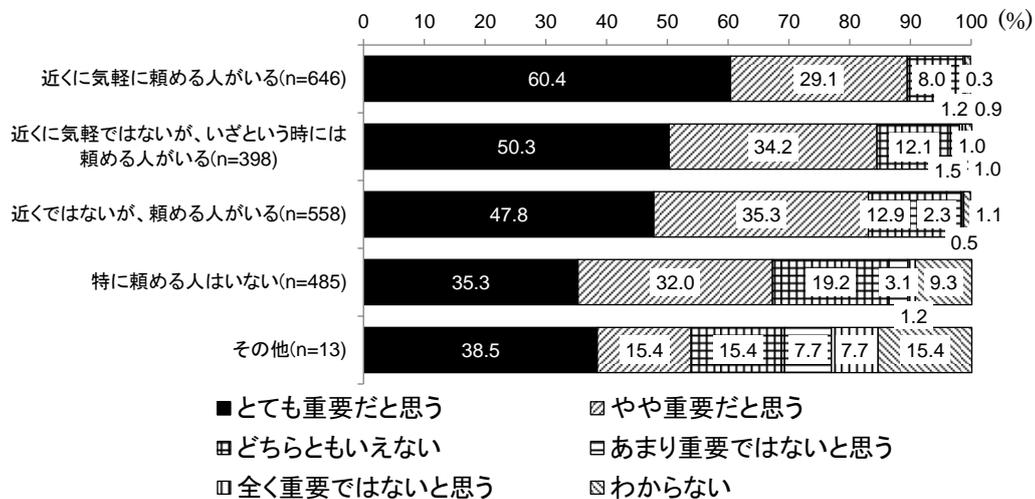
【世帯構成別】

世帯構成別では、あまり違いはみられない。



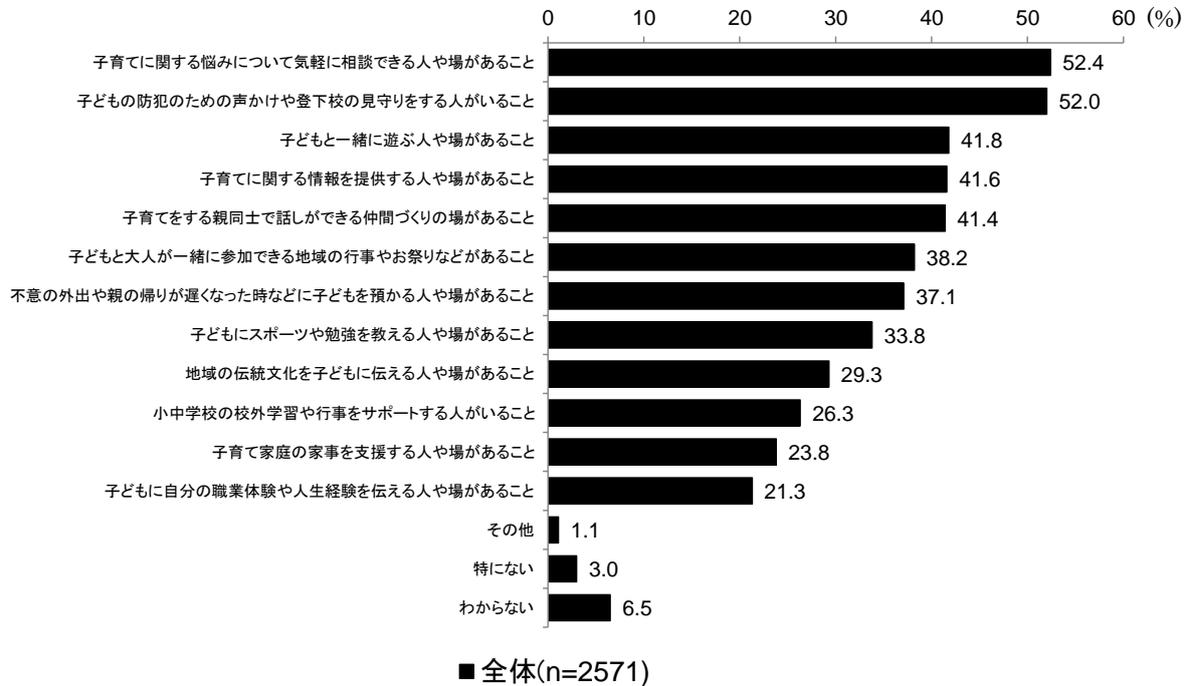
【世話を頼める知人等の有無別】

近くに気軽に頼める人がいるでは、「とても重要だと思う」と回答した割合が高い。また、特に頼める人はいないでは、「どちらともいえない」と回答した割合が高く、「とても重要だと思う」と回答した割合が低い。



Q21.あなたは、地域で子育てを支えるために、どんなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

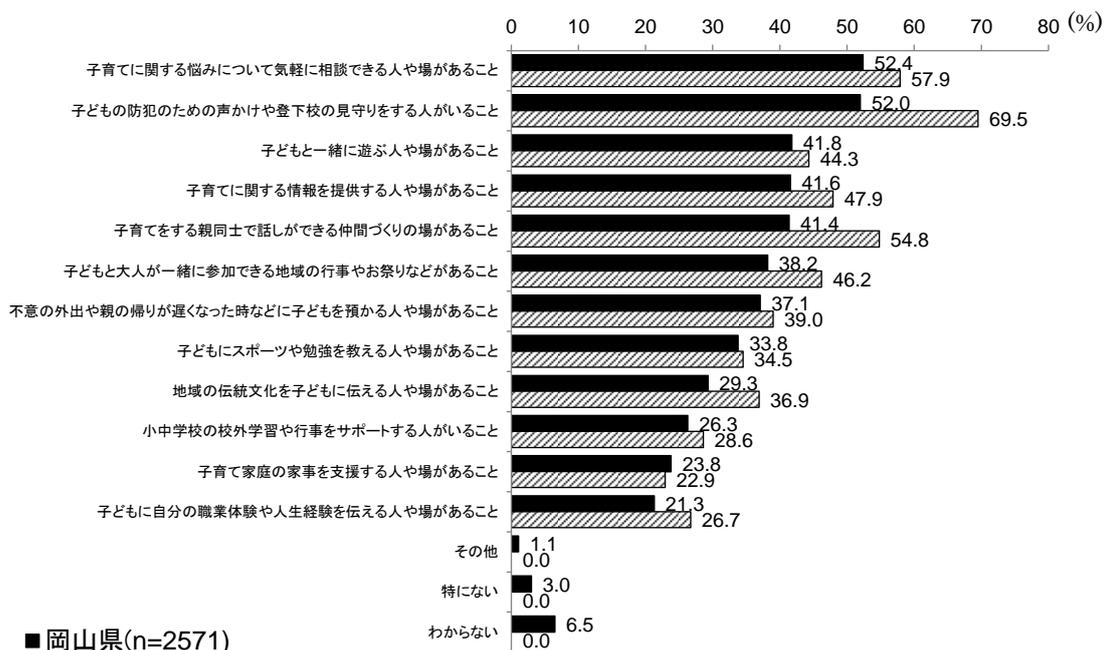
「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が52.4%と最も高く、次いで「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」(52.0%)、「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」(41.8%)となっている。



【全国調査との比較】

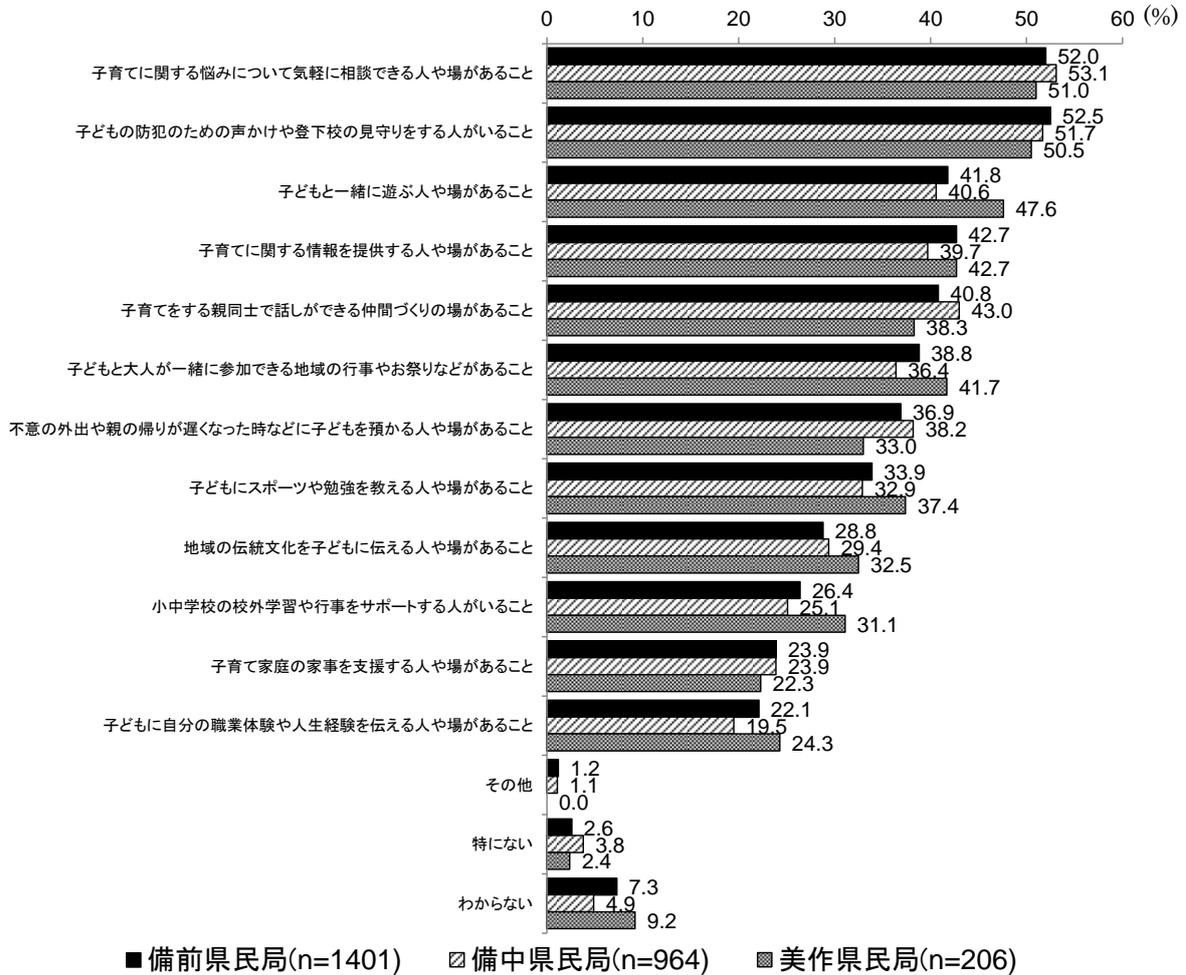
全国調査と比べて、「子育てで家庭の家事を支援する人や場があること」「その他」「特にない」「わからない」以外を回答した割合が低い。

特に、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」では10ポイント以上低い。



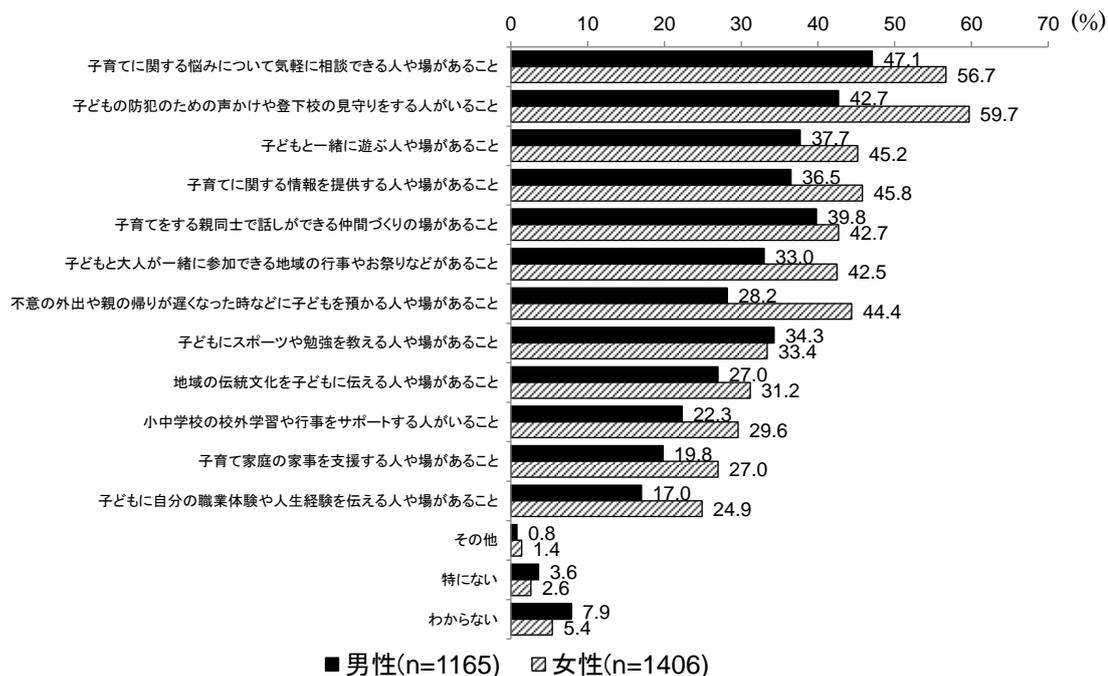
【居住地別】

居住地別では、どの地域も、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」と回答した割合が高く、「子育て家庭の家事を支援する人や場があること」「子どもに自分の職業体験や人生経験を伝える人や場があること」と回答した割合が低い。



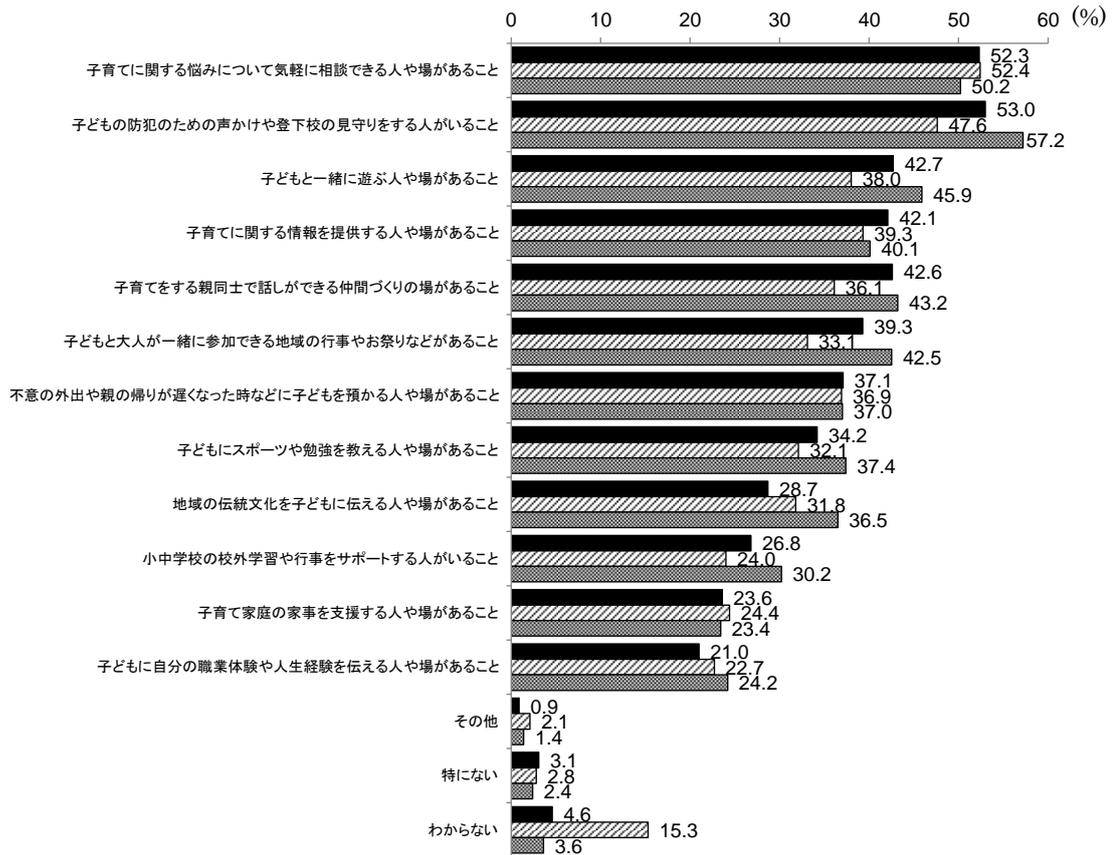
【性別】

女性では、男性と比べて、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」「子育てに関する情報を提供する人や場があること」「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」「小中学校の校外学習や行事をサポートする人がいること」「子育て家庭の家事を支援する人や場があること」「子どもに自分の職業体験や人生経験を伝える人や場があること」と回答した割合が高い。



【子ども有無別】

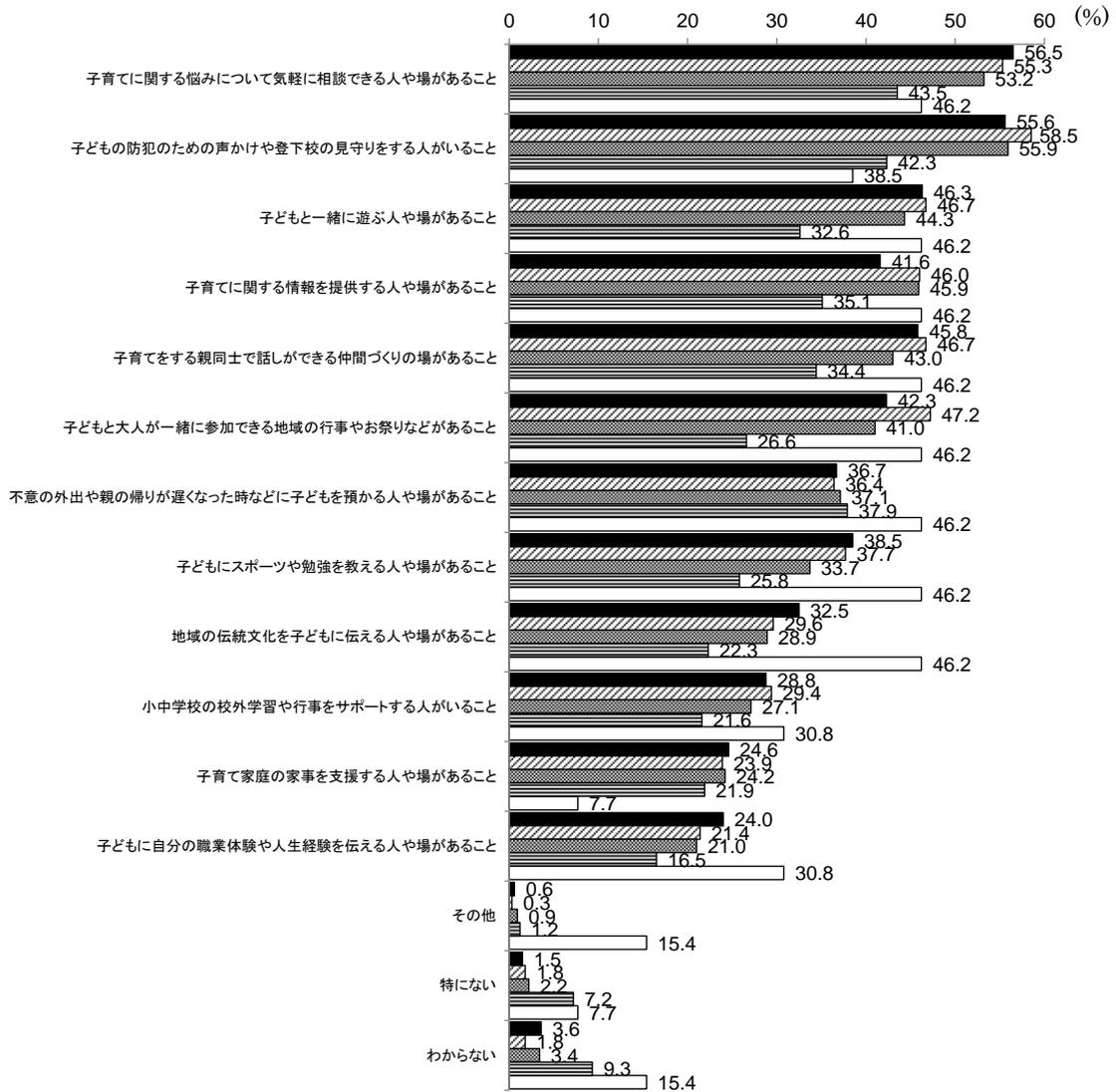
子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」と回答した割合が高く、「わからない」と回答した割合が低い。また、子どもが3人以上では、「地域の伝統文化を子どもに伝える人や場があること」「小中学校の校外学習や行事をサポートする人がいること」と回答した割合が高い。



■いる(n=2100) ▨いない(n=471) ▩3人以上(n=414)

【世話を頼める知人等の有無別】

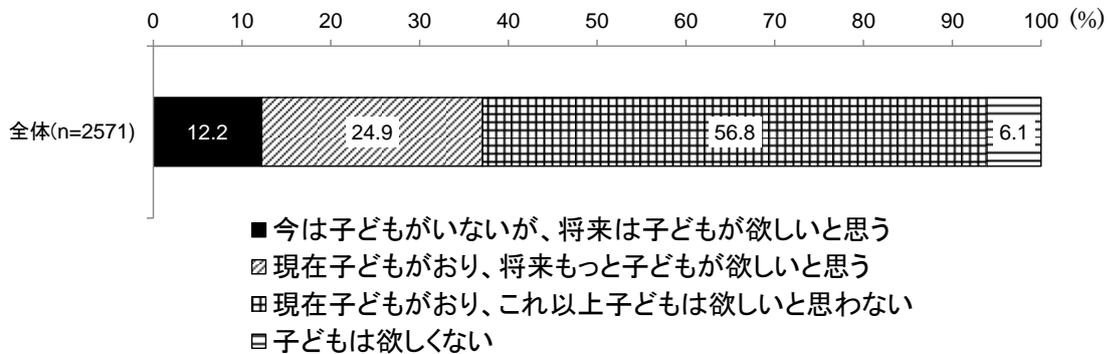
特に頼める人はいないでは、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」「子育てに関する情報を提供する人や場があること」「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」「子どもにスポーツや勉強を教える人や場があること」「地域の伝統文化を子どもに伝える人や場があること」「小中学校の校外学習や行事をサポートする人がいること」と回答した割合が低い。



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=646)
- ▣ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=398)
- ▨ 近くではないが、頼める人がいる(n=558)
- ▩ 特に頼める人はいない(n=485)
- その他(n=13)

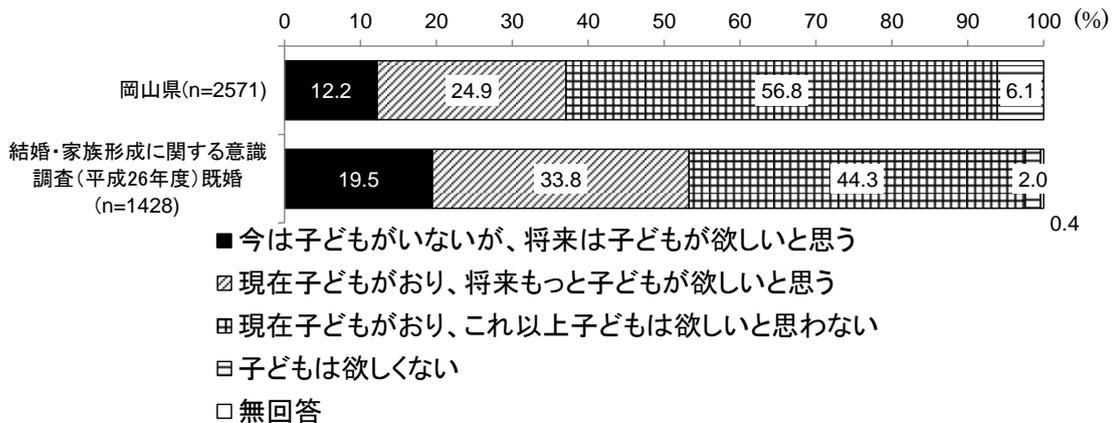
Q22.あなたの子どもについてのお考えは、以下のどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない」が56.8%と最も高く、次いで「現在子どもがおり、将来もっと子どもが欲しいと思う」(24.9%)、「今は子どもがいないが、将来は子どもが欲しいと思う」(12.2%)となっている。



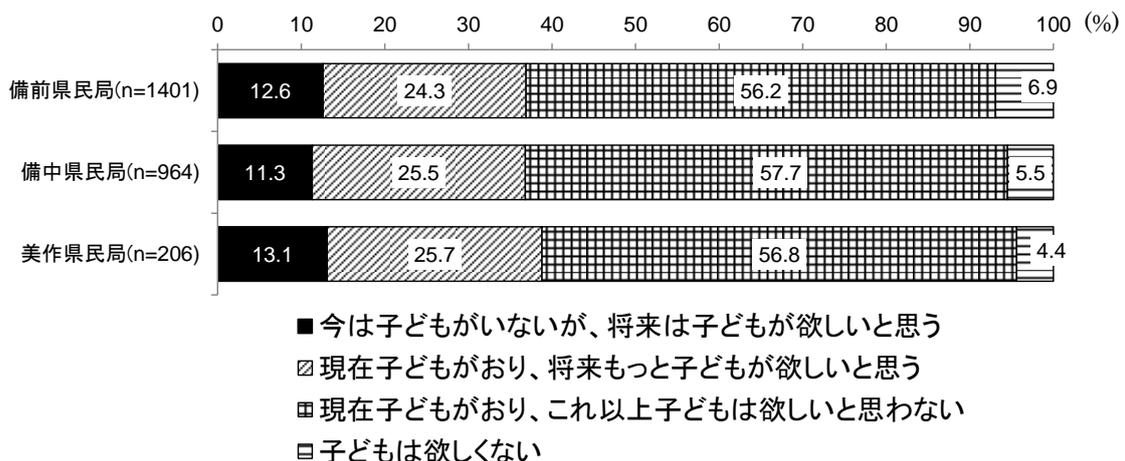
【全国調査との比較】

全国と比べて、「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない」と回答した割合が高く、「今は子どもがいないが、将来は子どもが欲しいと思う」「現在子どもがおり、将来もっと子どもが欲しいと思う」と回答した割合が低い。



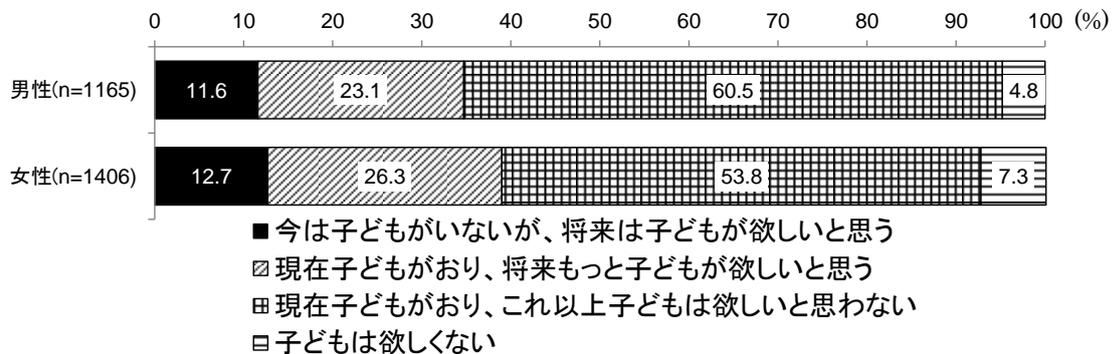
【居住地別】

居住地別では、あまり違いはみられない。



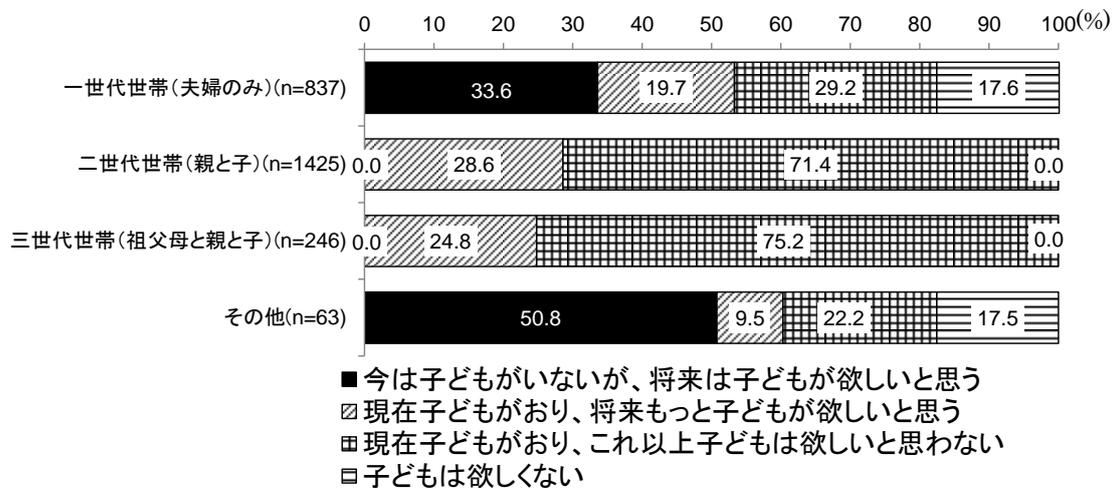
【性別】

男性では、女性と比べて、「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいとは思わない」と回答した割合が高い。



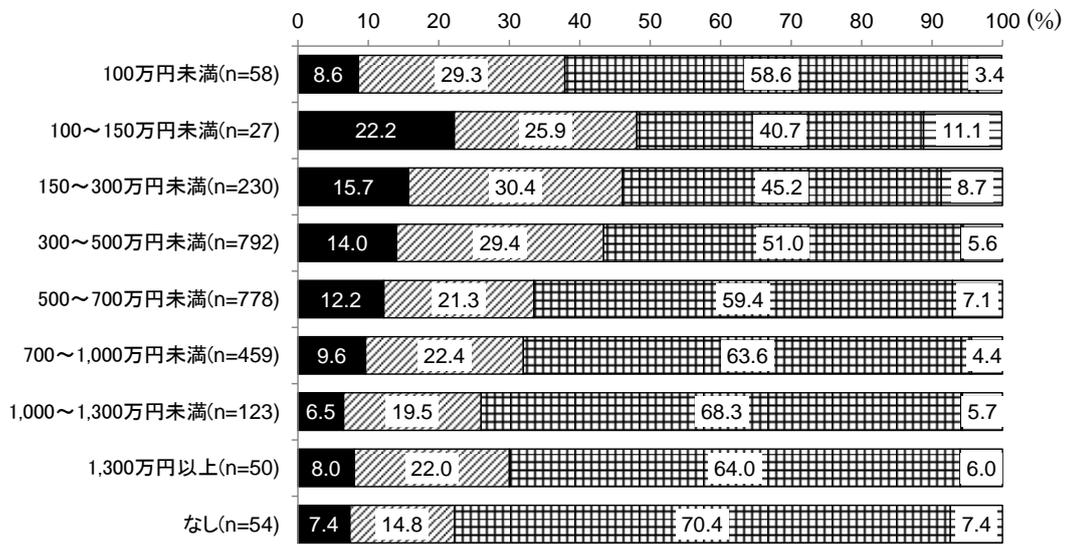
【世帯構成別】

世帯構成別では、二世帯世帯（親と子）、三世帯世帯（祖父母と親と子）で「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいとは思わない」と回答した割合が高い。



【世帯年収別】

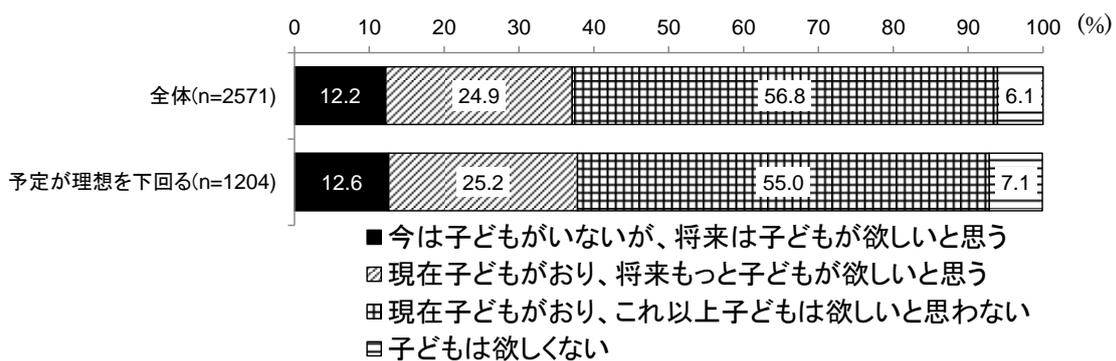
世帯年収別では、世帯年収 100～150 万円未満では、「今は子どもがいないが、将来は子どもが欲しいと思う」と回答した割合が高い。



- 今は子どもがいないが、将来は子どもが欲しいと思う
- ▨ 現在子どもがおり、将来もっと子どもが欲しいと思う
- ▩ 現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない
- 子どもは欲しくない

【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

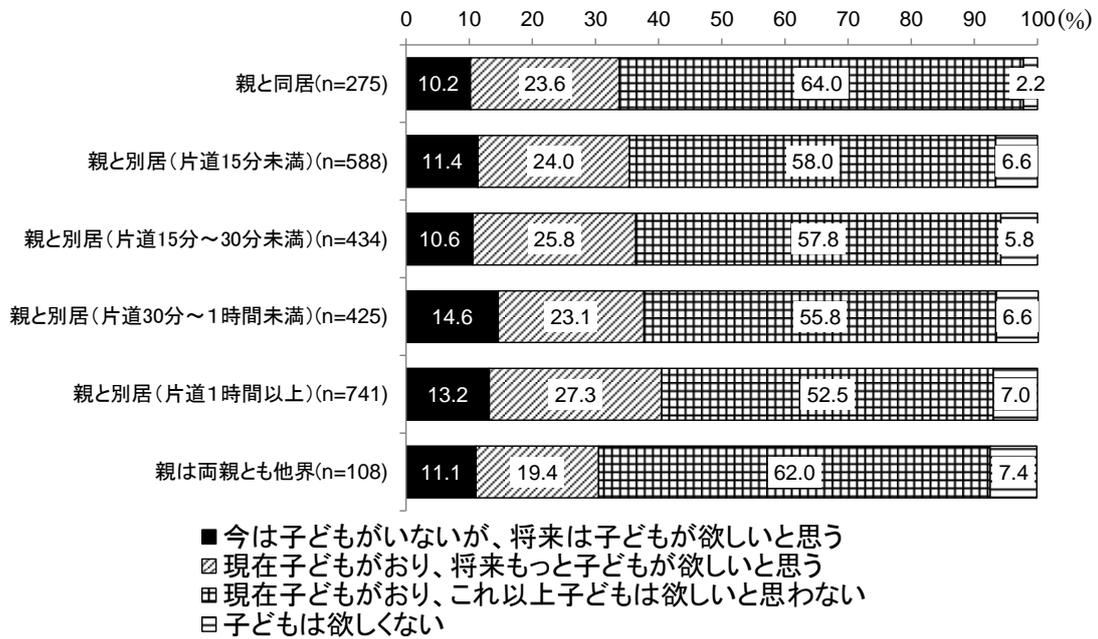
全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



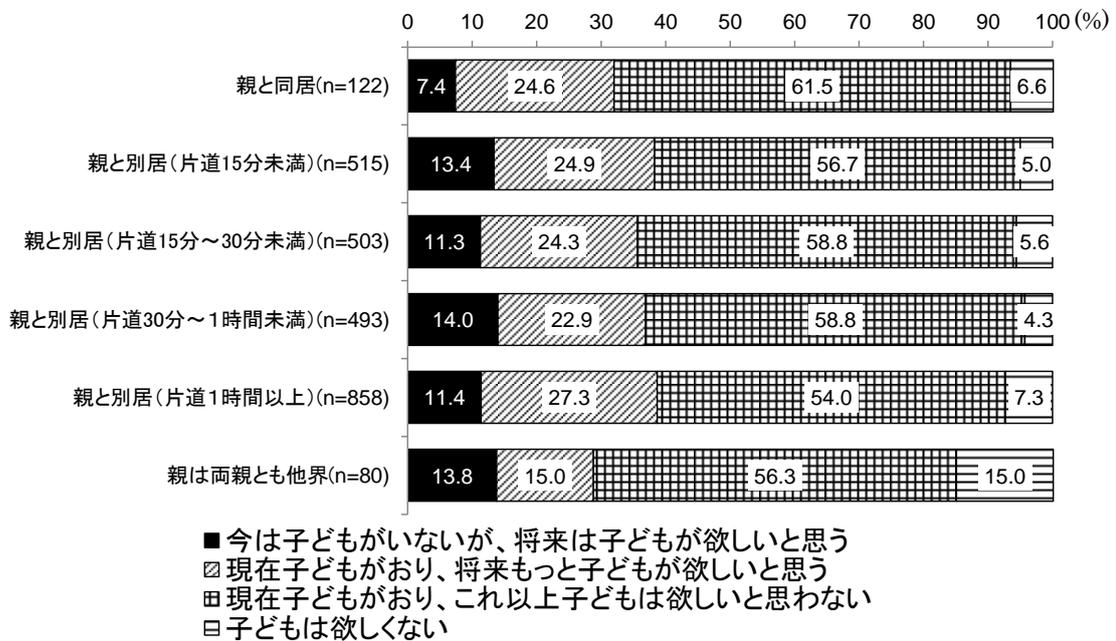
- 今は子どもがいないが、将来は子どもが欲しいと思う
- ▨ 現在子どもがおり、将来もっと子どもが欲しいと思う
- ▩ 現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない
- 子どもは欲しくない

【親との居住距離別】

夫方の親との居住距離別では、親との距離が長くなるにつれて、「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない」と回答した割合が低い。

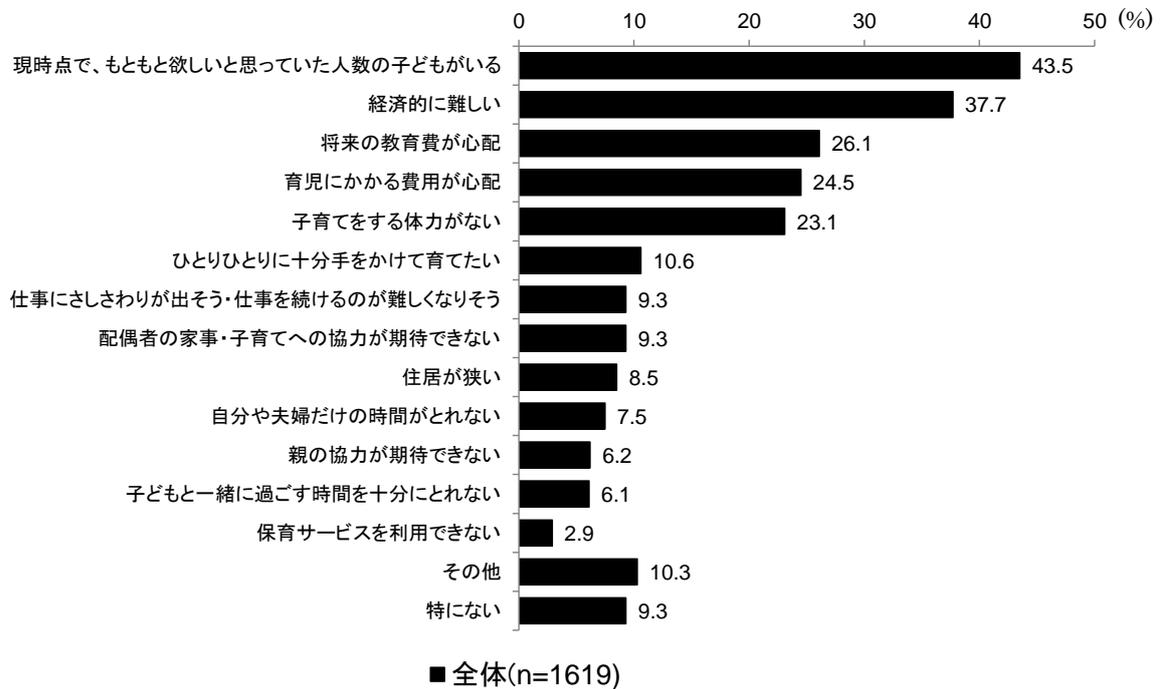


妻方の親との居住距離別では、親と同居で「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない」と回答した割合が高い。



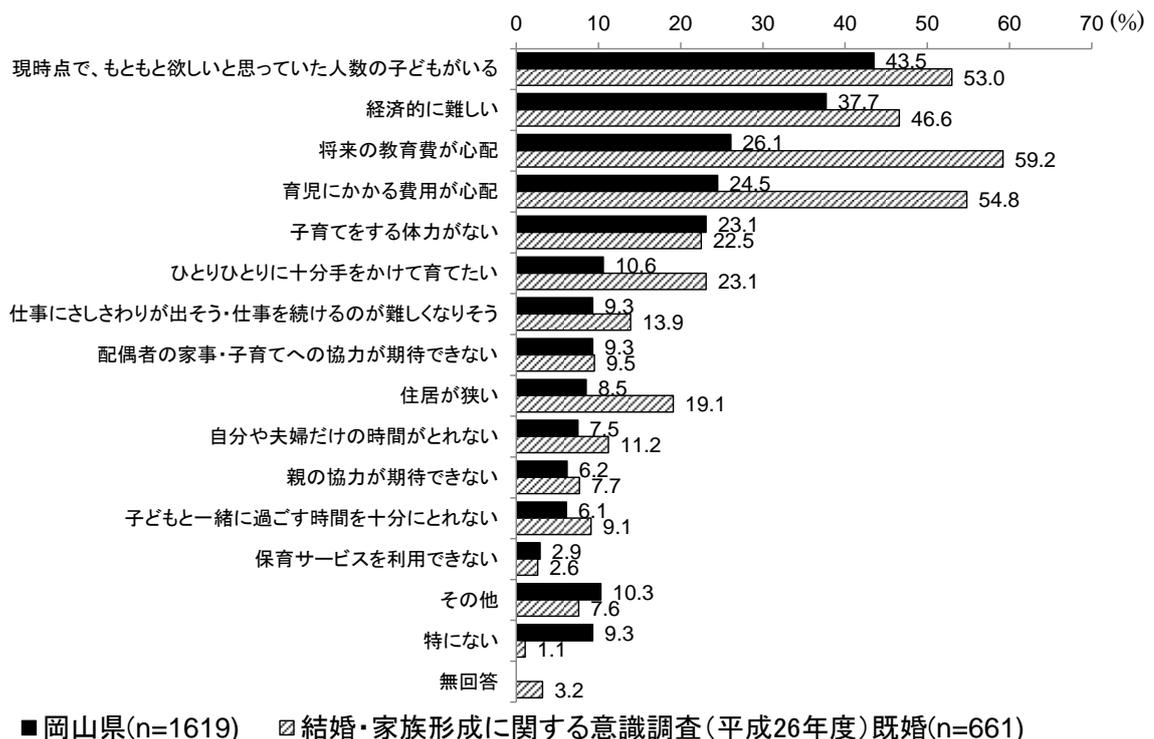
**(Q22で「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない」又は「子どもは欲しくない」と回答した方)
Q23.(これ以上)子どもが欲しくないと思うのはなぜでしょうか。(〇はいくつでも)**

「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」が43.5%と最も高く、次いで「経済的に難しい」(37.7%)、「将来の教育費が心配」(26.1%)となっている。



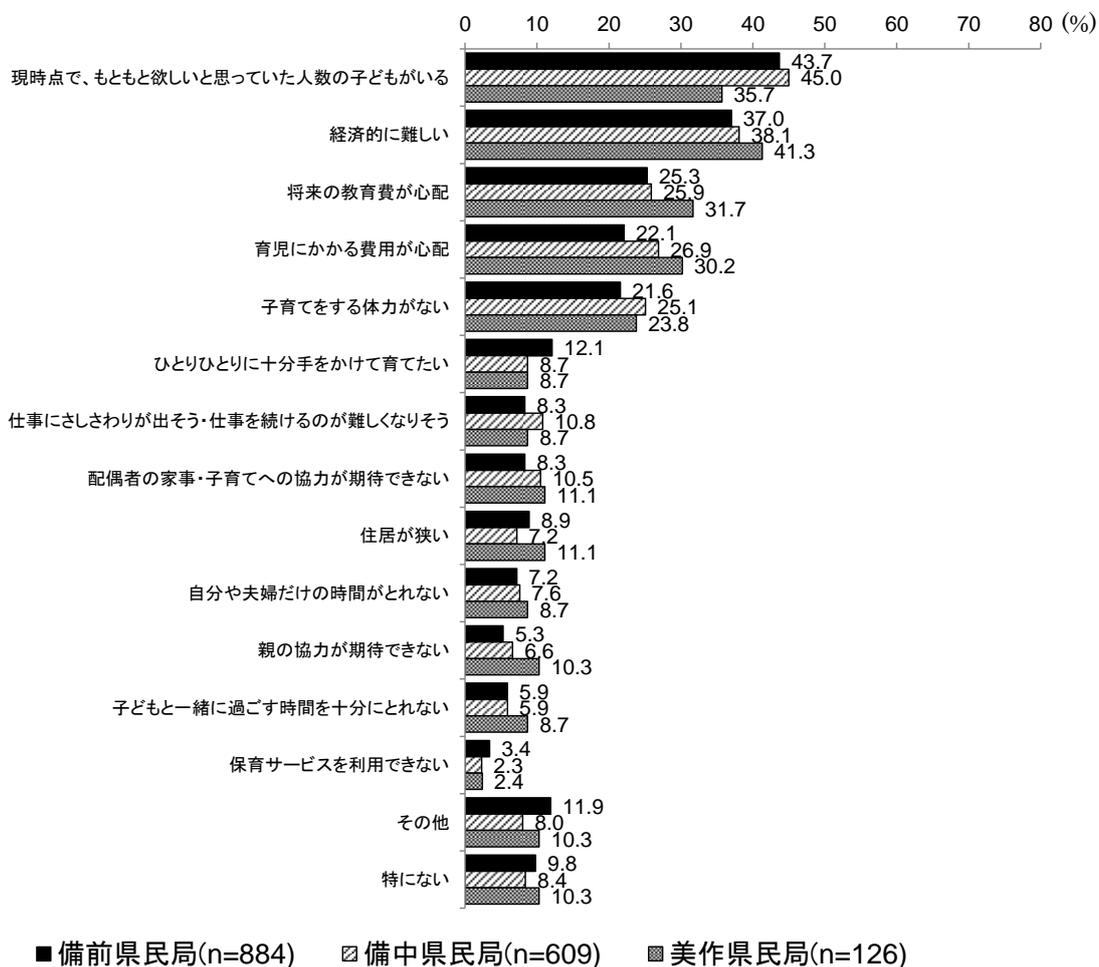
【全国調査との比較】

全国調査と比べて、「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」「経済的に難しい」「将来の教育費が心配」「育児にかかる費用が心配」「ひとりひとりに十分手をかけて育てたい」「住居が狭い」と回答した割合が低い。



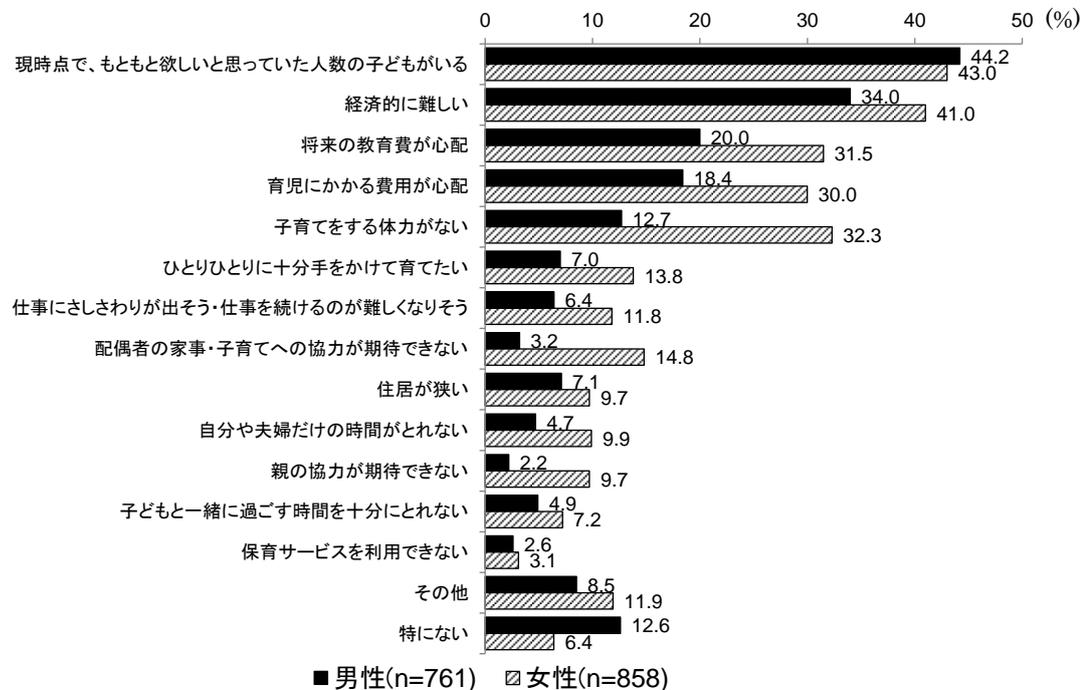
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「経済的に難しい」「将来の教育費が心配」と回答した割合が高く、「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」と回答した割合が低い。



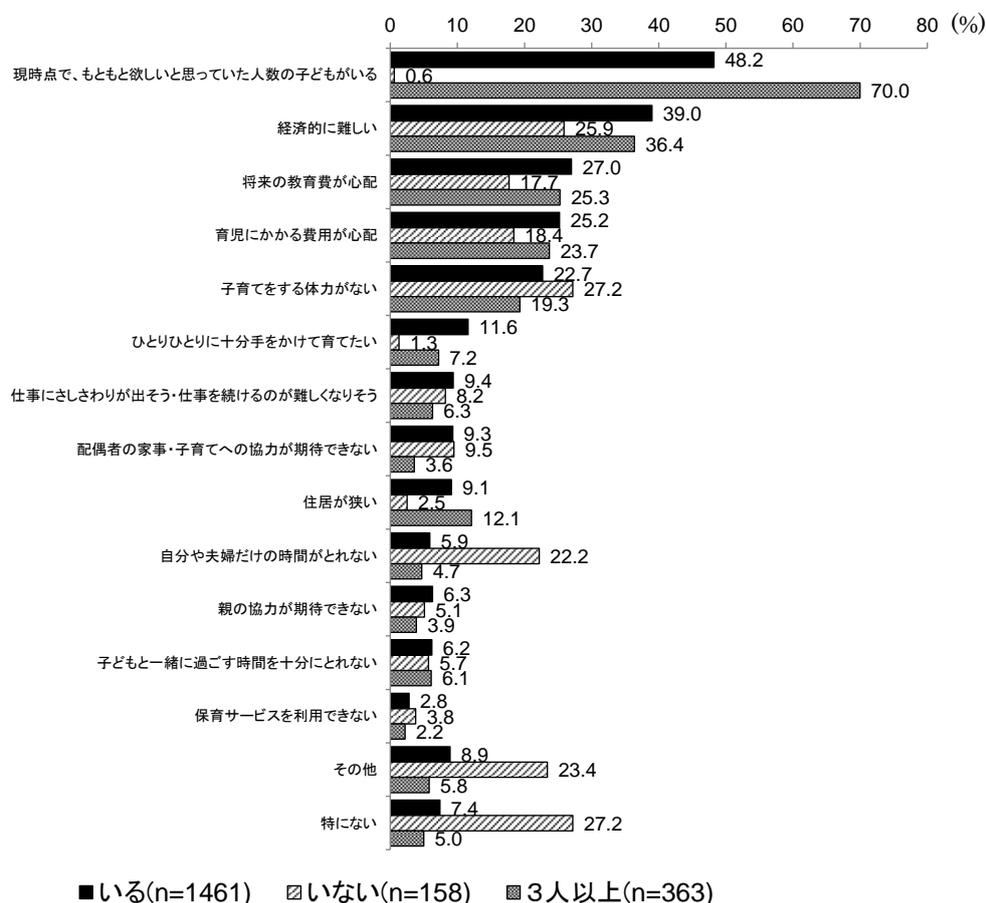
【性別】

女性では、男性と比べて、「経済的に難しい」「将来の教育費が心配」「育児にかかる費用が心配」「子育てをする体力がない」「ひとりひとりに十分手をかけて育てたい」「仕事にさしさわりが出そう・仕事を続けるのが難しくなりそう」「配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない」「自分や夫婦だけの時間がとれない」「親の協力が期待できない」と回答した割合が高い。



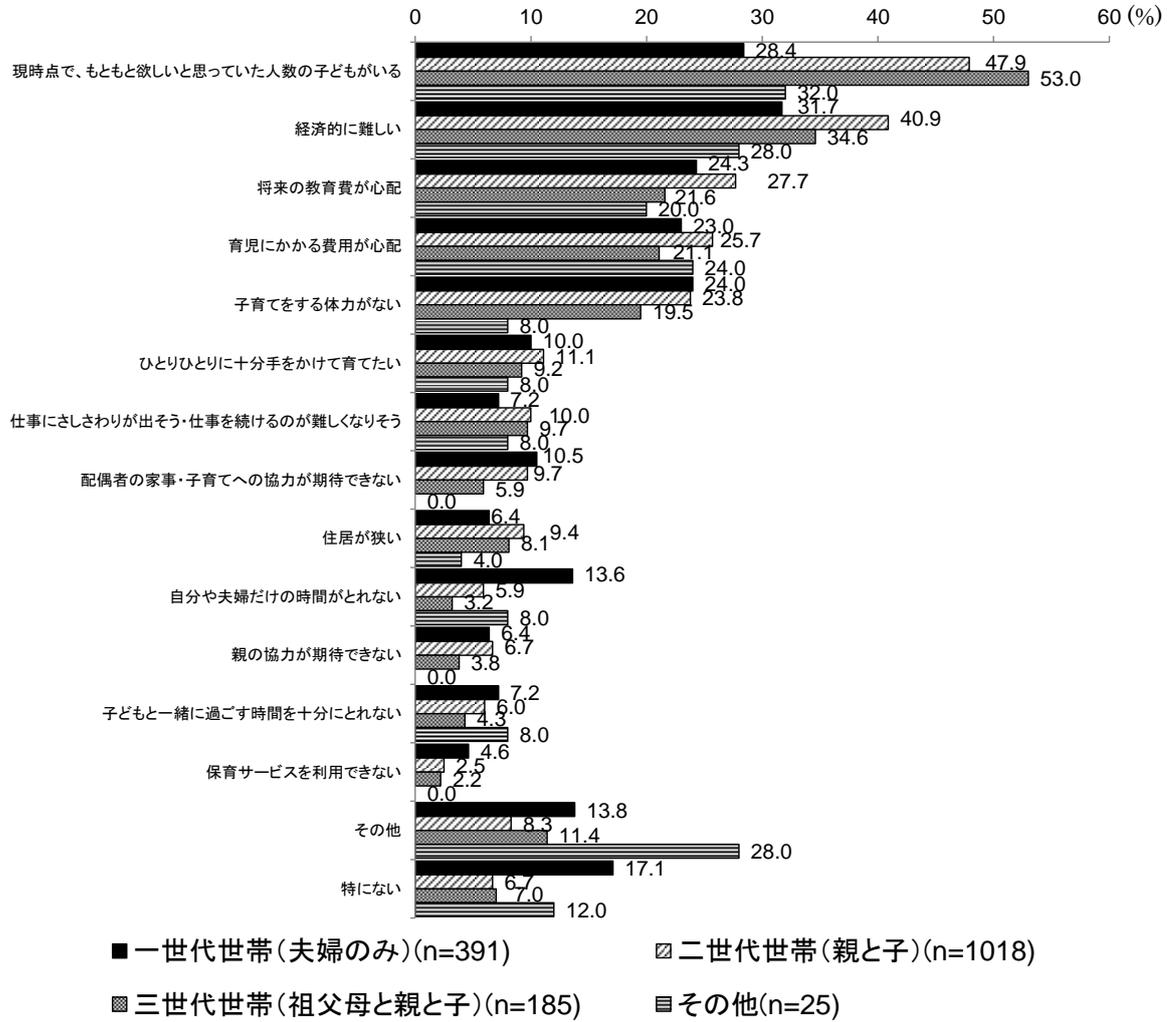
【子ども有無別】

子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「子育てをする体力がない」「自分や夫婦だけの時間がとれない」「その他」「特にない」と回答した割合が高く、「経済的に難しい」「将来の教育費が心配」「育児にかかる費用が心配」「住居が狭い」と回答した割合が低い。また、子どもが3人以上では、「配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない」と回答した割合が低い。



【世帯構成別】

世帯構成別では、一世代世帯（夫婦のみ）では、「自分や夫婦だけの時間がとれない」、二世代世帯（親と子）、三世代世帯（祖父母と親と子）で「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」と回答した割合が高い。



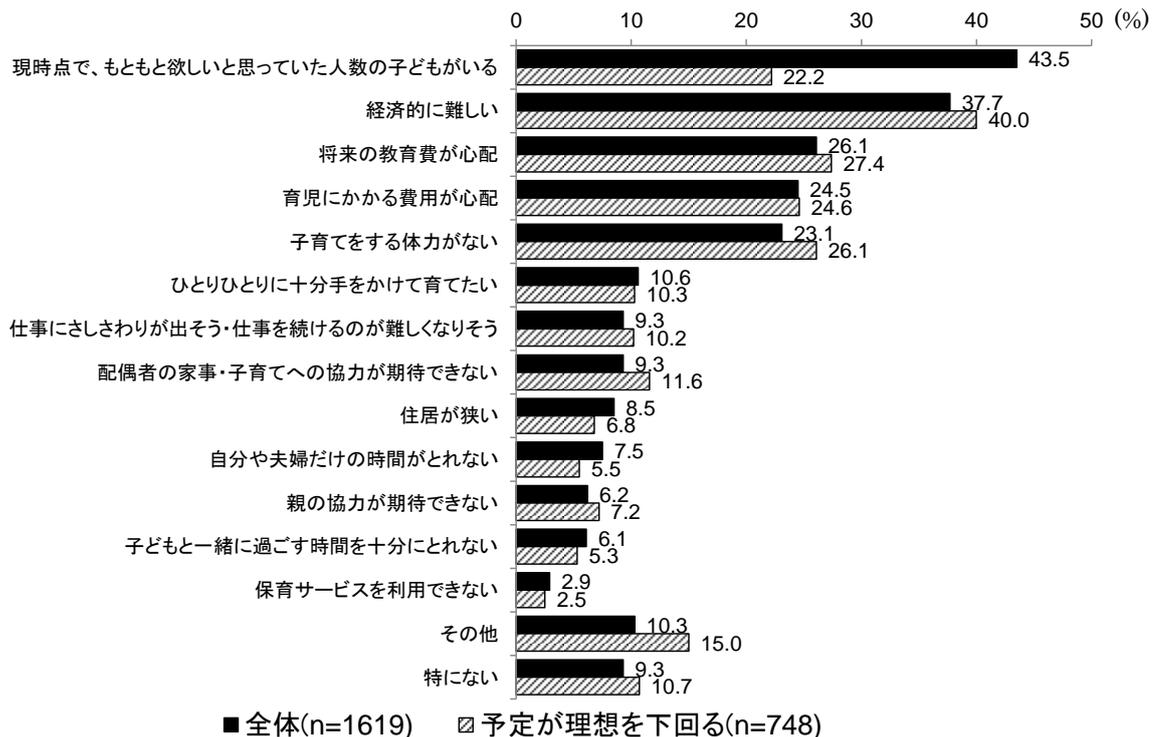
【世帯年収別】

世帯年収が 100 万円未満では「将来の教育費が心配」「住居が狭い」「親の協力が期待できない」、100～150 万円未満では「経済的に難しい」「育児にかかる費用が心配」「配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない」、150～700 万円未満では「ひとりひとりに十分手をかけて育てたい」、1,300 万円以上では「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」「仕事にさしさわりが出そう・仕事を続けるのが難しくなりそう」と回答した割合が高い。

世帯年収	(集計客体数)	現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる	経済的に難しい	将来の教育費が心配	育児にかかる費用が心配	子育てをする体力がない	ひとりひとりに十分手をかけて育てたい	仕事にさしさわりが出そう・仕事を続けるのが難しくなりそう	配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない	住居が狭い	自分や夫婦だけの時間がとれない	親の協力が期待できない	子どもと一緒に過ごす時間を十分にとれない	保育サービスを利用できない	その他	特になし
100万円未満	(n=36)	38.9%	36.1%	36.1%	36.1%	22.2%	5.6%	13.9%	13.9%	16.7%	5.6%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%	16.7%
100～150万円未満	(n=14)	14.3%	71.4%	21.4%	50.0%	21.4%	0.0%	7.1%	35.7%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%
150～300万円未満	(n=124)	35.5%	43.5%	25.8%	22.6%	21.0%	11.3%	8.1%	9.7%	9.7%	9.7%	7.3%	8.9%	2.4%	11.3%	12.1%
300～500万円未満	(n=448)	43.8%	51.1%	30.6%	33.3%	26.3%	11.6%	10.5%	11.2%	12.5%	7.8%	7.4%	7.4%	4.9%	8.9%	7.1%
500～700万円未満	(n=517)	46.4%	36.9%	28.6%	24.8%	24.2%	12.2%	7.5%	8.1%	7.5%	8.1%	5.4%	5.0%	1.9%	8.7%	7.9%
700～1,000万円未満	(n=312)	44.6%	29.2%	21.5%	17.6%	21.2%	9.0%	9.6%	8.0%	5.1%	5.4%	4.5%	5.1%	2.2%	11.9%	11.2%
1,000～1,300万円未満	(n=91)	42.9%	12.1%	9.9%	7.7%	17.6%	7.7%	9.9%	9.9%	1.1%	5.5%	3.3%	7.7%	1.1%	22.0%	8.8%
1,300万円以上	(n=35)	54.3%	14.3%	20.0%	14.3%	8.6%	2.9%	20.0%	5.7%	8.6%	14.3%	11.4%	11.4%	8.6%	11.4%	14.3%
なし	(n=42)	28.6%	16.7%	14.3%	11.9%	21.4%	9.5%	4.8%	2.4%	7.1%	7.1%	4.8%	0.0%	2.4%	14.3%	21.4%

【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、全体と比べて、「経済的に難しい」「将来の教育費が心配」「子育てをする体力がない」と回答した割合が高い。



【本人の就労状況別】

本人の就労状況別では、正社員で「育児にかかる費用が心配」と回答した割合が低い。また、自営業・家族従業で「自分や夫婦だけの時間がとれない」、内職・在宅ワークで「子育てをする体力がない」「配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない」と回答した割合が高い。

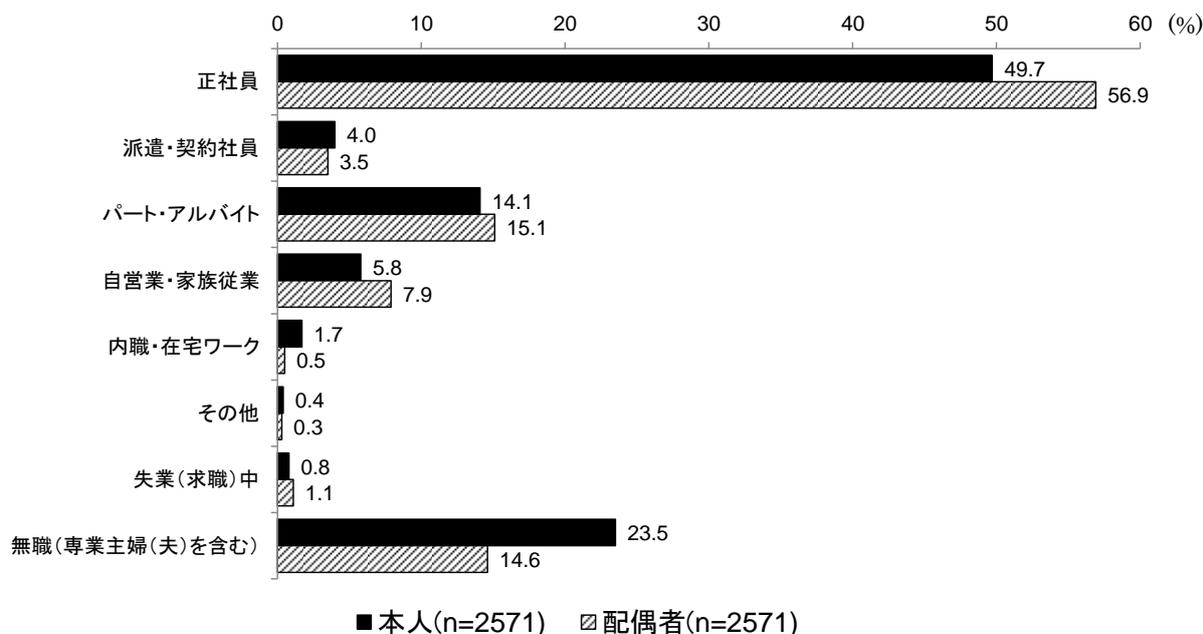
本人の就労状況	(集計客体数)	現時点で、もともと欲しいと思っ ていた人数の子どもがいる	経済的に難しい	将来の教育費が心配	育児にかかる費用が心配	子育てをする体力がない	ひとりひとりに十分手をかけて育 てたい	仕事を続けるのが難しくなりそう・仕事 を続けるのが難しそう	配偶者の家事・子育てへの協力が 期待できない	住居が狭い	自分や夫婦だけの時間がとれない	親の協力が期待できない	子どもと一緒に過ごす時間を十分 にとれない	保育サービスを利用できない	その他	特 に な い
正社員	(n=804)	43.7%	35.1%	21.9%	19.4%	15.5%	8.1%	10.2%	5.3%	7.1%	5.7%	2.6%	6.6%	2.7%	9.3%	11.3%
派遣・契約社員	(n=61)	32.8%	39.3%	21.3%	23.0%	23.0%	4.9%	14.8%	9.8%	8.2%	9.8%	11.5%	3.3%	0.0%	11.5%	9.8%
パート・アルバイト	(n=248)	44.0%	46.4%	29.8%	29.8%	27.8%	12.1%	14.9%	13.7%	8.9%	9.3%	10.1%	6.9%	2.0%	9.7%	6.0%
自営業・家族従業	(n=97)	48.5%	28.9%	21.6%	20.6%	19.6%	7.2%	14.4%	9.3%	6.2%	11.3%	6.2%	7.2%	2.1%	10.3%	6.2%
内職・在宅ワーク	(n=27)	48.1%	48.1%	55.6%	48.1%	44.4%	22.2%	0.0%	25.9%	18.5%	7.4%	3.7%	14.8%	7.4%	14.8%	0.0%
その他	(n=5)	40.0%	60.0%	60.0%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%
失業(求職)中	(n=10)	30.0%	60.0%	40.0%	30.0%	40.0%	10.0%	0.0%	10.0%	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	10.0%
無職(専業主婦(夫)を含む)	(n=367)	43.6%	38.1%	31.6%	31.1%	35.4%	15.8%	1.9%	13.6%	10.6%	9.0%	10.4%	4.1%	4.1%	11.7%	8.7%

Q24.現在の就労状況を教えてください。

Q25.配偶者の現在の就労状況を教えてください。

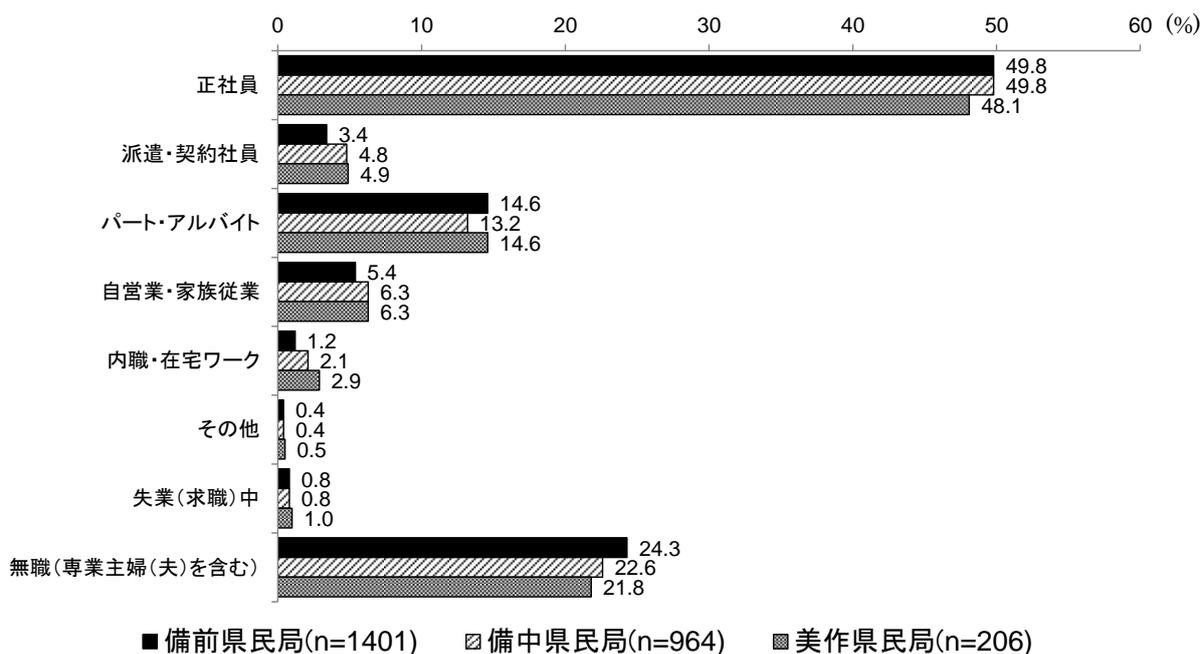
本人の就労状況は、「正社員」が49.7%と最も高く、次いで「無職（専業主婦（夫）を含む）」（23.5%）、「パート・アルバイト」（14.1%）となっている。

配偶者の就労状況は、「正社員」が56.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」（15.1%）、「無職（専業主婦（夫）を含む）」（14.6%）となっている。

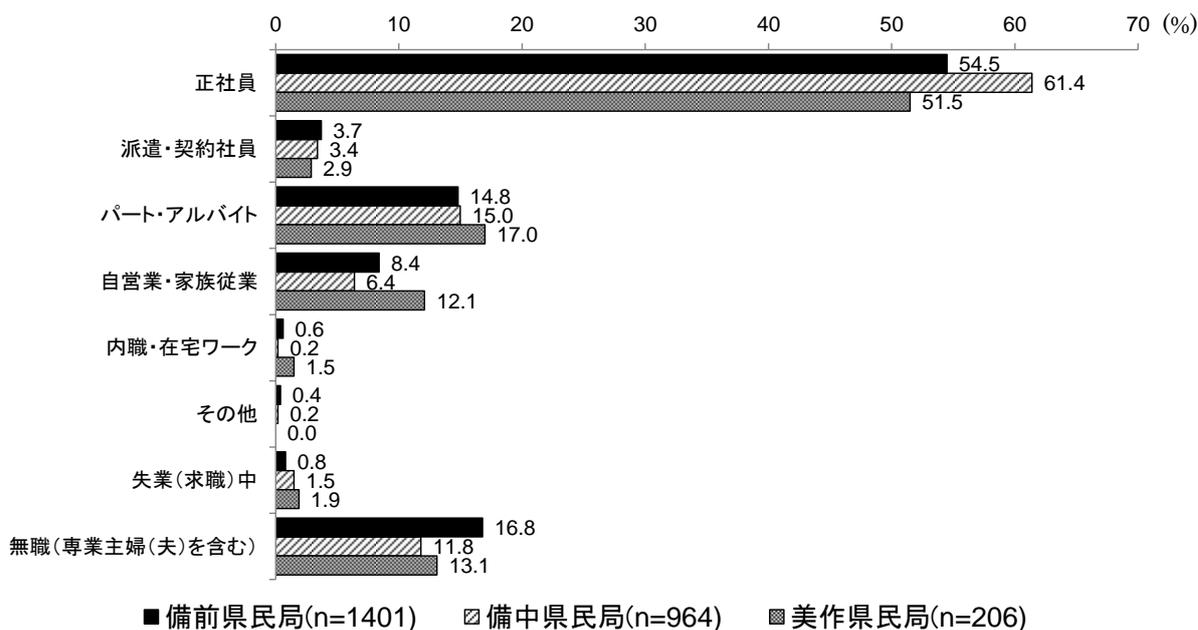


【居住地別】

本人の就労状況は、居住地別では、あまり違いはみられない。

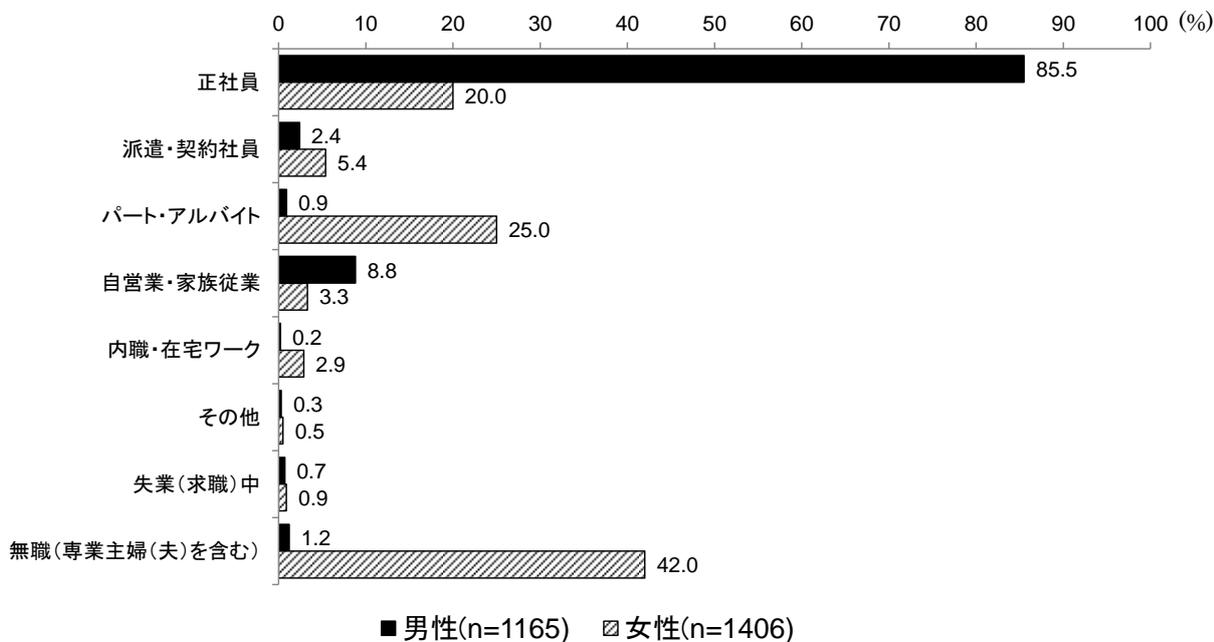


配偶者の就労状況は、備中県民局では、「正社員」と回答した割合が高く、「自営業・家族従業」と回答した割合が低い。

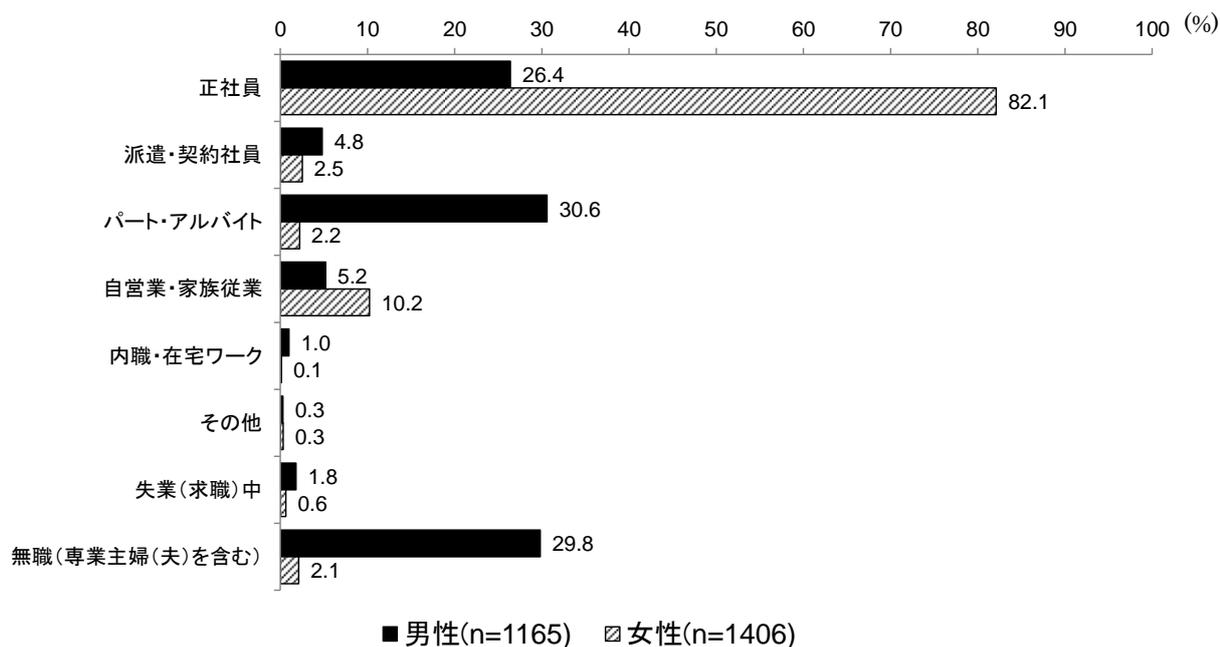


【性別】

本人の就労状況は、男性では女性と比べて、「正社員」「自営業・家族従業」と回答した割合が高く、「パート・アルバイト」「無職（専業主婦（夫）を含む）」と回答した割合が低い。

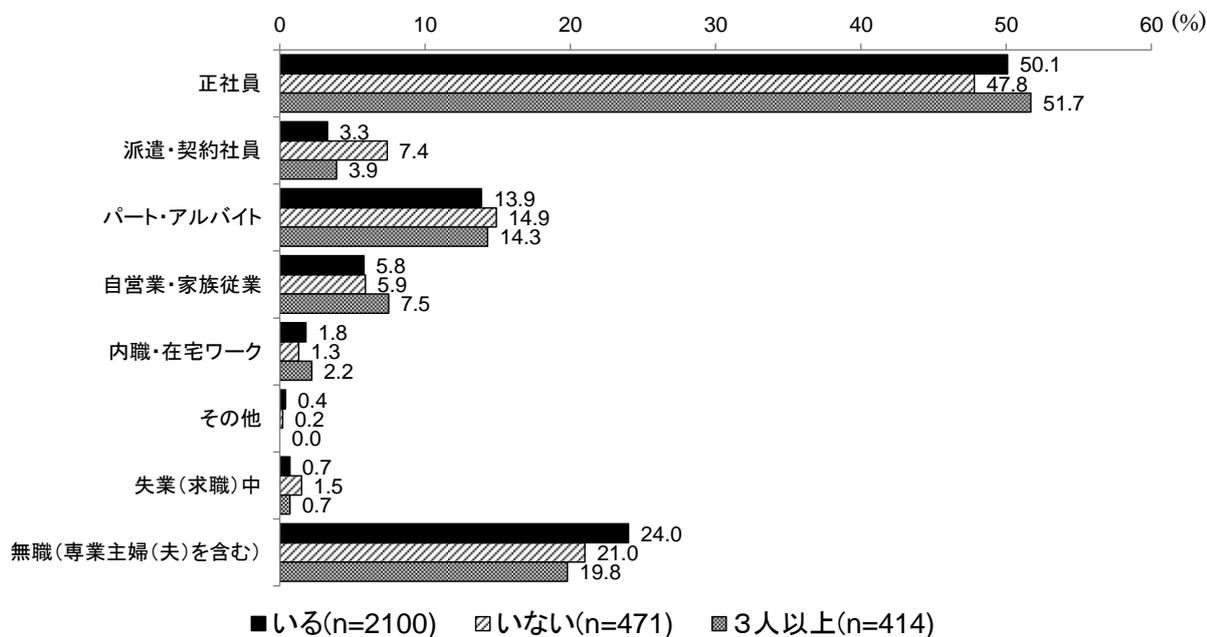


配偶者の就労状況は、男性では女性と比べて、「パート・アルバイト」「無職（専業主婦（夫）を含む）」と回答した割合が高く、「正社員」「自営業・家族従業」と回答した割合が低い。

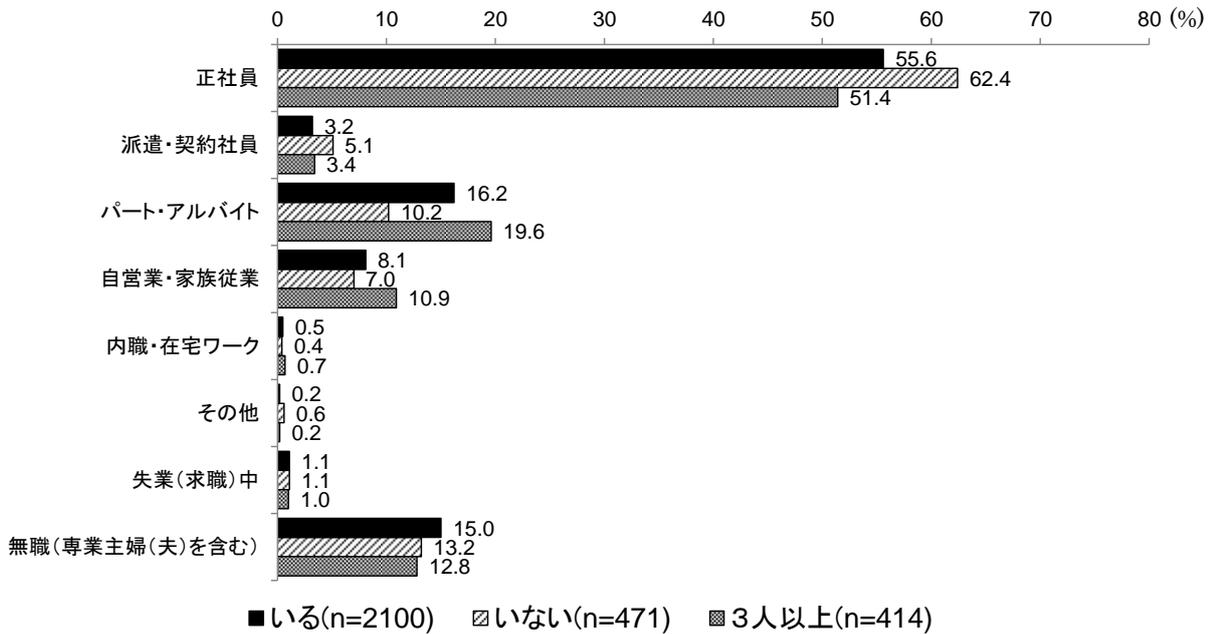


【子ども有無別】

本人の就労状況は、子どもがいる、子どもがいない又は3人以上では、あまり違いはみられない。

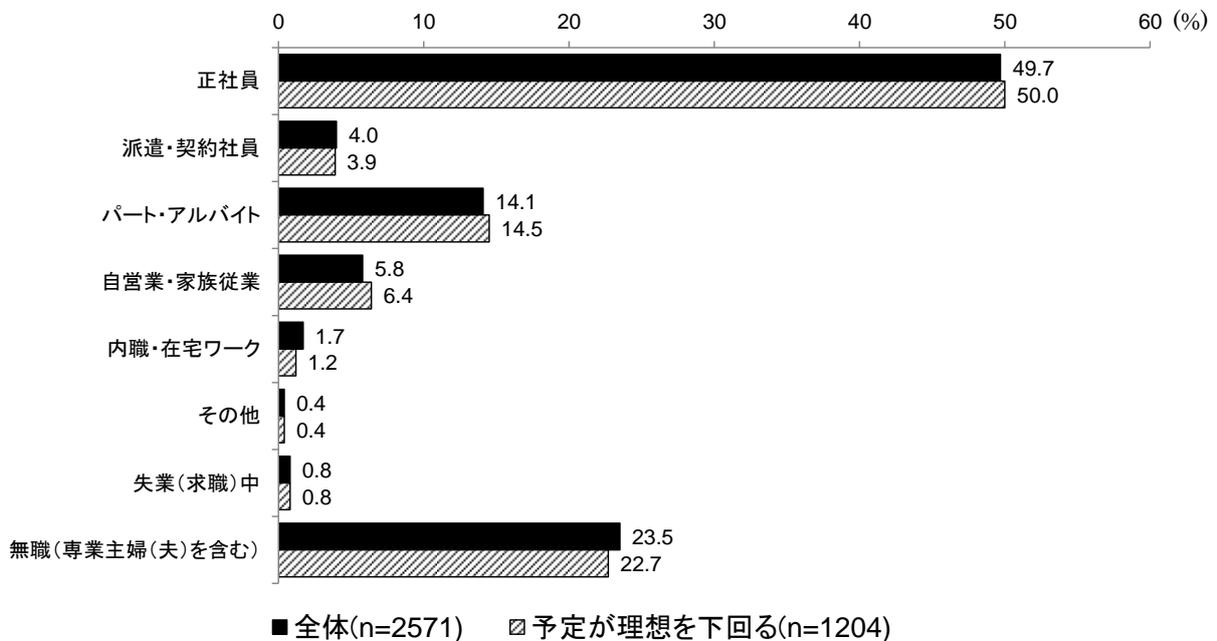


配偶者の就労状況は、子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「正社員」と回答した割合が高く、「パート・アルバイト」と回答した割合が低い。

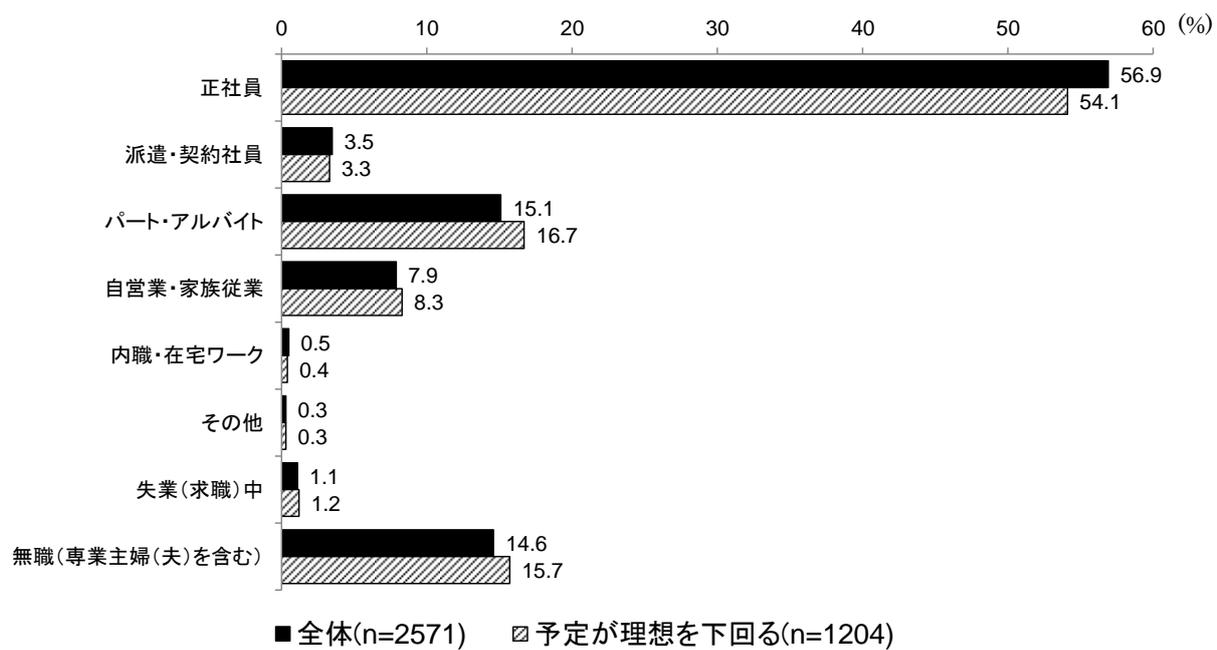


【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

本人の就労状況は、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



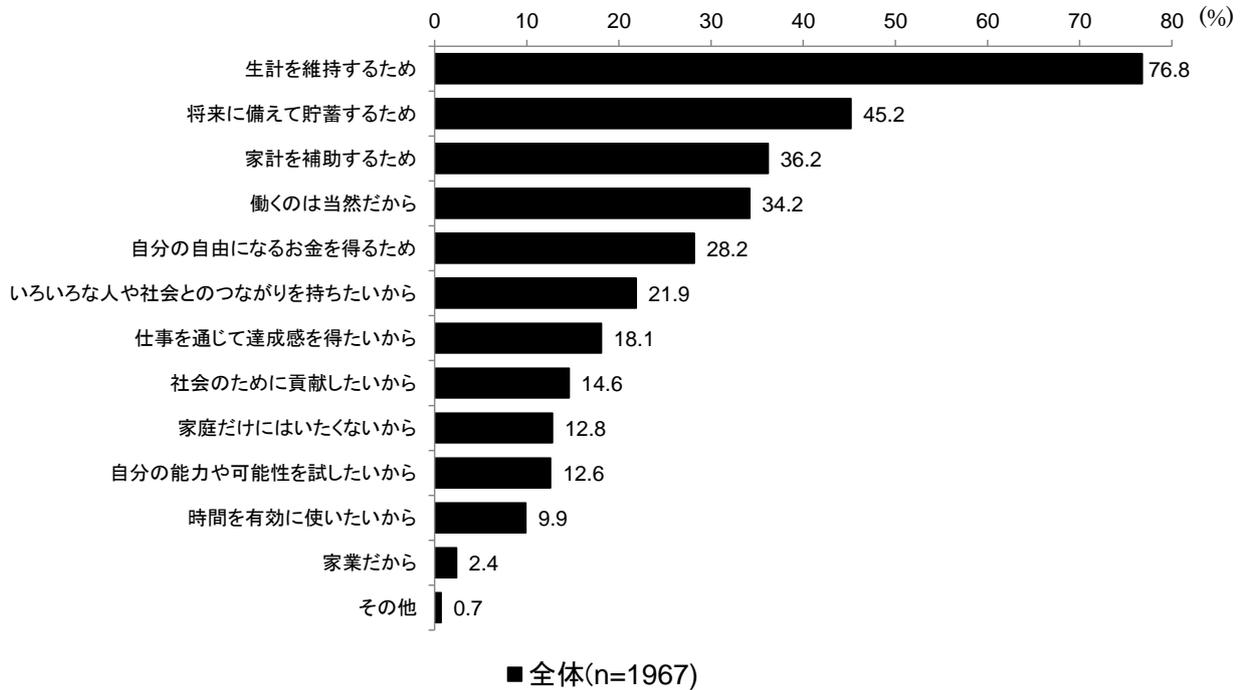
配偶者の就労状況は、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



(Q24で「無職(専業主婦(夫)を含む)」と回答した以外の方)

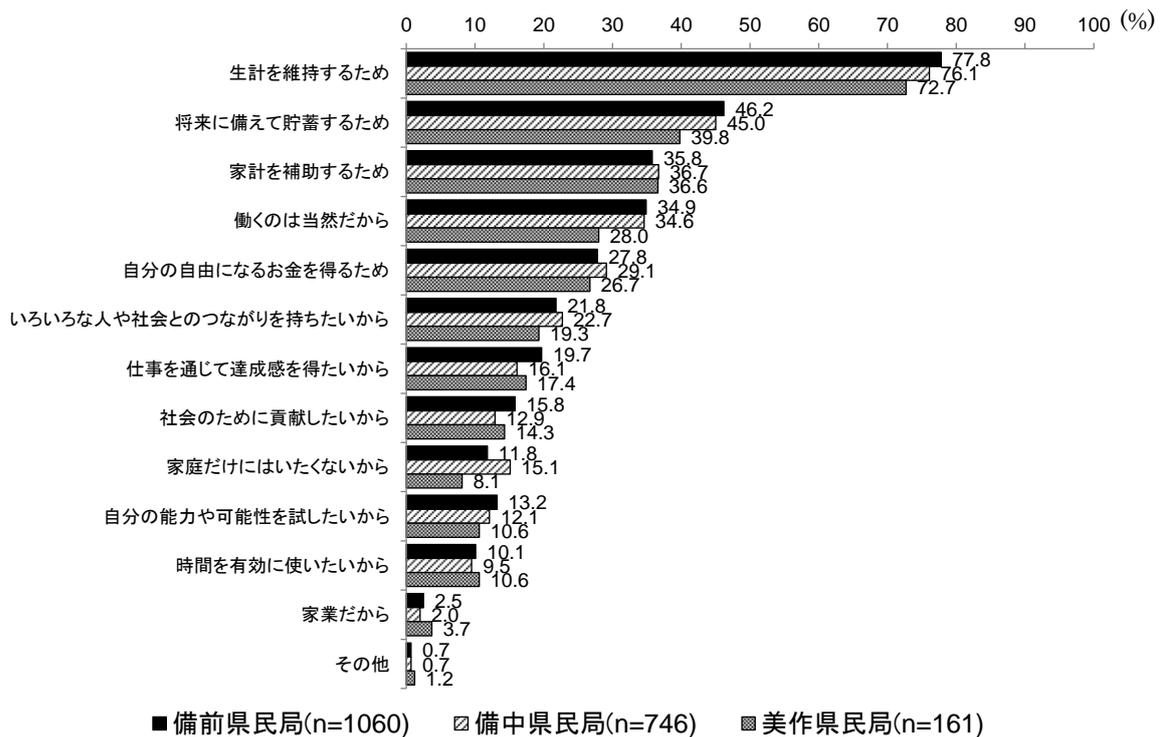
Q26.あなたが就労している(したい)理由を教えてください。(〇はいくつでも)

「生計を維持するため」が76.8%と最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」(45.2%)、「家計を補助するため」(36.2%)となっている。



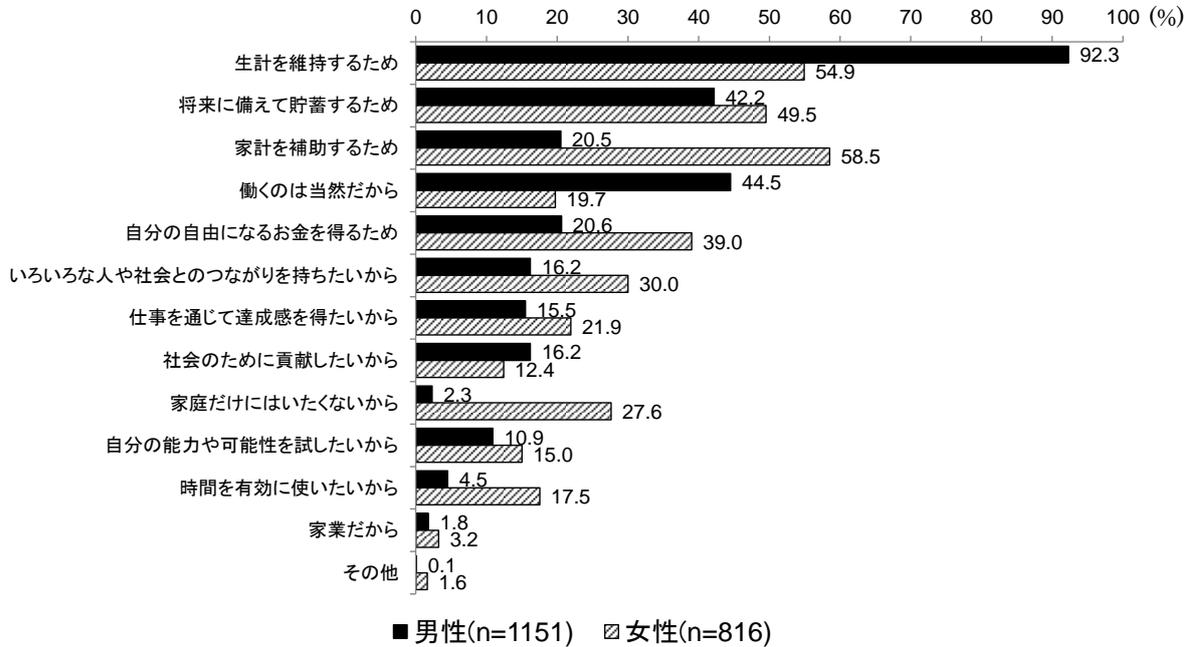
【居住地別】

居住地別では、備前県民局・備中県民局で「将来に備えて貯蓄するため」「働くのは当然だから」と回答した割合が高い。



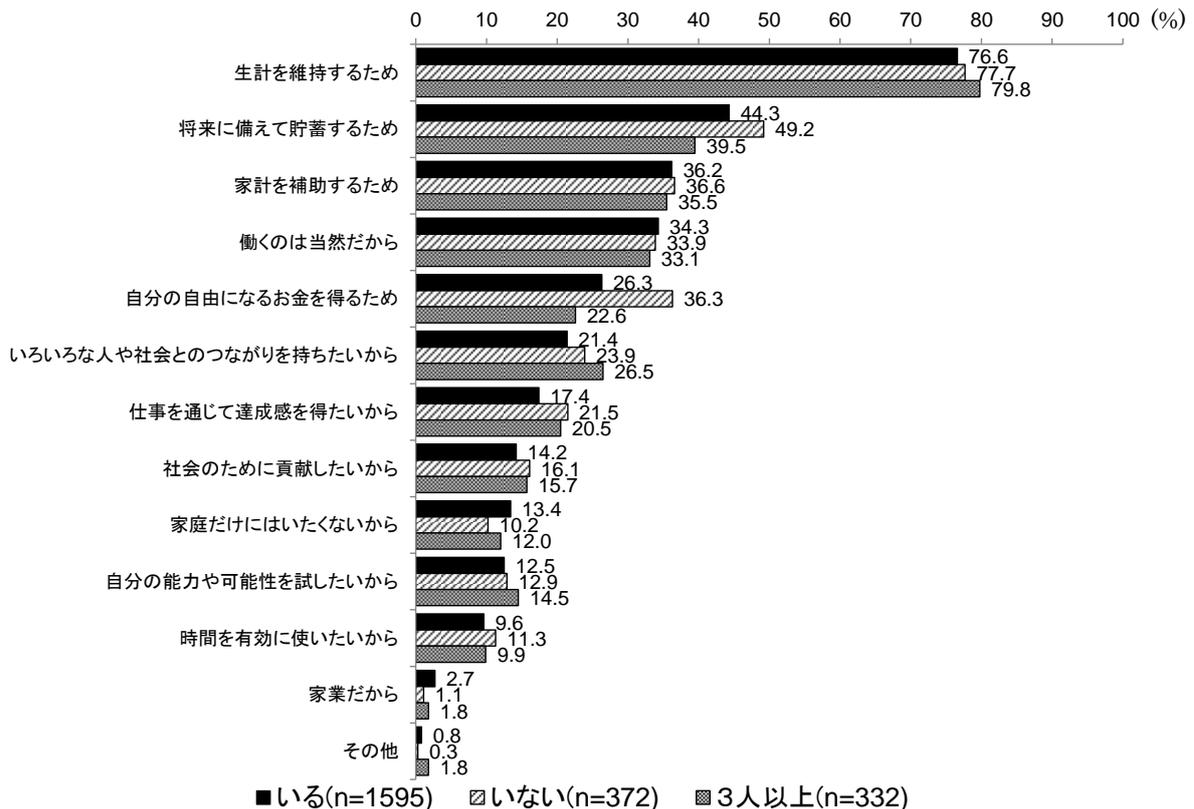
【性別】

男性では、女性と比べて、「生計を維持するため」と回答した割合が高く、「将来に備えて貯蓄するため」「家計を補助するため」「自分の自由になるお金を得るため」「いろいろな人や社会とのつながりを持ちたいから」「仕事を通じて達成感を得たいから」「家庭だけにはいたくないから」「時間を有効に使いたいから」と回答した割合が低い。



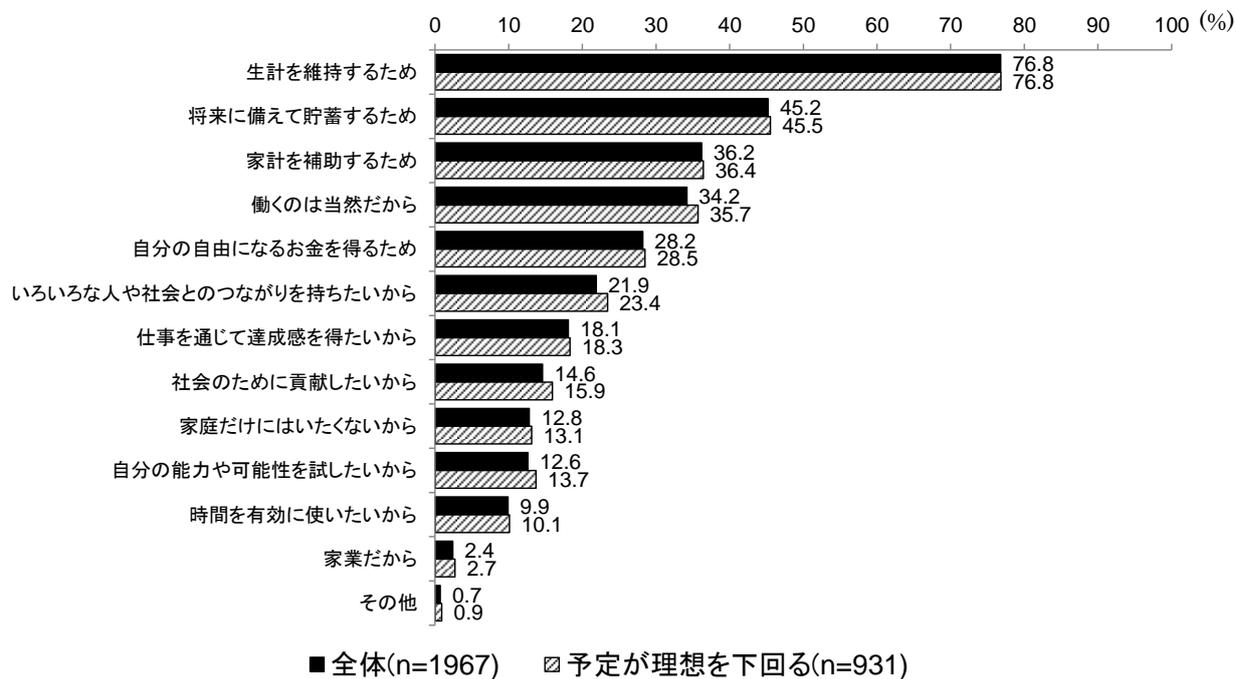
【子ども有無別】

子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「将来に備えて貯蓄するため」「自分の自由になるお金を得るため」と回答した割合が高い。



【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

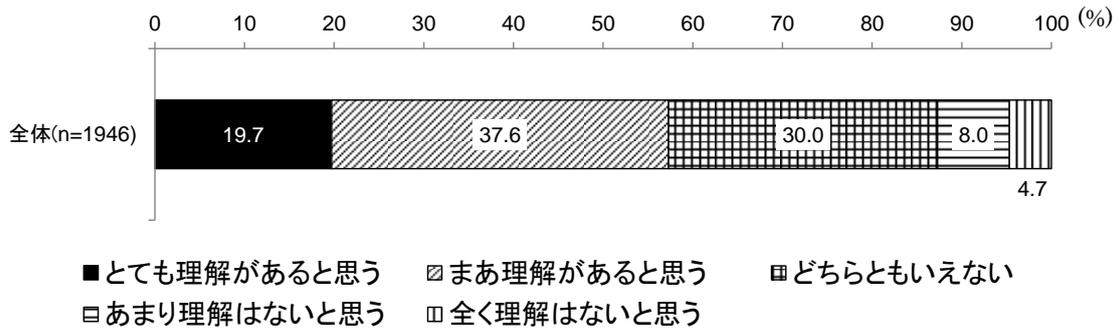


(Q24で「失業(求職)中」又は「無職(専業主婦(夫)を含む)」と回答した以外の方)

Q27.あなたの会社・職場の育児制度の活用や子育てについての理解の度合いについて、あてはまるものを1つ選んでください。また、あなたの会社・職場の上司は、子育てに理解がある方だと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

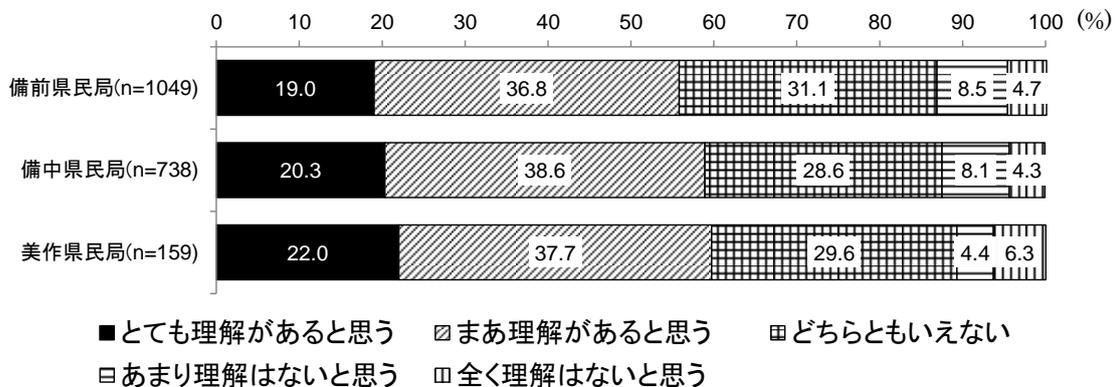
【会社・職場の育児制度の活用や子育てについての理解の度合い】

会社・職場の育児制度の活用や子育てについての理解の度合いについて「まあ理解があると思う」が37.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(30.0%)、「とても理解があると思う」(19.7%)となっている。



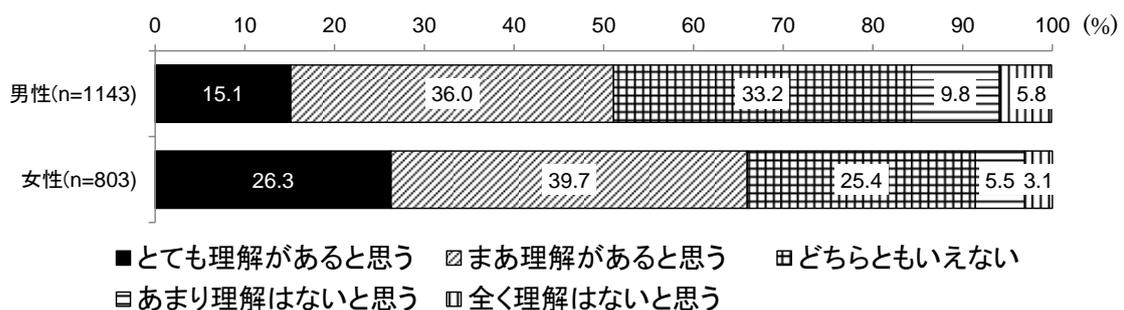
【居住地別】

居住地域別では、あまり違いはみられない。



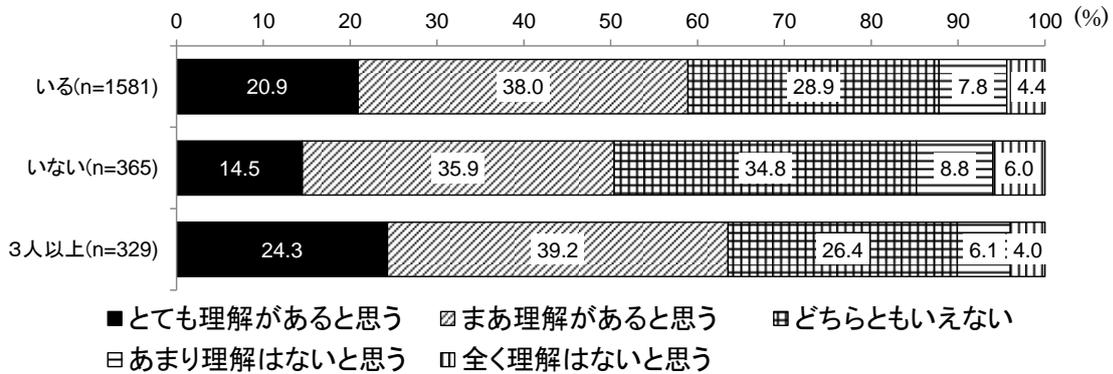
【性別】

男性では、女性と比べて、「どちらともいえない」と回答した割合が高く、「とても理解があると思う」と回答した割合が低い。



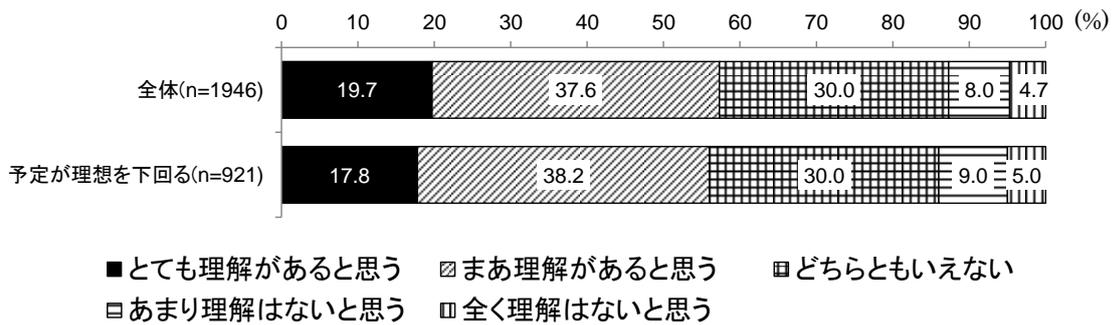
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「とても理解があると思う」と回答した割合が高く、「どちらともいえない」と回答した割合が低い。



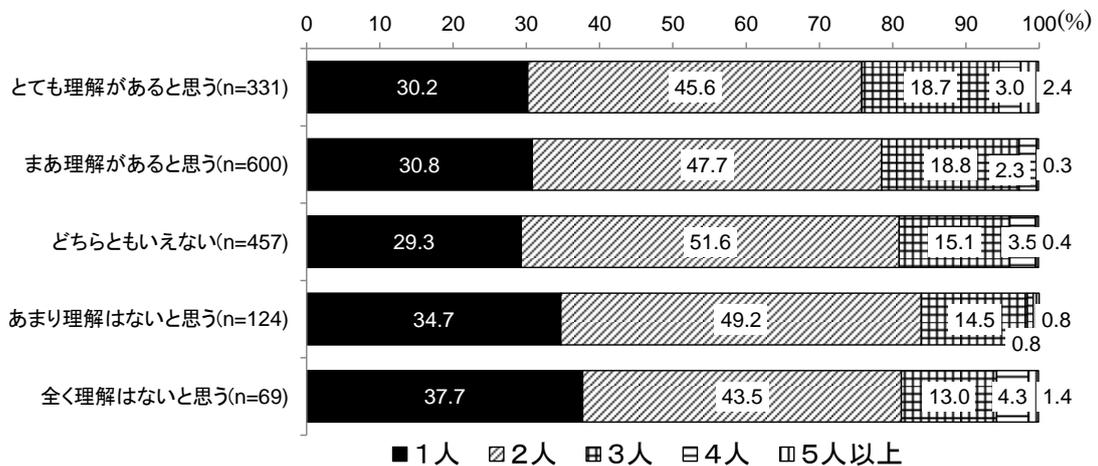
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



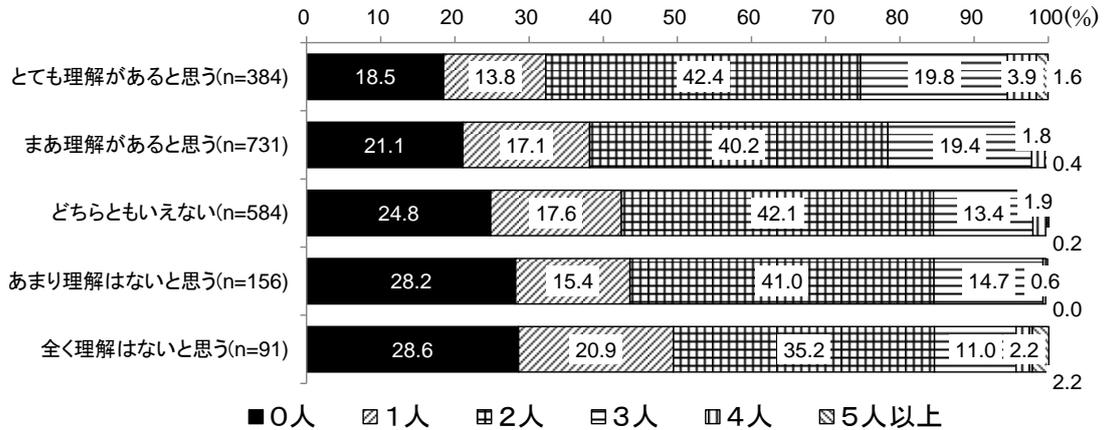
【理解度別の平均子ども数】

全く理解はないと思うでは、「1人」と回答した割合が高い。



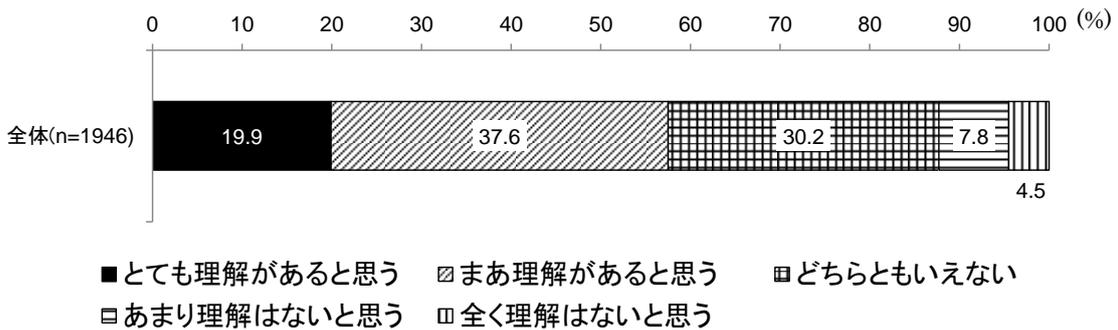
【理解度別の予定子ども数】

とても理解があると思うでは「3人」、全く理解はないと思うでは「0人」と回答した割合が高い。



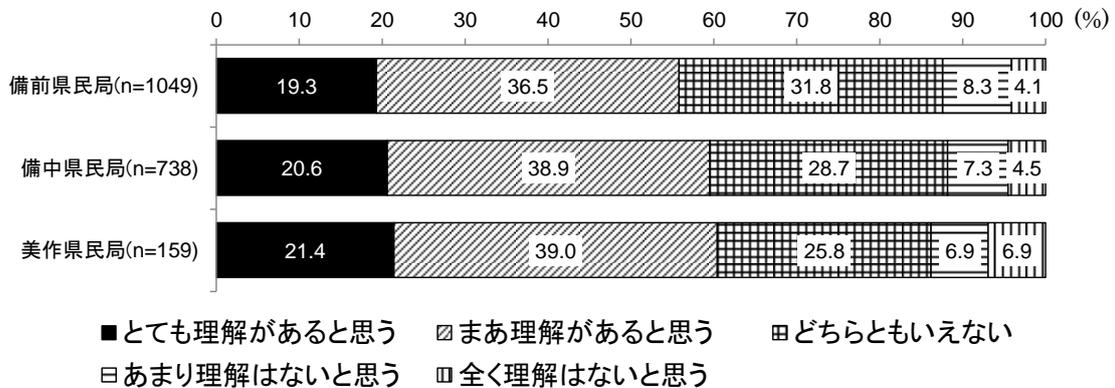
【会社・職場の上司の、子育てについての理解】

会社・職場の上司は子育てに理解がある方について、「まあ理解があると思う」が37.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(30.2%)、「とても理解があると思う」(19.9%)となっている。



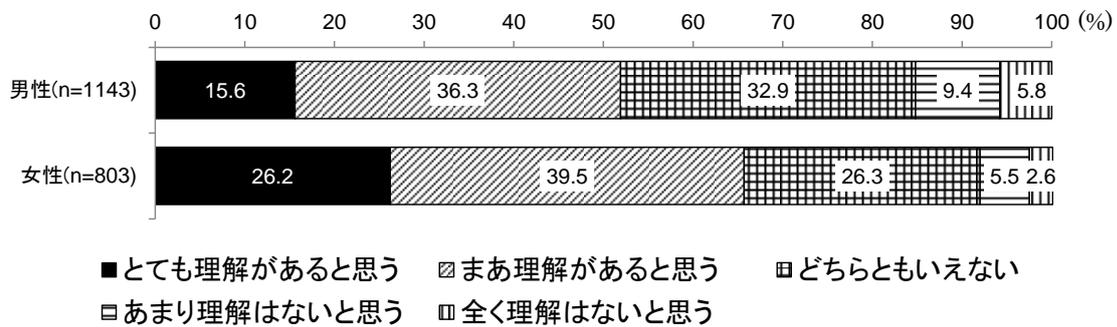
【居住地別】

居住地別では、備前県民局で「どちらともいえない」と回答した割合が高い。



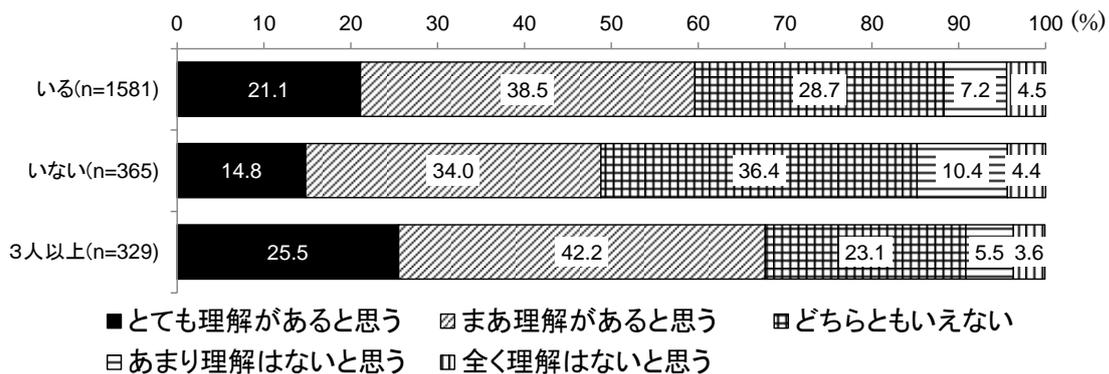
【性別】

男性では、女性と比べて、「どちらともいえない」と回答した割合が高く、「とても理解があると思う」と回答した割合が低い。



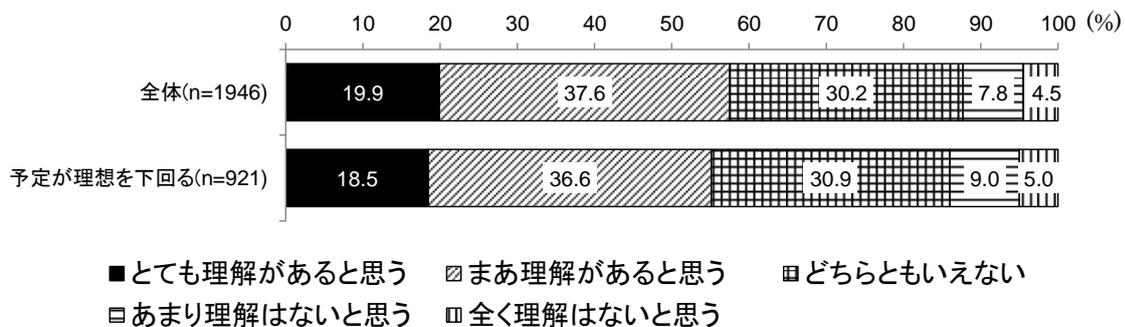
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「とても理解があると思う」と回答した割合が高く、「どちらともいえない」と回答した割合が低い。



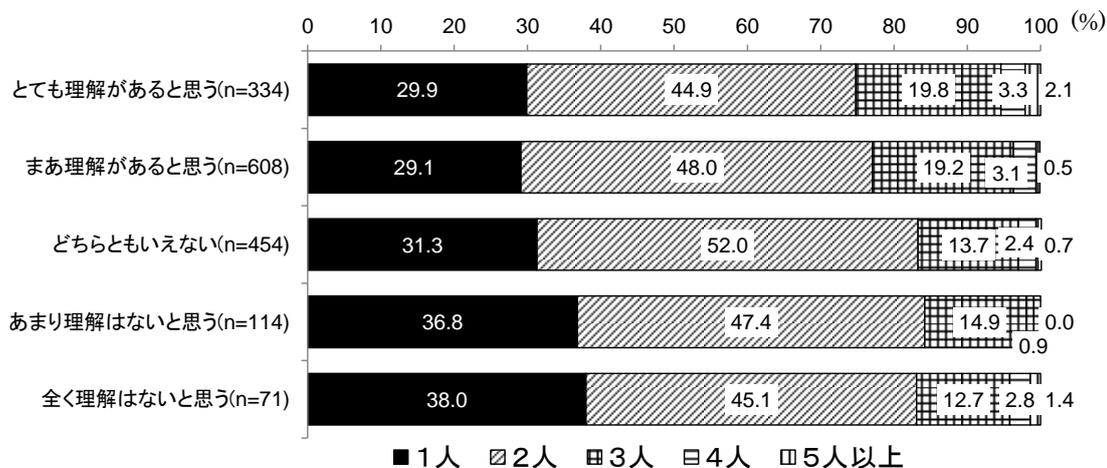
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



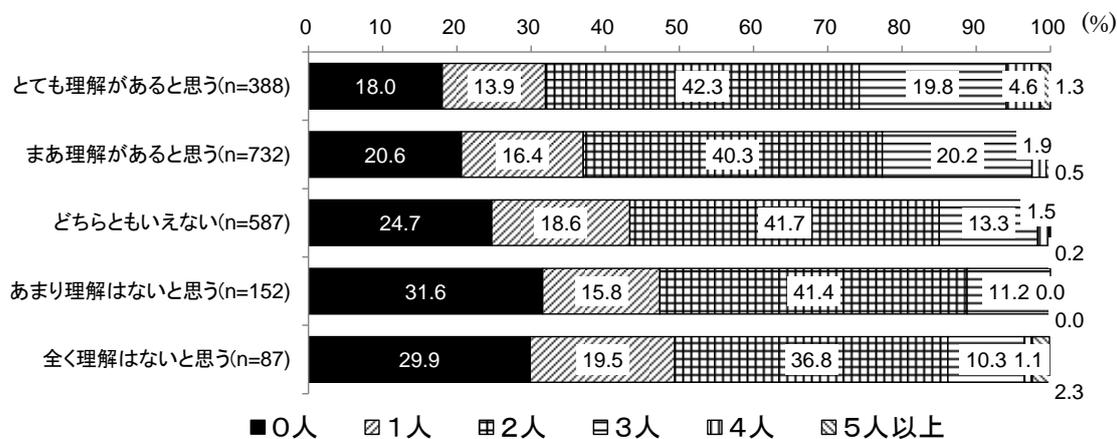
【理解度別の平均子ども数】

あまり理解はないと思う、全く理解はないと思うでは、「1人」と回答した割合が高い。



【理解度別の予定子ども数】

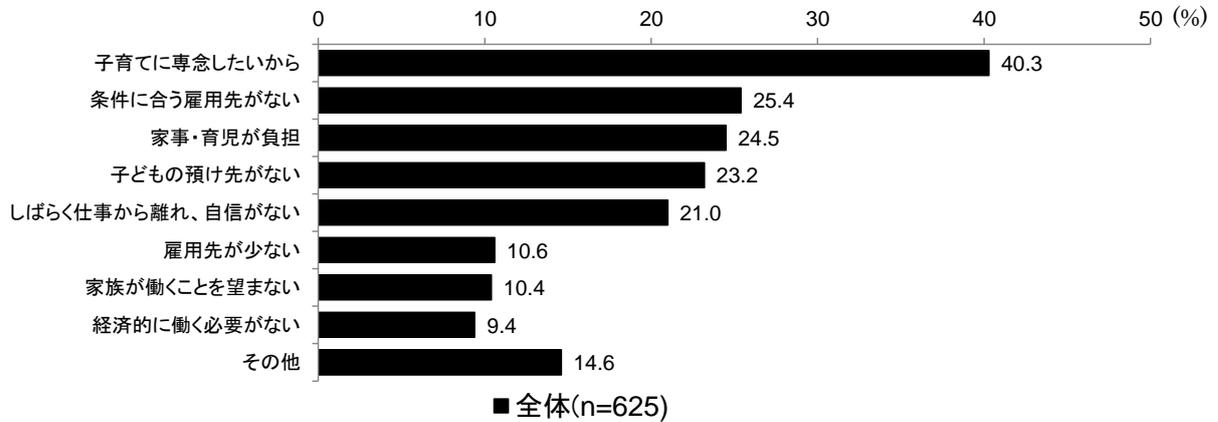
とても理解があると思う、まあ理解があると思うでは「3人」、あまり理解はないと思う、全く理解はないと思うでは「0人」と回答した割合が高い。



(Q24で「失業(求職)中」又は「無職(専業主婦(夫)を含む)」と回答した方)

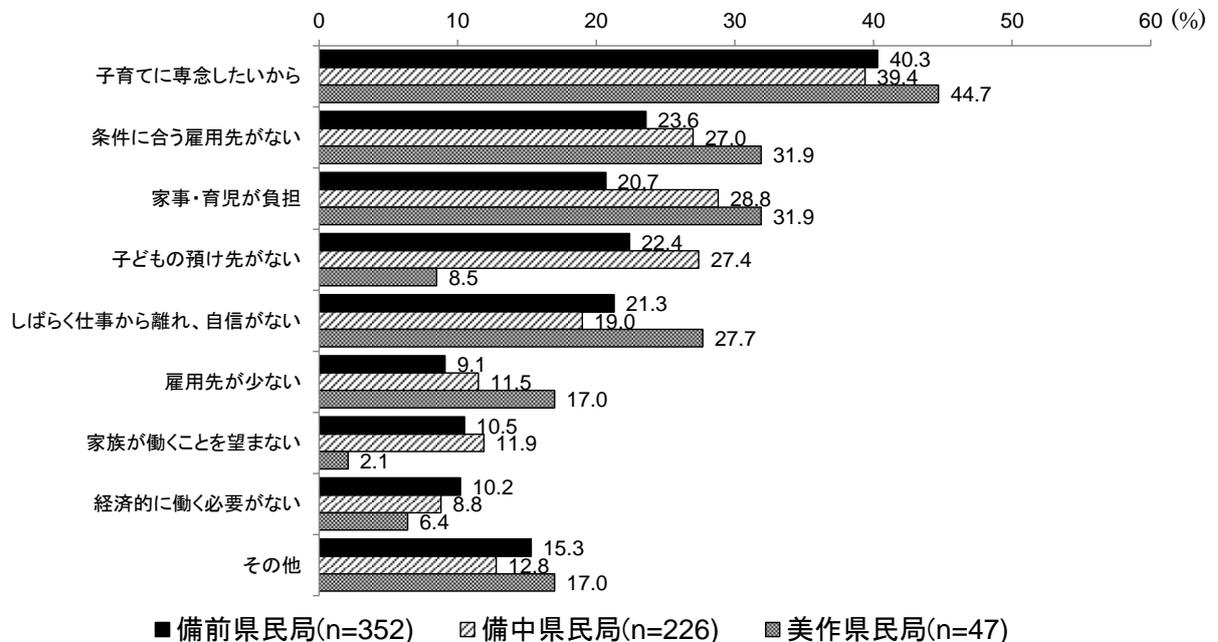
Q28.あなたが就労していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)。

「子育てに専念したいから」が40.3%と最も高く、次いで「条件に合う雇用先がない」(25.4%)、「家事・育児が負担」(24.5%)となっている。



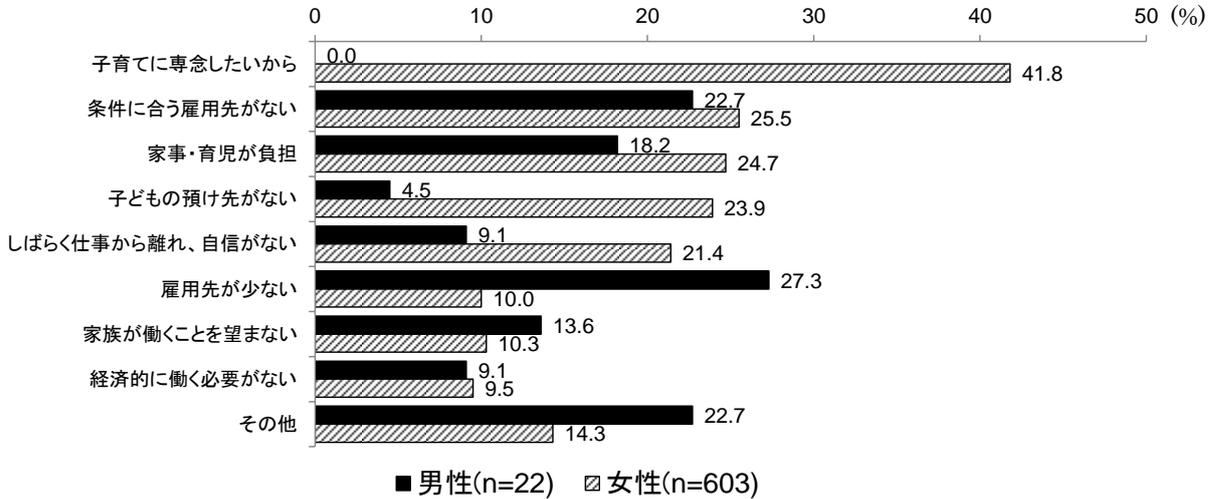
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「子育てに専念したいから」「条件に合う雇用先がない」「家事・育児が負担」「しばらく仕事から離れ、自信がない」「雇用先が少ない」と回答した割合が高く、「子どもの預け先がない」「家族が働くことを望まない」「経済的に働く必要がない」と回答した割合が低い。



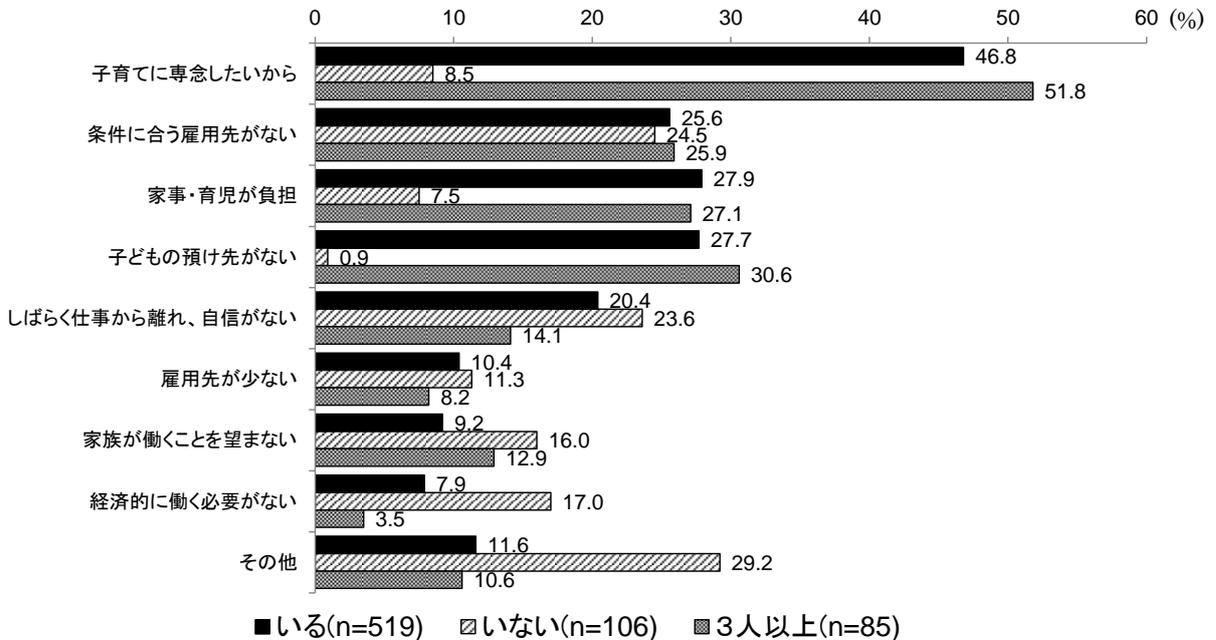
【性別】

男性では、女性と比べて、「雇用先が少ない」と回答した割合が高く、「子育てに専念したいから」「家事・育児が負担」「子どもの預け先がない」「しばらく仕事から離れ自信がない」と回答した割合が低い。



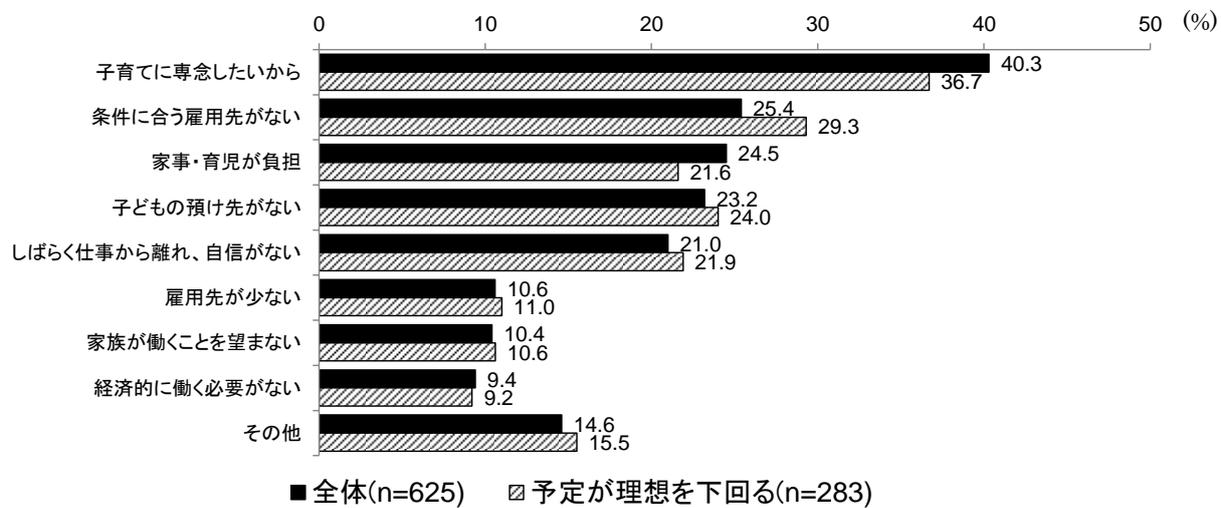
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「子育てに専念したいから」「家事・育児が負担」「子どもの預け先がない」と回答した割合が高く、「経済的に働く必要がない」「その他」と回答した割合が低い。



【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

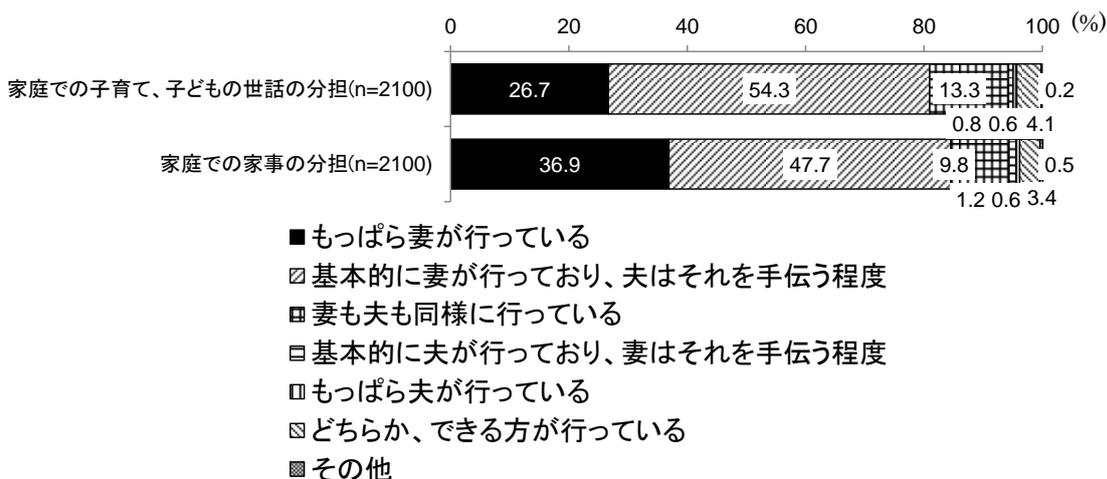


Q29.あなたの家庭での子育て、子どもの世話の分担について、あてはまるものを1つ選んでください。

Q30.あなたの家庭での家事の分担について、あてはまるものを1つ選んでください。

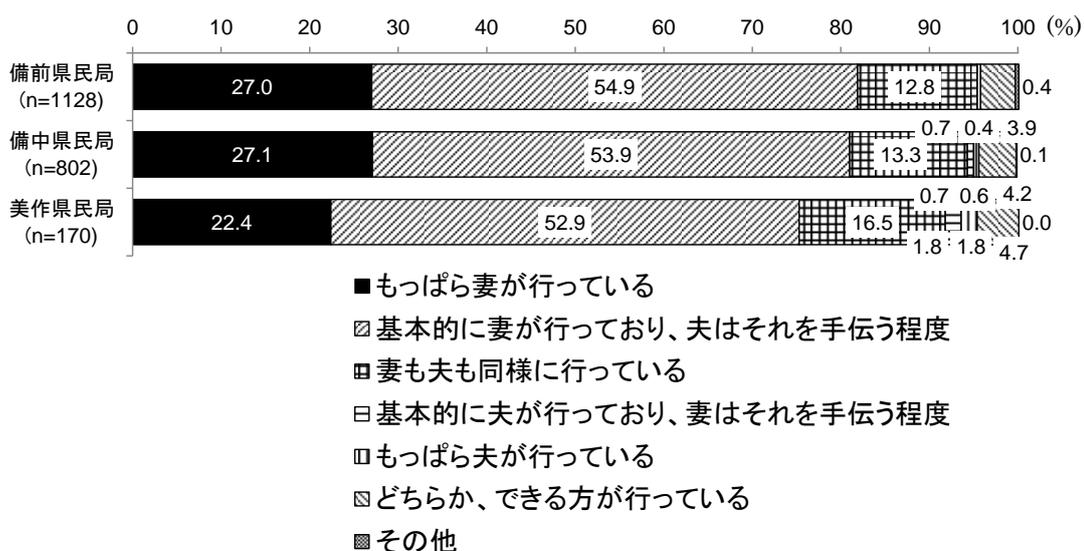
子どもの世話の分担について、「基本的に妻が行っており、夫はそれを手伝う程度」が54.3%と最も高く、次いで「もっぱら妻が行っている」(26.7%)、「妻も夫も同様に行っている」(13.3%)となっている。

家庭での家事の分担について、「基本的に妻が行っており、夫はそれを手伝う程度」が47.7%と最も高く、次いで「もっぱら妻が行っている」(36.9%)、「妻も夫も同様に行っている」(9.8%)となっている。

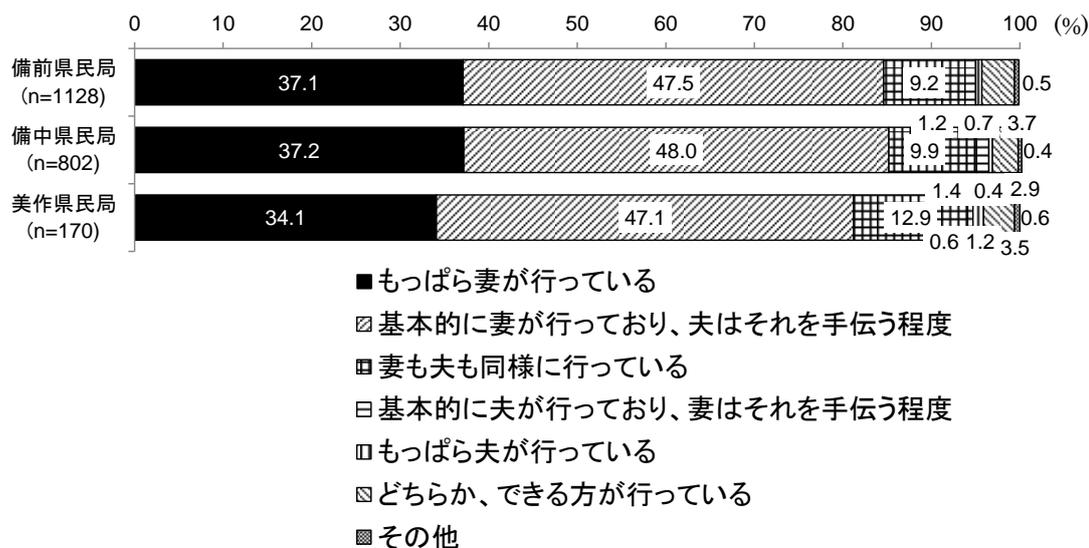


【居住地別】

子どもの世話の分担について、居住地別では、美作県民局で「もっぱら妻が行っている」と回答した割合が低い。

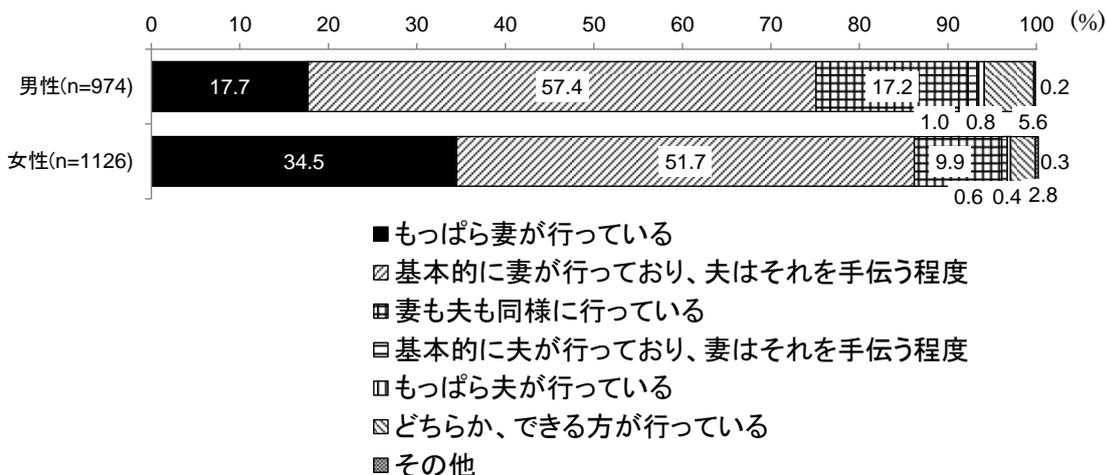


家庭での家事の分担について、居住地別では、あまり違いはみられない。

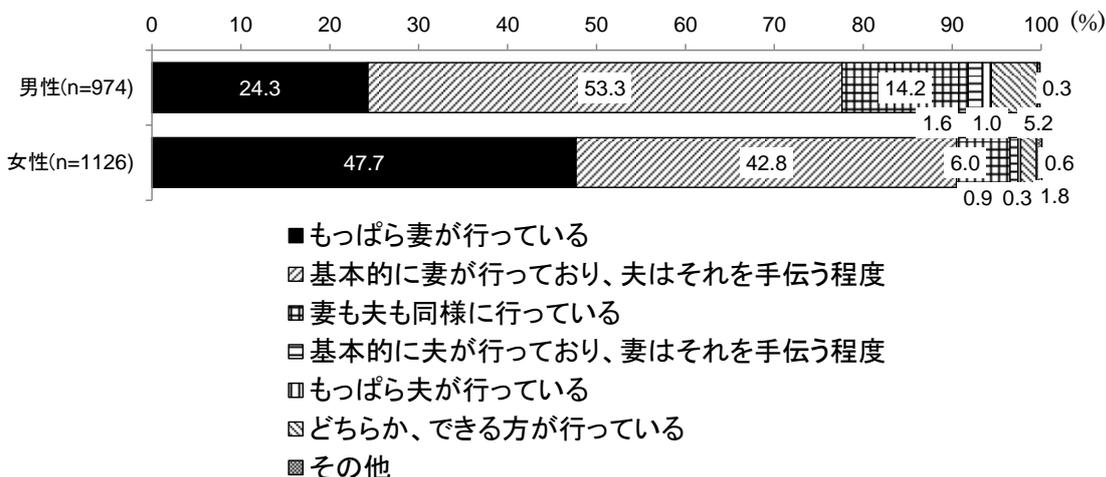


【性別】

子どもの世話の分担について、男性では、女性と比べて、「妻も夫も同様に行っている」と回答した割合が高く、「もっぱら妻が行っている」と回答した割合が低い。

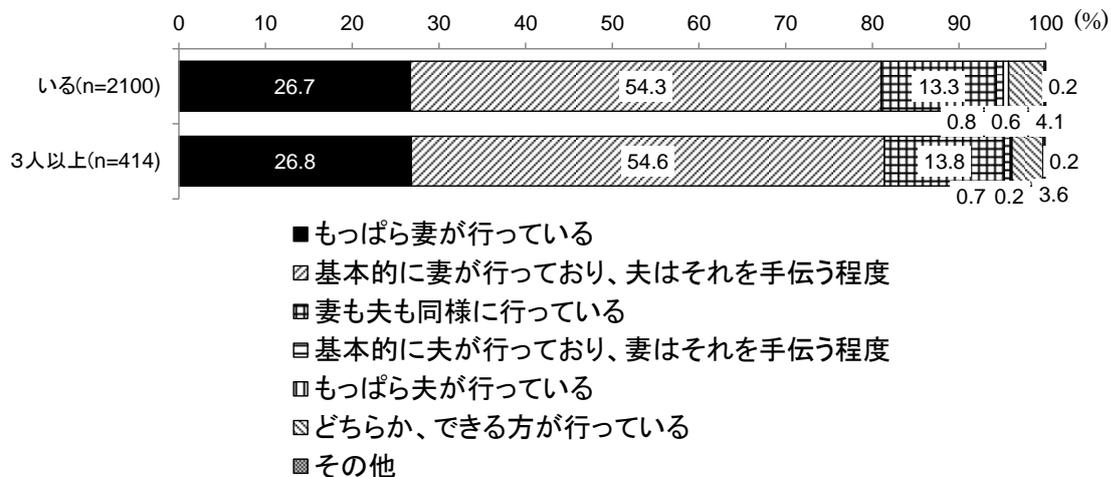


家庭での家事の分担について、男性では女性と比べて、「基本的に妻が行っており、夫はそれを手伝う程度」「妻も夫も同様に行っている」と回答した割合が高く、「もっぱら妻が行っている」と回答した割合が低い。

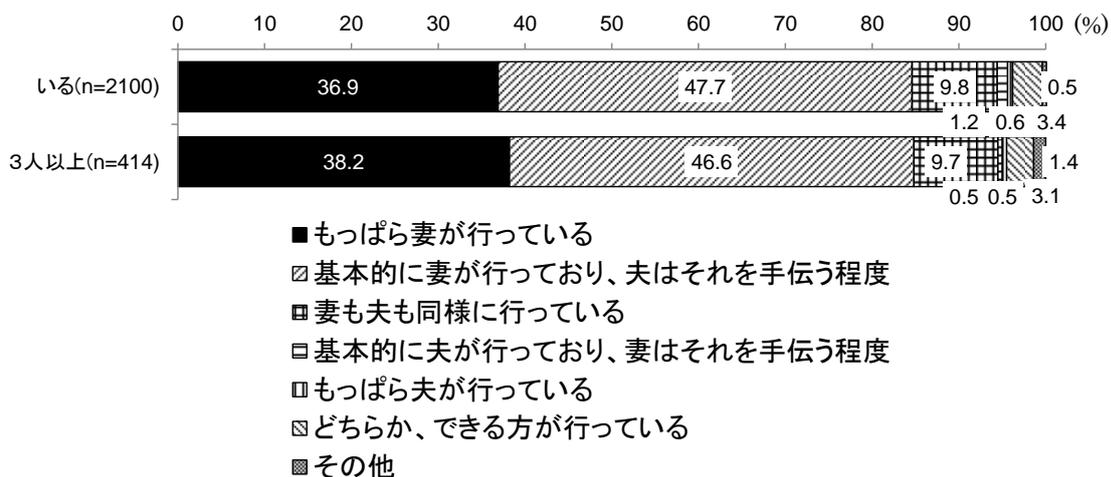


【子ども数別】

子どもの世話の分担について、子どもがいる又は3人以上では、あまり違いはみられない。

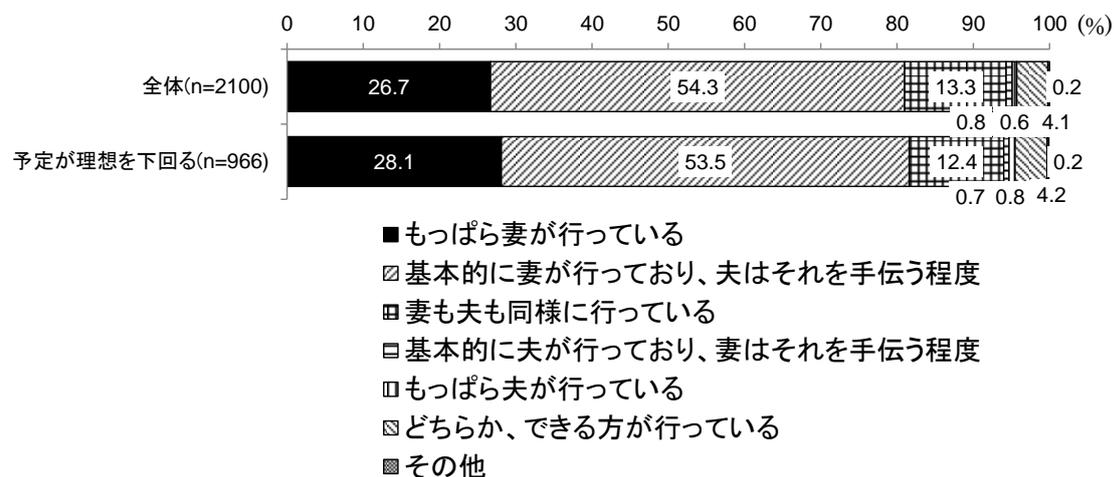


家庭での家事の分担について、子どもがいる又は3人以上では、あまり違いはみられない。

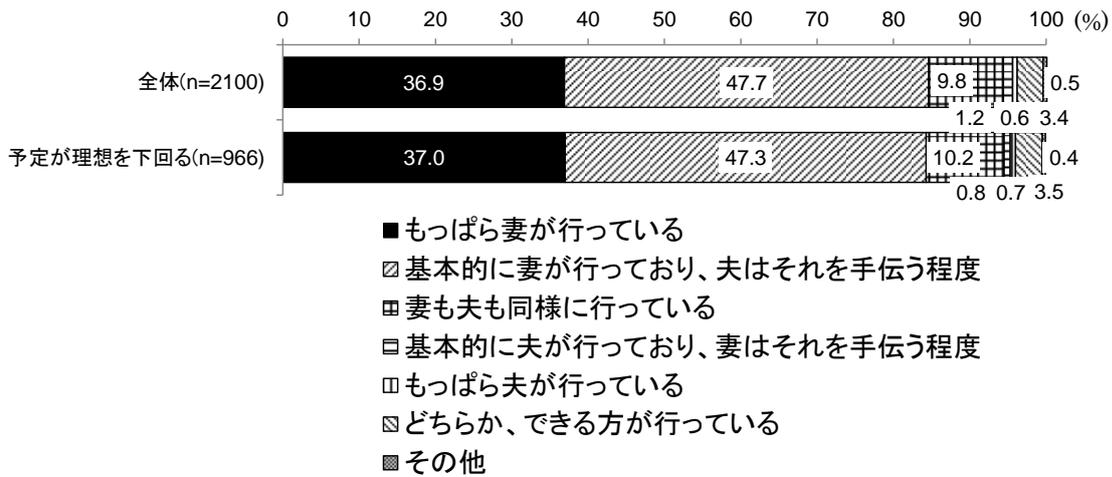


【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

子どもの世話の分担について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

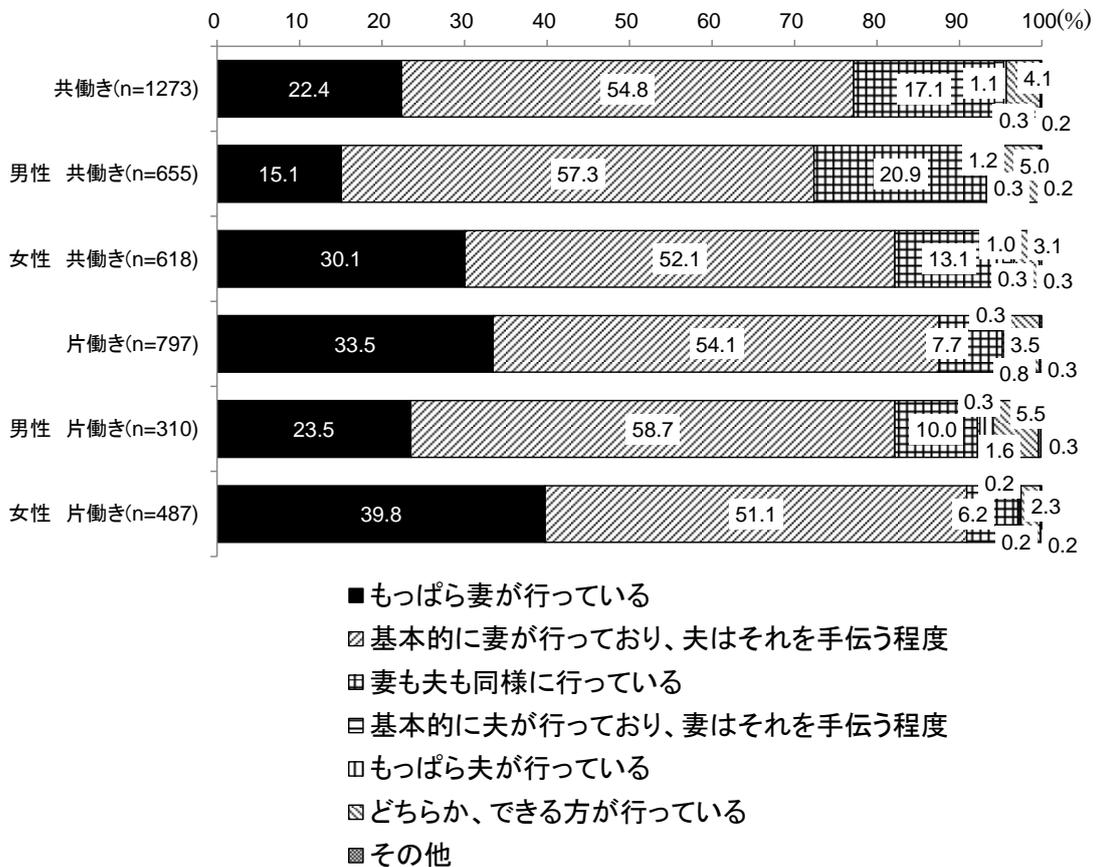


家庭での家事の分担について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

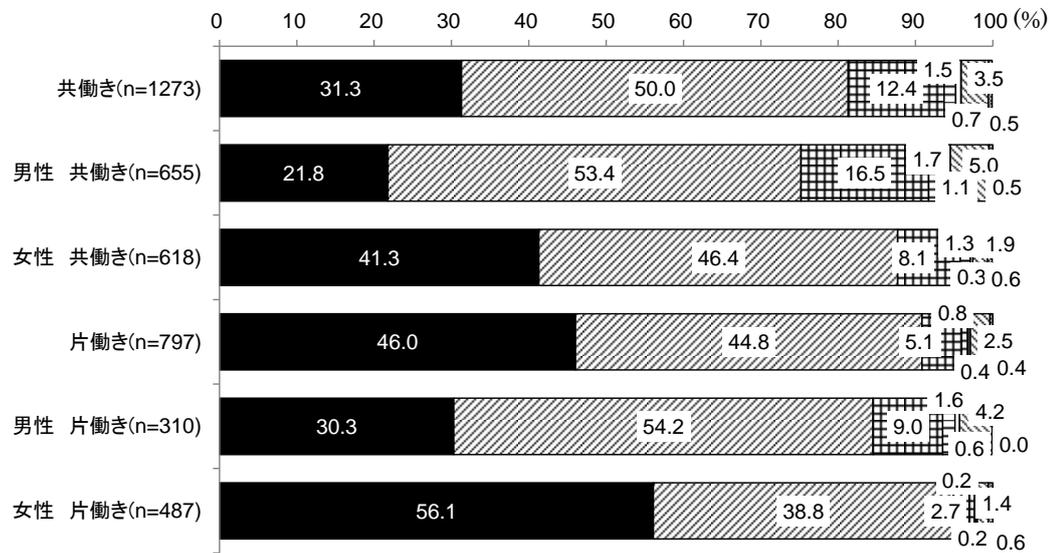


【性別・夫婦就労状況別】

子どもの世話の分担について、共働き世帯では片働き世帯と比べて、「妻も夫も同様に行っている」と回答した割合が高く、「もっぱら妻が行っている」と回答した割合が低い。また、共働き・片働き世帯とも、女性は男性と比べて、「もっぱら妻が行っている」と回答した割合が高く、「妻も夫も同様に行っている」と回答した割合が低い。



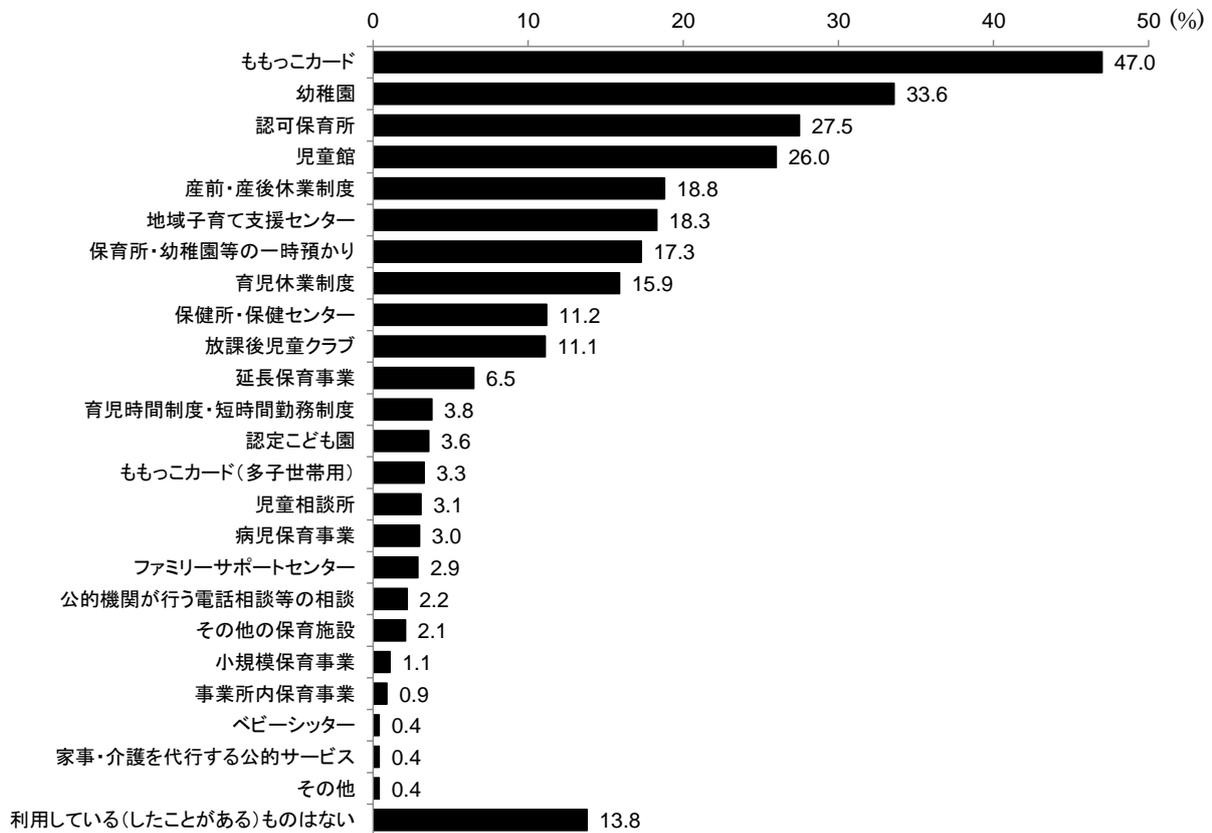
家庭での家事の分担について、共働き世帯では片働き世帯と比べて、「妻も夫も同様に行っている」と回答した割合が高く、「もっぱら妻が行っている」と回答した割合が低い。また、共働き・片働き世帯とも、女性は男性と比べて、「もっぱら妻が行っている」と回答した割合が高く、「妻も夫も同様に行っている」と回答した割合が低い。



- もっぱら妻が行っている
- ▨ 基本的に妻が行っており、夫はそれを手伝う程度
- ▩ 妻も夫も同様に行っている
- ▤ 基本的に夫が行っており、妻はそれを手伝う程度
- ▥ もっぱら夫が行っている
- ▧ どちらか、できる方が行っている
- ▦ その他

Q31.あなたが利用している(したことがある)子育て支援制度や施設等について、あてはまるものを全て選んでください。

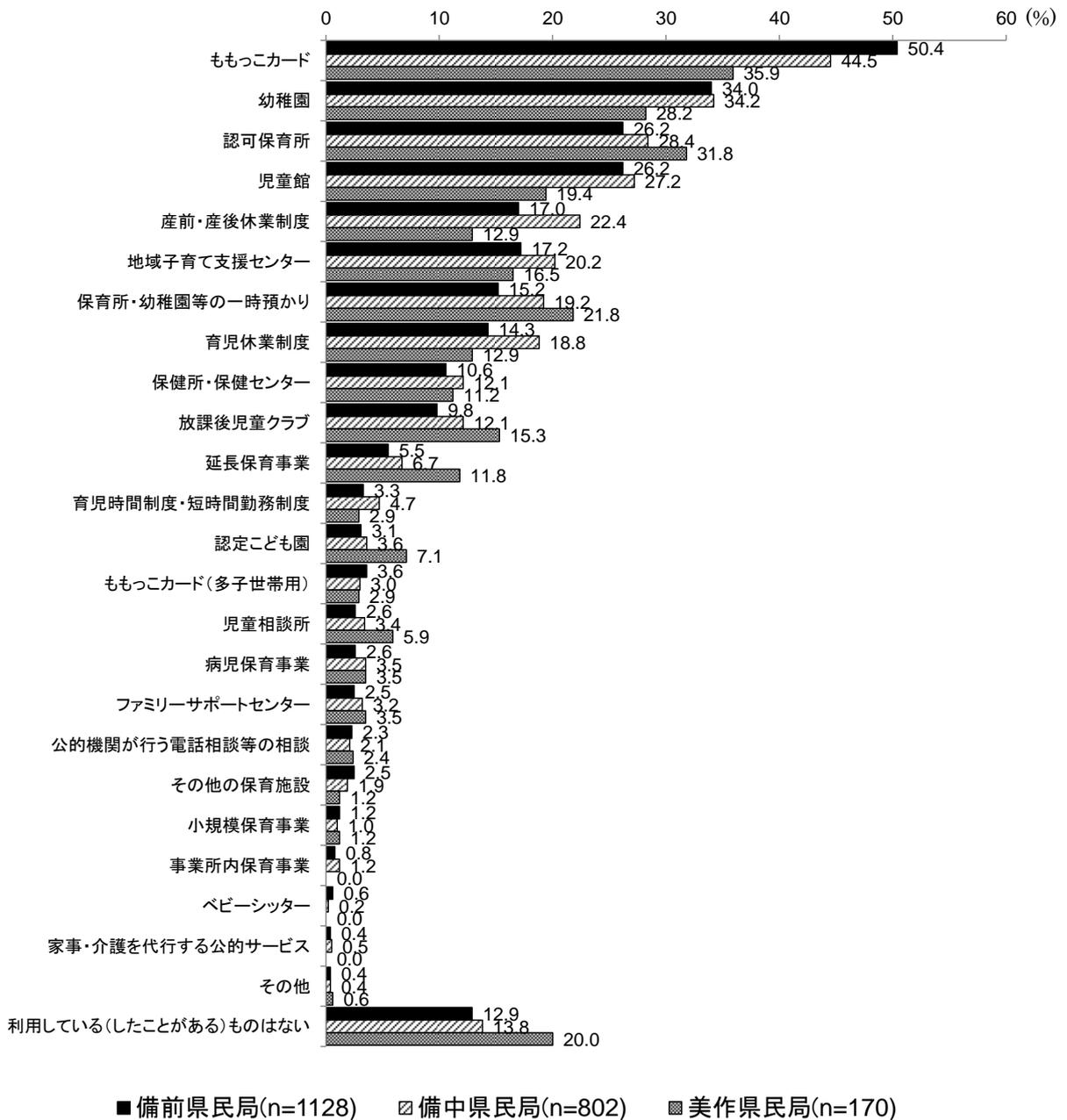
「ももっこカード」が47.0%と最も高く、次いで「幼稚園」(33.6%)、「認可保育所」(27.5%)となっている。



■ 全体(n=2100)

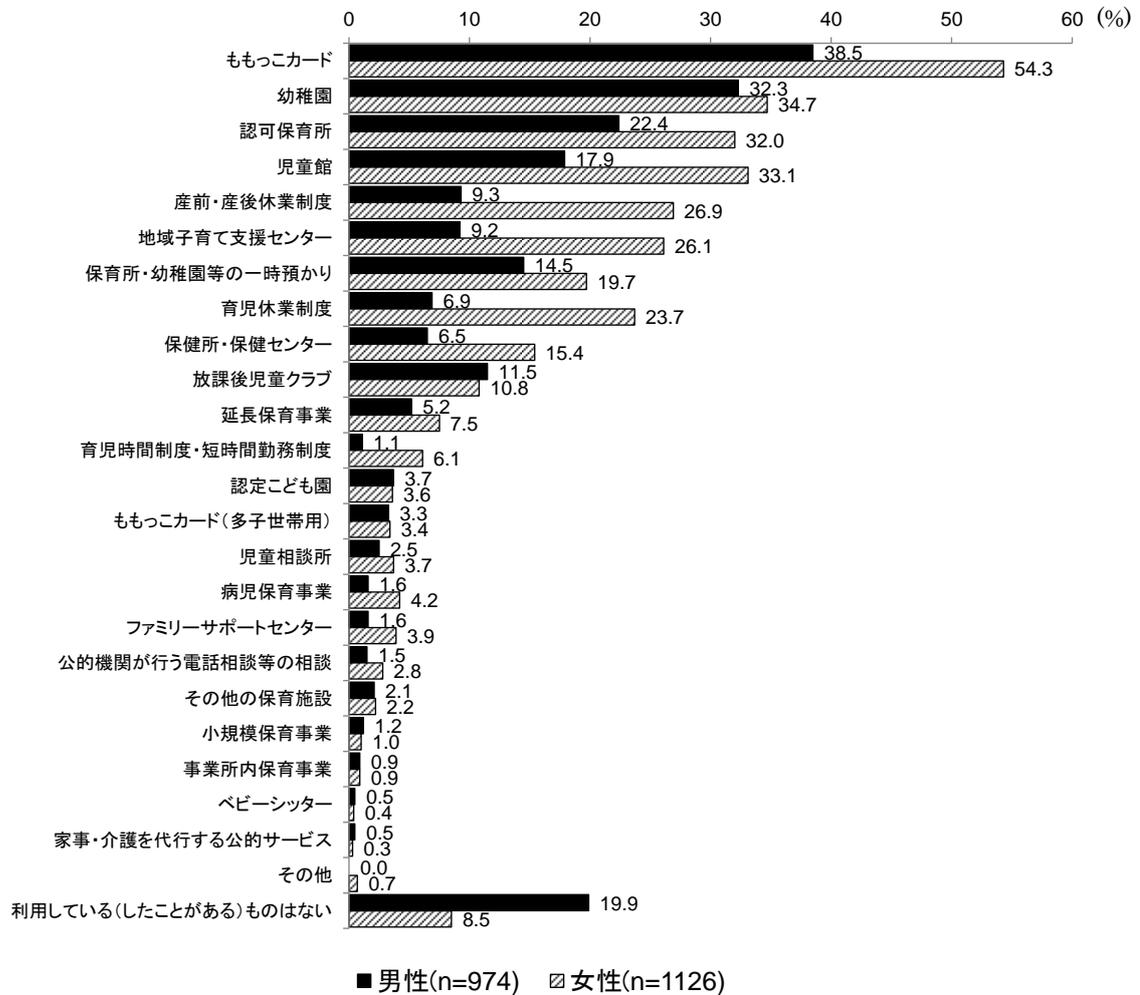
【居住地別】

居住地別では、備前県民局では「ももっこカード」、備中県民局では「産前・産後休業制度」、美作県民局では「認可保育所」「保育所・幼稚園等の一時預かり」「放課後児童クラブ」「延長保育事業」「認定こども園」と回答した割合が高い。



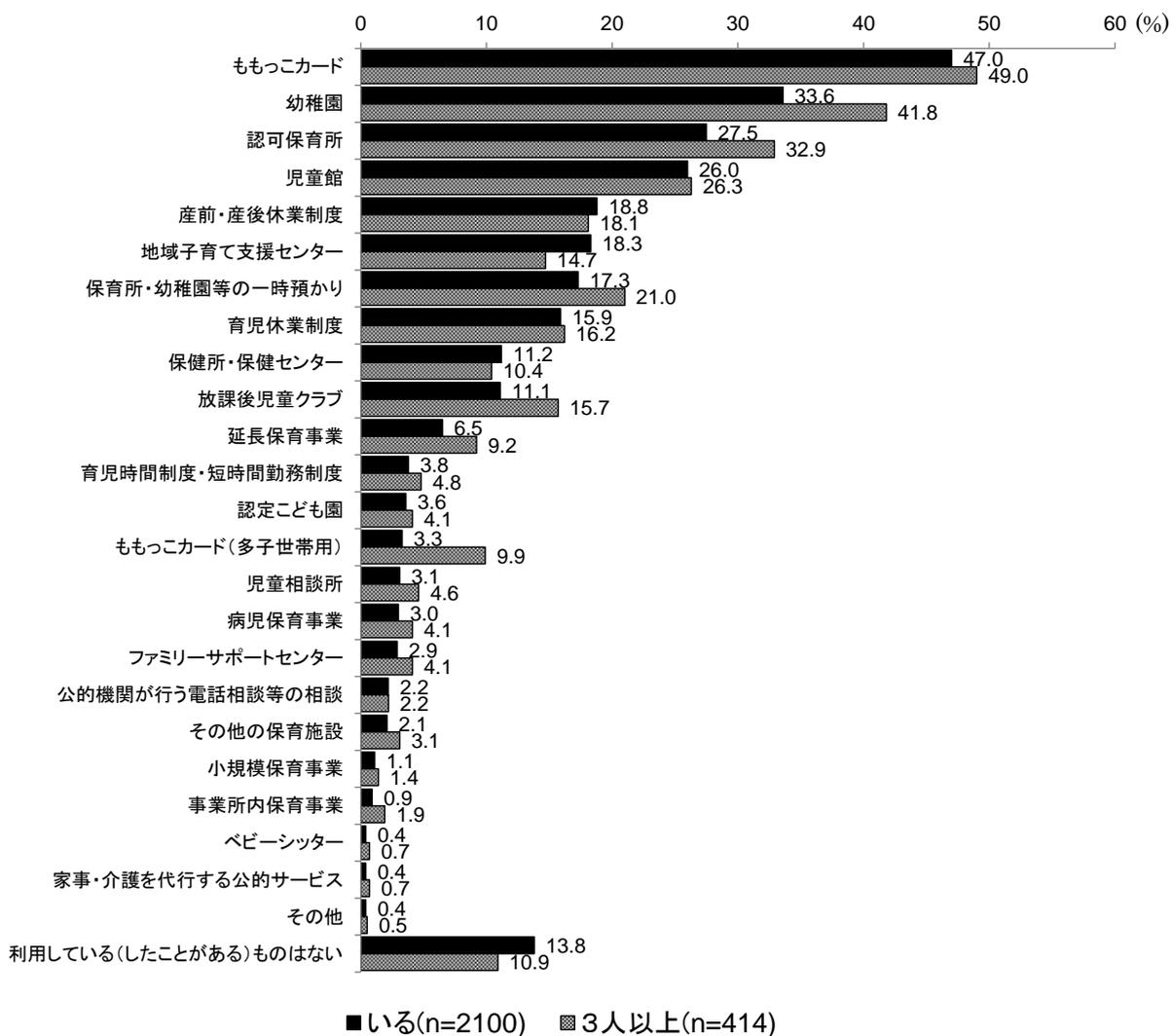
【性別】

男性では、女性と比べて、「利用している（したことがある）ものはない」と回答した割合が高く、「ももっこカード」「認可保育所」「児童館」「産前・産後休業制度」「地域子育て支援センター」「保育所・幼稚園等の一時預かり」「育児休業制度」「保健所・保健センター」「育児時間制度・短時間勤務制度」と回答した割合が低い。



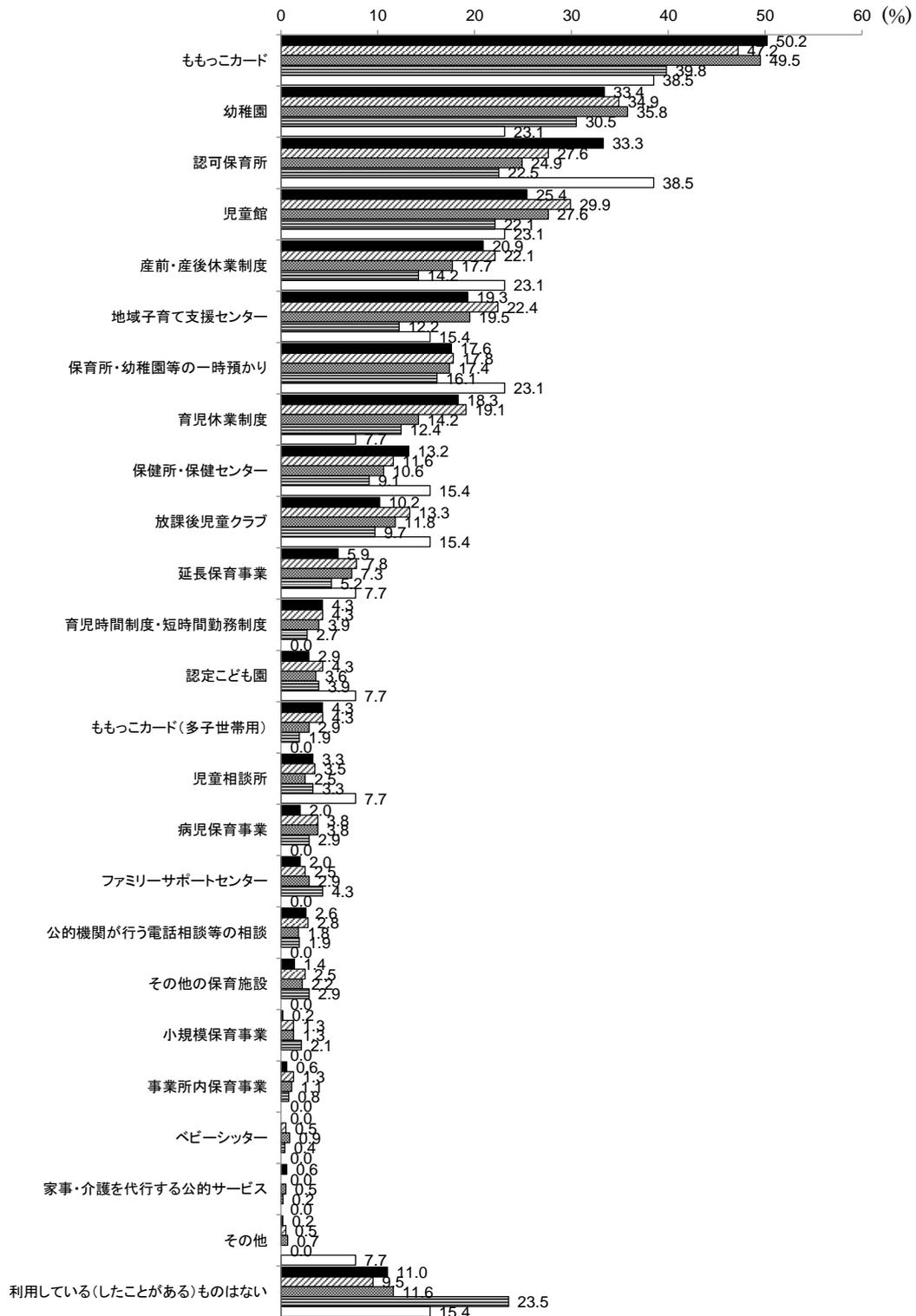
【子ども数別】

子どもが3人以上では、子どもがいると比べて、「幼稚園」「認可保育所」と回答した割合が高い。



【世話を頼める知人等の有無別】

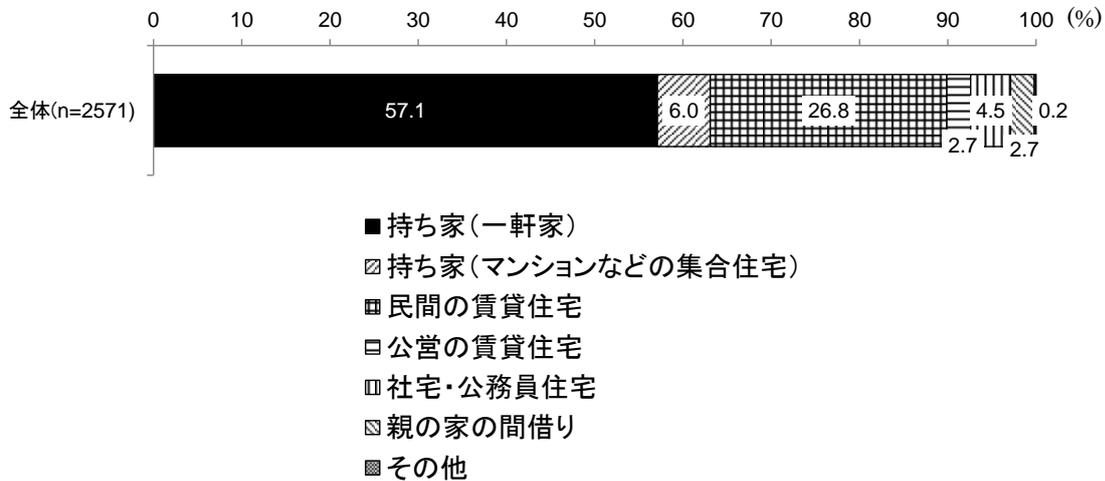
特に頼める人はいないでは、「利用している（利用していたことがある）ものはない」と回答した割合が高く、「もっこカード」「認可保育所」「地域子育て支援センター」と回答した割合が低い。



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=646)
- ▨ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=398)
- ▩ 近くではないが、頼める人がいる(n=558)
- 特に頼める人はいない(n=485)
- その他(n=13)

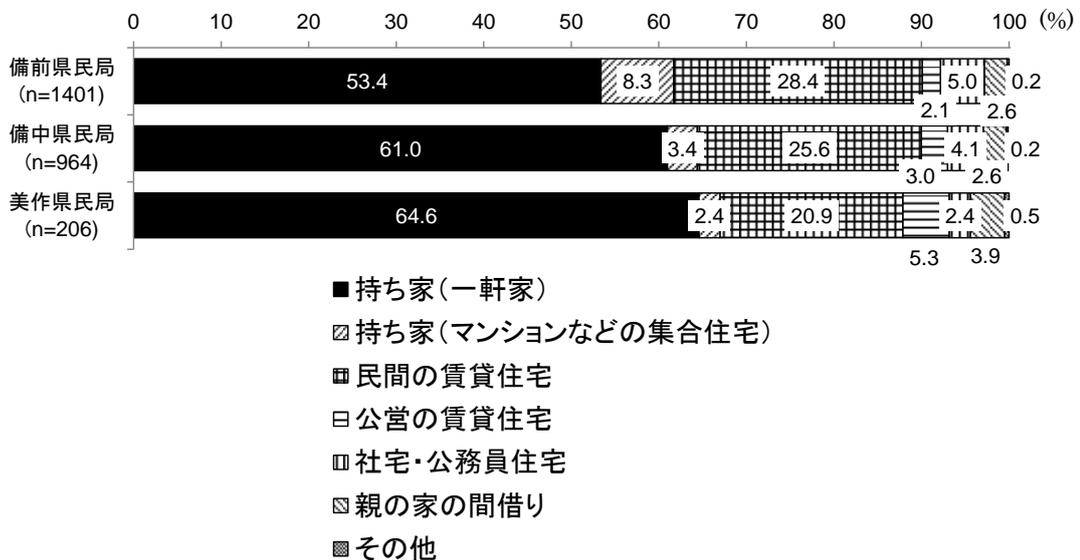
Q32.あなたの現在のお住まいは次のどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

「持ち家（一軒家）」が57.1%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」（26.8%）、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」（6.0%）となっている。



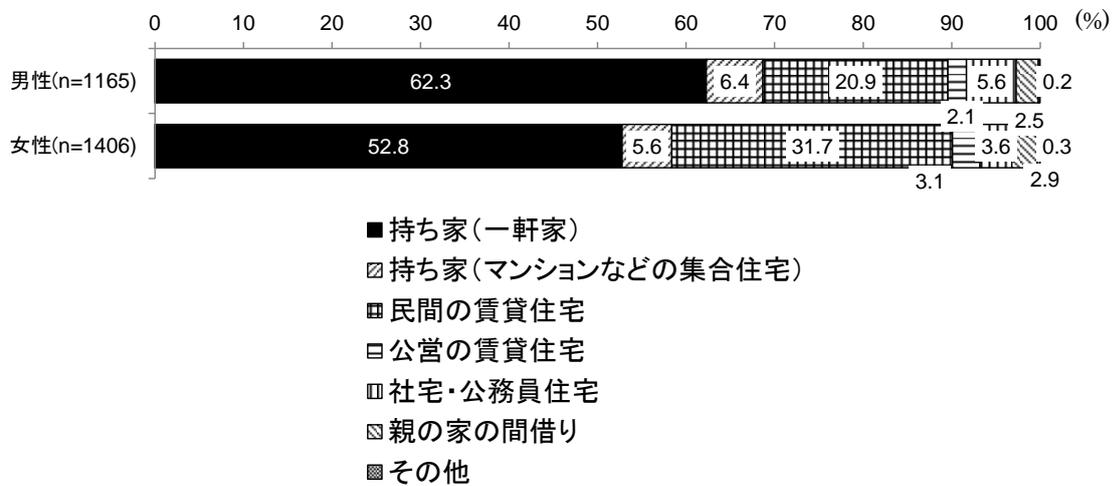
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「持ち家（一軒家）」と回答した割合が高く、「民間の賃貸住宅」と回答した割合が低い。



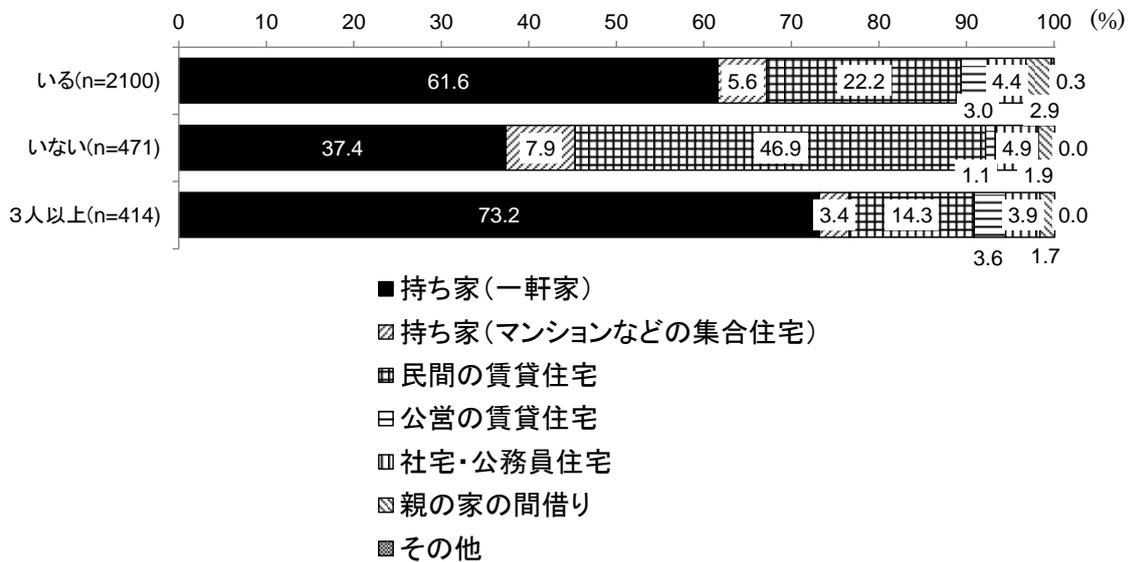
【性別】

男性では、女性と比べて、「持ち家（一軒家）」と回答した割合が高く、「民間の賃貸住宅」と回答した割合が低い。



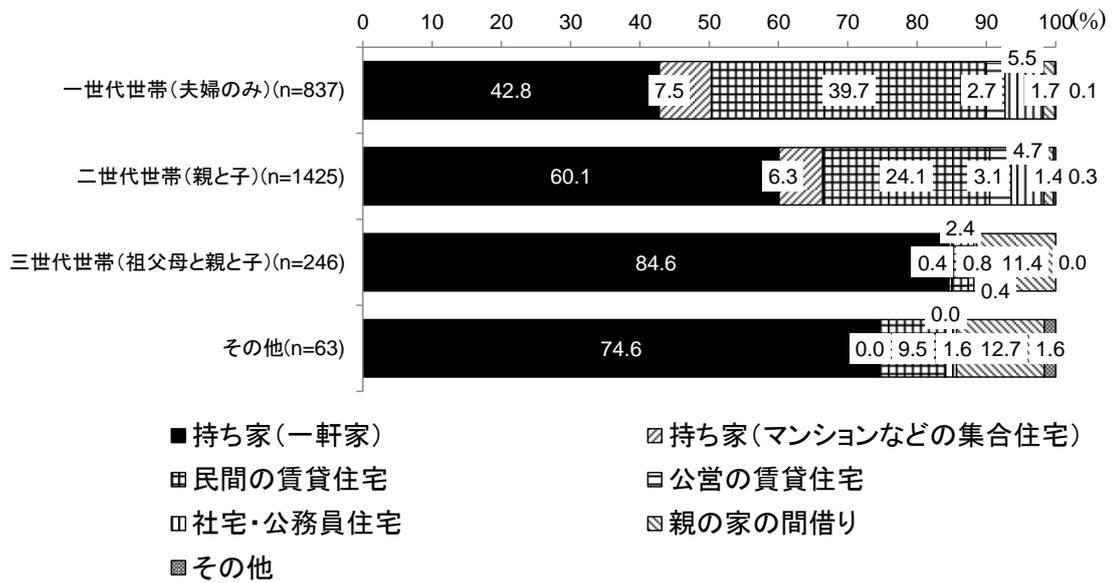
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「持ち家（一軒家）」と回答した割合が高く、「民間の賃貸住宅」と回答した割合が低い。



【世帯構成別】

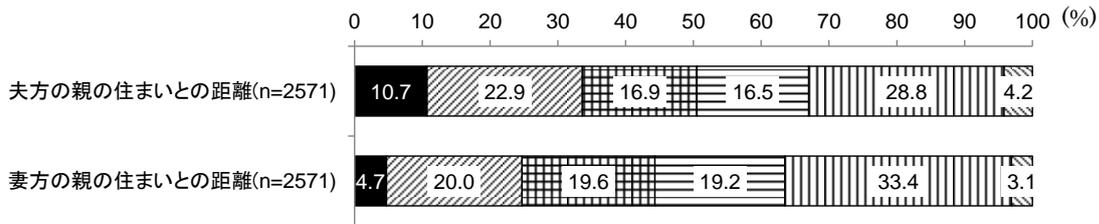
世帯構成別では、一世代世帯（夫婦のみ）では「民間の賃貸住宅」、三世代世帯（祖父母と親と子）では「持ち家（一軒家）」と回答した割合が高い。



Q33.夫方・妻方の親の住まいとの距離について、最もよく使う交通手段でかかる時間は次のどれにあてはまりますか。なお、親が離別している場合は、あなたのお住まいに近い方についてお答えください。(○は1つ)

夫方の親の住まいとの距離について、「親と別居（片道1時間以上）」が28.8%と最も高く、次いで「親と別居（片道15分未満）」(22.9%)、「親と別居（片道15分～30分未満）」(16.9%)となっている。

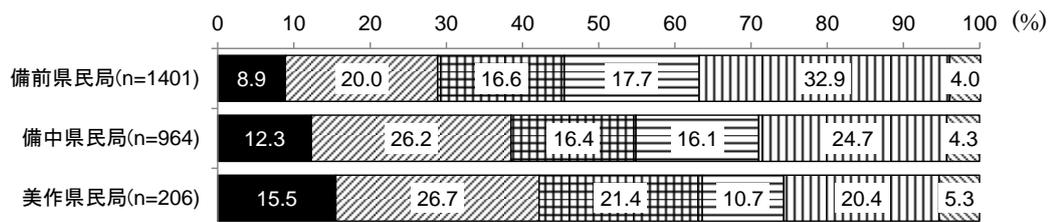
妻方の親の住まいとの距離について、「親と別居（片道1時間以上）」が33.4%と最も高く、次いで「親と別居（片道15分未満）」(20.0%)、「親と別居（片道15分～30分未満）」(19.6%)となっている。



- 親と同居
- ▨ 親と別居(片道15分未満)
- ▩ 親と別居(片道15分～30分未満)
- 親と別居(片道30分～1時間未満)
- ▧ 親と別居(片道1時間以上)
- ▦ 親は両親とも他界

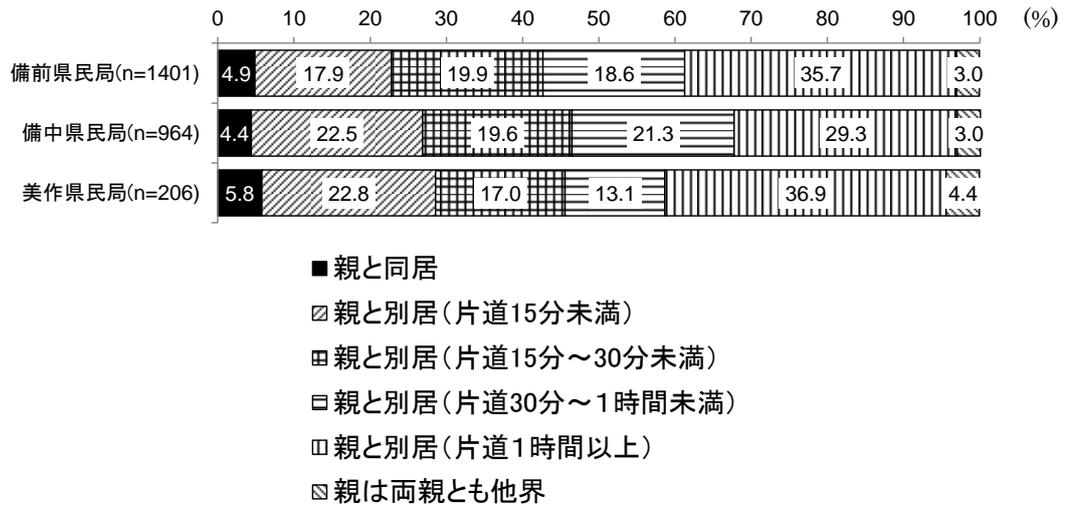
【居住地別】

夫方の親の住まいとの距離について、居住地別では、美作県民局で「親と同居」と回答した割合が高く、「親と別居（片道1時間以上）」と回答した割合が低い。



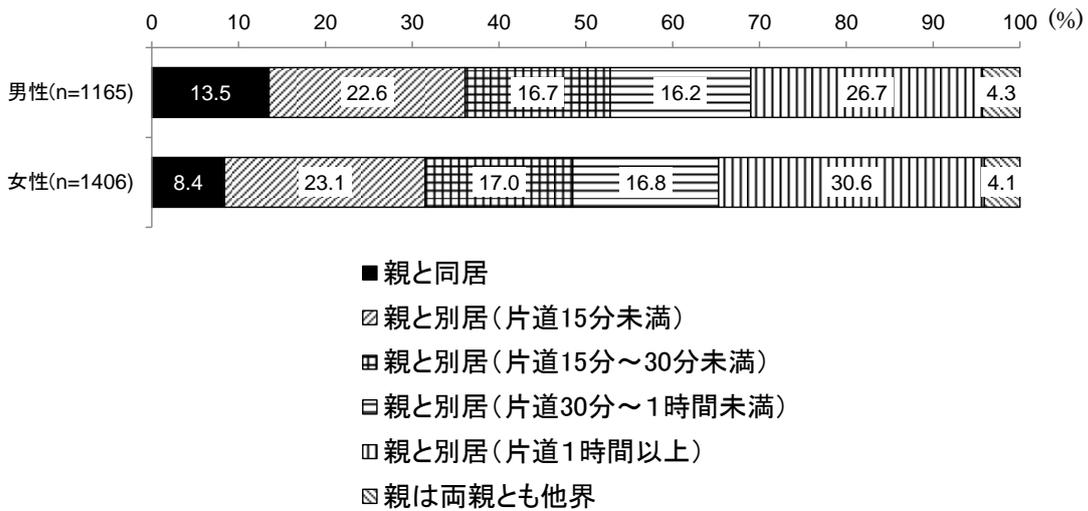
- 親と同居
- ▨ 親と別居(片道15分未満)
- ▩ 親と別居(片道15分～30分未満)
- 親と別居(片道30分～1時間未満)
- ▧ 親と別居(片道1時間以上)
- ▦ 親は両親とも他界

妻方の親の住まいとの距離について、居住地別では、備前県民局で「親と別居（片道1時間以上）」と回答した割合が低い。

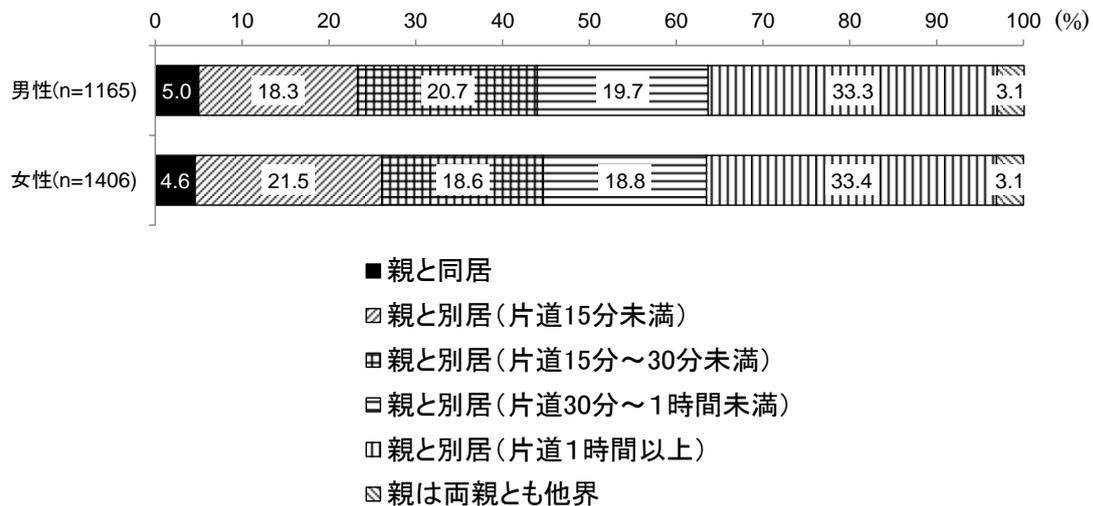


【性別】

夫方の親の住まいとの距離について、男性では、女性と比べて、「親と同居」と回答した割合が高い。

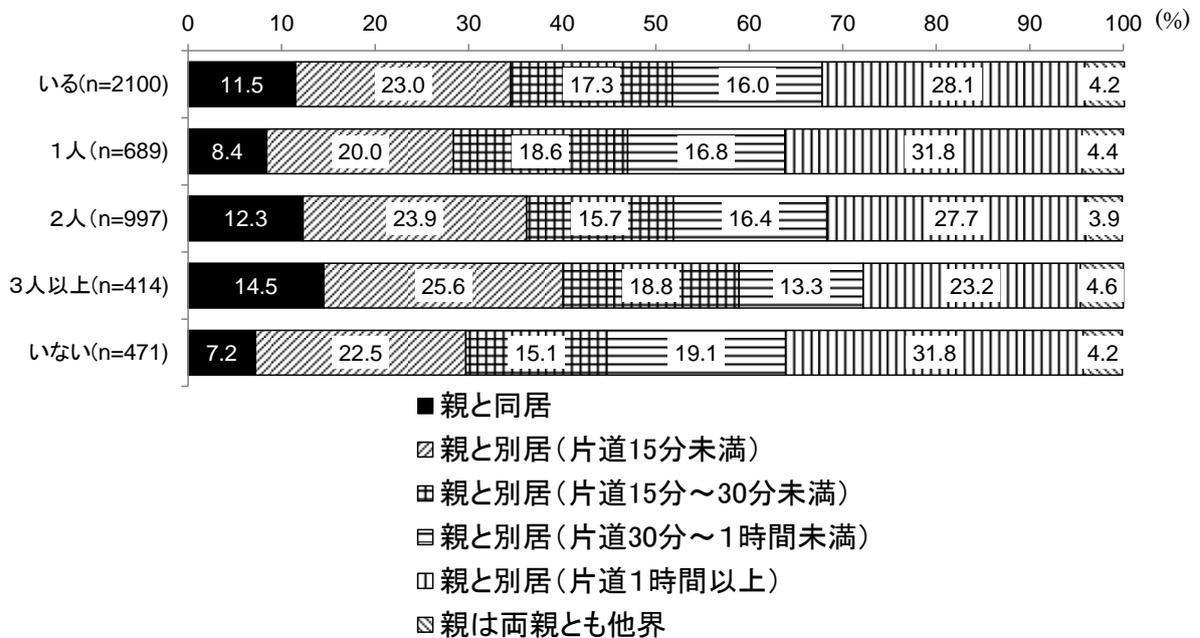


妻方の親の住まいとの距離について、性別では、あまり違いはみられない。

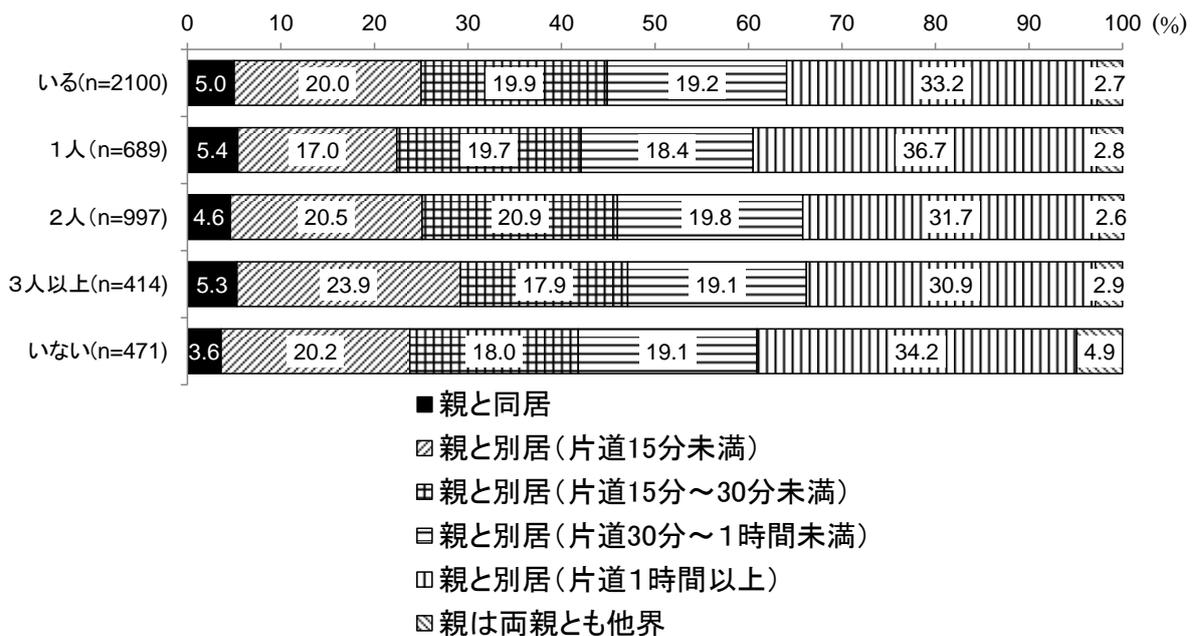


【子ども有無別】

夫方の親の住まいとの距離について、子どもが3人以上では、「親と同居」「親と別居（片道15分未満）」と回答した割合が高い。また、子ども数が増えるにつれて、「親と同居」「親と別居（片道15分未満）」と回答した割合が高く、「親と別居（片道30分～1時間未満）」「親と別居（片道1時間以上）」と回答した割合が低くなる。

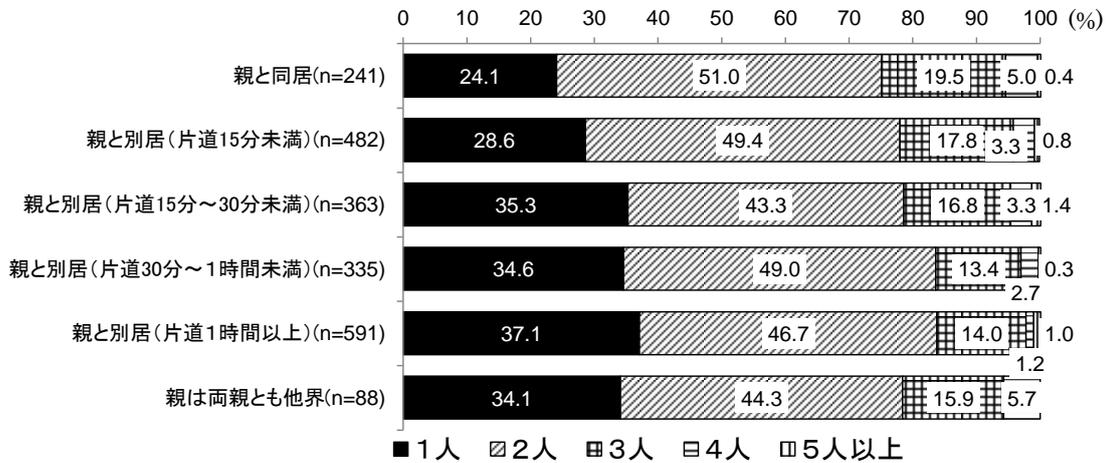


妻方の親の住まいとの距離について、子どもが3人以上では、「親と別居（片道15分未満）」と回答した割合が高い。

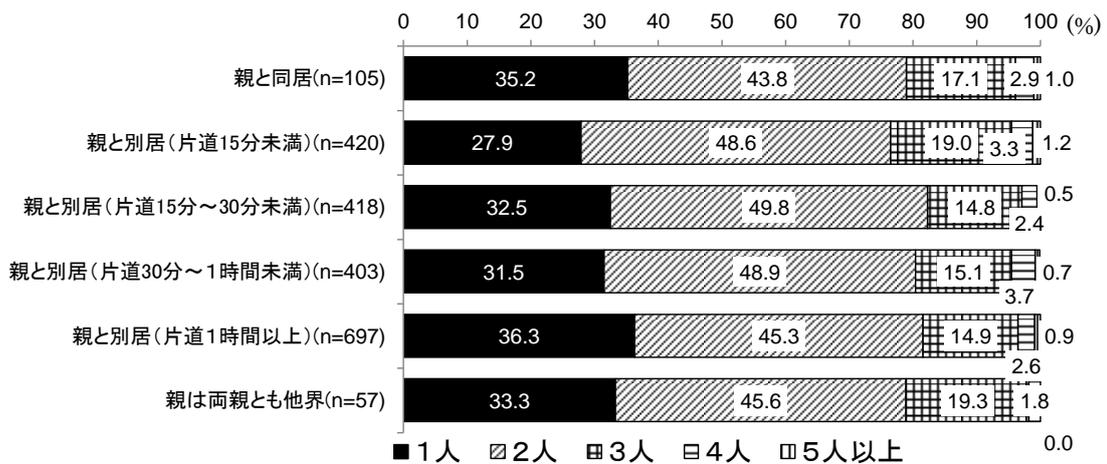


【距離別に見た平均子ども数】

夫方の親の住まいとの距離について、親と同居では、「3人」と回答した割合が高く、「1人」と回答した割合が低い。

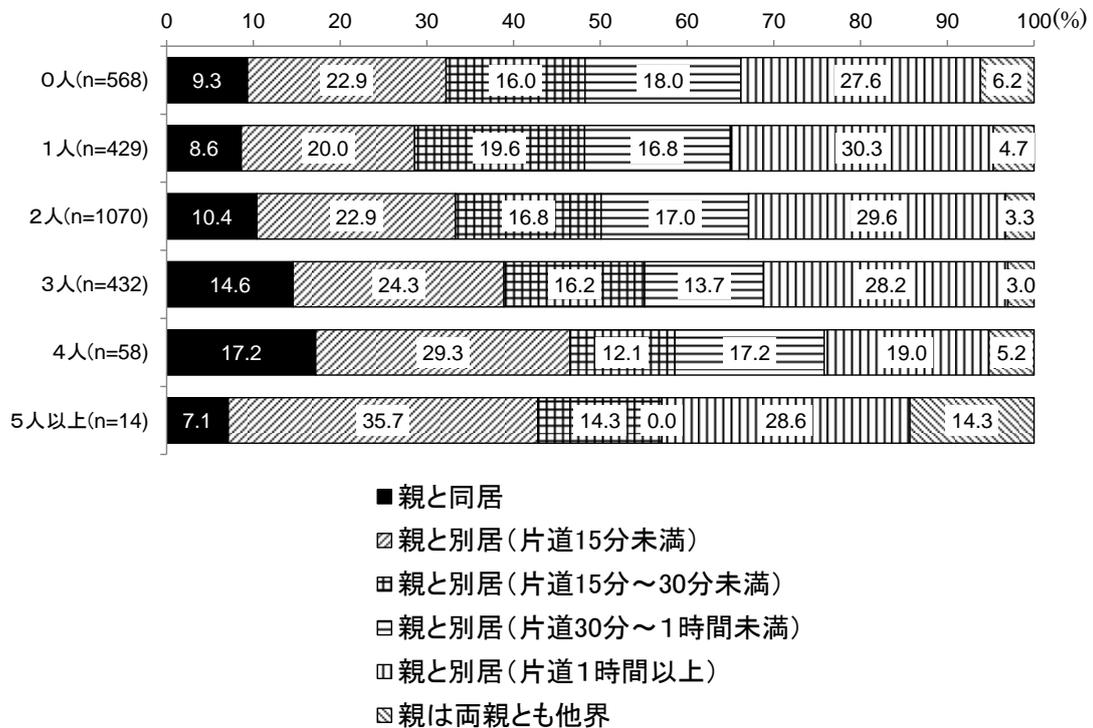


妻方の親の住まいとの距離について、あまり違いはみられない。

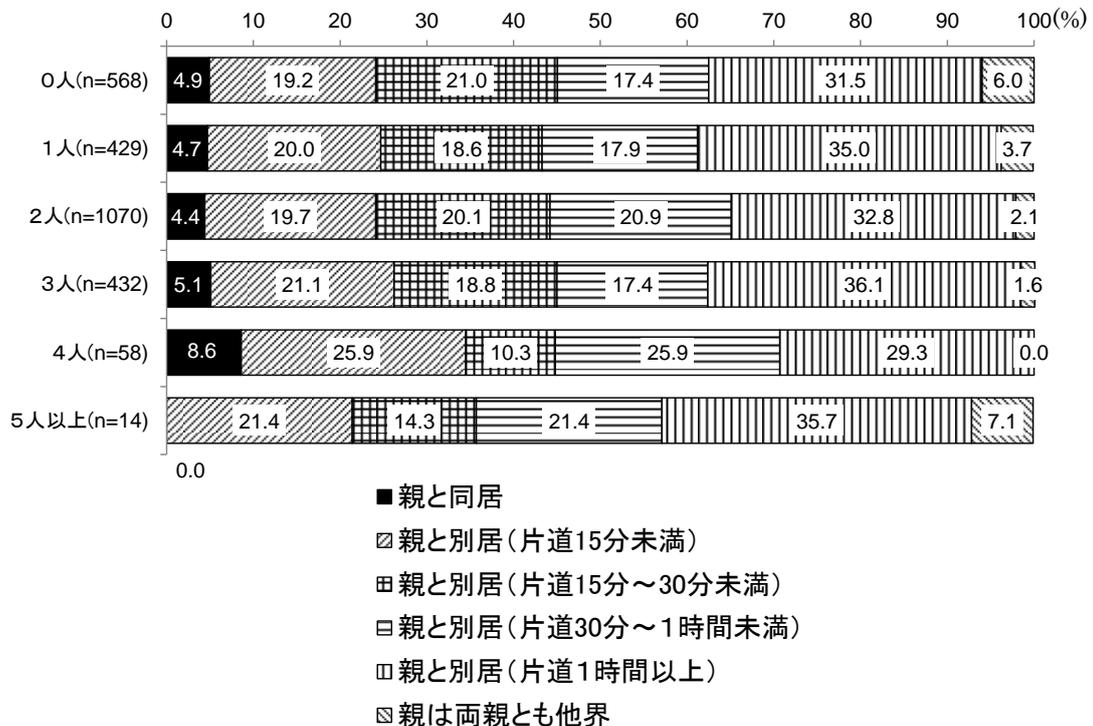


【予定子ども数別】

夫方の親の住まいとの距離について、3人・4人では「親と同居」、5人以上では「親と別居（片道15分未満）」と回答した割合が高い。

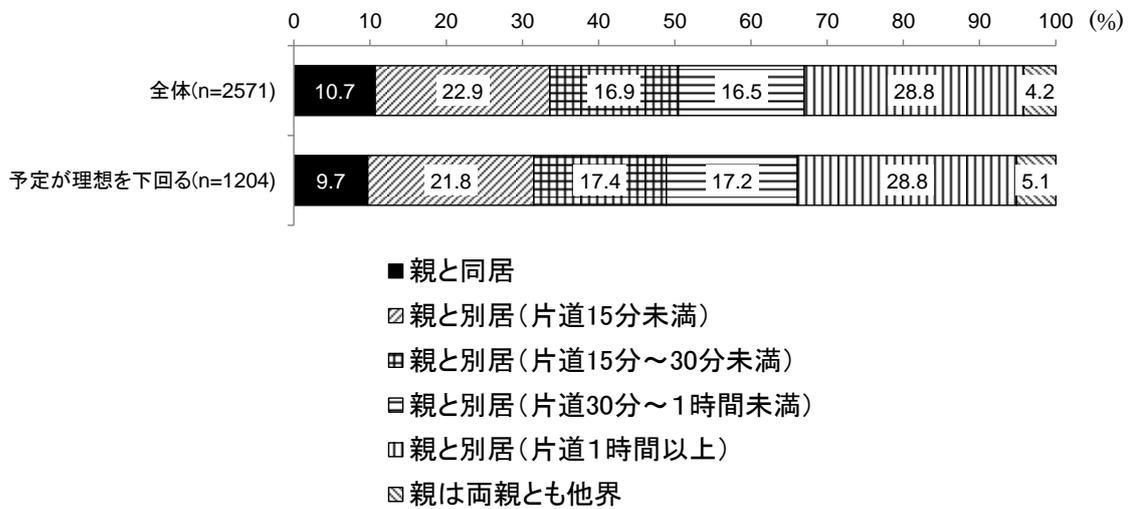


妻方の親の住まいとの距離について、4人では、「親と別居（片道15分未満）」と回答した割合が高い。

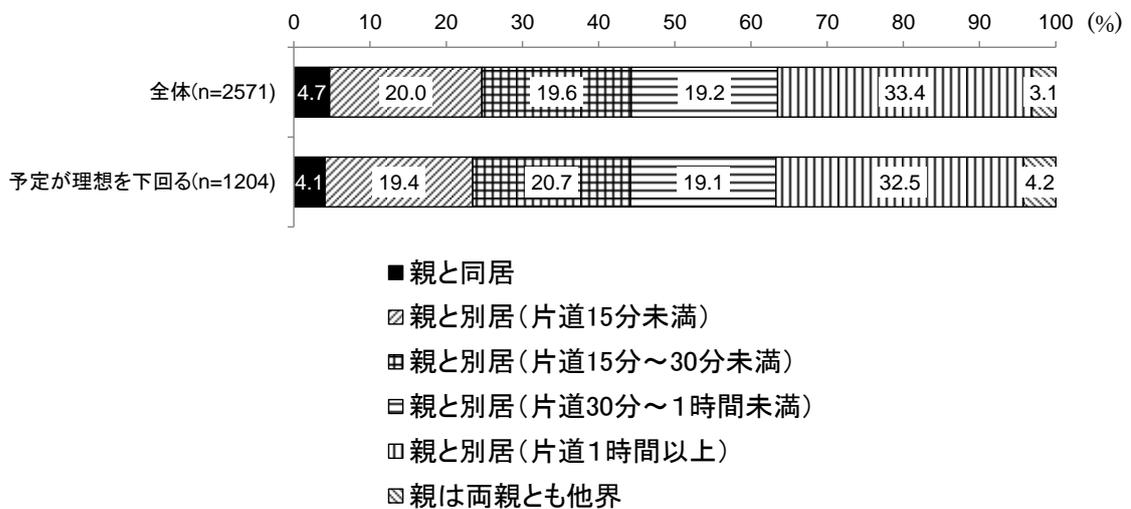


【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

夫方の親の住まいとの距離について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

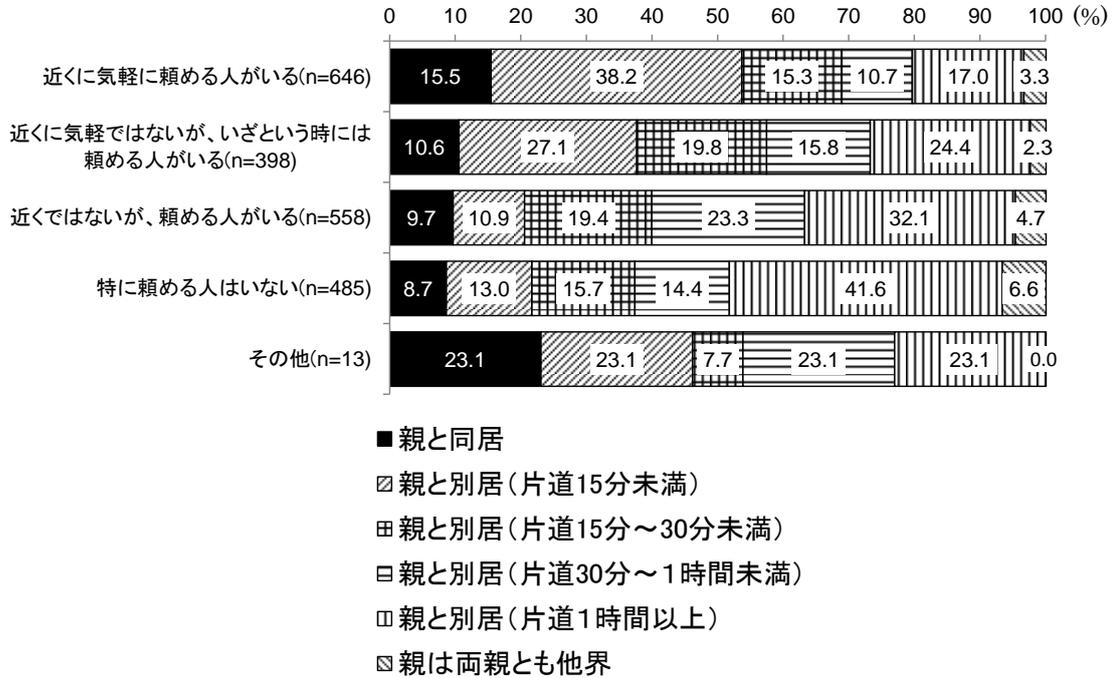


妻方の親の住まいとの距離について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

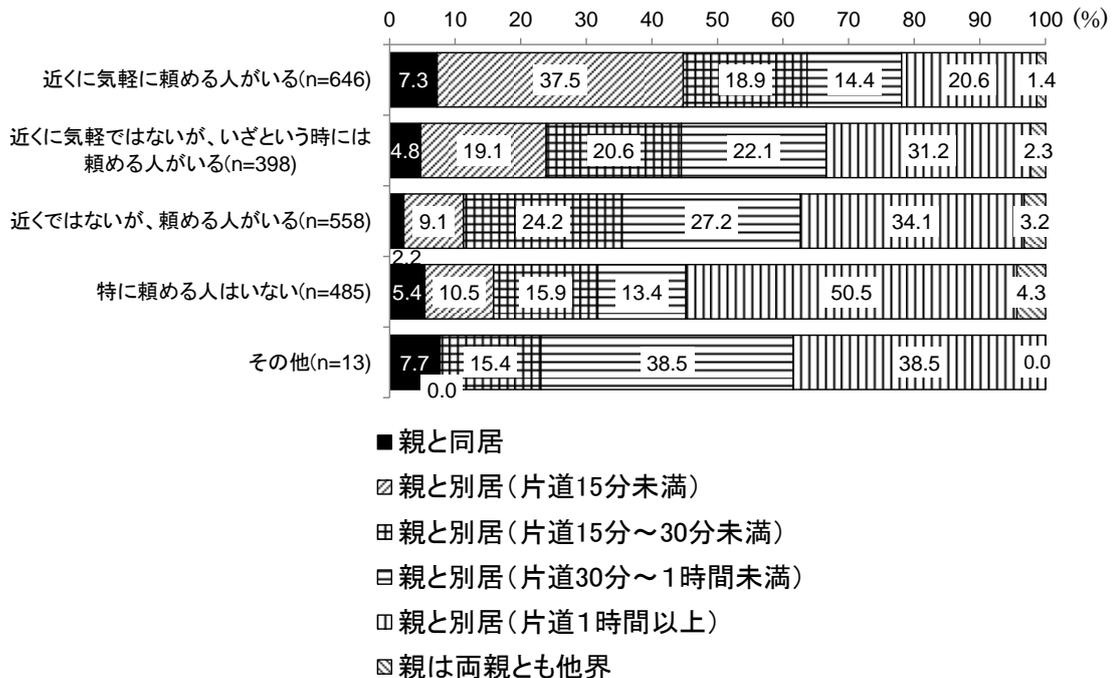


【世話を頼める知人等の有無別】

夫方の親の住まいとの距離について、近くに気軽に頼める人がいるでは「親と同居」「親と別居（片道15分未満）」、特に頼める人はいないでは「親と別居（片道1時間以上）」と回答した割合が高い。



妻方の親の住まいとの距離について、近くに気軽に頼める人がいるでは「親と同居」「親と別居（片道15分未満）」、特に頼める人はいないでは「親と別居（片道1時間以上）」と回答した割合が高い。

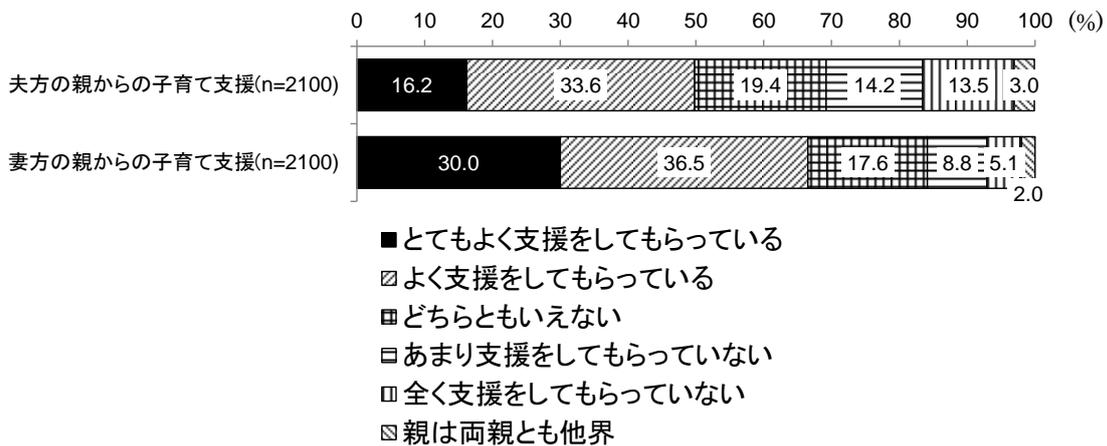


Q34.夫方の親から、どのような子育て支援はどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

Q35.妻方の親から、どのような子育て支援はどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

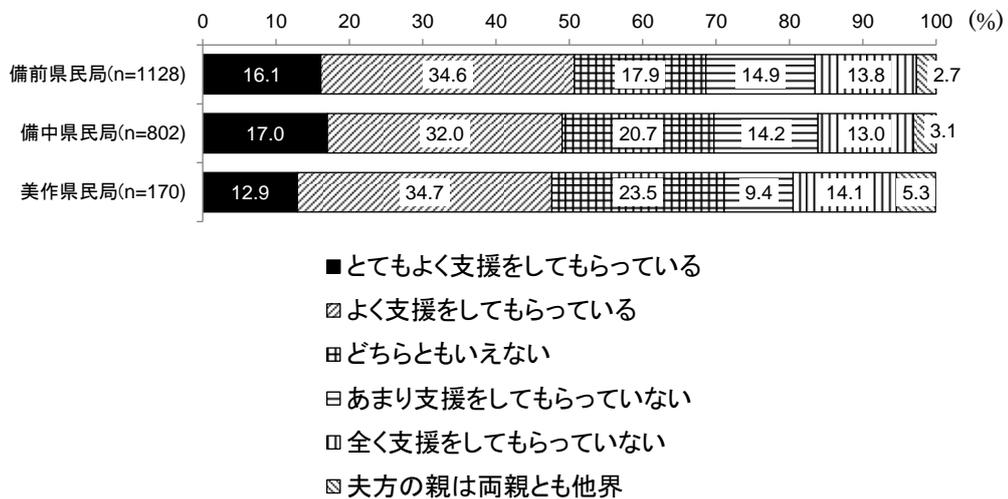
夫方の親からの子育て支援について、「よく支援をしてもらっている」が33.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(19.4%)、「とてもよく支援をしてもらっている」(16.2%)となっている。

妻方の親からの子育て支援について、「よく支援をしてもらっている」が36.5%と最も高く、次いで「とてもよく支援をしてもらっている」(30.0%)、「どちらともいえない」(17.6%)となっている。

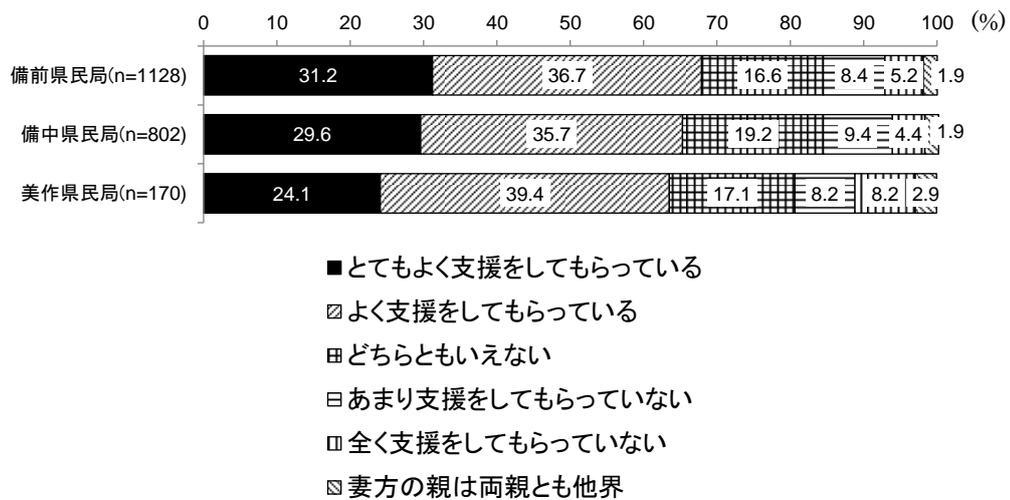


【居住地別】

夫方の親からの子育て支援について、居住地別では、あまり違いはみられない。

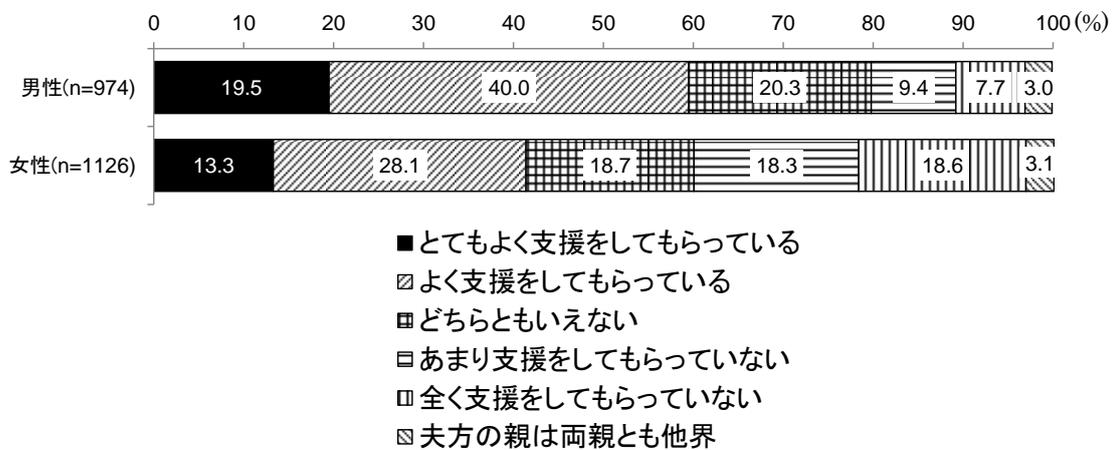


妻方の親からの子育て支援について、居住地別では、備前県民局で「とてもよく支援をしてもらっている」と回答した割合が高く、美作県民局では低い。

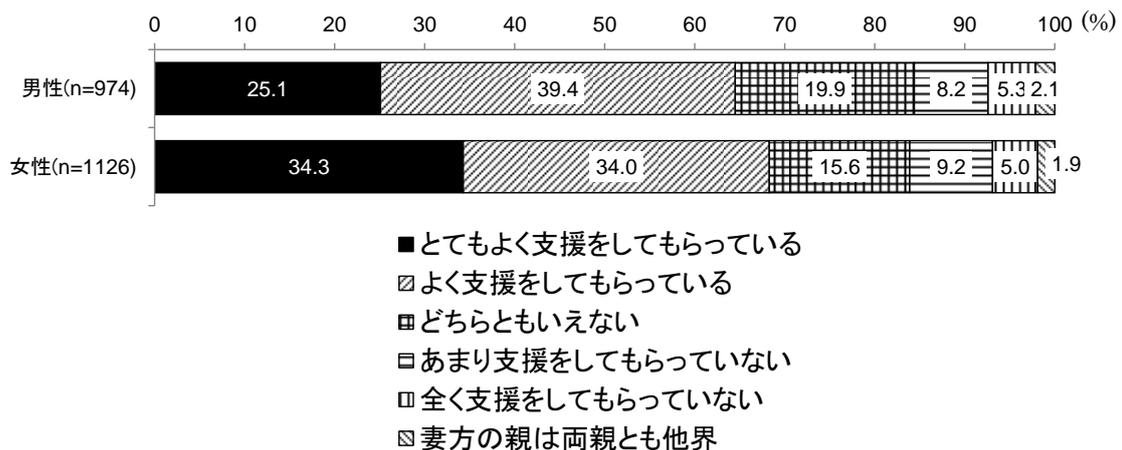


【性別】

夫方の親からの子育て支援について、男性では、女性と比べて、「よく支援をもらっている」と回答した割合が高く、「あまり支援をもらっていない」「全く支援をもらっていない」と回答した割合が低い。

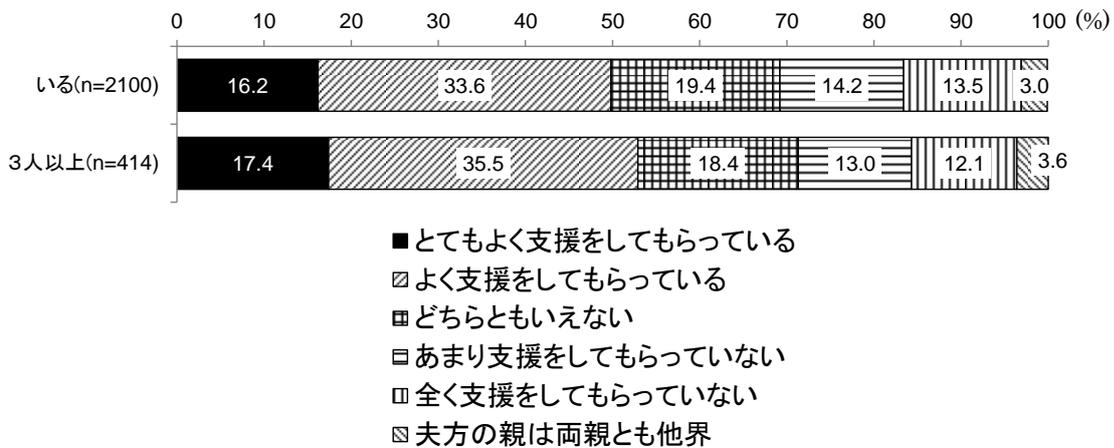


妻方の親からの子育て支援について、男女ともに、「とてもよく支援をもらっている」「よく支援をもらっている」が6割を超えている。

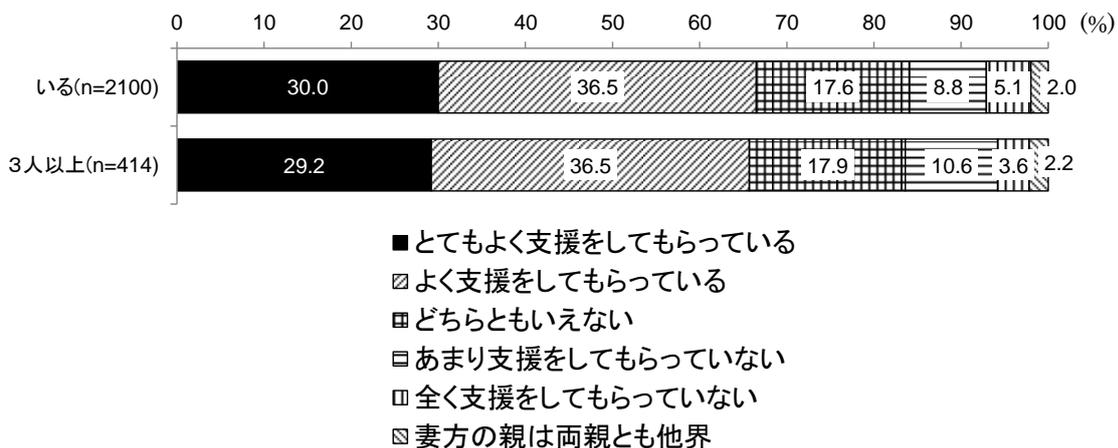


【子ども数別】

夫方の親からの子育て支援について、子どもがいると3人以上では、あまり違いはみられない。

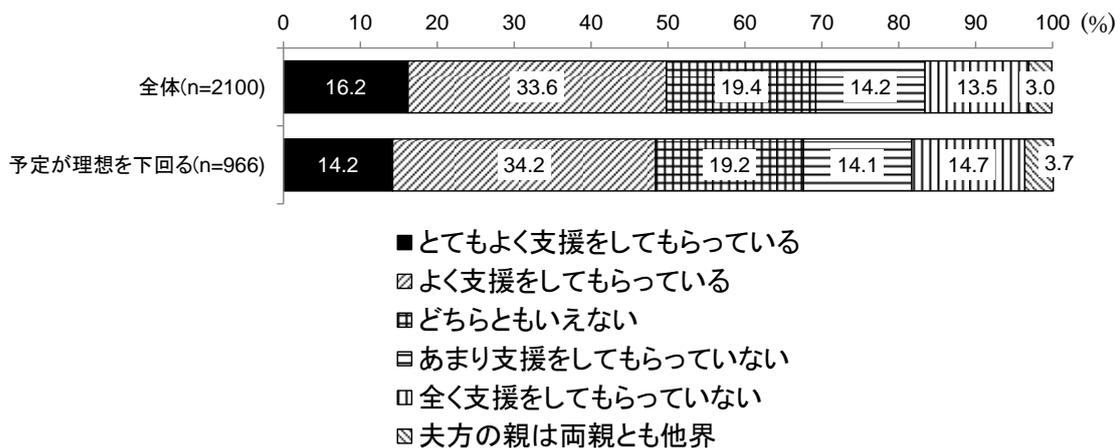


妻方の親からの子育て支援について、子どもがいると3人以上では、あまり違いはみられない。

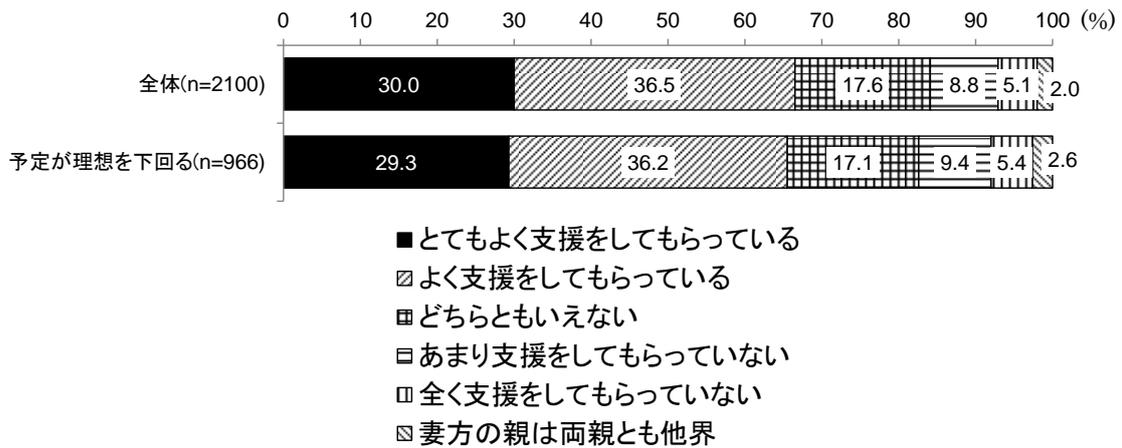


【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

夫方の親からの子育て支援について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

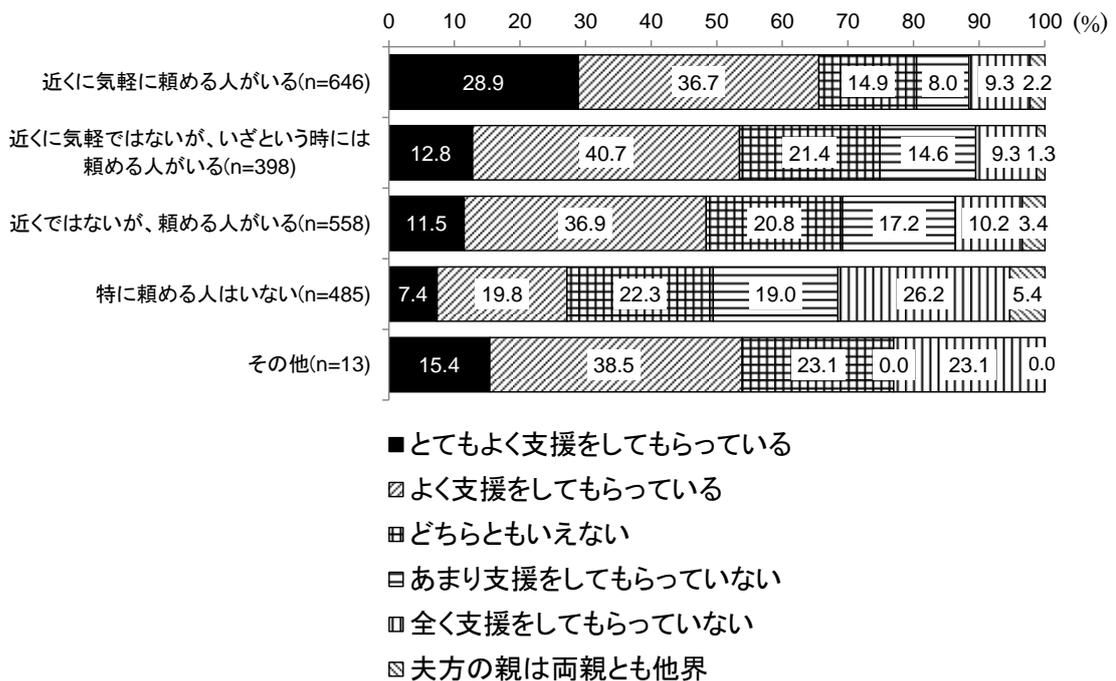


妻方の親からの子育て支援について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

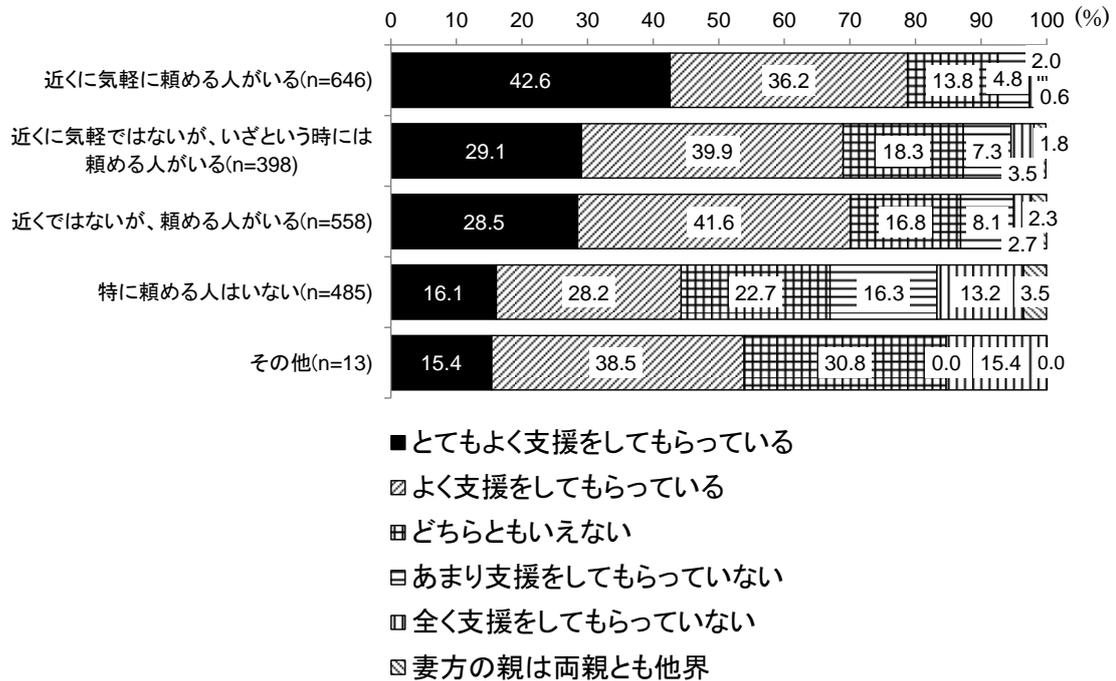


【世話を頼める知人等の有無別】

夫方の親からの子育て支援について、近くに気軽に頼める人がいるでは「とてもよく支援をもらっている」、特に頼める人はいないでは「あまり支援をもらっていない」「全く支援をもらっていない」と回答した割合が高い。

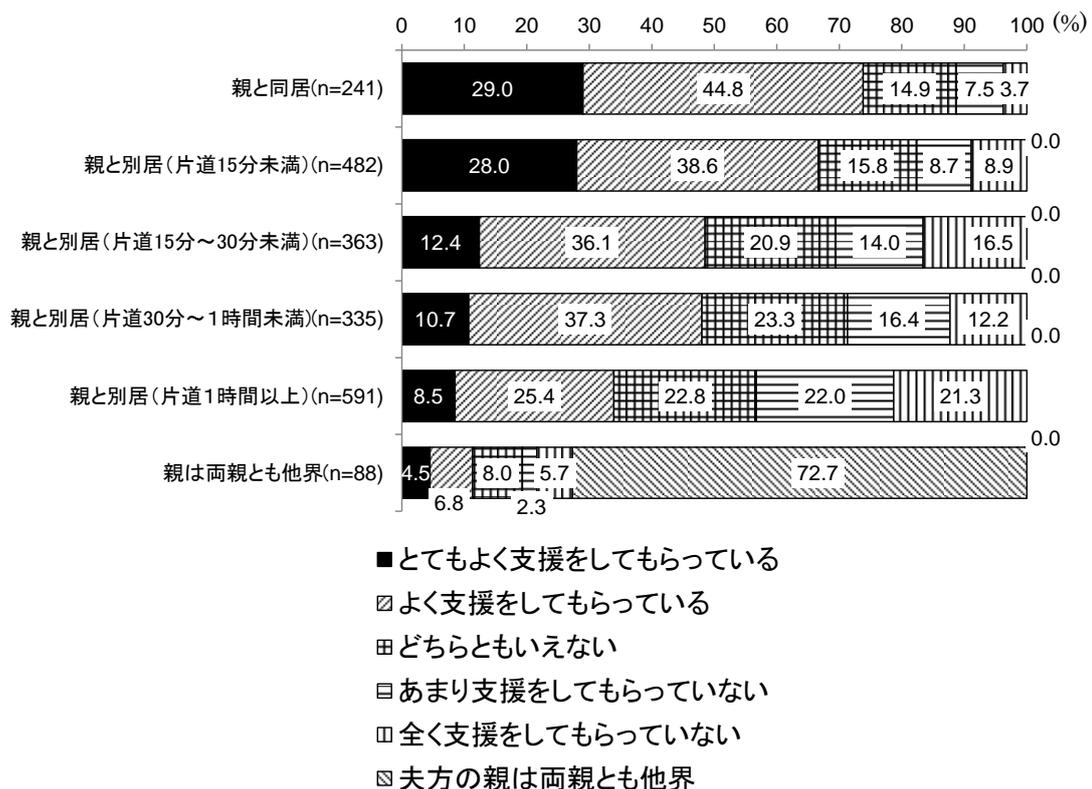


妻方の親からの子育て支援について、近くに気軽に頼める人がいるでは「とてもよく支援をしてもらっている」、特に頼める人はいないでは「あまり支援をしてもらっていない」「全く支援をもらっていない」と回答した割合が高い。

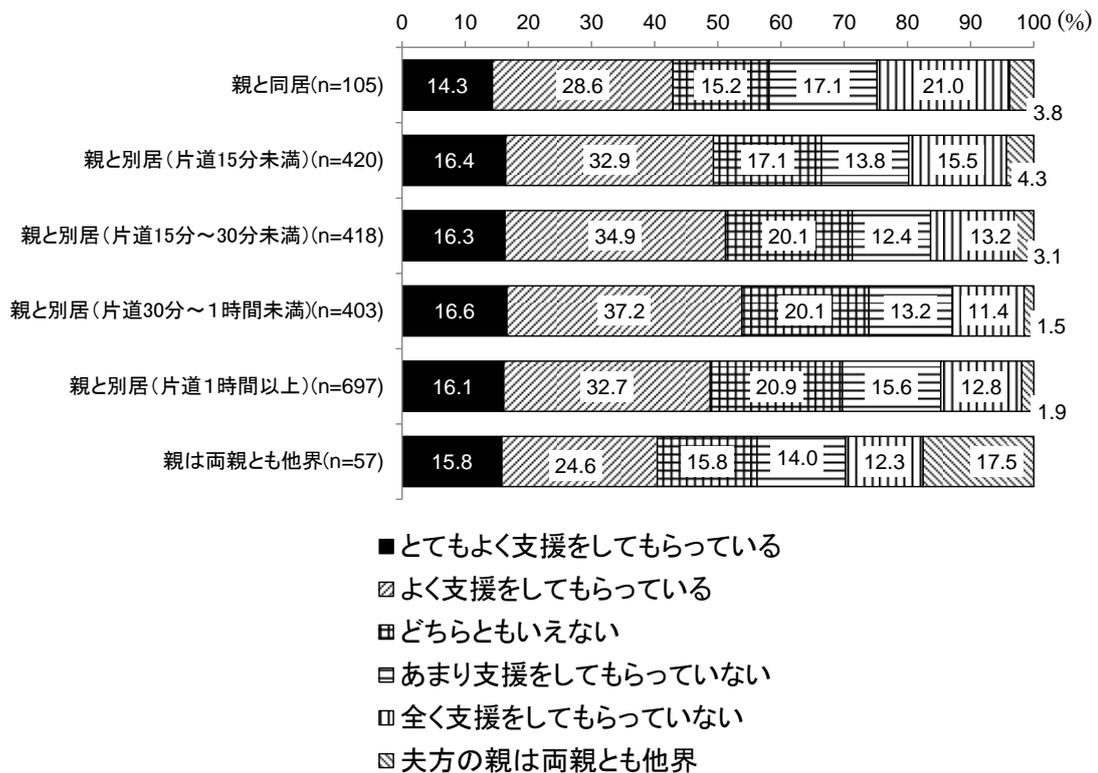


【親との居住距離別】

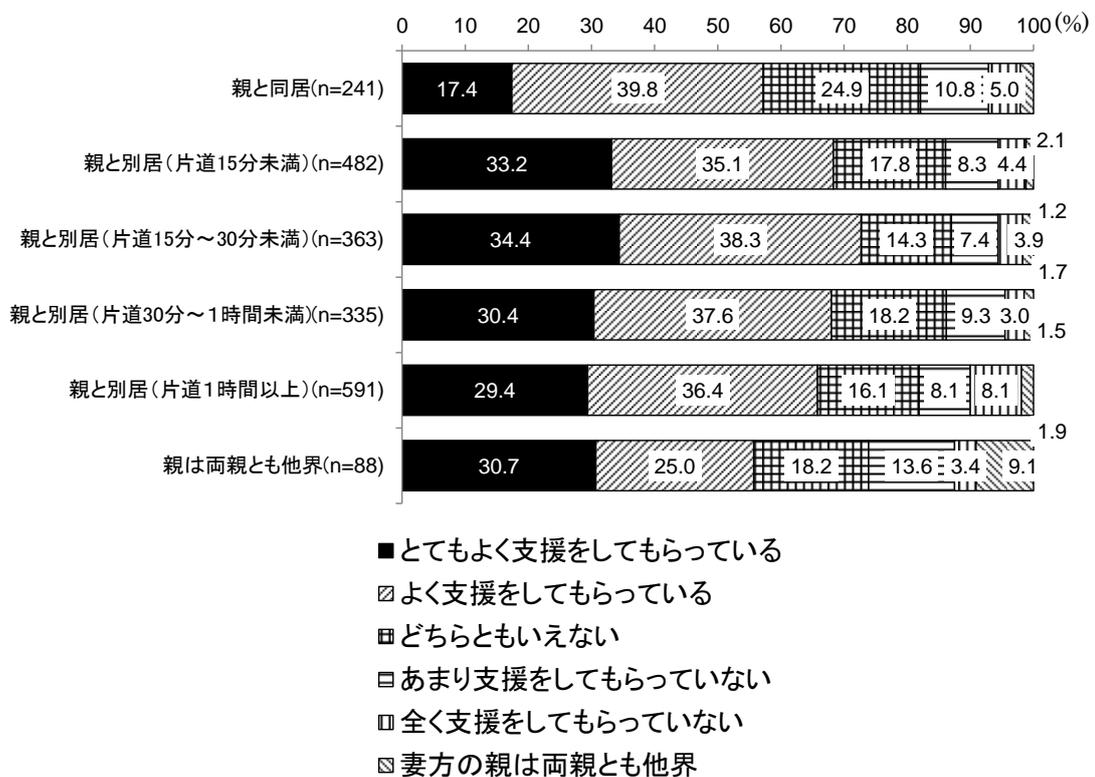
夫方の親からの子育て支援について、夫方の親の住まいとの距離では、親と同居、親と別居（片道 15 分未満）では、「とてもよく支援をもらっている」と回答した割合が高い。



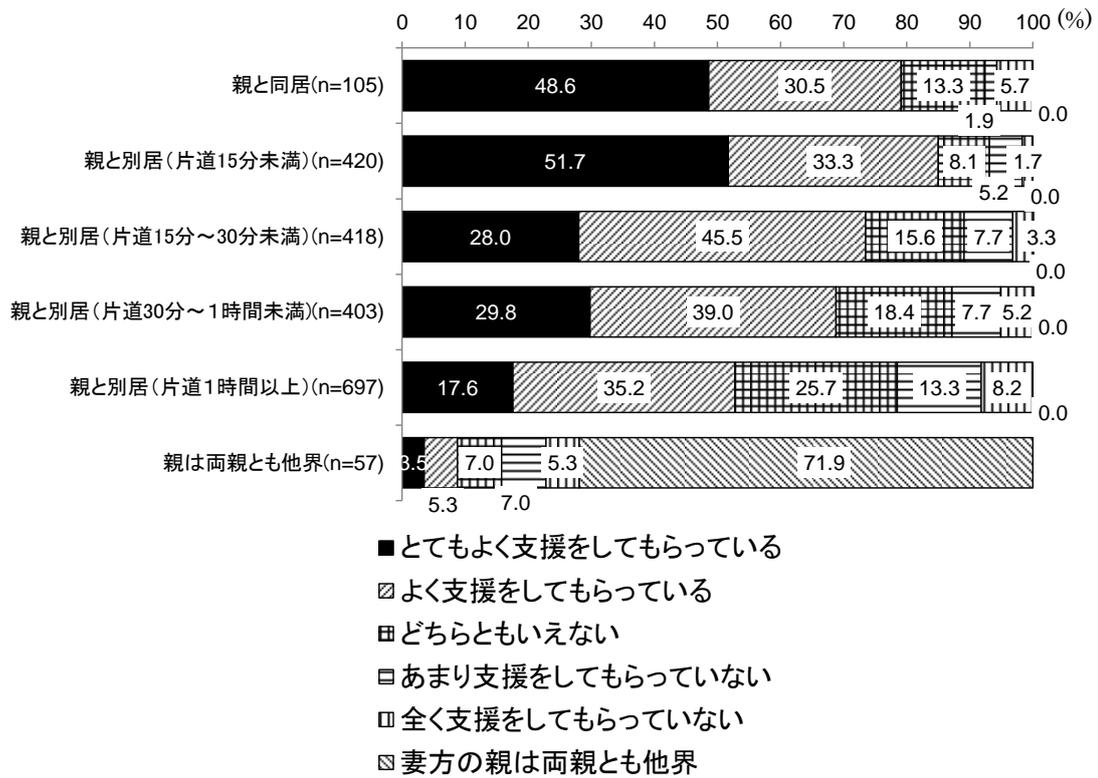
夫方の親からの子育て支援について、妻方の親の住まいとの距離では、親と同居では、「全く支援をしてもらっていない」と回答した割合が高い。



妻方の親からの子育て支援について、夫方の親の住まいとの距離では、親と同居では、「とてもよく支援をされている」と回答した割合が低く、「どちらともいえない」と回答した割合が高い。



妻方の親からの子育て支援について、妻方の親の住まいとの距離では、親と同居、親と別居（片道 15 分未満）では、「とてもよく支援をしてもらっている」と回答した割合が高い。



(Q34で「とてもよく支援をしてもらっている」又は「よく支援をもらっている」と回答した方)

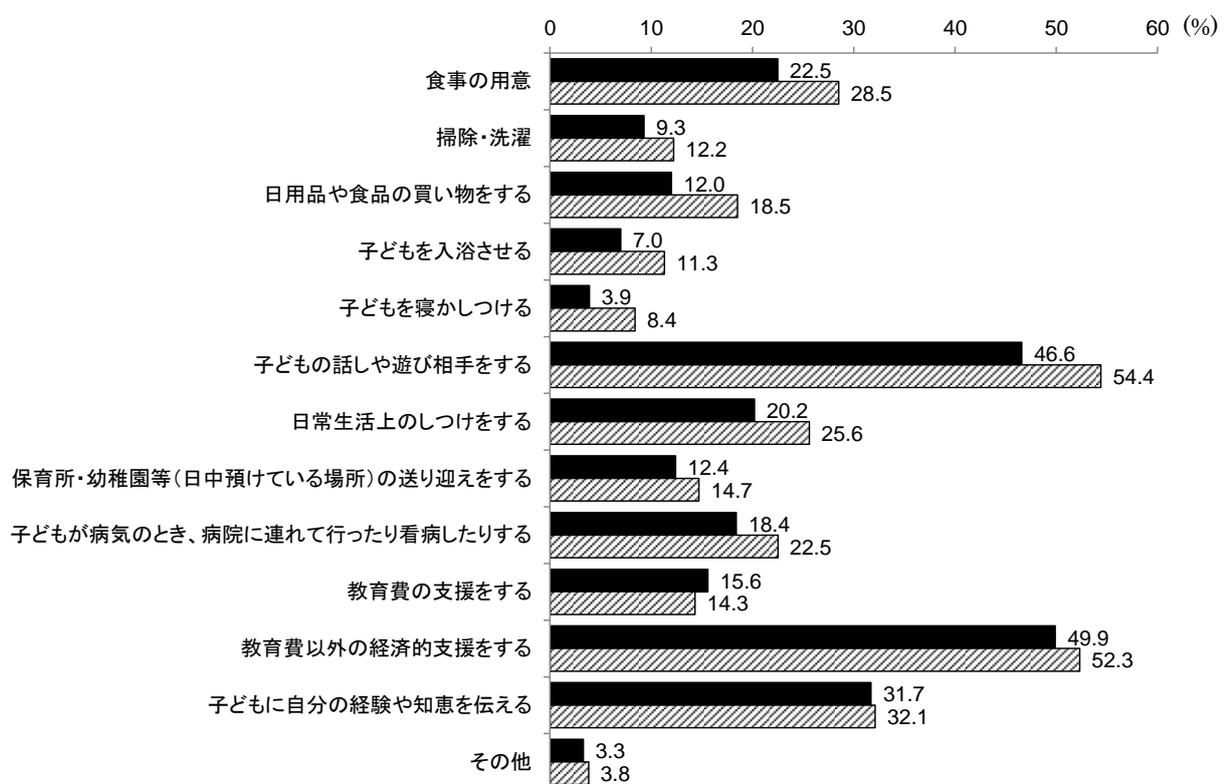
Q36.夫方の親から、どのような子育て支援をしてもらっていますか。(〇はいくつでも)

(Q35で「とてもよく支援をもらっている」又は「よく支援をもらっている」と回答した方)

Q37.妻方の親から、どのような子育て支援をもらっていますか。(〇はいくつでも)

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、「教育費以外の経済的支援をする」が49.9%と最も高く、次いで「子どもの話しや遊び相手をする」(46.6%)、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(31.7%)となっている。

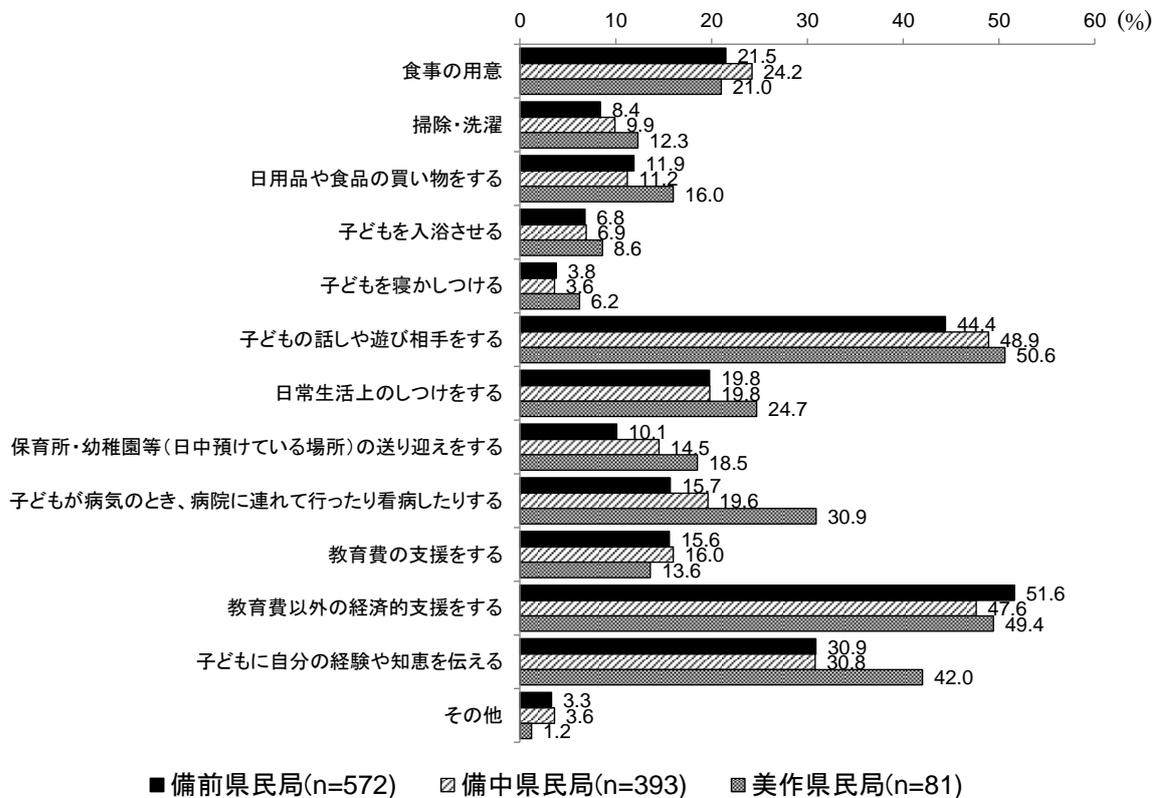
妻方の親からしてもらっている子育て支援について、「子どもの話しや遊び相手をする」が54.4%と最も高く、次いで「教育費以外の経済的支援をする」(52.3%)、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(32.1%)となっている。



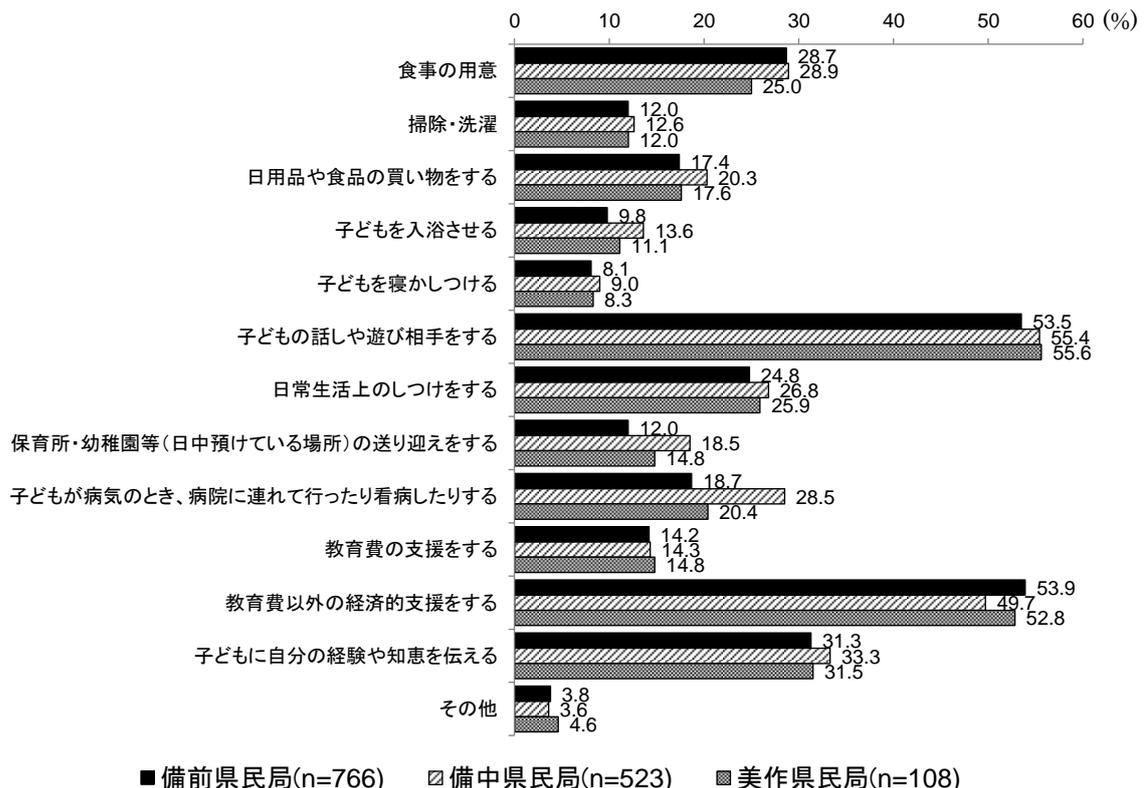
■ 夫方の親からの子育て支援(n=1046) ▨ 妻方の親からの子育て支援(n=1397)

【居住地別】

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、居住地別では、美作県民局で「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が高い。

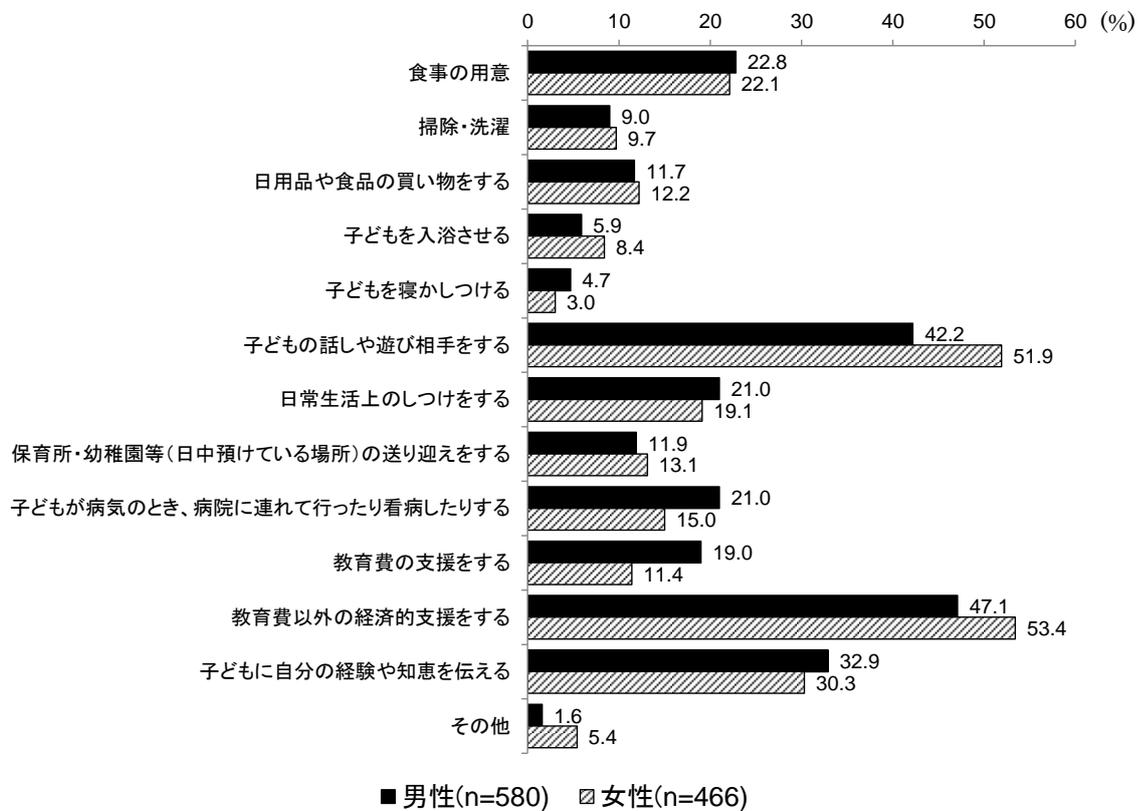


妻方の親からしてもらっている子育て支援について、居住地別では、備中県民局で「保育所・幼稚園等(日中預けている場所)の送り迎えをする」「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」と回答した割合が高い。

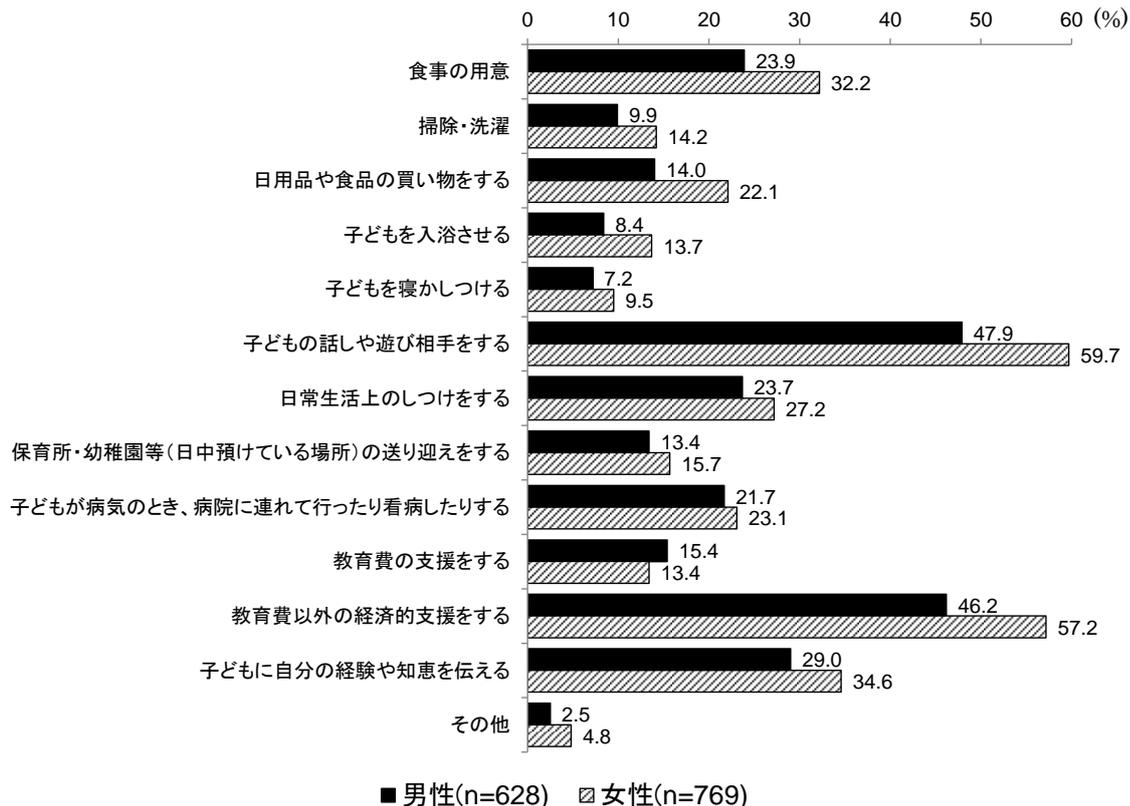


【性別】

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、男性では、女性と比べて、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」「教育費の支援をする」と回答した割合が高く、「子どもの話しや遊び相手をする」「教育費以外の経済的支援をする」と回答した割合が低い。

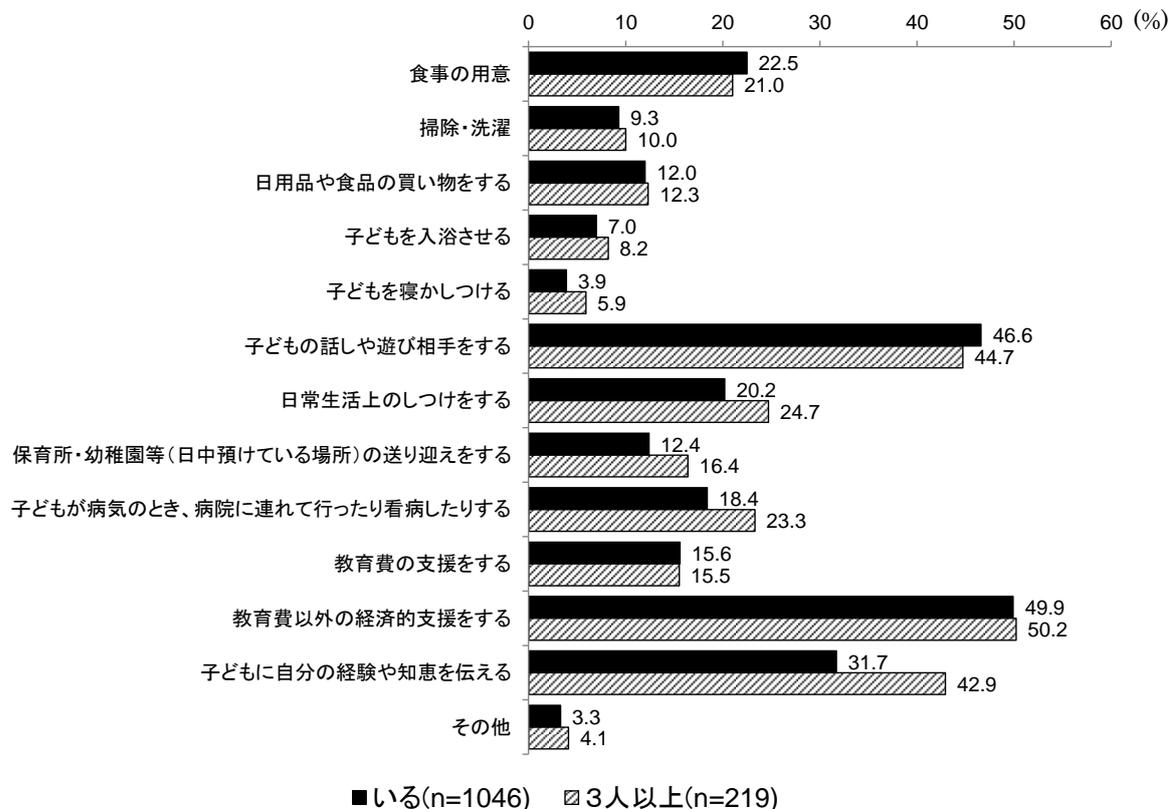


妻方の親からしてもらっている子育て支援について、男性では、女性と比べて、「食事の用意」「日用品や食品の買い物をする」「子どもを入浴させる」「子どもの話しや遊び相手をする」「教育費以外の経済的支援をする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が低い。

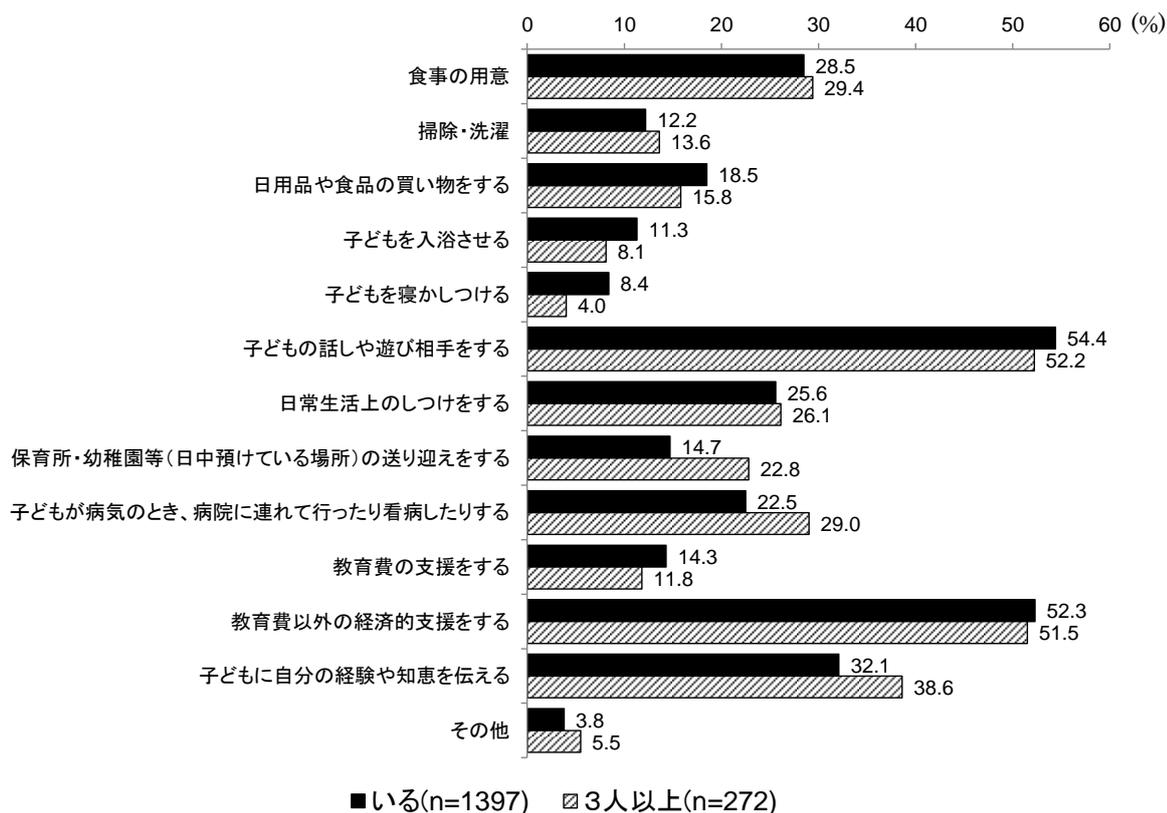


【子ども数別】

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、子どもが3人以上では、子どもがいると比べて、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が高い。

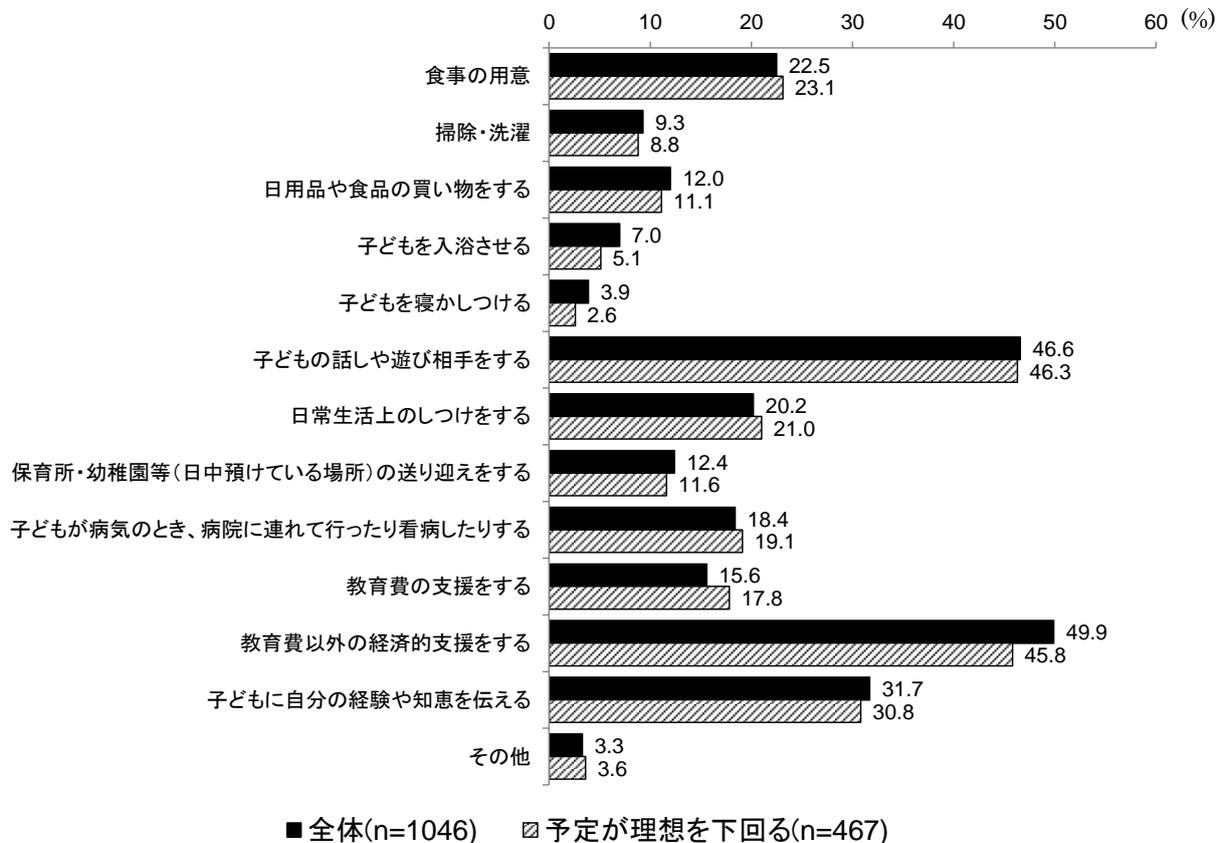


妻方の親からしてもらっている子育て支援について、子どもが3人以上では、子どもがいると比べて、「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」「子どもが病気のとて、病院に連れて行ったり看病したりする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」と回答した割合が高い。

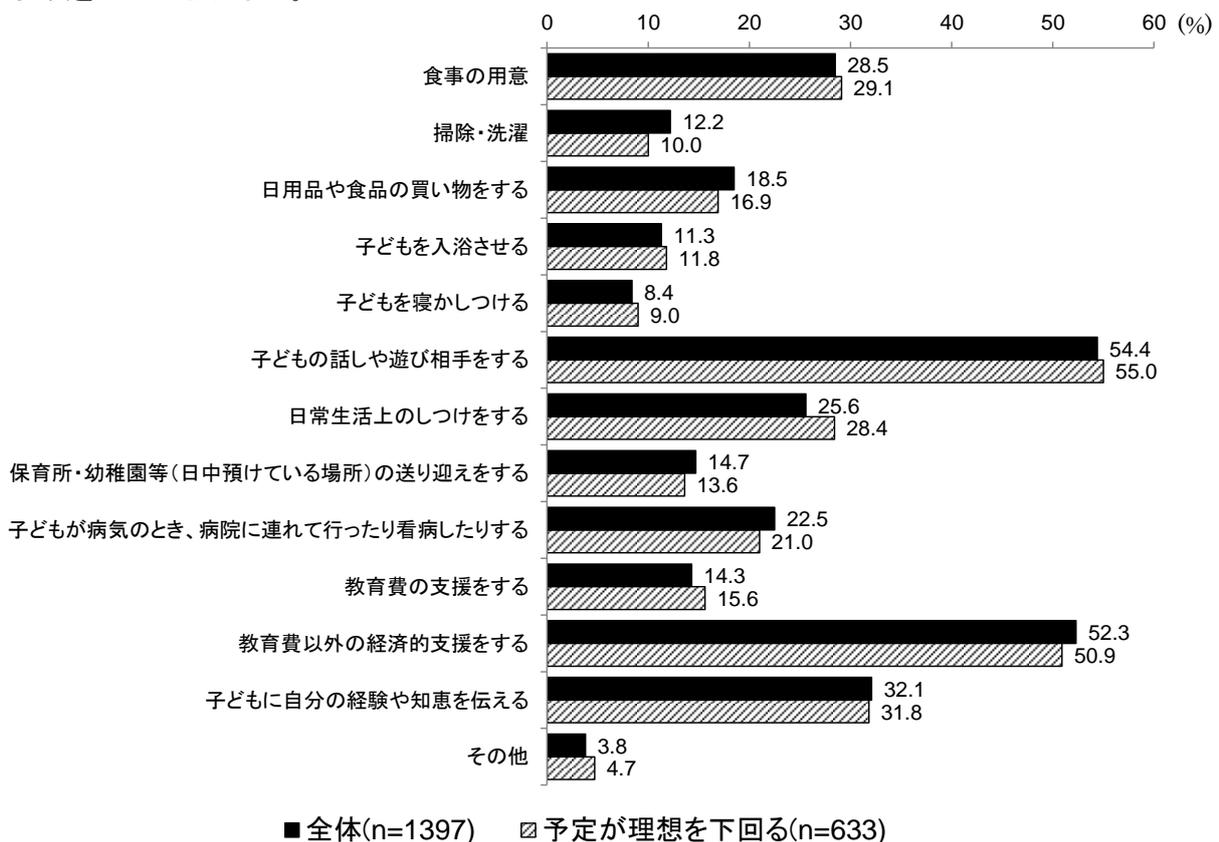


【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。

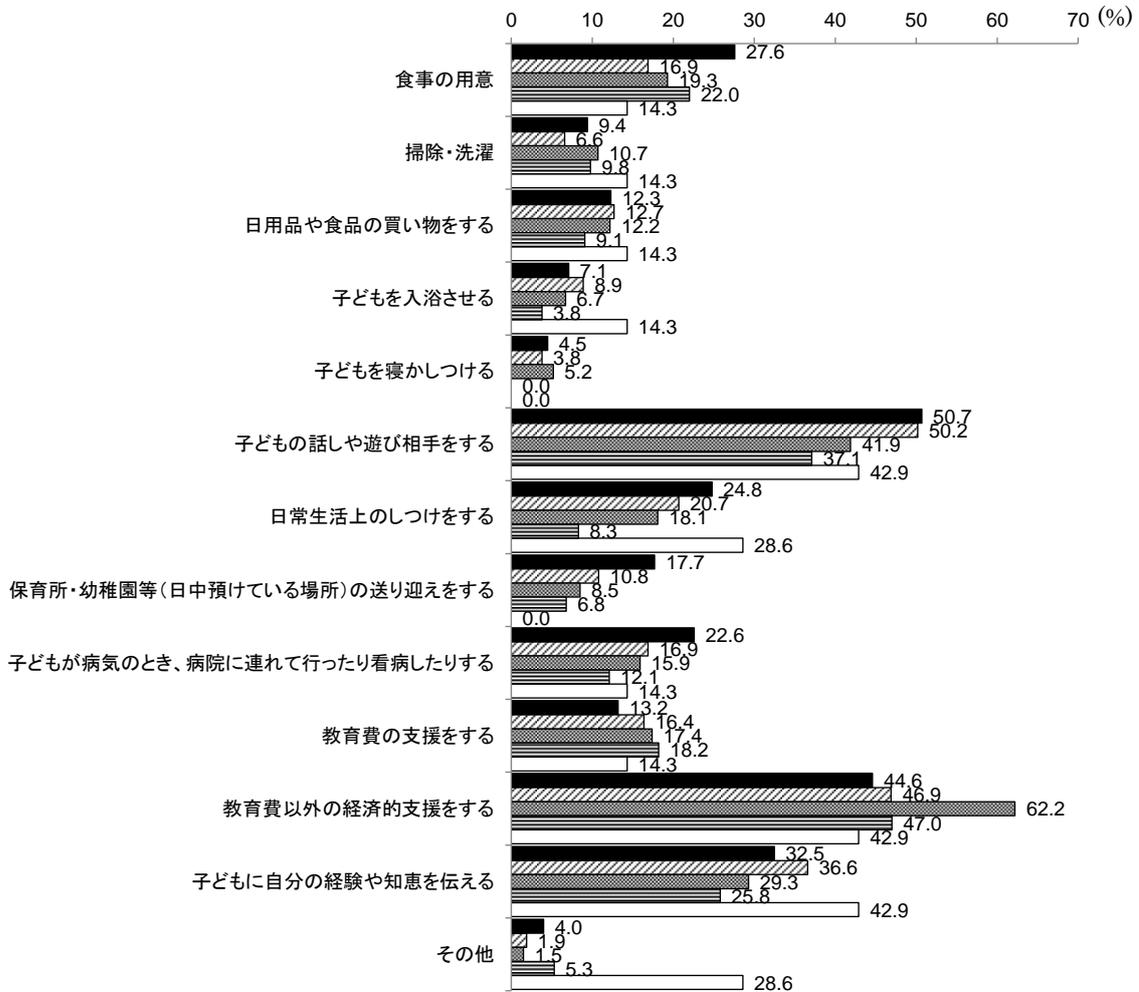


妻方の親からしてもらっている子育て支援について、全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



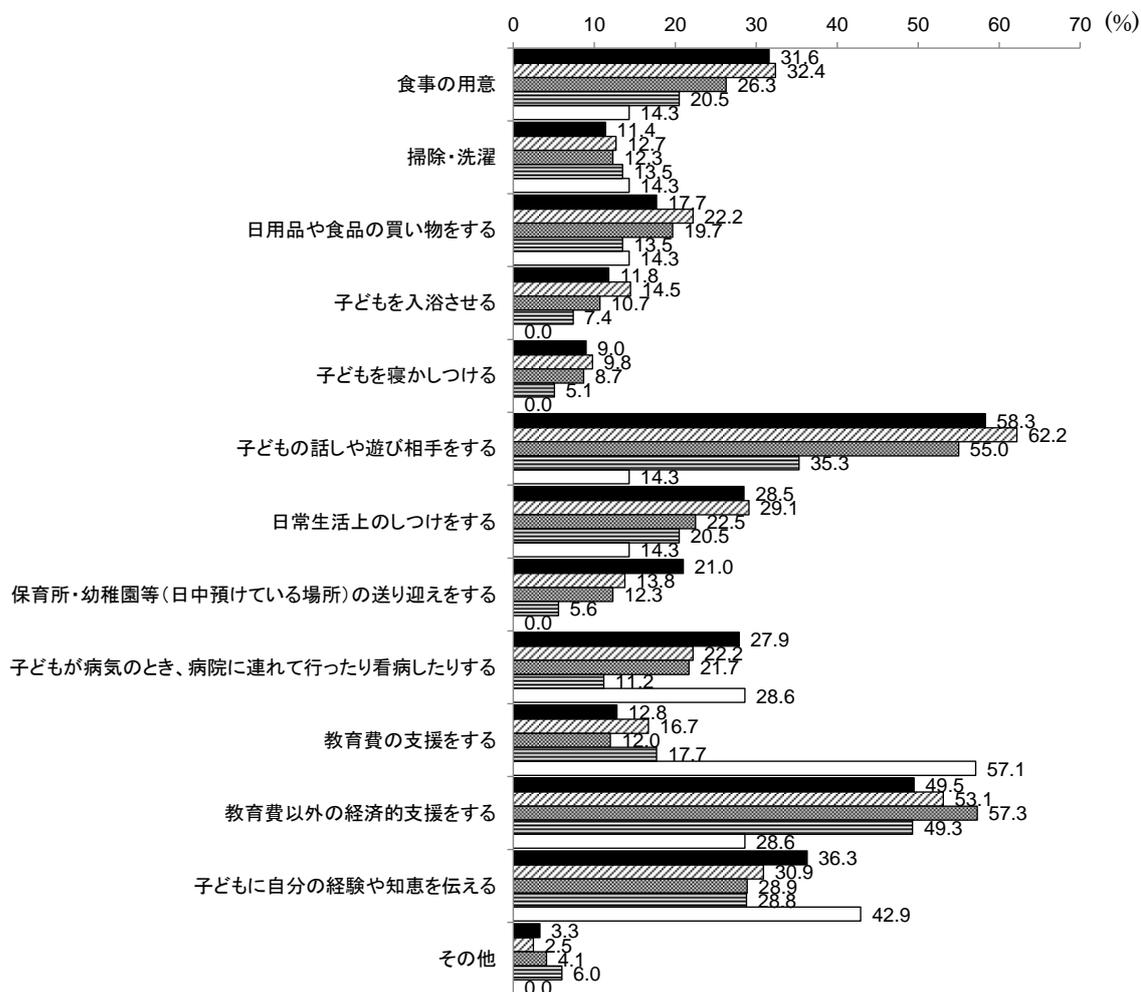
【世話を頼める知人等の有無別】

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、近くではないが、頼める人がいるでは、「教育費以外の経済的支援をする」と回答した割合が高い。また、「子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」「子どもが病気のと、病院に連れて行ったり看病したりする」では、気軽に頼める人がいる人ほど回答割合が高い。



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=424)
- ▨ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=213)
- ▩ 近くではないが、頼める人がいる(n=270)
- ▬ 特に頼める人はいない(n=132)
- その他(n=7)

妻方の親からしてもらっている子育て支援について、「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」「子どもに自分の経験や知恵を伝える」では、気軽に頼める人がいる人ほど回答割合が高い。



- 近く(歩いて30分以内)に気軽に頼める人がいる(n=509)
- ▨ 近く(歩いて30分以内)に気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=275)
- ▩ 近くではないが、頼める人がいる(n=391)
- ▮ 特に頼める人はいない(n=215)
- その他(n=7)

【親との居住距離別】

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、夫方の親の住まいとの距離では、親と同居で「食事の用意」「掃除・洗濯」「日用品や食品の買い物をする」「子どもを入浴させる」「子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」と回答した割合が高い。また、親と別居（片道15分未満）で「子どもの話しや遊び相手をする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」、親と別居（片道30分～1時間未満）、親と別居（片道1時間以上）では「教育費以外の経済的支援をする」と回答した割合が高い。

夫方の親との居住距離	(集計客体数)	食事の用意	掃除・洗濯	日用品や食品の買い物をする	子どもを入浴させる	子どもを寝かしつける	子どもの話しや遊び相手をする	日常生活上のしつけをする	保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする	子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする	教育費以外の経済的支援をする	子どもに自分の経験や知恵を伝える	その他	
親と同居	(n=178)	47.2%	36.0%	27.0%	16.3%	9.0%	55.1%	37.6%	17.4%	20.2%	10.1%	34.8%	38.8%	1.1%
親と別居(片道15分未満)	(n=321)	25.2%	2.5%	10.0%	6.5%	2.5%	57.6%	25.5%	22.7%	28.7%	11.8%	45.5%	32.7%	2.8%
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=176)	15.9%	5.7%	10.2%	4.0%	3.4%	40.9%	12.5%	9.1%	17.6%	15.9%	48.3%	31.3%	3.4%
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=161)	13.7%	2.5%	8.7%	5.0%	3.1%	44.1%	11.8%	4.3%	11.2%	15.5%	60.2%	27.3%	0.6%
親と別居(片道1時間以上)	(n=200)	9.0%	5.5%	6.5%	3.5%	3.0%	30.0%	10.0%	1.5%	6.5%	25.0%	64.5%	29.0%	7.0%
親は両親とも他界	(n=10)	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	10.0%	0.0%	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%	20.0%

夫方の親からしてもらっている子育て支援について、妻方の親の住まいとの距離では、親と同居で「掃除・洗濯」「子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」と回答した割合が低い。

妻方の親との居住距離	(集計客体数)	食事の用意	掃除・洗濯	日用品や食品の買い物をする	子どもを入浴させる	子どもを寝かしつける	子どもの話しや遊び相手をする	日常生活上のしつけをする	保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする	子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする	教育費以外の経済的支援をする	子どもに自分の経験や知恵を伝える	その他	
親と同居	(n=45)	15.6%	4.4%	11.1%	8.9%	2.2%	24.4%	6.7%	2.2%	4.4%	20.0%	46.7%	28.9%	2.2%
親と別居(片道15分未満)	(n=207)	20.8%	6.3%	10.6%	4.8%	3.4%	41.1%	15.5%	10.6%	15.9%	12.1%	41.5%	25.6%	5.8%
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=214)	24.8%	9.3%	14.5%	5.6%	3.3%	47.7%	19.2%	16.4%	20.1%	15.4%	50.0%	28.0%	0.5%
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=217)	23.5%	12.9%	11.1%	9.2%	4.6%	53.5%	23.0%	14.7%	23.5%	15.2%	50.2%	32.7%	3.2%
親と別居(片道1時間以上)	(n=340)	22.1%	9.4%	12.4%	7.4%	4.7%	47.6%	23.2%	11.8%	17.6%	17.4%	55.3%	37.6%	3.8%
親は両親とも他界	(n=23)	26.1%	8.7%	4.3%	8.7%	0.0%	47.8%	26.1%	0.0%	13.0%	17.4%	47.8%	30.4%	0.0%

妻方の親からしてもらっている子育て支援について、夫方の親の住まいとの距離では、親と同居では「食事の用意」「子どもの話しや遊び相手をする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」と回答した割合が低い。また、親と別居（片道 30 分～1 時間未満）で「食事の用意」と回答した割合が高い。

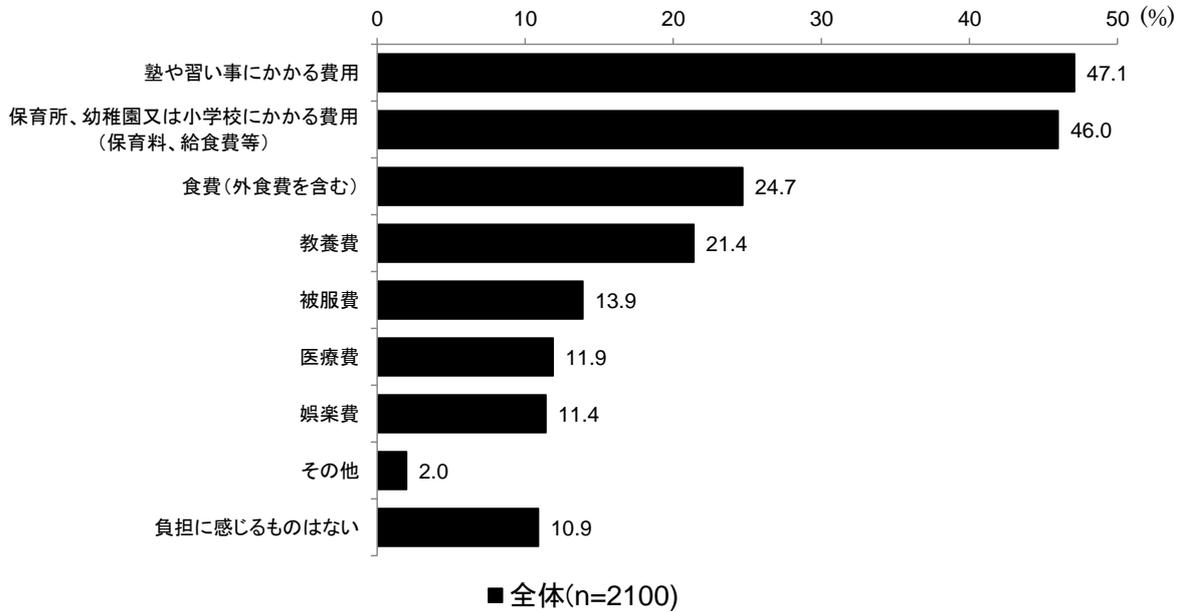
夫方の親との居住距離	(集計客体数)	食事の用意	掃除・洗濯	日用品や食品の買い物をする	子どもを入浴させる	子どもを寝かしつける	子どもの話しや遊び相手をする	日常生活上のしつけをする	保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする	子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする	教育費の支援をする	教育費以外の経済的支援をする	子どもに自分の経験や知恵を伝える	その他
親と同居	(n=138)	15.9%	10.1%	15.2%	8.7%	8.0%	45.7%	23.9%	8.0%	13.8%	12.3%	50.7%	36.2%	3.6%
親と別居(片道15分未満)	(n=329)	24.9%	8.5%	13.7%	10.6%	7.0%	55.9%	25.2%	13.1%	21.3%	12.2%	52.3%	29.8%	4.6%
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=264)	29.9%	12.1%	20.8%	13.6%	10.2%	56.4%	27.7%	15.9%	26.5%	12.1%	46.2%	36.4%	4.2%
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=228)	35.7%	12.3%	20.6%	11.8%	8.3%	57.9%	29.4%	21.1%	25.9%	13.6%	54.4%	30.7%	2.2%
親と別居(片道1時間以上)	(n=389)	31.4%	15.9%	21.3%	11.3%	9.8%	53.2%	23.9%	14.1%	21.9%	18.8%	55.5%	29.3%	3.9%
親は両親とも他界	(n=49)	26.5%	14.3%	14.3%	8.2%	0.0%	51.0%	18.4%	12.2%	22.4%	14.3%	53.1%	40.8%	4.1%

妻方の親からしてもらっている子育て支援について、妻方の親の住まいとの距離では、親と同居で「食事の用意」「掃除・洗濯」「日用品や食品の買い物をする」「子どもを寝かしつける」「日常生活上のしつけをする」「保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする」、親と別居（片道 15 分未満）で「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」、親と別居（片道 30 分～1 時間未満）、親と別居（片道 1 時間以上）で「教育費以外の経済的支援をする」と回答した割合が高い。

妻方の親との居住距離	(集計客体数)	食事の用意	掃除・洗濯	日用品や食品の買い物をする	子どもを入浴させる	子どもを寝かしつける	子どもの話しや遊び相手をする	日常生活上のしつけをする	保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎えをする	子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする	教育費の支援をする	教育費以外の経済的支援をする	子どもに自分の経験や知恵を伝える	その他
親と同居	(n=83)	56.6%	50.6%	33.7%	13.3%	14.5%	59.0%	39.8%	31.3%	26.5%	12.0%	32.5%	32.5%	0.0%
親と別居(片道15分未満)	(n=357)	40.9%	9.2%	18.8%	13.7%	7.3%	64.1%	27.7%	28.9%	34.2%	12.9%	44.3%	33.9%	3.6%
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=307)	25.7%	9.1%	18.2%	8.8%	8.5%	54.4%	25.7%	13.4%	26.1%	12.7%	49.5%	27.4%	4.6%
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=277)	25.6%	12.3%	19.9%	14.1%	9.4%	59.9%	27.1%	6.9%	20.6%	11.2%	57.0%	33.2%	2.9%
親と別居(片道1時間以上)	(n=368)	14.9%	9.0%	13.9%	8.4%	7.6%	40.2%	19.6%	4.1%	9.0%	19.8%	63.3%	33.4%	4.9%
親は両親とも他界	(n=5)	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%

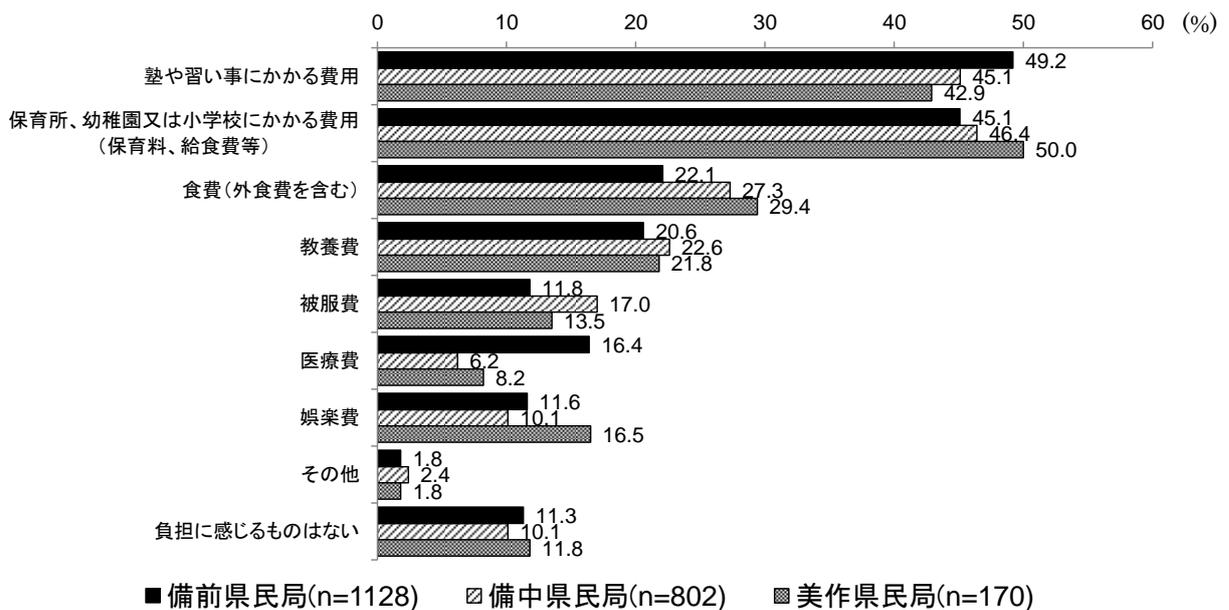
Q38.お子さんの子育てにかかる費用のうち、特に経済的に負担に感じるのは何ですか。(〇は3つまで)

「塾や習い事にかかる費用」が47.1%と最も高く、次いで「保育所、幼稚園又は小学校にかかる費用」(46.0%)、「食費」(24.7%)となっている。



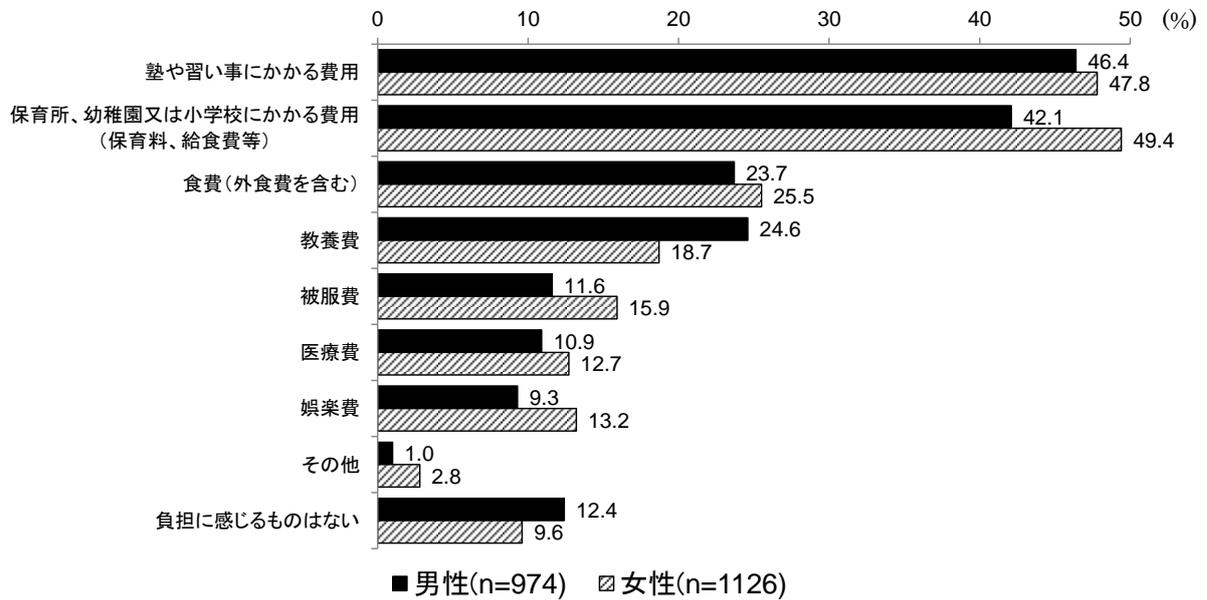
【居住地別】

居住地別では、備前県民局で「塾や習い事にかかる費用」「医療費」、美作県民局で「保育所、幼稚園又は小学校にかかる費用」「食費(外食費を含む)」「娯楽費」と回答した割合が高い。



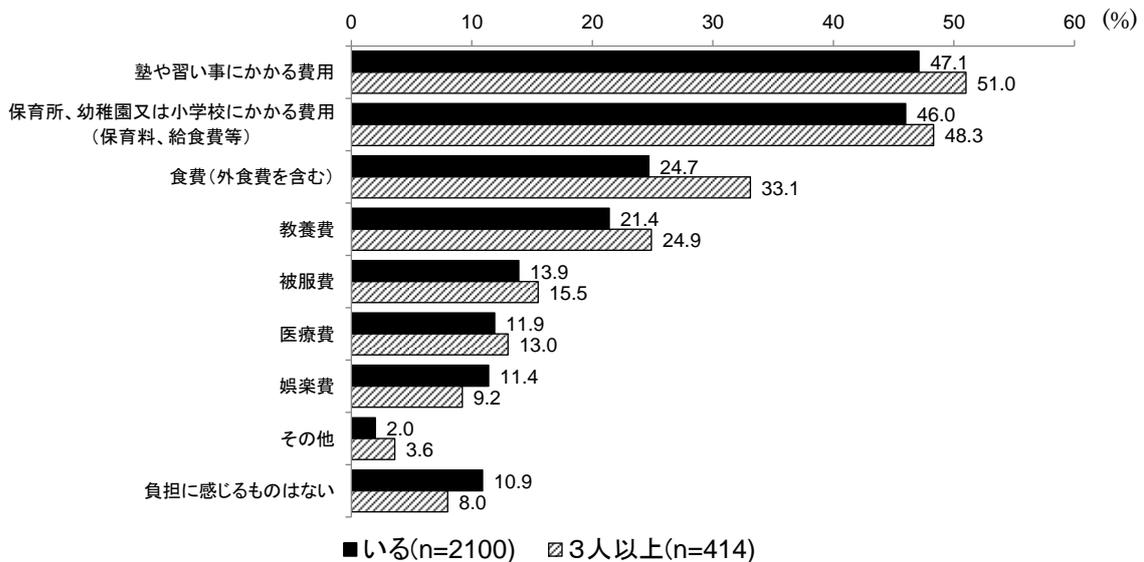
【性別】

男性では、女性と比べて、「教養費」と回答した割合が高く、「保育所、幼稚園又は小学校にかかる費用」と回答した割合が低い。



【子ども数別】

子どもが3人以上では、子どもがいると比べて、「食費(外食費を含む)」と回答した割合が高い。



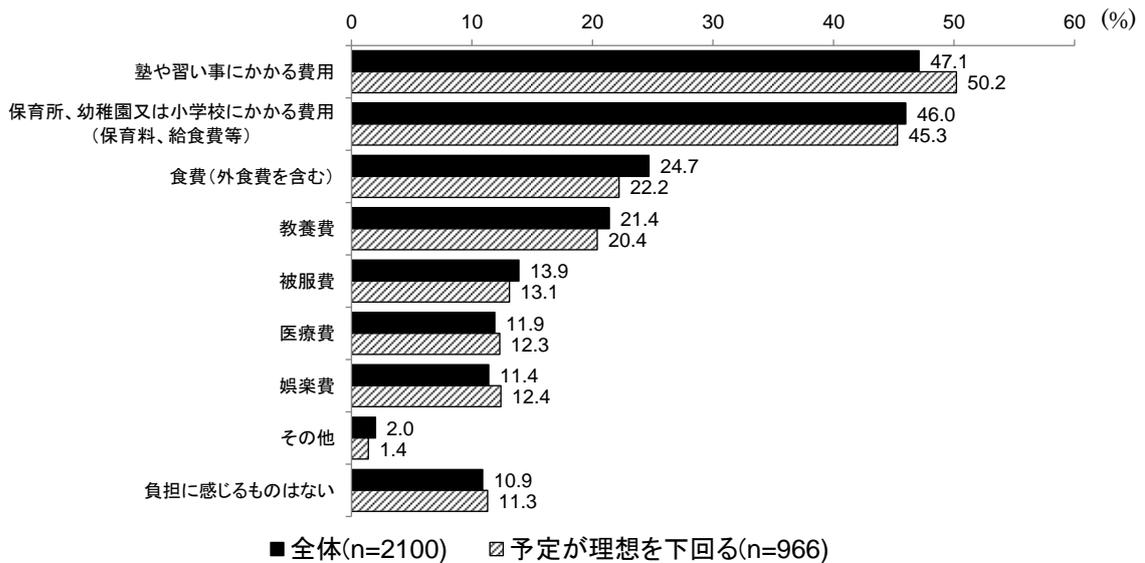
【世帯年収別】

世帯年収では、100～150万円未満で「保育所、幼稚園又は小学校にかかる費用（保育料、給食費等）」「被服費」、150～500万円では「娯楽費」、1,300万円以上では「教養費」と回答した割合が高い。また、1,000万円以上では「保育所、幼稚園又は小学校にかかる費用（保育料、給食費等）」「食費（外食費を含む）」と回答した割合が低い。

世帯年収	(集計客体数)	塾や習い事にかかる費用	保育所、幼稚園又は小学校にかかる費用（保育料、給食費等）	食費（外食費を含む）	教養費	被服費	医療費	娯楽費	その他	負担に感じるものはない
100万円未満	(n=51)	29.4%	45.1%	35.3%	21.6%	9.8%	17.6%	3.9%	2.0%	11.8%
100～150万円未満	(n=18)	33.3%	72.2%	27.8%	22.2%	33.3%	5.6%	5.6%	0.0%	5.6%
150～300万円未満	(n=174)	37.4%	54.6%	39.7%	19.0%	18.4%	7.5%	17.2%	0.6%	9.2%
300～500万円未満	(n=637)	43.6%	51.8%	28.9%	21.4%	15.9%	14.3%	14.9%	3.3%	8.0%
500～700万円未満	(n=628)	54.6%	45.4%	21.8%	22.1%	14.0%	12.7%	10.2%	1.4%	9.1%
700～1,000万円未満	(n=395)	49.4%	40.5%	20.3%	20.3%	8.1%	9.9%	8.4%	1.8%	17.0%
1,000～1,300万円未満	(n=108)	48.1%	29.6%	10.2%	22.2%	13.9%	6.5%	5.6%	2.8%	19.4%
1,300万円以上	(n=43)	39.5%	39.5%	9.3%	30.2%	11.6%	7.0%	9.3%	0.0%	14.0%
なし	(n=46)	41.3%	23.9%	21.7%	21.7%	17.4%	13.0%	10.9%	0.0%	8.7%

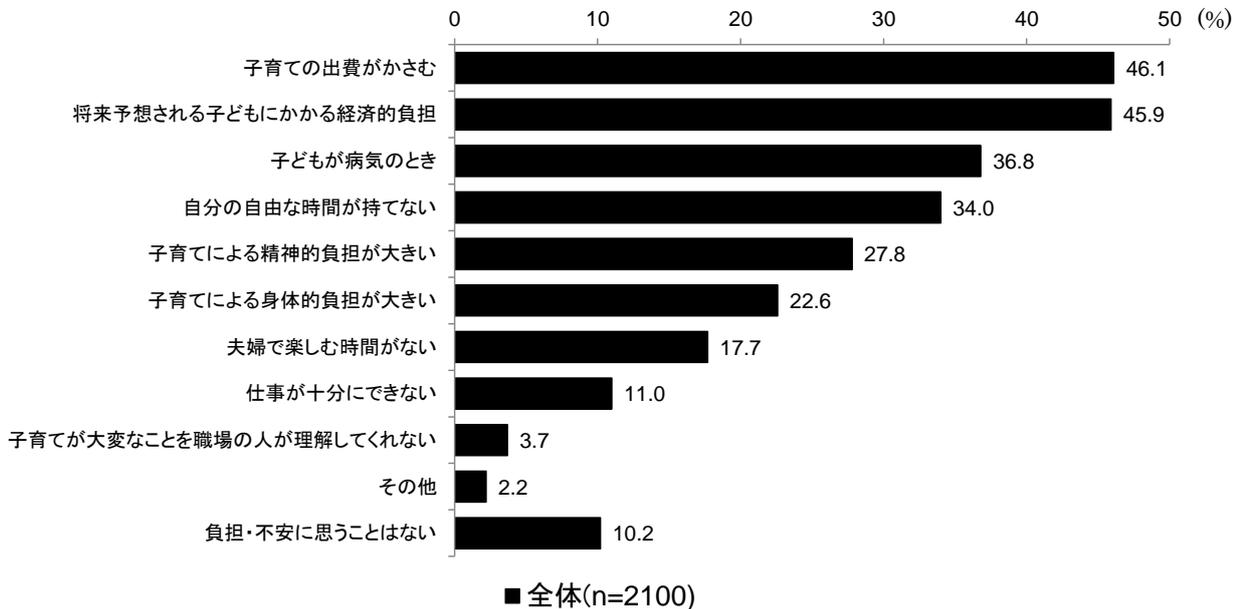
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



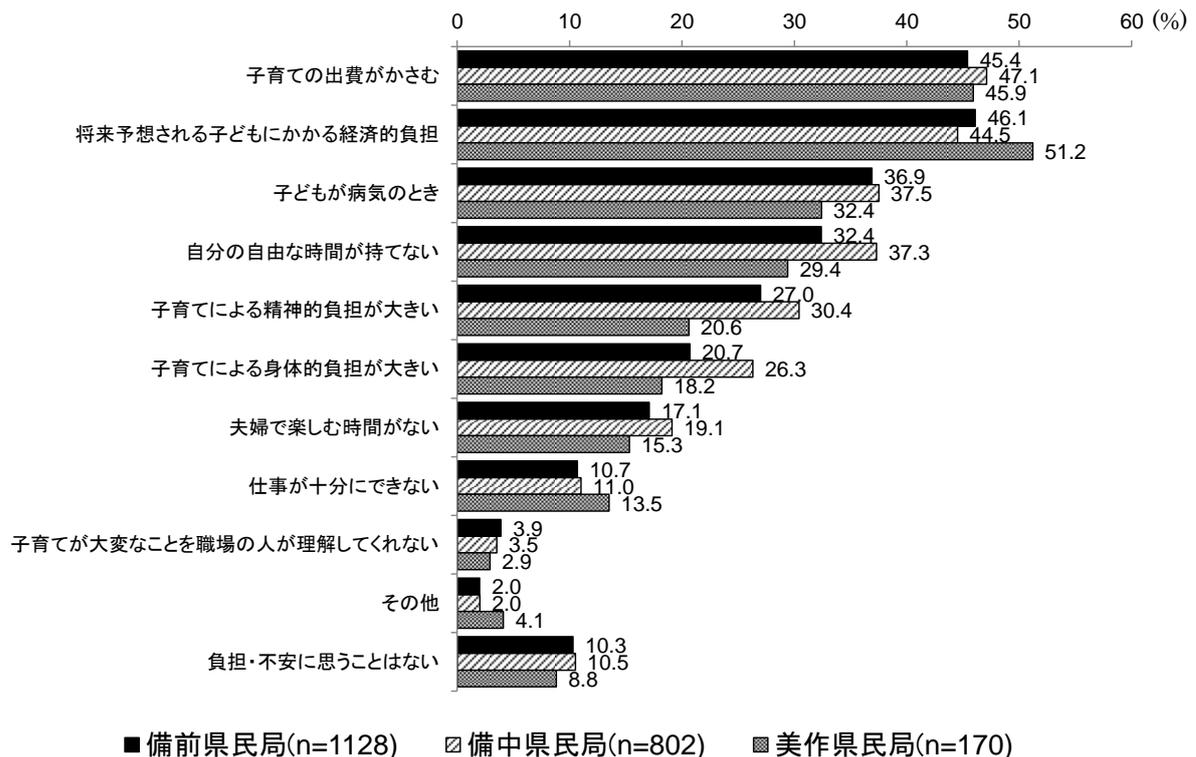
Q39.子育てをしていて負担・不安に思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

「子育ての出費がかさむ」が46.1%と最も高く、次いで「将来予想される子どもにかかる経済的負担」(45.9%)、「子どもが病気のとてき」(36.8%)となっている。



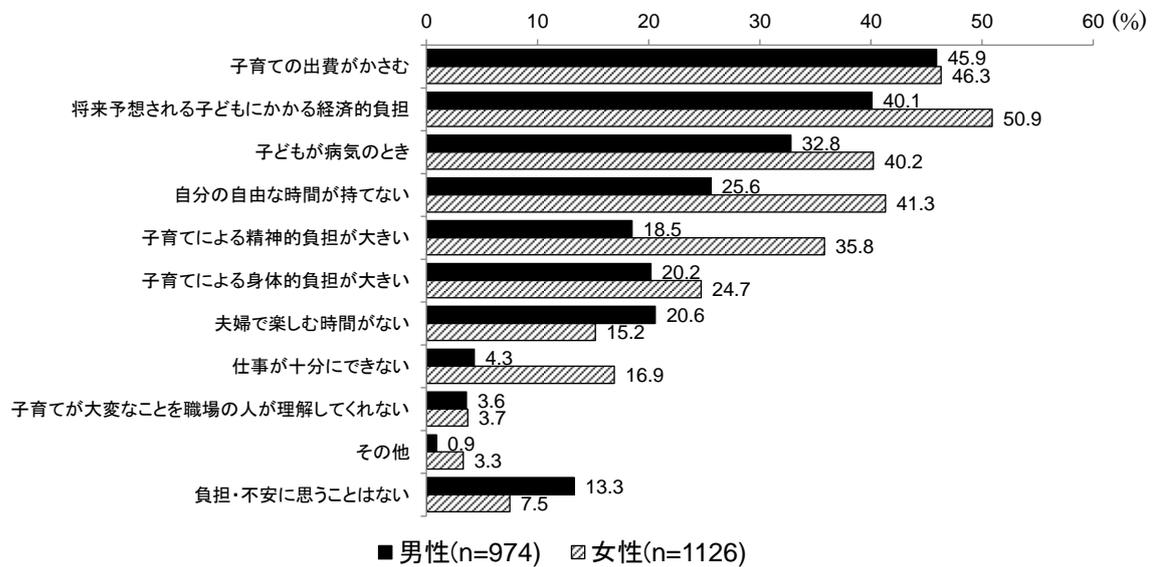
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「将来予想される子どもにかかる経済的負担」と回答した割合が高く、「子どもが病気のとてき」「子育てによる精神的負担が大きい」と回答した割合が低い。また、備中県民局では、「子育てによる身体的負担が大きい」と回答した割合が高い。



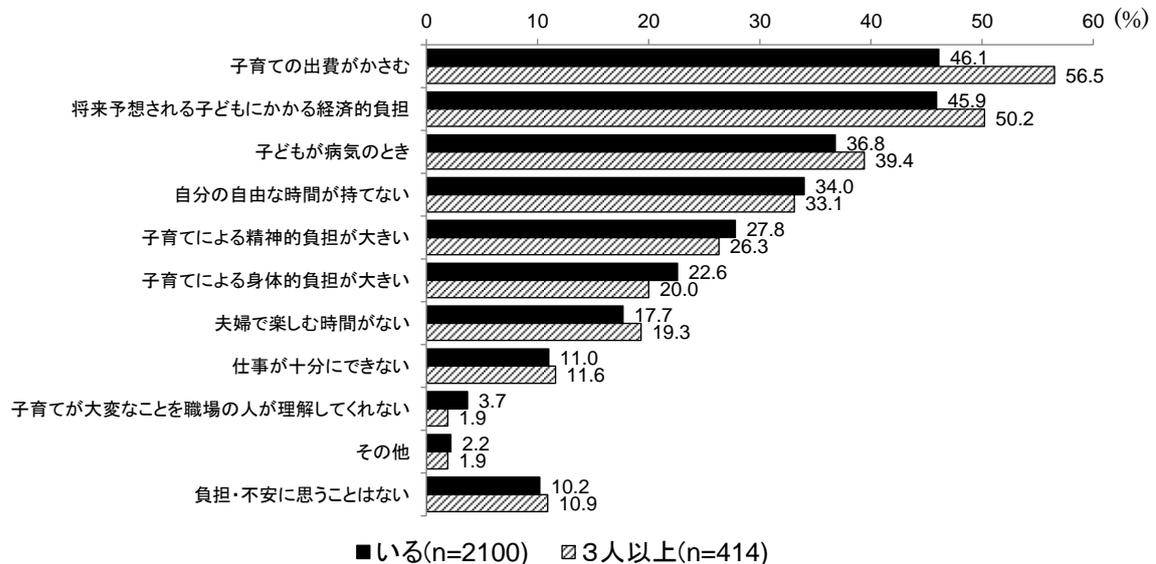
【性別】

男性では、女性と比べて、「夫婦で楽しむ時間がない」「負担・不安に思うことはない」と回答した割合が高く、「将来予想される子どもにかかる経済的負担」「子どもが病気の時」「自分の自由な時間が持てない」「子育てによる精神的負担が大きい」「仕事が十分にできない」と回答した割合が低い。



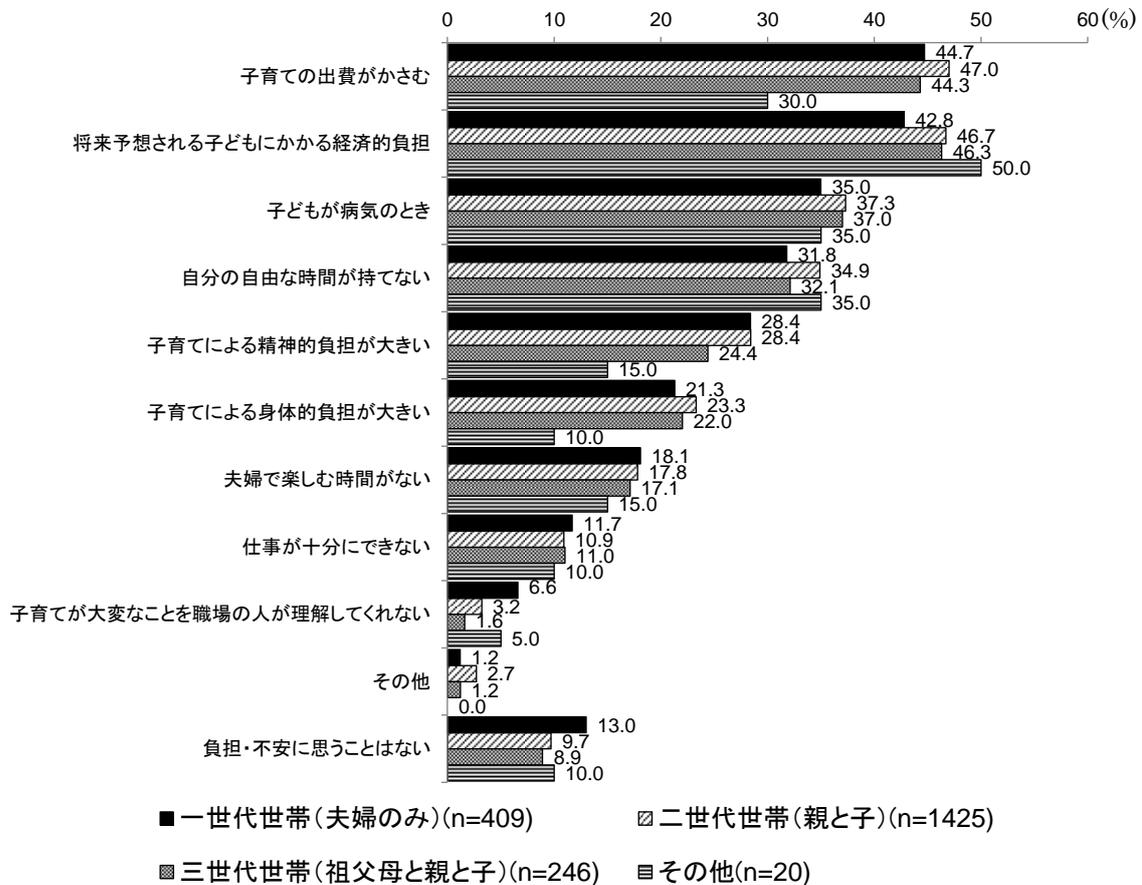
【子ども数別】

子どもが3人以上では、子どもがいると比べて、「子育ての出費がかさむ」と回答した割合が高い。



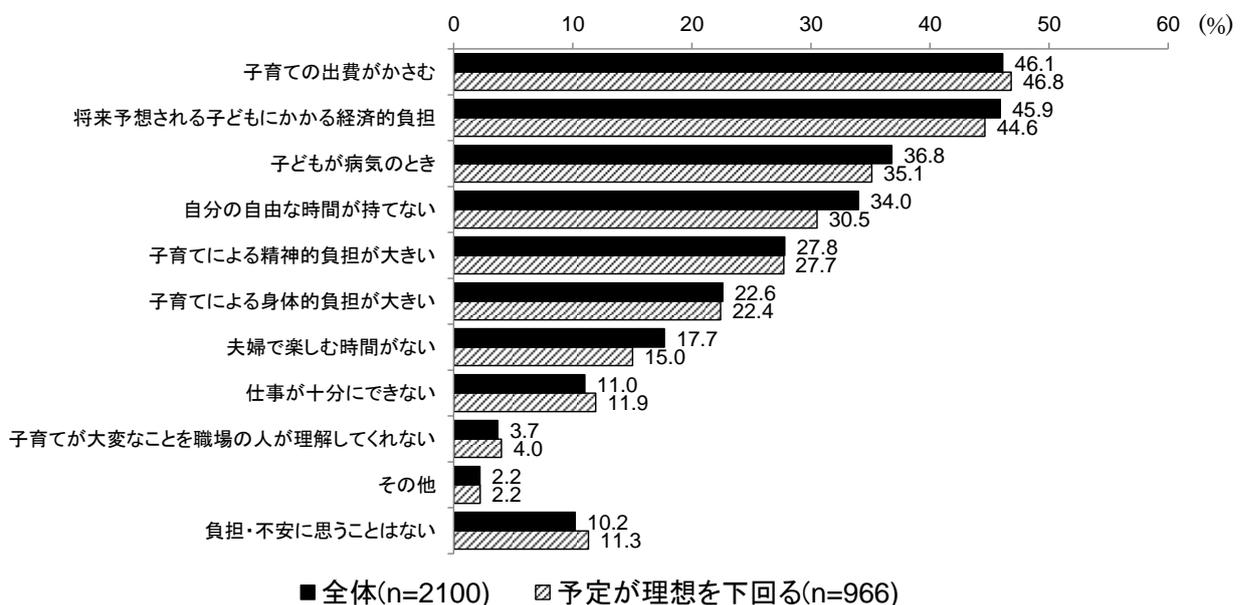
【世帯構成別】

世帯構成別では、あまり違いはみられない。



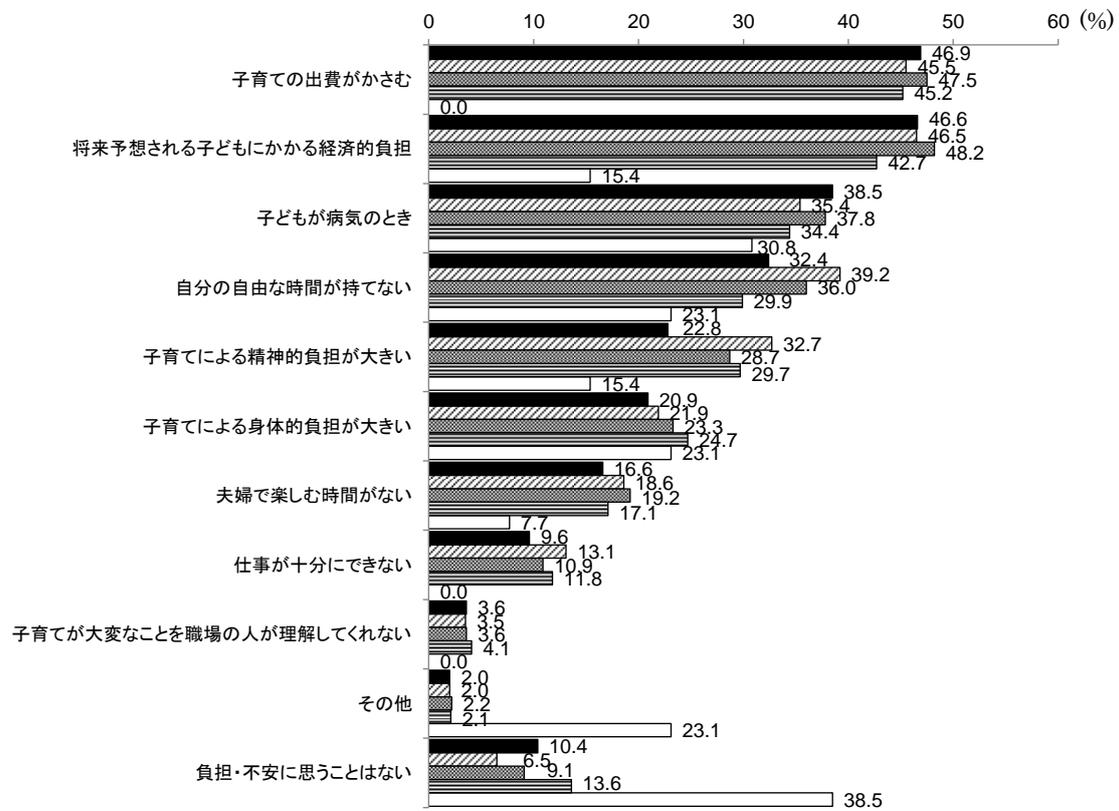
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



【世話を頼める知人等の有無別】

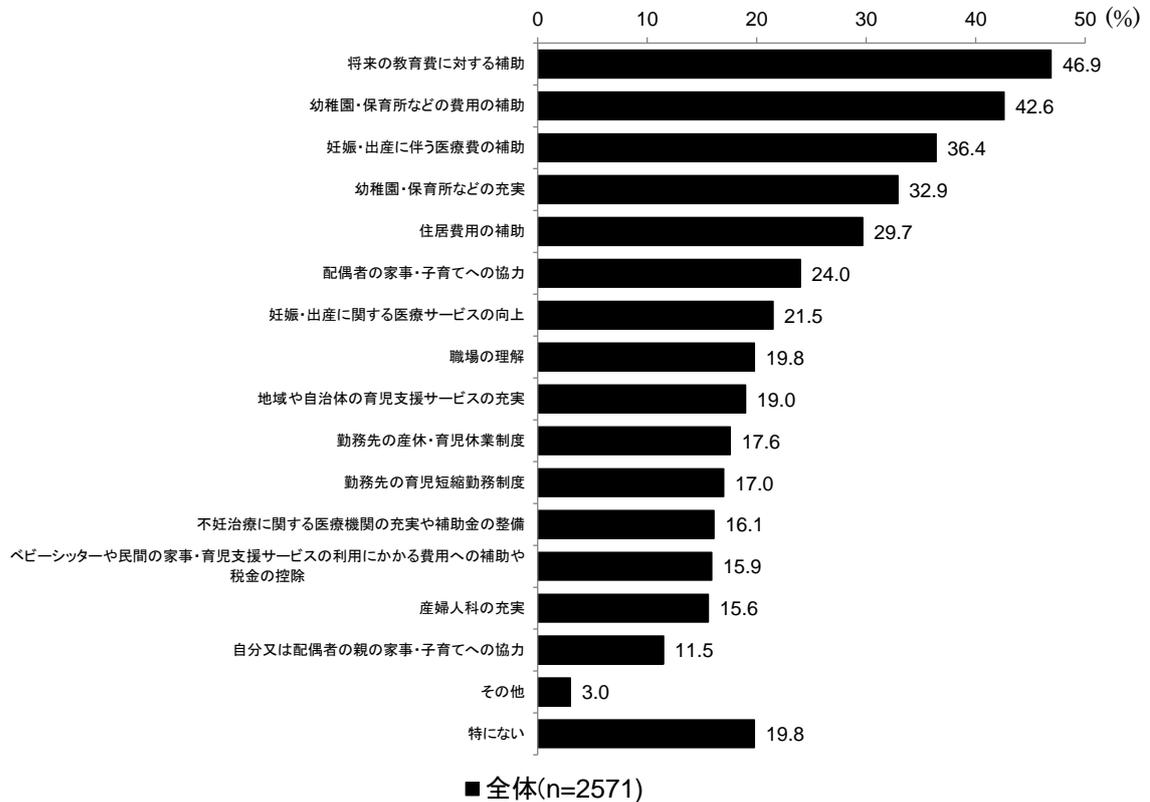
近くに気軽に頼める人がいるでは、「子育てによる精神的負担が大きい」と回答した割合が低い。



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=646)
- ▨ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=398)
- ▩ 近くではないが、頼める人がいる(n=558)
- ▤ 特に頼める人はいない(n=485)
- その他(n=13)

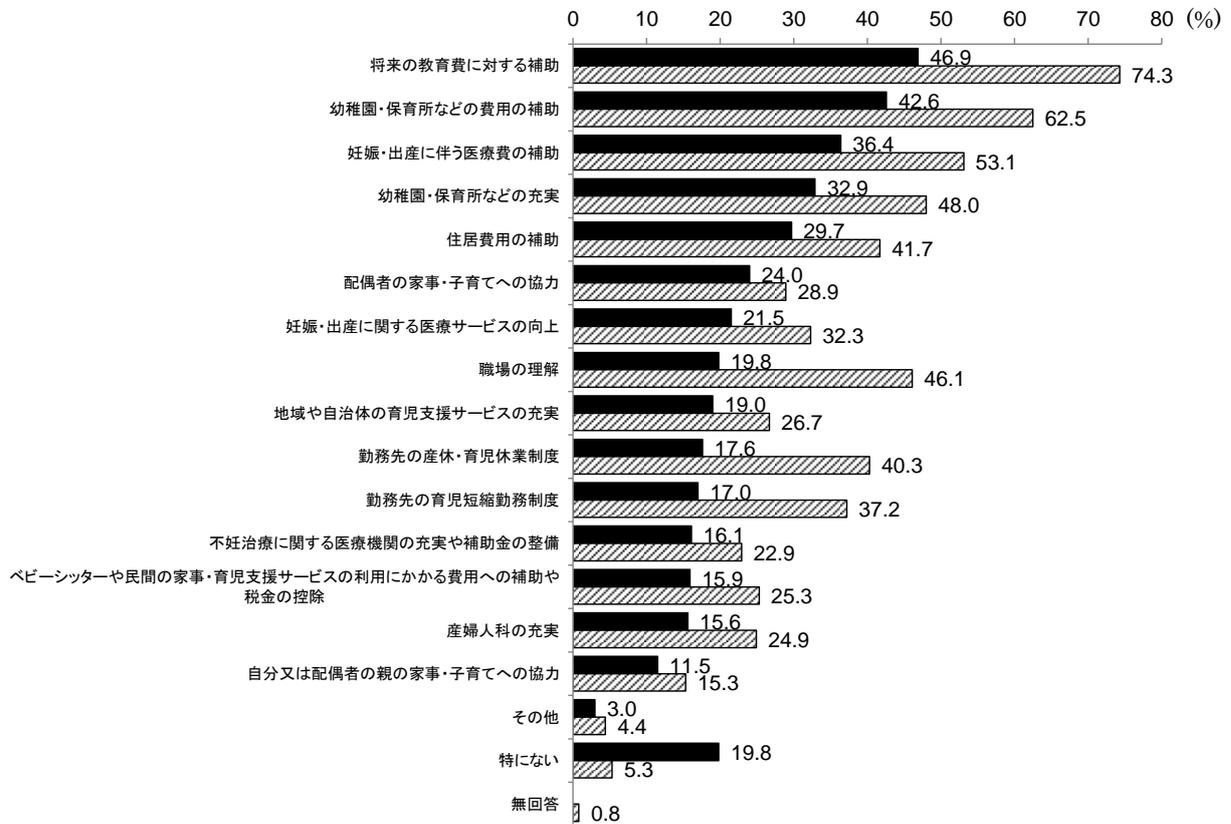
Q40.次にあげることがらのうち、どのようなことがあれば、あなたは(もっと)子どもが欲しいと思うと思いますか。(〇はいくつでも)

「将来の教育費に対する補助」が46.9%と最も高く、次いで「幼稚園・保育所などの費用の補助」(42.6%)、「妊娠・出産に伴う医療費の補助」(36.4%)となっている。



【全国調査との比較】

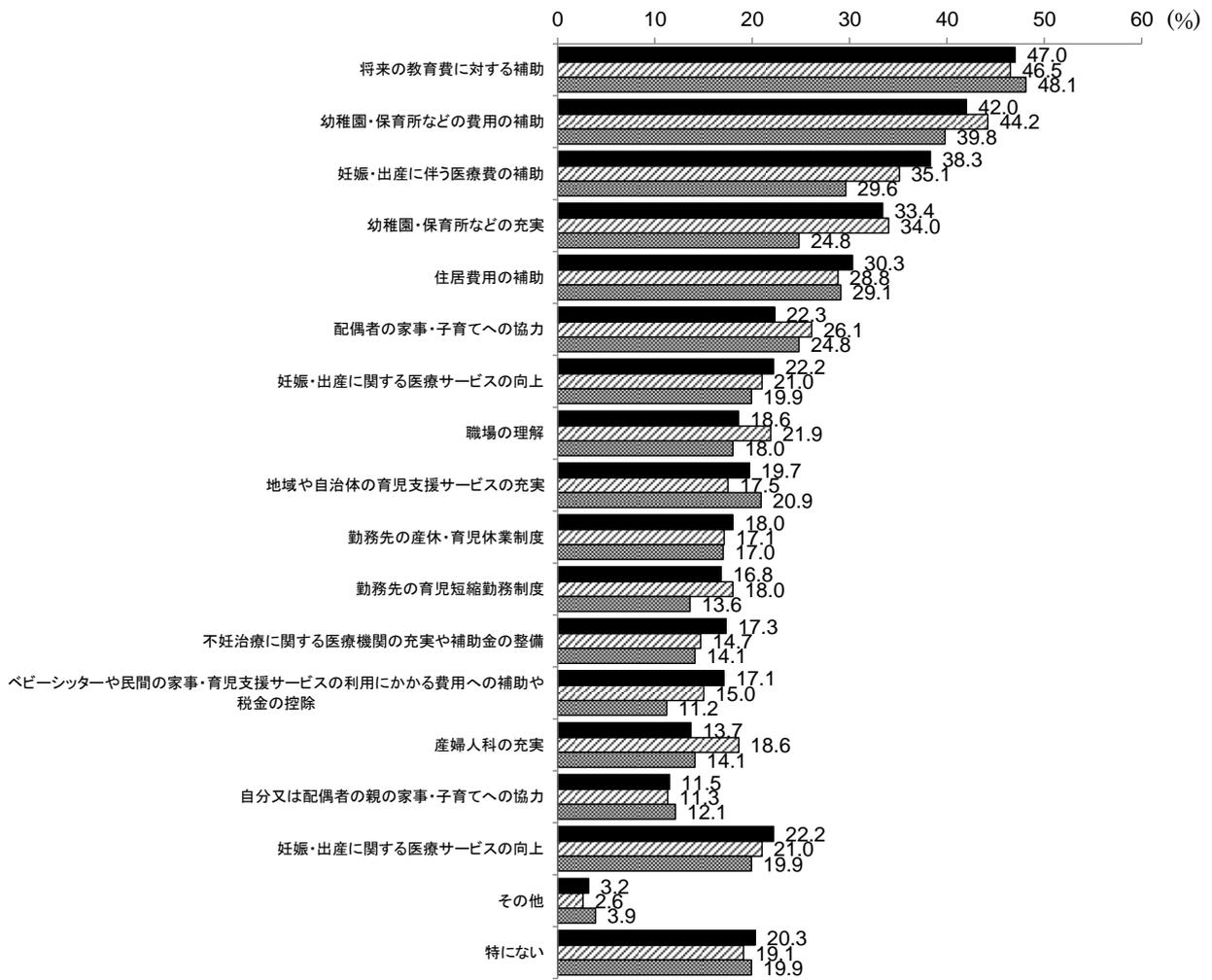
全国調査と比べて、「将来の教育費に対する補助」「職場の理解」「勤務先の産休・育児休業制度」「勤務先の育児短縮勤務制度」と回答した割合は20ポイント以上低くなっている。



■ 岡山県(n=2571) ▨ 結婚・家族形成に関する意識調査(平成26年度)既婚(n=1428)

【居住地別】

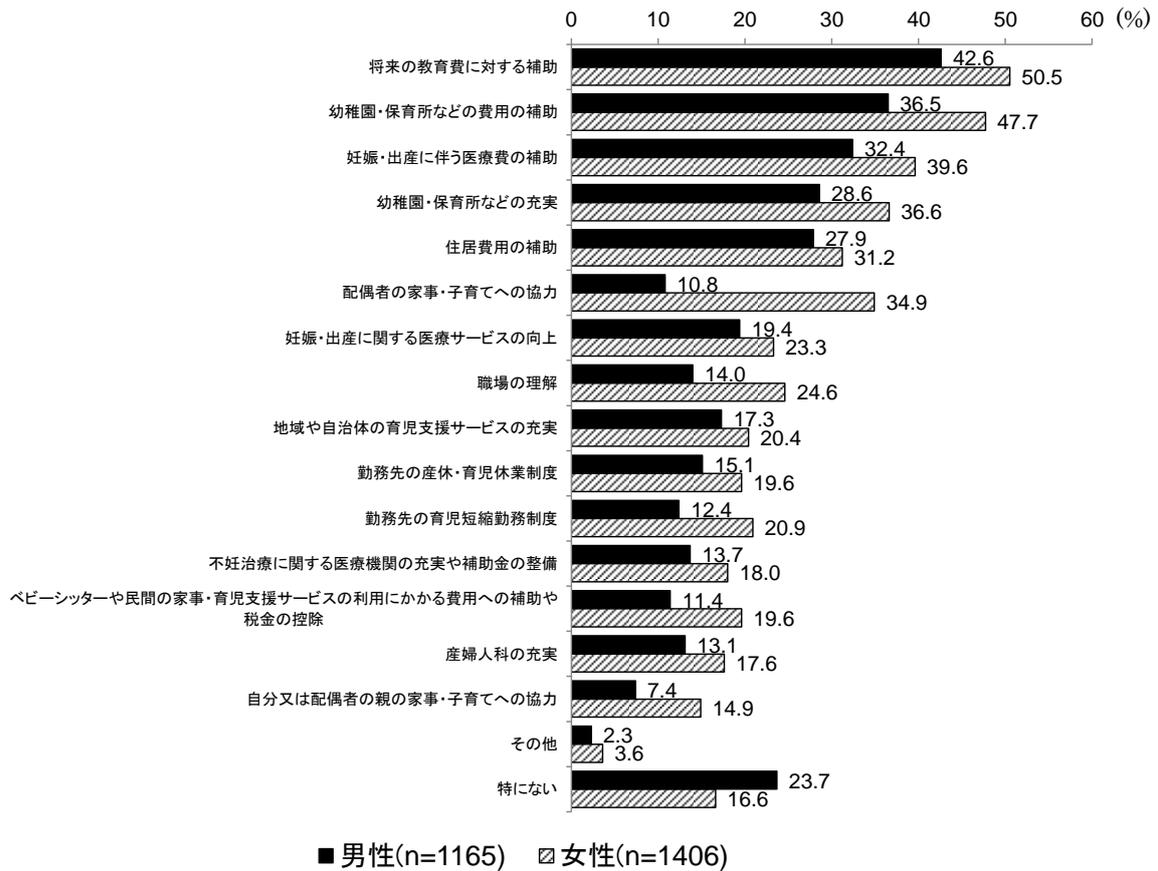
居住地別では、美作県民局で、「妊娠・出産に伴う医療費の補助」「幼稚園・保育所などの充実」「ベビーシッターや民間の家事・育児支援サービスの利用にかかる費用への補助や税金の控除」と回答した割合が低い。



■ 備前県民局(n=1401) ▨ 備中県民局(n=964) ▩ 美作県民局(n=206)

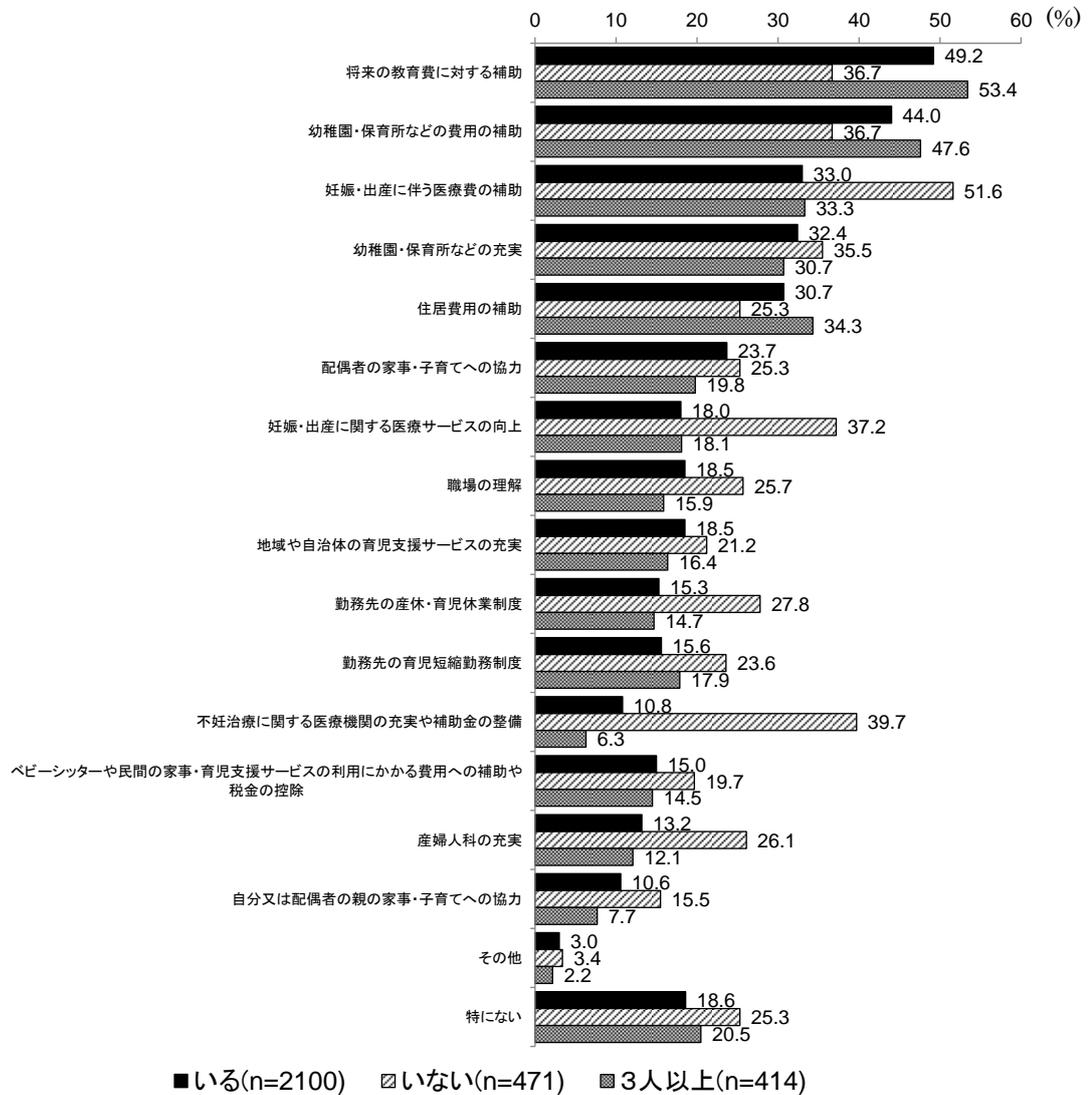
【性別】

女性では、男性と比べて、「将来の教育費に対する補助」「幼稚園・保育所などの費用の補助」「妊娠・出産に伴う医療費の補助」「幼稚園・保育所などの充実」「配偶者の家事・子育てへの協力」「職場の理解」「勤務先の育児短縮勤務制度」「ベビーシッターや民間の家事・育児支援サービスの利用にかかる費用への補助や税金の控除」「自分又は配偶者の親の家事・子育てへの協力」と回答した割合が高い。特に、「配偶者の家事・子育てへの協力」では20ポイント以上高くなっている。



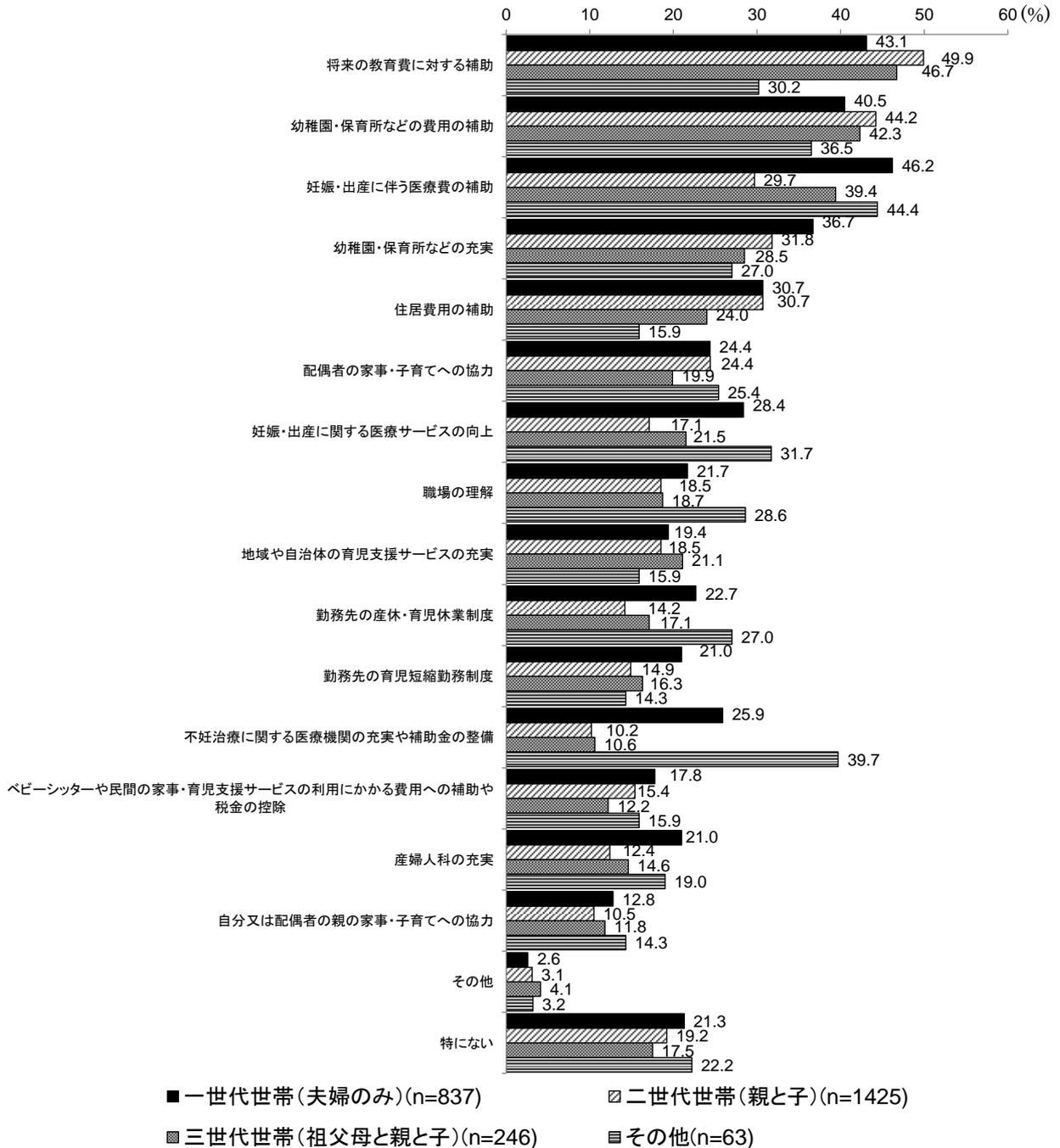
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では「将来の教育費に対する補助」「幼稚園・保育所などの費用の補助」「住居費用の補助」と回答した割合が高く、子どもがいないでは「妊娠・出産に伴う医療費の補助」「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」「職場の理解」「勤務先の産休・育児休業制度」「不妊治療に関する医療機関の充実や補助金の整備」「産婦人科の充実」と回答した割合が高い。



【世帯構成別】

世帯構成別では、一世代世帯（夫婦のみ）では、「幼稚園・保育所などの充実」「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」「勤務先の産休・育児休業制度」「不妊治療に関する医療機関の充実や補助金の整備」「産婦人科の充実」と回答した割合が高い。また、二世帯世帯（親と子）では、「将来の教育費に対する補助」と回答した割合が高く、「妊娠・出産に伴う医療費の補助」と回答した割合が低い。



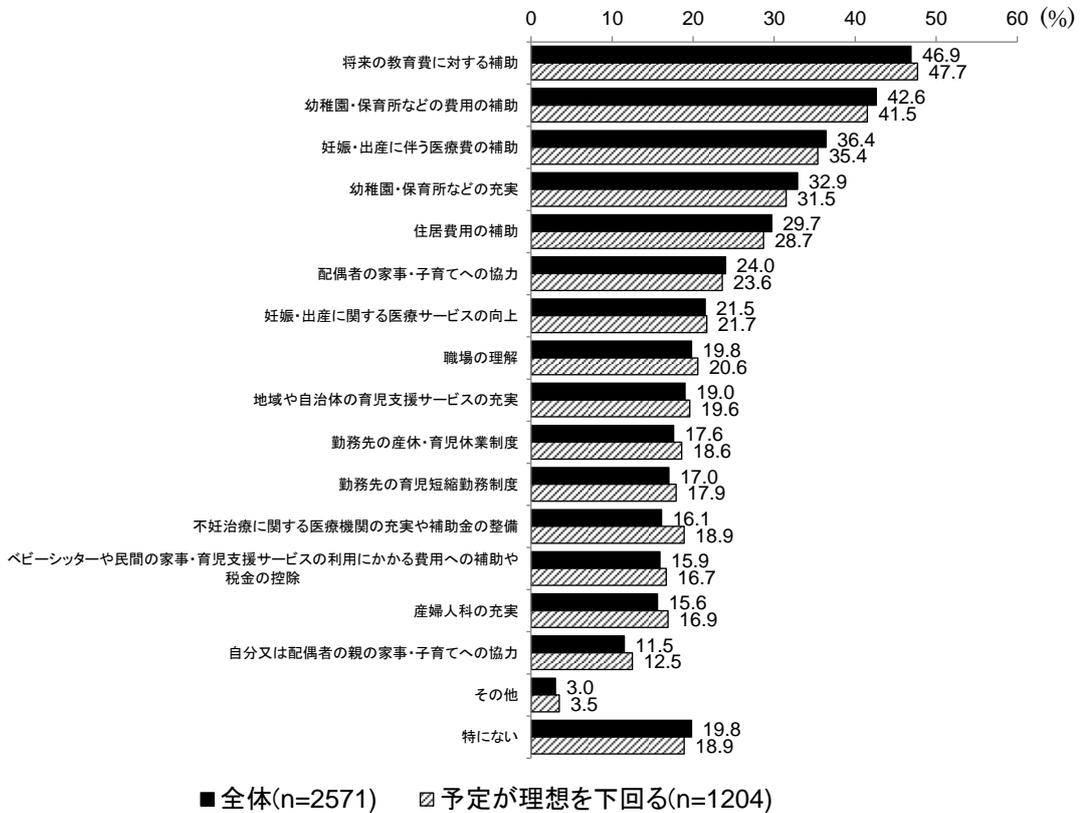
【世帯年収別】

世帯年収別では、100～150万円未満で「将来の教育費に対する補助」「妊娠・出産に伴う医療費の補助」「住居費用の補助」「配偶者の家事・子育てへの協力」「不妊治療に関する医療機関の充実や補助金の整備」と回答した割合が高い。

世帯年収	(集計客体数)	将来の教育費に対する補助	幼稚園・保育所などの費用の補助	妊娠・出産に伴う医療費の補助	幼稚園・保育所などの充実	住居費用の補助	配偶者の家事・子育てへの協力	妊娠・出産に関する医療サービスの向上	職場の理解	地域や自治体の育児支援サービスの充実	勤務先の産休・育児休業制度	勤務先の育児短縮勤務制度	不妊治療に関する医療機関の充実や補助金の整備	ベビーシッターや民間の家事・育児支援サービスの利用にかかる費用への補助や税金の控除	産婦人科の充実	自分又は配偶者の親の家事・子育てへの協力	その他	特にない
100万円未満	(n=58)	43.1%	44.8%	46.6%	32.8%	36.2%	24.1%	25.9%	17.2%	20.7%	13.8%	12.1%	19.0%	19.0%	25.9%	19.0%	0.0%	17.2%
100～150万円未満	(n=27)	59.3%	29.6%	48.1%	29.6%	48.1%	33.3%	25.9%	25.9%	25.9%	22.2%	22.2%	22.2%	18.5%	22.2%	18.5%	11.1%	3.7%
150～300万円未満	(n=230)	50.0%	49.1%	41.3%	36.5%	36.5%	26.5%	29.1%	19.1%	18.7%	18.3%	16.1%	14.3%	15.7%	23.0%	16.1%	3.0%	18.7%
300～500万円未満	(n=792)	53.2%	48.7%	44.7%	36.4%	35.6%	27.8%	25.3%	23.4%	20.2%	19.6%	19.3%	16.8%	18.1%	17.8%	12.2%	2.9%	14.5%
500～700万円未満	(n=778)	45.6%	42.3%	32.8%	31.7%	29.0%	21.5%	18.8%	18.8%	18.9%	15.2%	16.2%	17.6%	14.7%	12.3%	11.2%	2.7%	21.3%
700～1,000万円未満	(n=459)	40.7%	36.6%	27.2%	30.3%	21.6%	20.7%	18.1%	19.0%	17.0%	18.3%	16.3%	13.7%	12.4%	13.1%	8.3%	3.7%	26.1%
1,000～1,300万円未満	(n=123)	40.7%	26.0%	26.0%	31.7%	15.4%	25.2%	13.8%	13.0%	17.1%	13.0%	12.2%	12.2%	22.8%	10.6%	8.1%	2.4%	23.6%
1,300万円以上	(n=50)	40.0%	28.0%	34.0%	26.0%	16.0%	22.0%	20.0%	20.0%	22.0%	24.0%	20.0%	12.0%	12.0%	16.0%	8.0%	6.0%	18.0%
なし	(n=54)	31.5%	37.0%	31.5%	18.5%	20.4%	14.8%	16.7%	7.4%	16.7%	20.4%	16.7%	16.7%	14.8%	14.8%	11.1%	1.9%	29.6%

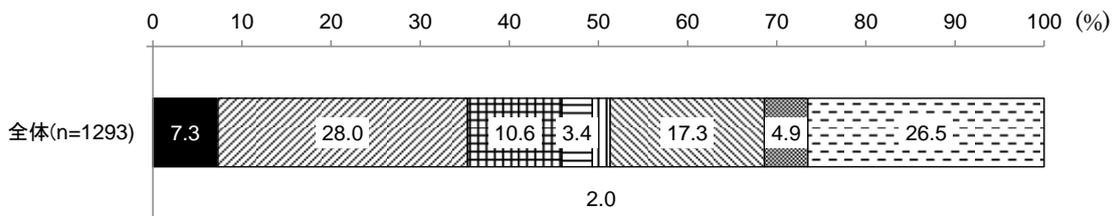
【予定子ども数が理想子ども数を下回る人】

全体と予定子ども数が理想子ども数を下回る人では、あまり違いはみられない。



(Q33で「親と同居」又は「親と別居(片道15分未満)」と回答した方)
Q41.同居又は近居したきっかけは何ですか。(〇は1つ)
 (*近居:最もよく使う交通手段でかかる時間が片道15分未満)

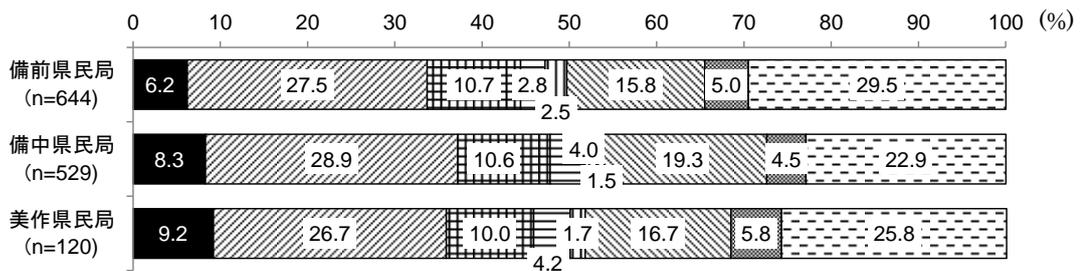
「結婚をきっかけに同居又は近居した」が28.0%と最も高く、次いで「特にきっかけはない」(26.5%)、「自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した」(17.3%)となっている。



- 自身が未成年の頃から引き続き同居している
- ☒結婚をきっかけに同居又は近居した
- ▨子どもの誕生をきっかけに同居又は近居した
- 自身又は配偶者の就業をきっかけに同居又は近居した
- ▨親の介護が必要になったため同居又は近居した
- ▨自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した
- その他
- 特にきっかけはない

【居住地別】

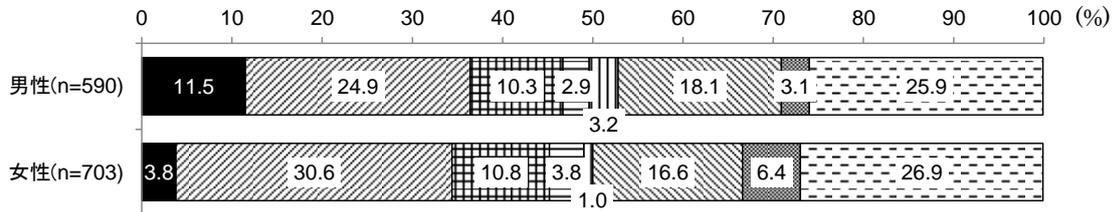
居住地別では、いずれの局でも、「結婚をきっかけに同居又は近居した」と回答した割合が高い。



- 自身が未成年の頃から引き続き同居している
- ☒結婚をきっかけに同居又は近居した
- ▨子どもの誕生をきっかけに同居又は近居した
- 自身又は配偶者の就業をきっかけに同居又は近居した
- ▨親の介護が必要になったため同居又は近居した
- ▨自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した
- その他
- 特にきっかけはない

【性別】

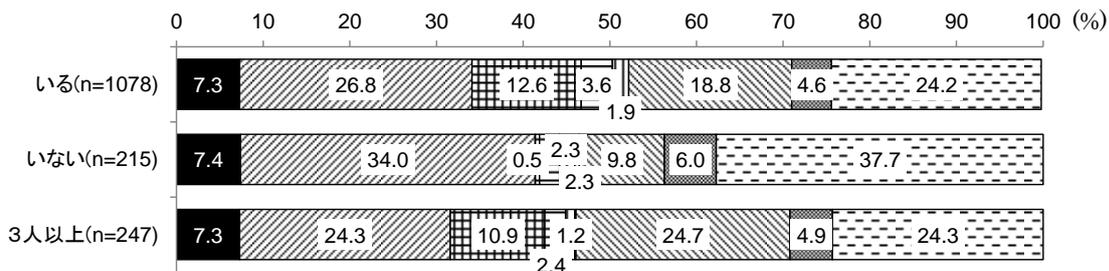
男性では、女性と比べて、「自身が未成年の頃から引き続き同居している」と回答した割合が高く、「結婚をきっかけに同居又は近居した」と回答した割合が低い。



- 自身が未成年の頃から引き続き同居している
- ☒ 結婚をきっかけに同居又は近居した
- ▣ 子どもの誕生をきっかけに同居又は近居した
- ☐ 自身又は配偶者の就業をきっかけに同居又は近居した
- ▣ 親の介護が必要になったため同居又は近居した
- ☒ 自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した
- ▣ その他
- ☐ 特にきっかけはない

【子ども有無別】

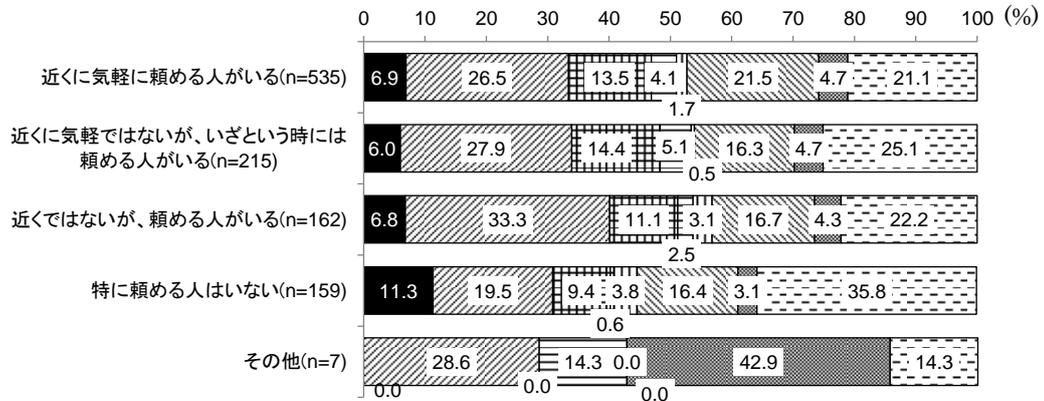
子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した」と回答した割合が高く、「結婚をきっかけに同居又は近居した」「特にきっかけはない」と回答した割合が低い。



- 自身が未成年の頃から引き続き同居している
- ☒ 結婚をきっかけに同居又は近居した
- ▣ 子どもの誕生をきっかけに同居又は近居した
- ☐ 自身又は配偶者の就業をきっかけに同居又は近居した
- ▣ 親の介護が必要になったため同居又は近居した
- ☒ 自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した
- ▣ その他
- ☐ 特にきっかけはない

【世話を頼める知人等の有無別】

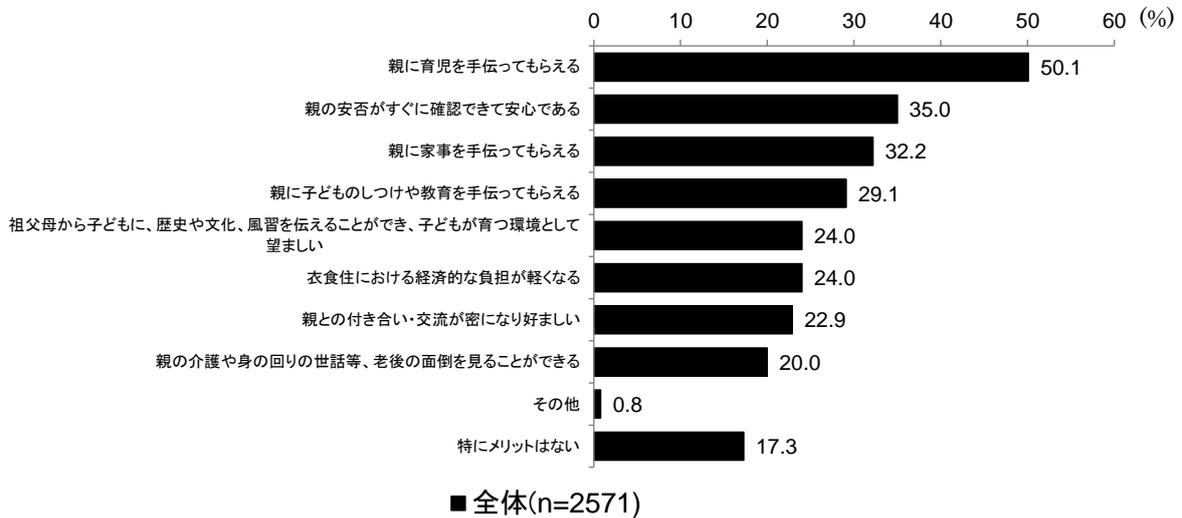
近くに気軽に頼める人がいるでは、「自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した」と回答した割合が高い。また、特に頼める人はいないでは、「自身が未成年の頃から引き続き同居している」「特にきっかけはない」と回答した割合が高く、「結婚をきっかけに同居又は近居した」と回答した割合が低い。



- 自身が未成年の頃から引き続き同居している
- ☒ 結婚をきっかけに同居又は近居した
- ▨ 子どもの誕生をきっかけに同居又は近居した
- ☐ 自身又は配偶者の就業をきっかけに同居又は近居した
- ▣ 親の介護が必要になったため同居又は近居した
- ▩ 自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した
- その他
- ☐ 特にきっかけはない

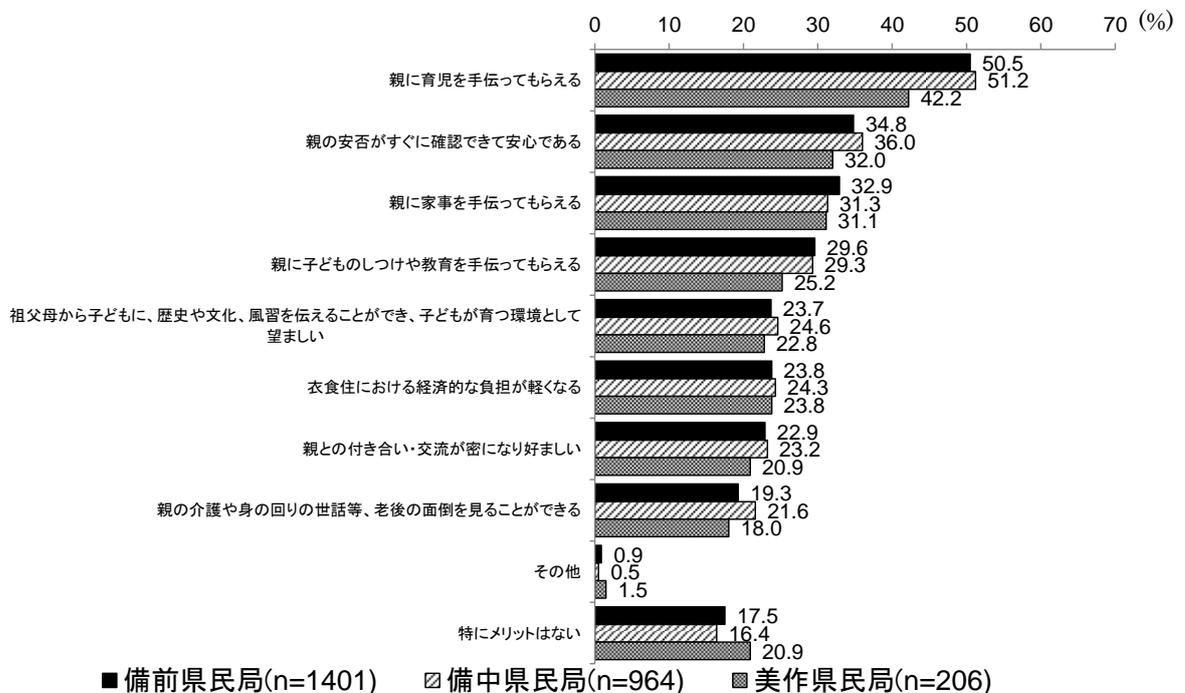
Q42.同居又は近居することにどんなメリットを感じますか。(〇はいくつでも)

「親に育児を手伝ってもらえる」が50.1%と最も高く、次いで「親の安否がすぐに確認できて安心である」(35.0%)、「親に家事を手伝ってもらえる」(32.2%)となっている。



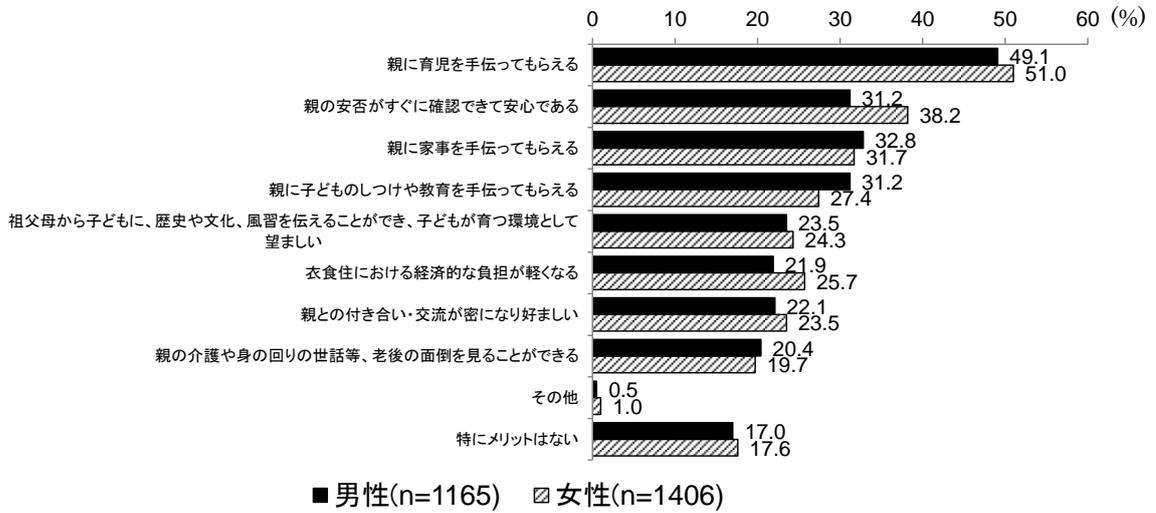
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で「親に育児を手伝ってもらえる」と回答した割合が低い。



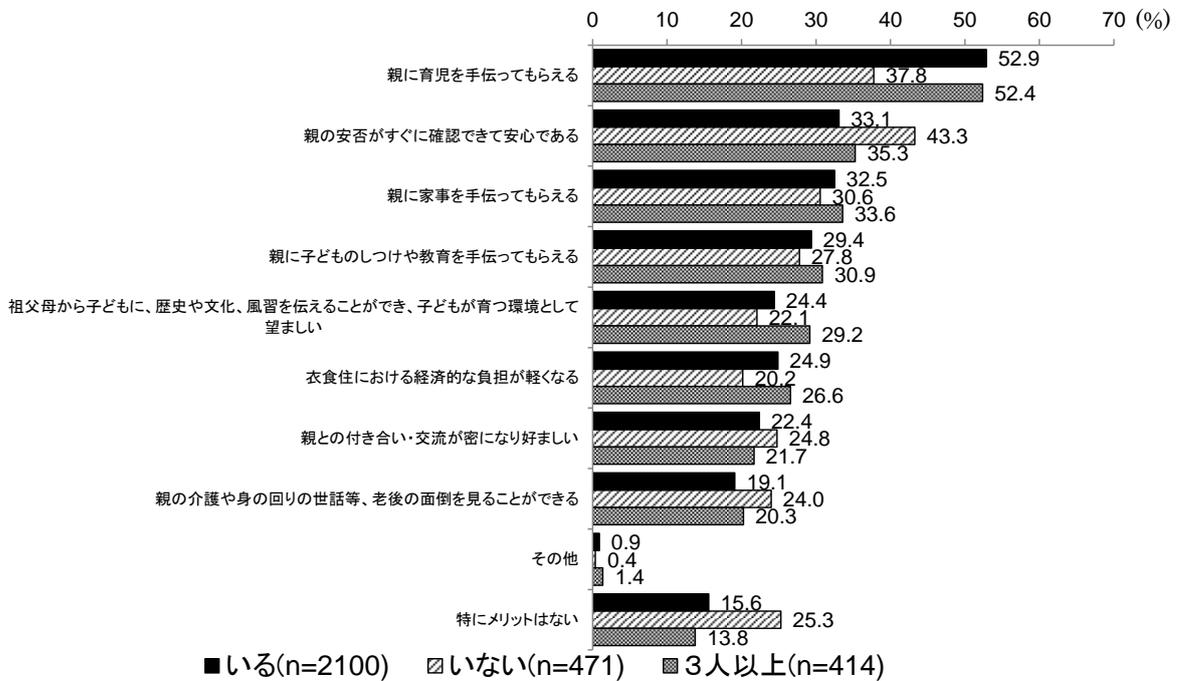
【性別】

性別では、あまり違いはみられない。



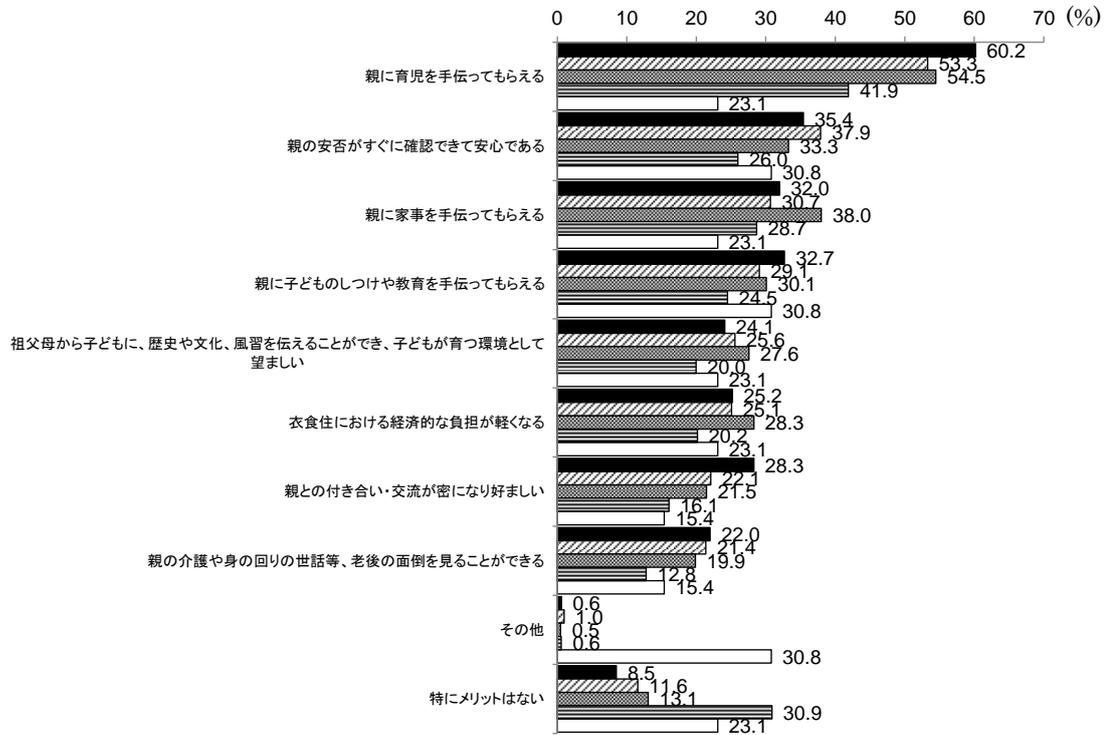
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「親に育児を手伝ってもらえる」と回答した割合が高く、「親の安否がすぐに確認できて安心である」「特にメリットはない」と回答した割合が低い。



【世話を頼める知人等の有無別】

近くに気軽に頼める人がいるでは、「親に育児を手伝ってもらえる」と回答した割合が高い。また、特に頼める人はいないでは、「特にメリットはない」と回答した割合が高く、「親に育児を手伝ってもらえる」「親の安否がすぐに確認できて安心である」「親に家事を手伝ってもらえる」「親に子どものしつけや教育を手伝ってもらえる」



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=646)
- ▨ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=398)
- ▩ 近くではないが、頼める人がいる(n=558)
- ▭ 特に頼める人はいない(n=485)
- その他(n=13)

【親との居住距離別】

夫方の親の住まいとの距離では、親と同居で「親に家事を手伝ってもらえる」「衣食住における経済的な負担が軽くなる」、親と別居（片道1時間以上）で「親に育児を手伝ってもらえる」と回答した割合が高い。また、親と別居（片道15分未満）で「親に家事を手伝ってもらえる」と回答した割合が低い。

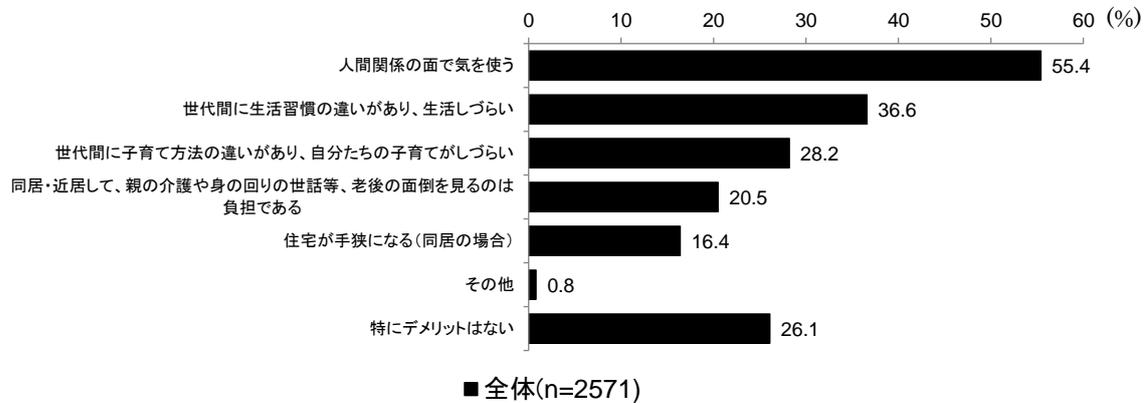
夫方の親との居住距離	(集計客体数)	親に育児を手伝ってもらえる	親の安否がすぐに確認できて安心である	親に家事を手伝ってもらえる	親に子どもをしつけや教育を手伝ってもらえる	子どもが育つ環境として望ましい	祖父母から子どもに、歴史や文化・風習を伝えることができ、子どもが育つ環境として望ましい	衣食住における経済的な負担が軽くなる	親との付き合い・交流が密になり好ましい	親の介護や身の回りの世話等、後の面倒を見ることができ	その他	特にメリットはない
親と同居	(n=275)	36.7%	25.1%	44.7%	27.3%	21.5%	35.6%	12.0%	17.1%	0.7%	14.5%	
親と別居(片道15分未満)	(n=588)	40.3%	36.4%	12.9%	23.0%	18.7%	15.3%	26.0%	19.2%	1.0%	22.4%	
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=434)	52.1%	35.7%	33.9%	30.4%	26.0%	23.7%	24.2%	22.1%	0.7%	14.1%	
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=425)	54.8%	36.5%	37.2%	30.8%	23.1%	25.9%	23.3%	19.1%	0.5%	15.8%	
親と別居(片道1時間以上)	(n=741)	60.3%	37.0%	39.4%	34.1%	28.2%	26.7%	23.3%	22.0%	0.8%	15.7%	
親は両親とも他界	(n=108)	41.7%	30.6%	28.7%	21.3%	25.0%	16.7%	23.1%	13.9%	0.9%	27.8%	

妻方の親の住まいとの距離では、親と同居で「親に家事を手伝ってもらえる」と回答した割合が高く、「祖父母から子どもに、歴史や文化・風習を伝えることができ、子どもが育つ環境として望ましい」「親の安否がすぐに確認できて安心である」と回答した割合が低い。

妻方の親との居住距離	(集計客体数)	親に育児を手伝ってもらえる	親の安否がすぐに確認できて安心である	親に家事を手伝ってもらえる	親に子どもをしつけや教育を手伝ってもらえる	子どもが育つ環境として望ましい	祖父母から子どもに、歴史や文化・風習を伝えることができ、子どもが育つ環境として望ましい	衣食住における経済的な負担が軽くなる	親との付き合い・交流が密になり好ましい	親の介護や身の回りの世話等、後の面倒を見ることができ	その他	特にメリットはない
親と同居	(n=122)	48.4%	27.9%	50.0%	26.2%	13.9%	32.8%	11.5%	20.5%	0.8%	14.8%	
親と別居(片道15分未満)	(n=515)	52.2%	40.0%	24.7%	23.1%	16.5%	21.0%	27.8%	17.9%	0.6%	13.6%	
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=503)	49.1%	29.0%	32.4%	28.4%	24.7%	23.3%	19.5%	20.3%	0.6%	16.5%	
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=493)	47.3%	35.7%	31.2%	29.6%	22.7%	22.3%	22.9%	18.9%	1.4%	17.8%	
親と別居(片道1時間以上)	(n=858)	53.1%	36.2%	34.1%	33.4%	29.7%	26.1%	24.1%	21.9%	0.7%	19.0%	
親は両親とも他界	(n=80)	31.3%	33.8%	36.3%	27.5%	28.8%	22.5%	16.3%	18.8%	0.0%	30.0%	

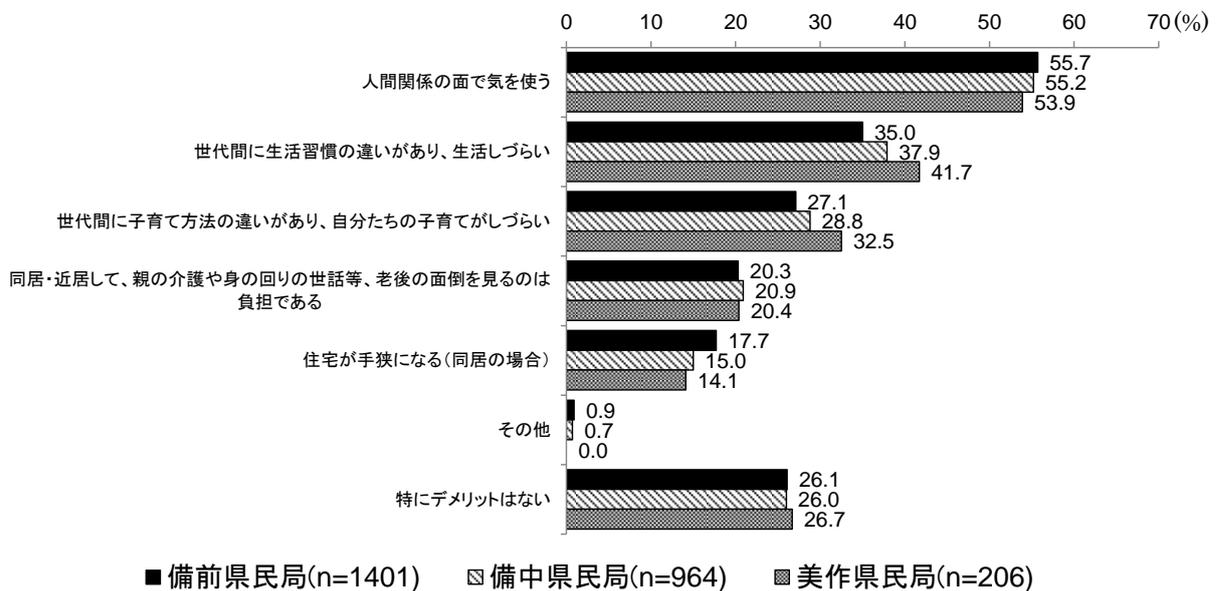
Q43.同居又は近居することにどんなデメリットを感じますか。(〇はいくつでも)

「人間関係の面で気を使う」が55.4%と最も高く、次いで「世代間に生活習慣の違いがあり、生活がしづらい」(36.6%)、「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」(28.2%)となっている。



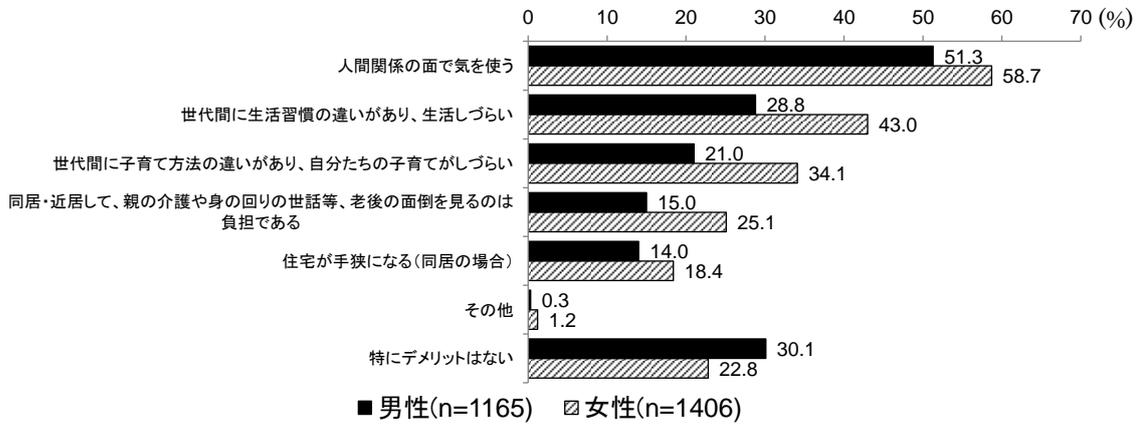
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」と回答した割合が高い。



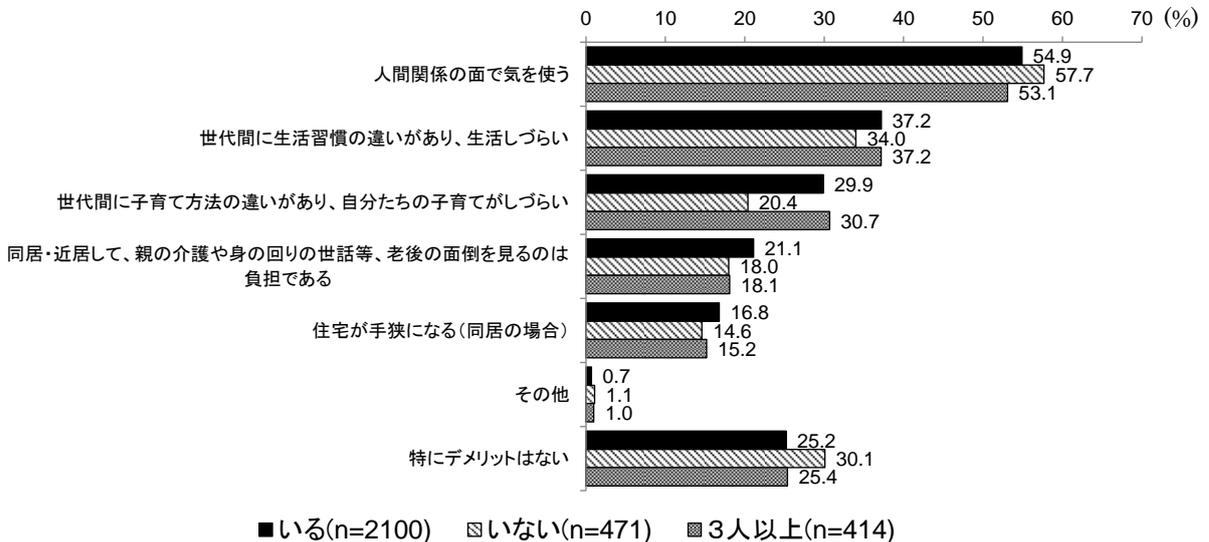
【性別】

女性では、男性と比べて、「人間関係の面で気を使う」「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」「同居・近居して、親の介護や身の回りの世話等、老後の面倒を見るのは負担である」と回答した割合が高い。



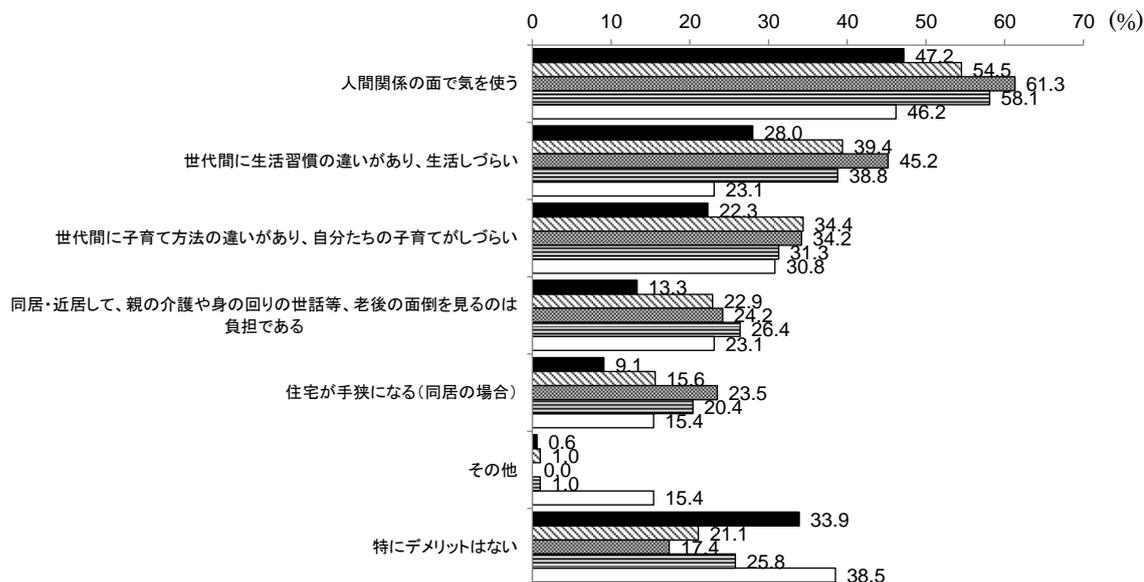
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」回答した割合が高く、「特にデメリットはない」と回答した割合が低い。



【世話を頼める知人等の有無別】

近くに気軽に頼める人がいるでは、「特にデメリットはない」と回答した割合が高い。



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=646)
- ▣ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=398)
- ▤ 近くではないが、頼める人がいる(n=558)
- ▥ 特に頼める人はいない(n=485)
- その他(n=13)

【親との居住距離別】

夫方の親の住まいとの距離では、親と別居（片道 15 分未満）で「特にデメリットはない」と回答した割合が高い。

夫方の親との居住距離	(集計客体数)	人間関係の面で気を使う	世代間に生活しづら	世代間に生活しづら	世代間に生活しづら	世代間に生活しづら	世代間に生活しづら	世代間に生活しづら	その他	特にデメリットはない
親と同居	(n=275)	64.4%	46.5%	33.1%	24.0%	15.3%	1.5%	13.5%		
親と別居(片道15分未満)	(n=588)	44.0%	23.8%	18.9%	17.9%	4.4%	0.7%	39.8%		
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=434)	57.6%	36.4%	26.3%	18.7%	16.6%	0.2%	22.6%		
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=425)	60.2%	41.2%	33.4%	24.9%	21.2%	0.9%	23.1%		
親と別居(片道1時間以上)	(n=741)	59.9%	41.6%	32.8%	20.8%	22.9%	0.8%	22.3%		
親は両親とも他界	(n=108)	35.2%	29.6%	21.3%	14.8%	20.4%	0.9%	37.0%		

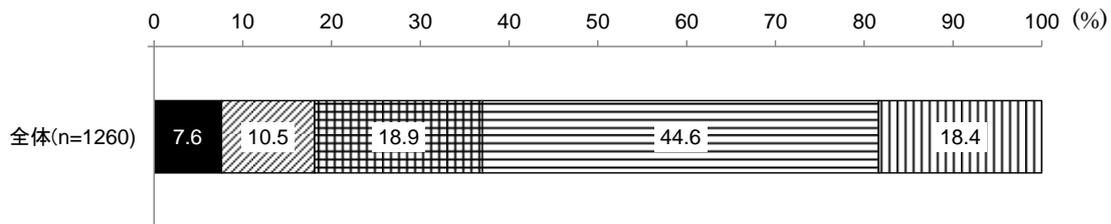
妻方の親の住まいとの距離では、親と別居（片道 15 分未満）で「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」「住宅が手狭になる（同居の場合）」と回答した割合が低く、「特にデメリットはない」と回答した割合が高い。また、親と別居（片道 1 時間以上）では、「人間関係の面で気を使う」「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」と回答した割合が高い。

妻方との親との居住距離	(集計客体数)	人間関係の面で気を使う	世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい	世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい	身の回りのは世話等、老後の面倒を見るのは負担である	同居・近居して、親の介護や身の回りのは世話等、老後の面倒を見るのは負担である	住宅が手狭になる（同居の場合）	その他	特にデメリットはない
親と同居	(n=122)	54.9%	36.9%	27.0%	16.4%	16.4%	1.6%	23.0%	
親と別居(片道15分未満)	(n=515)	40.4%	23.3%	17.3%	14.2%	7.6%	0.8%	41.0%	
親と別居(片道15分～30分未満)	(n=503)	55.3%	36.2%	26.4%	20.1%	14.9%	0.2%	26.0%	
親と別居(片道30分～1時間未満)	(n=493)	59.4%	38.3%	31.6%	21.9%	18.3%	1.0%	20.9%	
親と別居(片道1時間以上)	(n=858)	62.6%	44.1%	34.6%	24.2%	21.1%	0.7%	20.6%	
親は両親とも他界	(n=80)	51.3%	33.8%	20.0%	22.5%	21.3%	2.5%	27.5%	

(Q33で「親と同居」又は「親と別居(片道15分未満)」と回答した以外の方)

Q44.理想の家族の住まい方として、ご自身又は配偶者の親との同居又は近居が好ましいと思いますか。(〇は1つ)

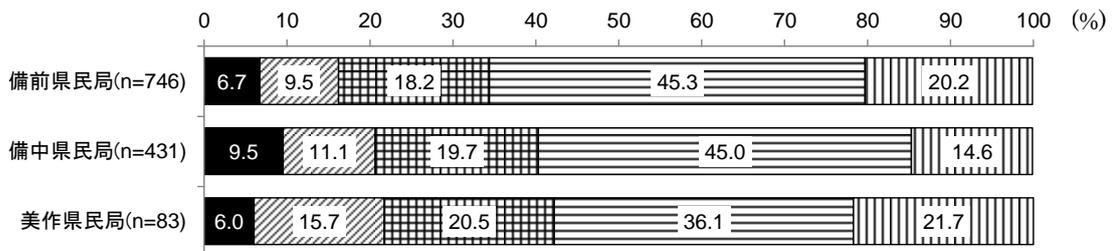
「同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う」が44.6%と最も高く、次いで「同居が好ましいとは思わないが、近居(夫方の親)は好ましいと思う」(18.9%)、「同居も近居も好ましいとは思わない」(18.4%)となっている。



- 同居(夫方の親)が好ましいと思う
- ▨ 同居(妻方の親)が好ましいと思う
- ▩ 同居が好ましいとは思わないが、近居(夫方の親)は好ましいと思う
- ▤ 同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う
- ▧ 同居も近居も好ましいとは思わない

【居住地別】

居住地別では、あまり違いはみられない。

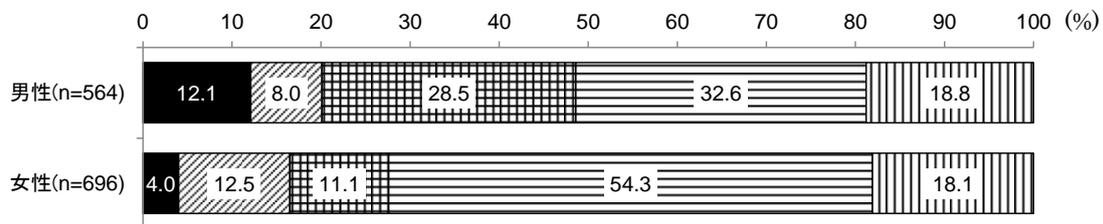


- 同居(夫方の親)が好ましいと思う
- ▨ 同居(妻方の親)が好ましいと思う
- ▩ 同居が好ましいとは思わないが、近居(夫方の親)は好ましいと思う
- ▤ 同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う
- ▧ 同居も近居も好ましいとは思わない

【性別】

男性では、女性と比べて、「同居（夫方の親）が好ましいと思う」「同居が好ましいとは思わないが、近居（夫方の親）は好ましいと思う」と回答した割合が高い。

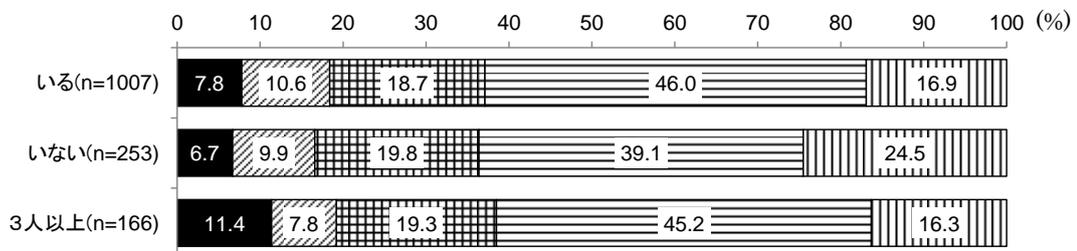
女性では、「同居が好ましいとは思わないが、近居（妻方の親）は好ましいと思う」が5割を超えている。



- 同居(夫方の親)が好ましいと思う
- ▣ 同居(妻方の親)が好ましいと思う
- ▤ 同居が好ましいとは思わないが、近居(夫方の親)は好ましいと思う
- ▥ 同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う
- ▧ 同居も近居も好ましいとは思わない

【子ども有無別】

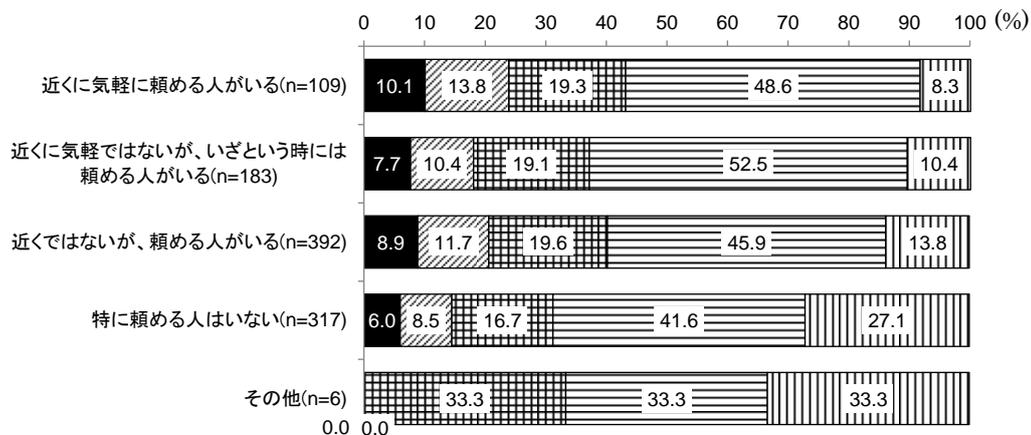
子どもがいる、子どもがいない又は3人以上では、あまり違いはみられない。



- 同居(夫方の親)が好ましいと思う
- ▣ 同居(妻方の親)が好ましいと思う
- ▤ 同居が好ましいとは思わないが、近居(夫方の親)は好ましいと思う
- ▥ 同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う
- ▧ 同居も近居も好ましいとは思わない

【世話を頼める知人等の有無別】

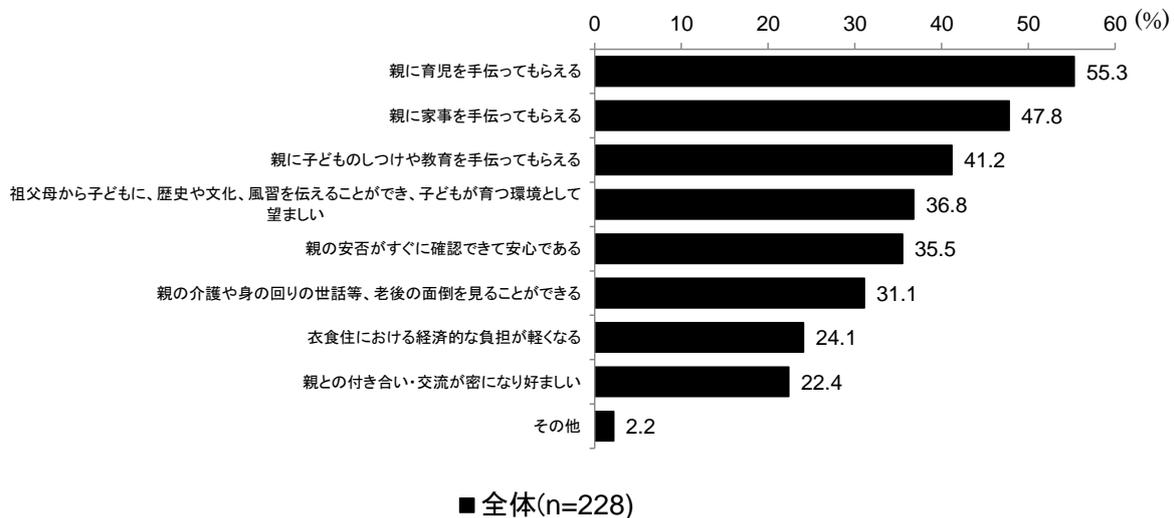
特に頼める人はいないでは、「同居も近居も好ましいと思わない」と回答した割合が高い。



- 同居(夫方の親)が好ましいと思う
- ▣ 同居(妻方の親)が好ましいと思う
- ▤ 同居が好ましいとは思わないが、近居(夫方の親)は好ましいと思う
- ▥ 同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う
- ▦ 同居も近居も好ましいとは思わない

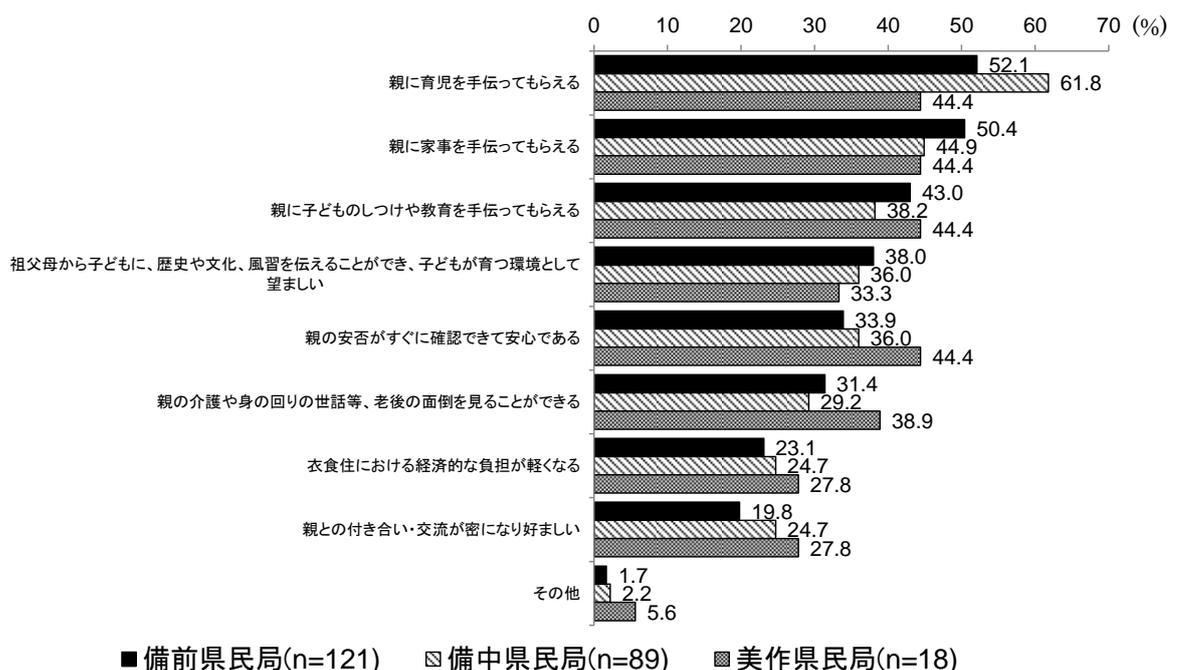
(Q44で「同居(夫方の親)が好ましいと思う」又は「同居(妻方の親)が好ましいと思う」と回答した方)
Q45.同居が好ましいと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「親に育児を手伝ってもらえる」が55.3%と最も高く、次いで「親に家事を手伝ってもらえる」(47.8%)、「親に子どものしつけや教育を手伝ってもらえる」(41.2%)となっている。



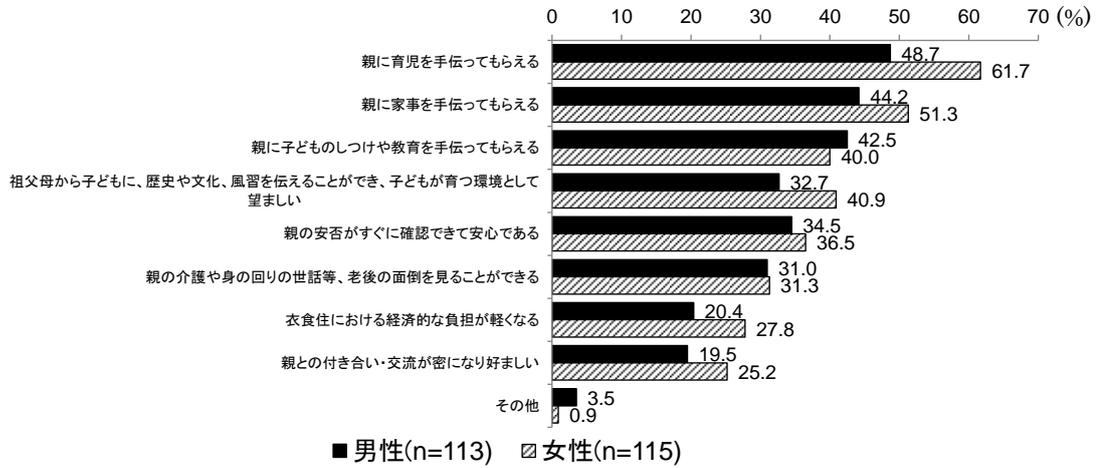
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「親の安否がすぐに確認できて安心である」「親の介護や身の回りの世話等、老後の面倒を見ることができる」と回答した割合が高く、「親に育児を手伝ってもらえる」と回答した割合が低い。また、備中県民局で「親に育児を手伝ってもらえる」と回答した割合が高い。



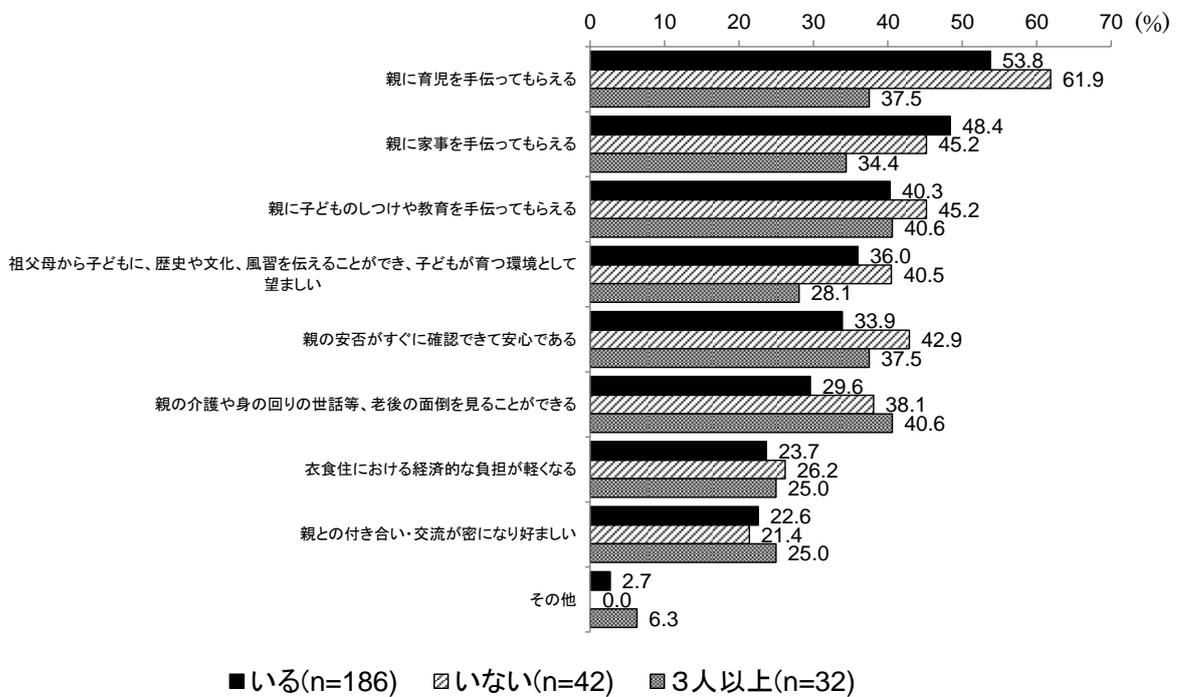
【性別】

男性では、女性と比べて、「親に育児を手伝ってもらえる」「親に家事を手伝ってもらえる」と回答した割合が低い。



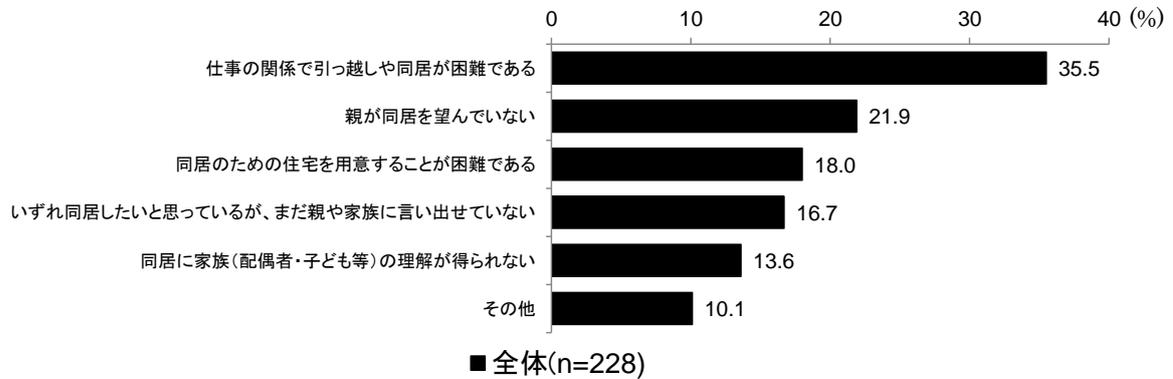
【子ども有無別】

子どもがいる又は子どもがいないでは、3人以上と比べて、「親に育児を手伝ってもらえる」「親に家事を手伝ってもらえる」と回答した割合が高い。



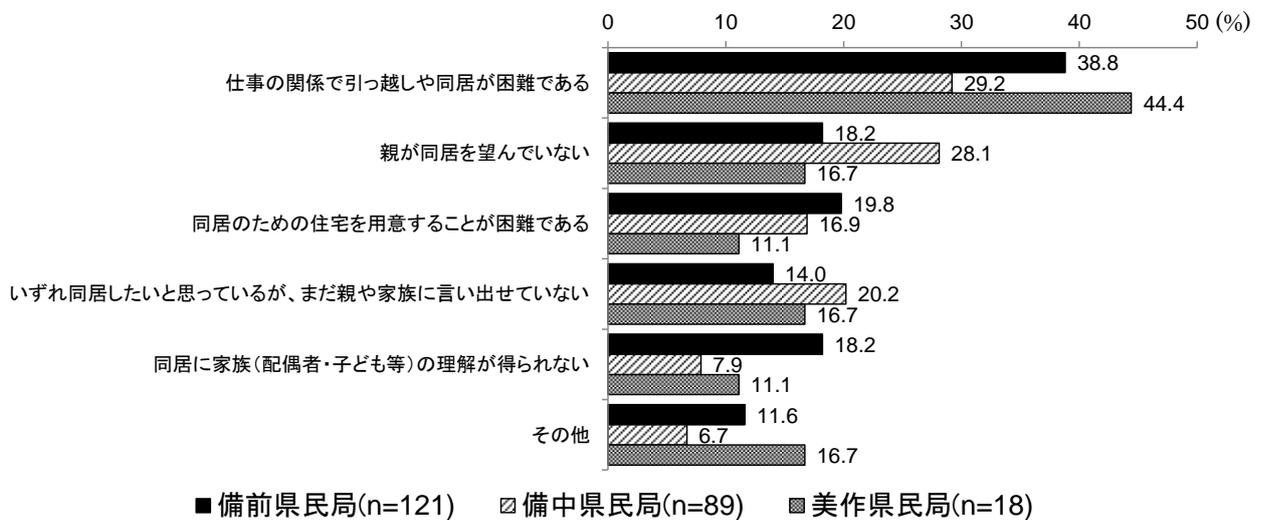
Q46.同居が好ましいと思うのにしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「仕事の関係で引っ越しや同居が困難である」が35.5%と最も高く、次いで「親が同居を望んでいない」(21.9%)、「同居のための住宅を用意することが困難である」(18.0%)となっている。



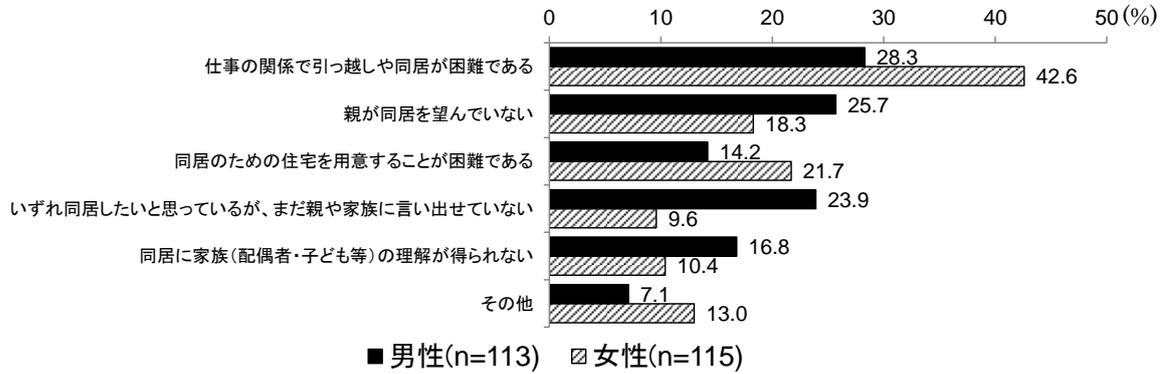
【居住地別】

居住地別では、備前県民局で、「親が同居を望んでいない」「いずれ同居したいと思っているが、まだ親や家族に言い出せていない」と回答した割合が高く、「仕事の関係で引っ越しや同居が困難である」「同居に家族(配偶者・子ども等)の理解が得られない」「その他」と回答した割合が低い。



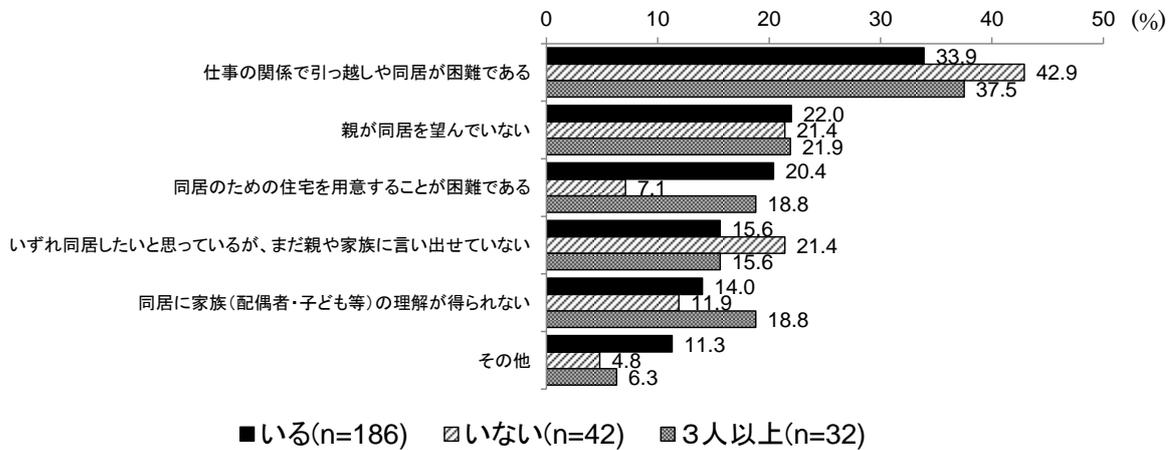
【性別】

男性では、女性と比べて、「親が同居を望んでいない」「いずれ同居したいと思っているが、まだ親や家族に言い出せていない」「同居に家族（配偶者・子ども等）の理解が得られない」と回答した割合が高く、「仕事の関係で引っ越しや同居が困難である」「同居のための住宅を用意することが困難である」と回答した割合が低い。



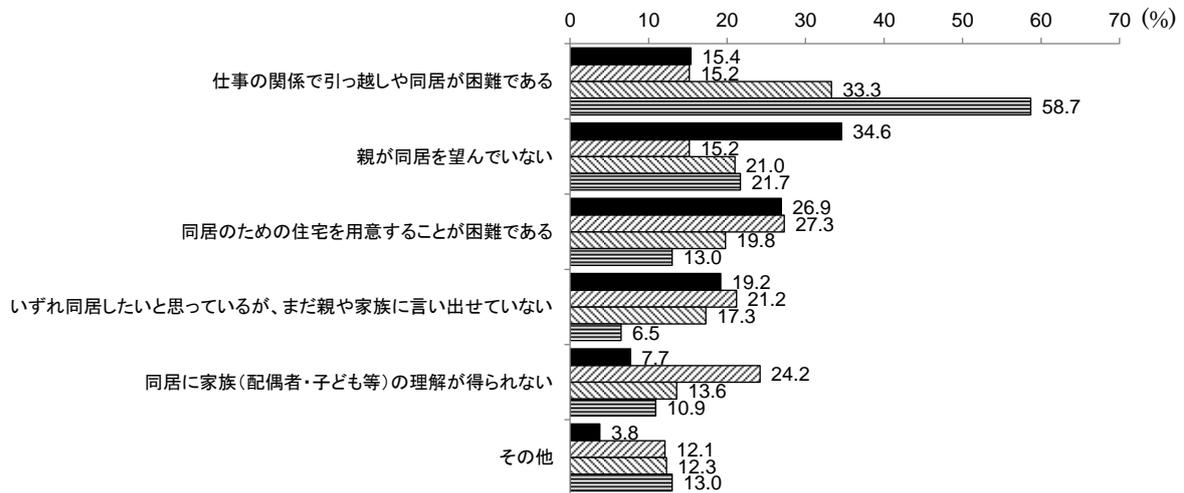
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「同居のための住宅を用意することが困難である」と回答した割合が高く、「いずれ同居したいと思っているが、まだ親や家族に言い出せていない」と回答した割合が低い。



【世話を頼める知人等の有無別】

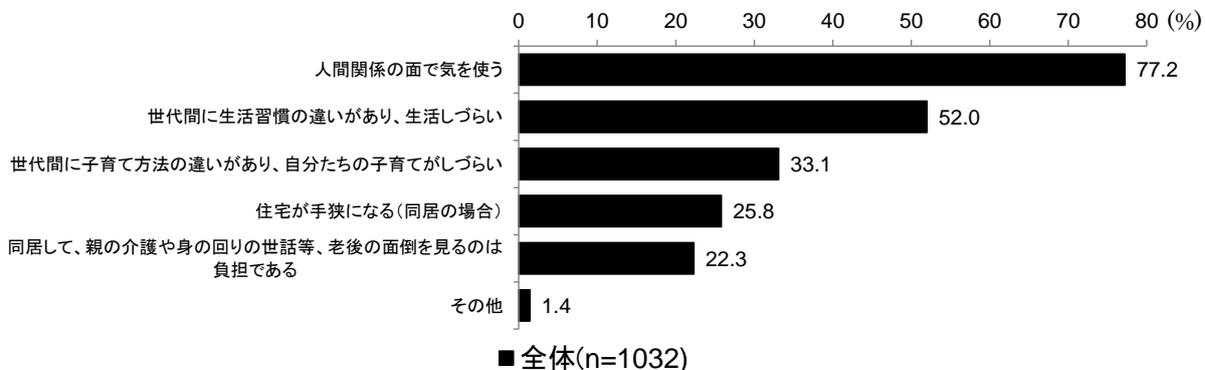
近くに気軽に頼める人がいるでは、「親が同居を望んでいない」と回答した割合が高い。また、特に頼める人はいないでは、「仕事の関係で引っ越しや同居が困難である」と回答した割合が高く、「同居のための住宅を用意することが困難である」「いずれ同居したいと思っているが、まだ親や家族に言い出せていない」と回答した割合が低い。



- 近くに気軽に頼める人がいる(n=26)
- ▣ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=33)
- ▨ 近くではないが、頼める人がいる(n=81)
- ▩ 特に頼める人はいない(n=46)

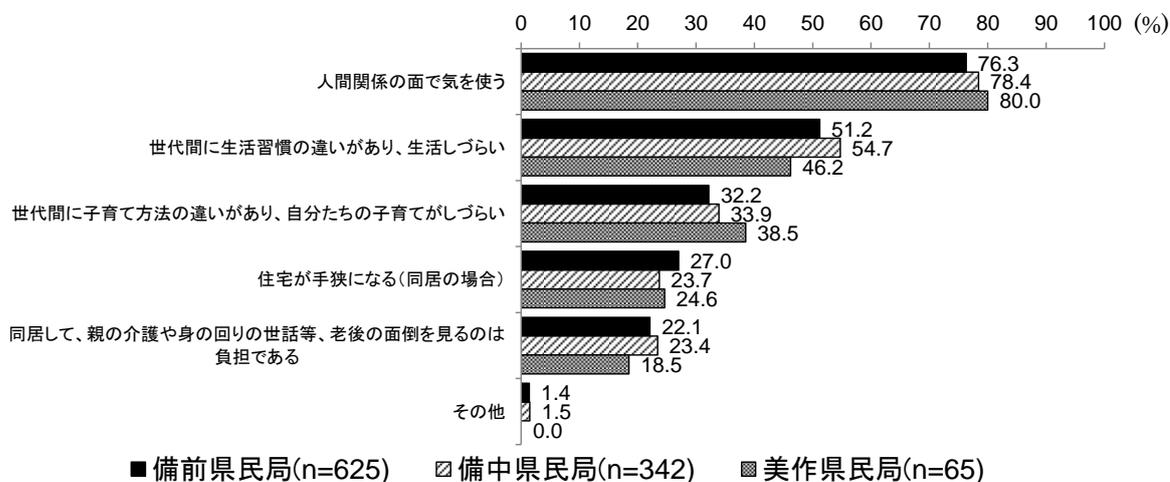
(Q44で「同居(夫方の親)が好ましいと思う」又は「同居(妻方の親)が好ましいと思う」と回答した以外の方)
Q47.同居が好ましいと思わないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「人間関係の面で気を使う」が77.2%と最も高く、次いで「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」(52.0%)、「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」(33.1%)となっている。



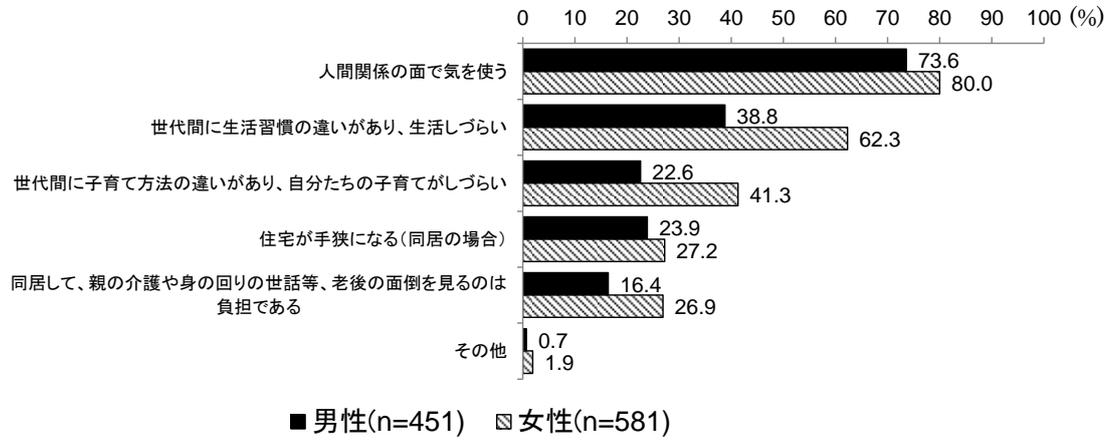
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」と回答した割合が高く、「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」と回答した割合が低い。



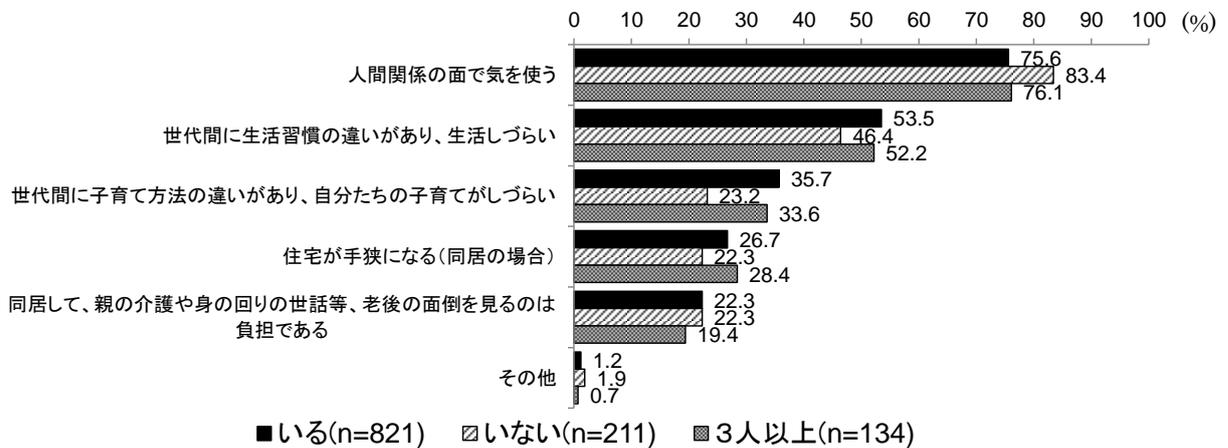
【性別】

男女ともに「人間関係の面で気を使う」が最も高くなっている。また、女性では、男性と比べて、「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」と回答した割合が高くなっている。



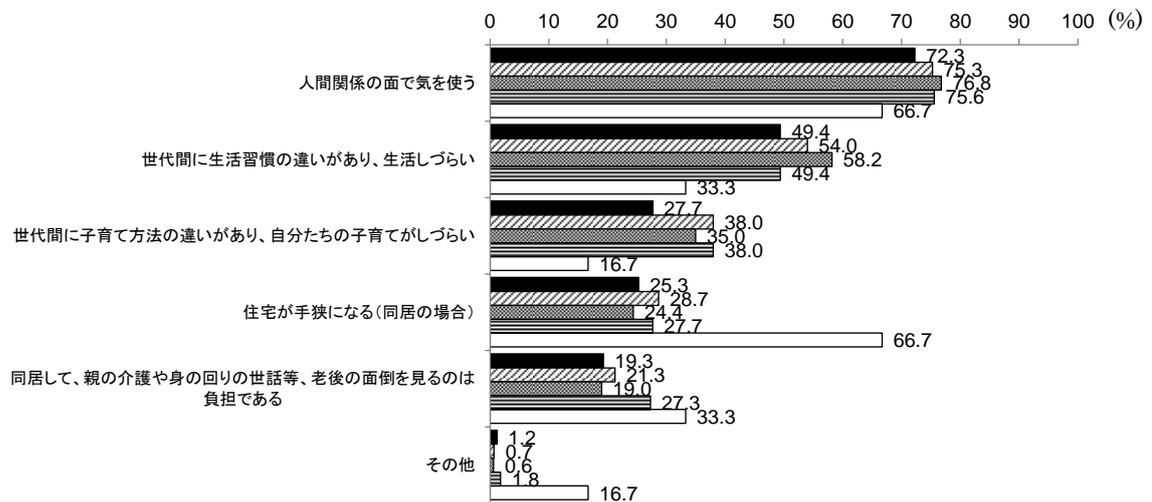
【子ども有無別】

子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」と回答した割合が高く、「人間関係の面で気を使う」と回答した割合が低い。



【世話を頼める知人等の有無別】

近くに気軽に頼める人がいるでは、「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」と回答した割合が低い。また、特に頼める人はいないでは、「同居して、親の介護や身の回りの世話等、老後の面倒を見るのは負担である」と回答した割合が高い。

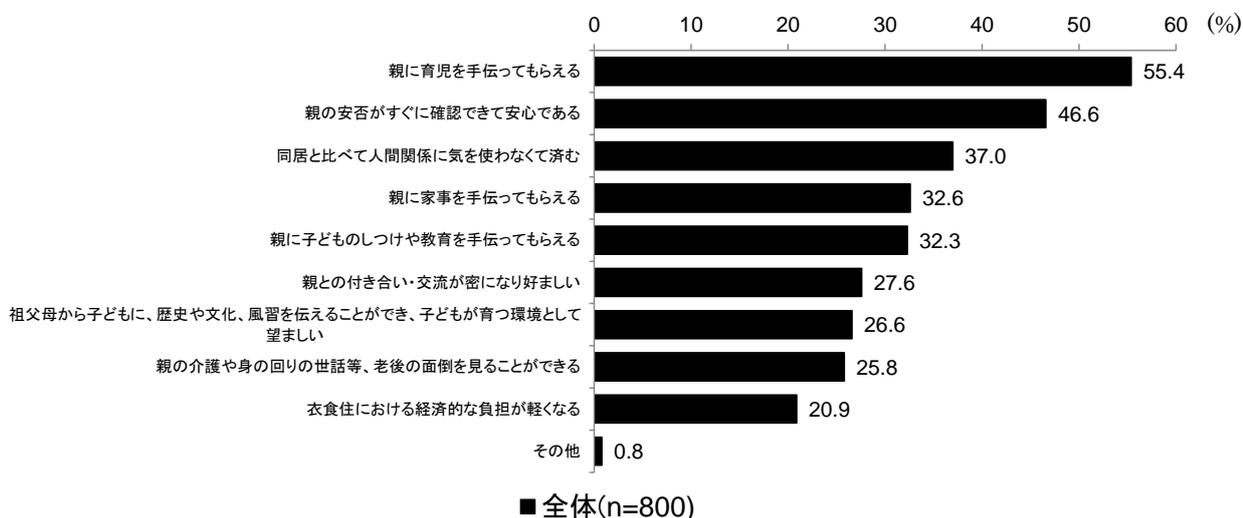


- 近くに気軽に頼める人がいる(n=83)
- ▣ 近くに気軽ではないが、いざという時には頼める人がいる(n=150)
- ▤ 近くではないが、頼める人がいる(n=311)
- ▥ 特に頼める人はいない(n=271)
- その他(n=6)

(Q44で「同居が好ましいとは思わないが、近居(夫方の親)は好ましいと思う」又は「同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う」と回答した方)

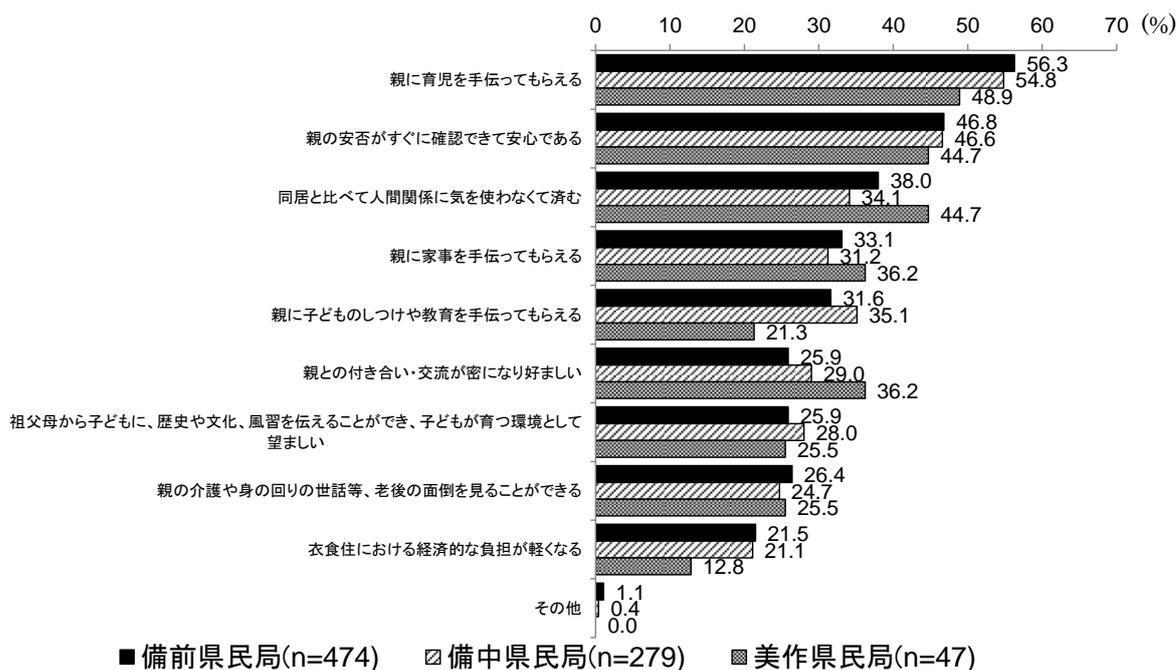
Q48.近居が好ましいと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「親に育児を手伝ってもらえる」が55.4%と最も高く、次いで「親の安否がすぐに確認できて安心である」(46.6%)、「同居と比べて人間関係に気を使わなくて済む」(37.0%)となっている。



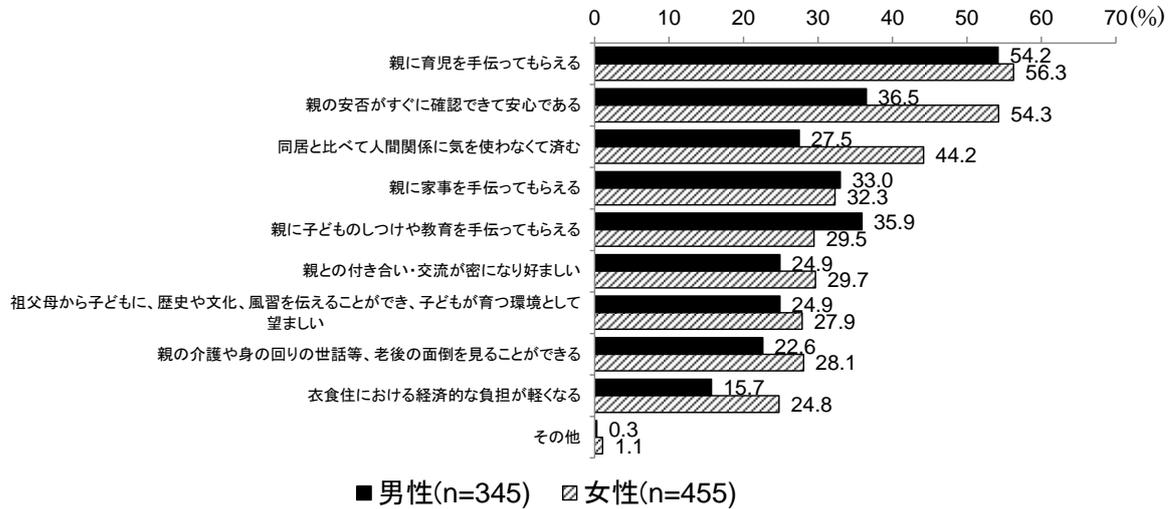
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「同居と比べて人間関係に気を使わなくて済む」「親に家事を手伝ってもらえる」「親との付き合い・交流が密になり好ましい」と回答した割合が高く、「親に子どものしつけや教育を手伝ってもらえる」「衣食住における経済的な負担が軽くなる」と回答した割合が低い。



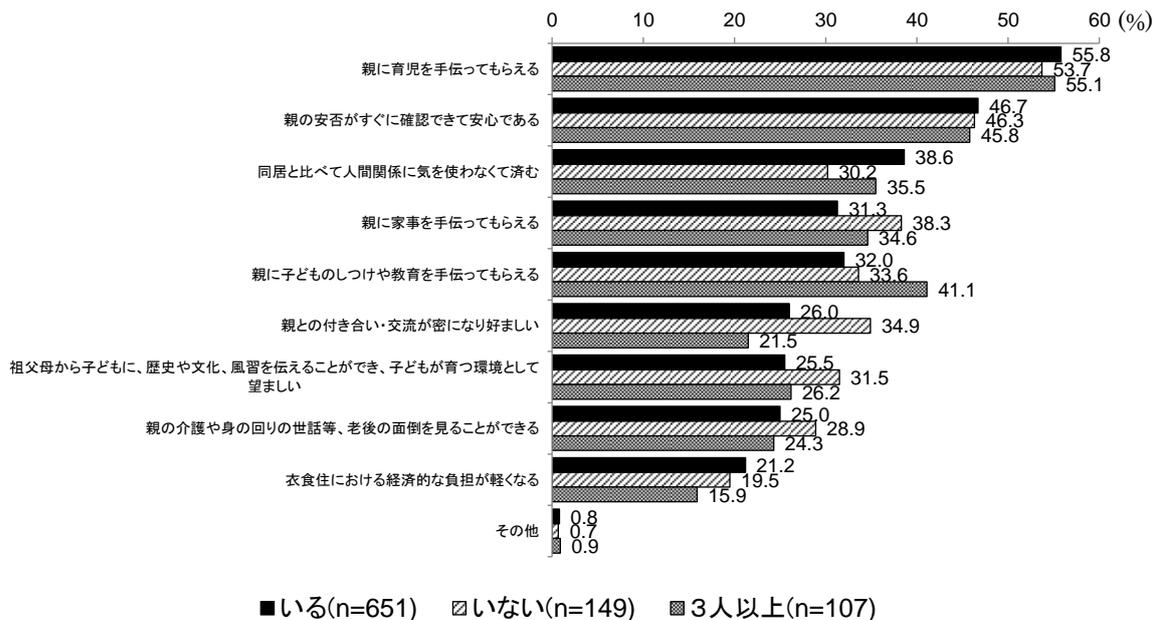
【性別】

男性では、女性と比べて、「親に子どものしつけや教育を手伝ってもらえる」と回答した割合が高く、女性では、男性と比べて、「親の安否がすぐに確認できて安心である」「同居と比べて人間関係に気を使わなくて済む」「親の介護や身の回りの世話等、老後の面倒を見ることができる」「衣食住における経済的な負担が軽くなる」と回答した割合が高い。



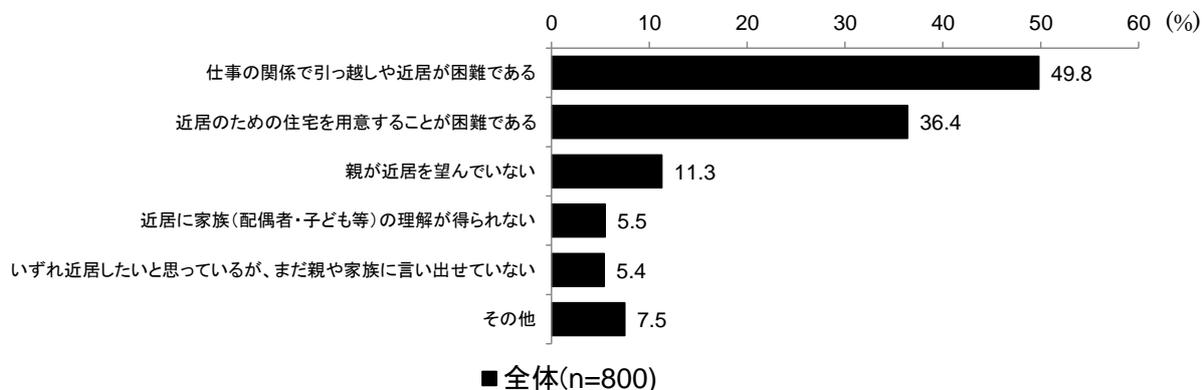
【子ども有無別】

子どもが3人以上では、子どもがいる又は子どもがいないと比べて、「親に子どものしつけや教育を手伝ってもらえる」と回答した割合が高く、子どもがいないでは、子どもがいる又は3人以上と比べて、「親との付き合い・交流が密になり好ましい」と回答した割合が高い。



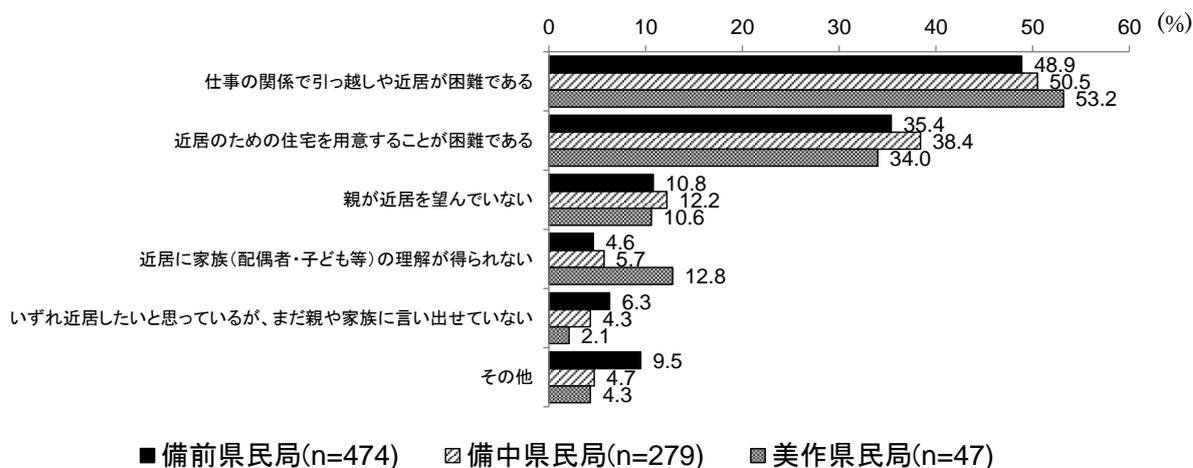
Q49.近居が好ましいと思うのにしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「仕事の関係で引っ越しや近居が困難である」が49.8%と最も高く、次いで「近居のための住宅を用意することが困難である」(36.4%)、「親が近居を望んでいない」(11.3%)となっている。



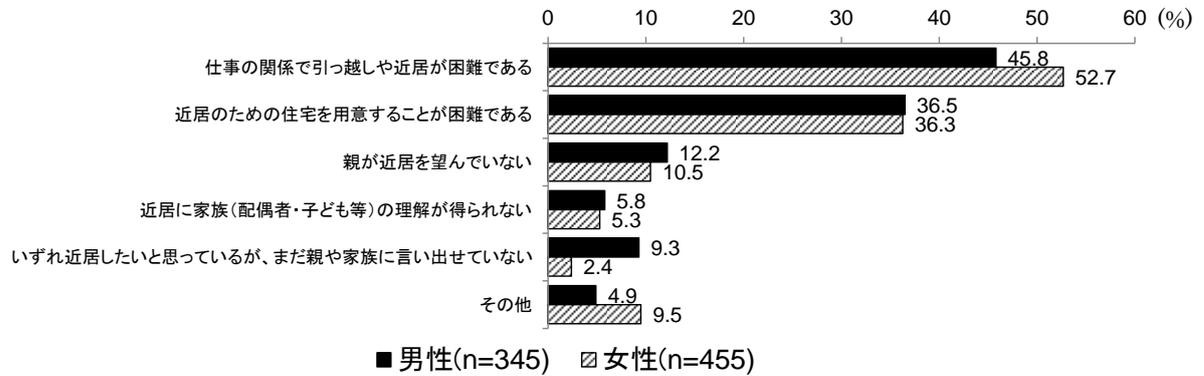
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で、「近居に家族(配偶者・子ども等)の理解が得られない」と回答した割合が高く、「いずれ近居したいと思っているが、まだ親や家族に言い出せていない」と回答した割合が低い。



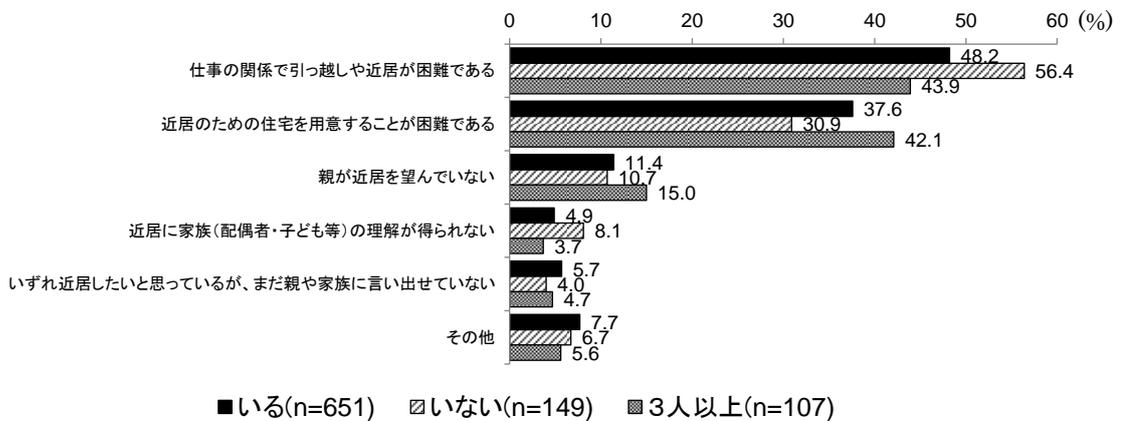
【性別】

男女ともに、「仕事の関係で引っ越しや近居が困難である」が最も高くなっている。また、男性では、女性と比べて、「いずれ近居したいと思っているが、まだ親や家族に言い出せていない」と回答した割合が高い。



【子ども有無別】

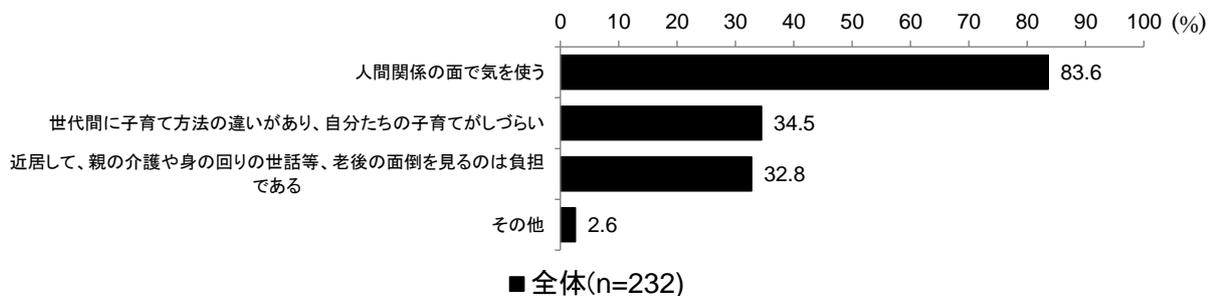
子どもがいる又は3人以上では、子どもがいないと比べて、「近居のための住宅を用意することが困難である」と回答した割合が高く、「仕事の関係で引っ越しや近居が困難である」と回答した割合が低い。



(Q44で「同居も近居も好ましいとは思わない」と回答した方)

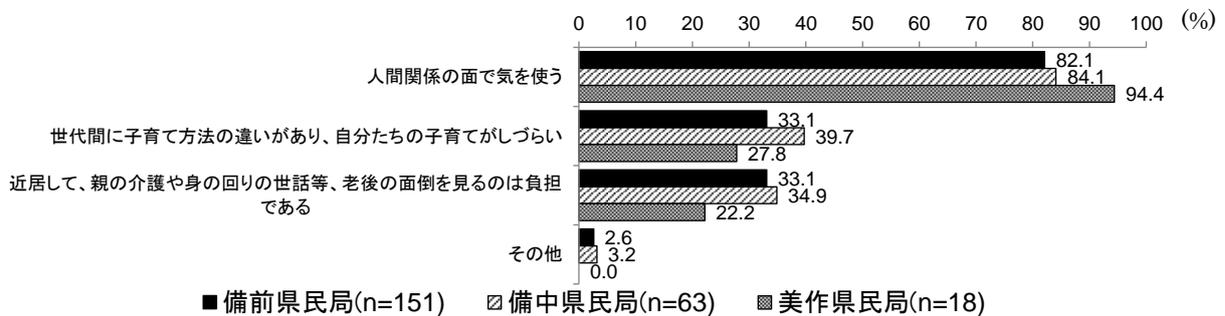
Q50.近居が好ましいと思わないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「人間関係の面で気を使う」が83.6%と最も高く、次いで「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」(34.5%)、「近居して、親の介護や身の回りの世話等、老後の面倒を見るのは負担である」(32.8%)となっている。



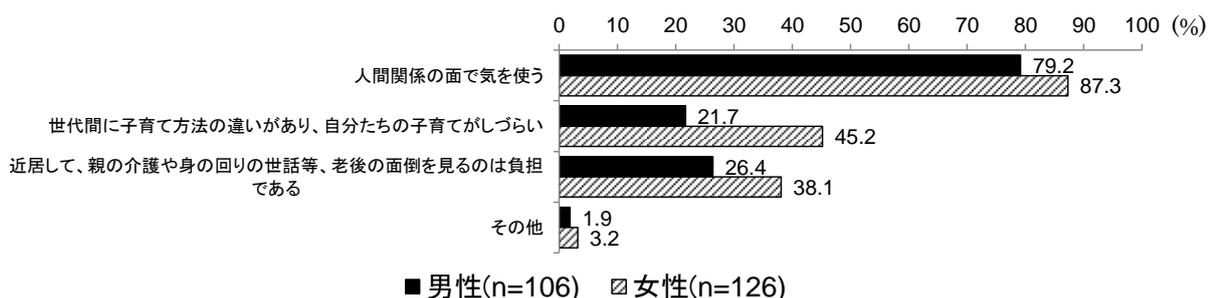
【居住地別】

居住地別では、美作県民局で「人間関係の面で気を使う」、備中県民局で「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」と回答した割合が高い。



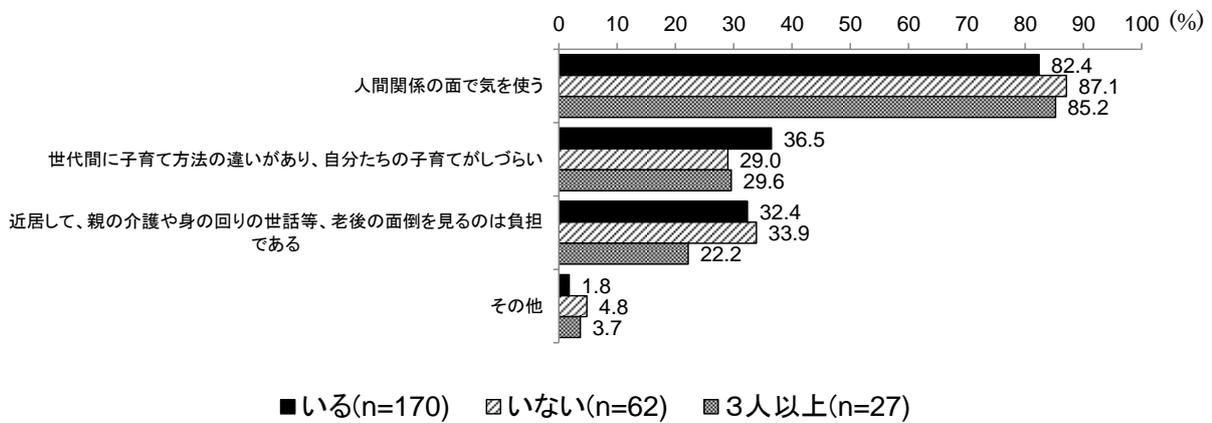
【性別】

男女ともに「人間関係の面で気を使う」が最も高くなっている。また、女性では、男性に比べて、「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」と回答した割合が高くなっている。



【子ども有無別】

子どもが3人以上では、「近居して、親の介護や身の回りの世話等、老後の面倒を見るのは負担である」と回答した割合が低い。



Ⅲ 考察

本調査は、地域の実情に合わせたきめ細やかな少子化対策を推進するため、県民の出産及び子育てに関する意識に加え、多子世帯、三世代同居及び近居等に関する意識を把握し、効果的な施策立案を行うための基礎資料とすることを目的として実施したものである。調査の結果を踏まえ、以下に少子化対策の一助となる政策等を検討する。

(1) 家族についての意識

結婚については「必ずしたほうがよい」「できればしたほうがよい」が73.4%と、全国調査と比較しても高い割合を示している。また、性別でみると、男性は81.8%と高い割合であるが、女性は66.3%と低い割合を示しており、結婚についての意識は、男性が積極的な反面、女性は消極的であることが分かる。

家族の役割としては「子どもを生み、育てる」「生活面でお互いに協力し助け合う」ことを重視している傾向が高い(Q7)。性別による回答をみていくと、女性は「生活面でお互いに協力し助け合う」「喜びや苦勞を分かち合う」の割合が高く、「子どもを生み、育てる」は、男性が50.5%と、項目の中で最も高い割合を示しているが、女性は42.1%と、男性と比べると低い割合を示しており、男性の方が家庭の役割として「子どもを生み、育てる」ことを意識している傾向がある。

理想の家族の住まい方として「親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居」「親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居」を合わせて、45.4%を占めており、同居より近居を理想とする傾向があることが分かる(Q8)。また、性別でみると、女性は「親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居」を理想としていることが分かる。

これらの結果から、「結婚」「子どもを生み、育てる」といった家族に関する意識は、女性よりも男性の方が高い傾向が明らかとなった。少子化の要因として未婚化・晩婚化・晩産化等が挙げられるが、結婚に対して肯定的な意見を有する者が多い状況を踏まえ、結婚を希望する若者の希望をかなえる環境をつくっていくことが重要であると考え。また、近年では、第二子問題も重要な課題となっている。女性が第1子だけでなく、第2子、第3子と、その後も「子どもを生み、育てたい」と思える環境づくりや地域社会の支援体制の整備が喫緊の課題となるだろう。女性が安心して、子どもを生み、育てられる子育て環境には、近居で生活し、心を許せる親族(祖父母)の存在が重要と考える。そのためには、地方自治体主体の婚活対策や故郷での就職支援など、若者が地元で生き生きと暮らす環境づくりも必要と考える。

(2) 家庭における出産や子育てについての意識

調査対象者の理想の子どもの数の平均は、わが国の平成26年合計特殊出生率、合計結婚出生率、完結出生児数と比しても高い数値であり、このことから環境を整えば子どもを設けたいという希望を持っており、少子化の進行を緩やかにする余地はあると考えられる(Q9・10)。しかし、子どもを持つ時期については「考えていない」が66.5%と高く、具体的な計画等はなく、漠然と子どもが欲しいと感じていることが分かる(Q11)。具体的に子どもを持つイメージを醸成する政策・情報発信等が必要であり、諸外国では、スピードプレミアム制度など、出産間隔を短くすることで優遇される制度がある。こうした、子どもを欲しいと思っている家庭を、具体的な出産行動へと繋げていくような政策や支援策を検討し、実現していくことができれば、少子化の速度をある程度緩めることができるのではないだろうか。

理想の子ども数を持たない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が36.8%、次いで「高年齢で生むのはいやだから」が18.1%と高い割合を示している(Q12)。詳細に回答を検討すると、男性は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が主要因であるが、女性は「高年齢で生むのはいやだから」

「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」「夫（妻）の家事・育児への協力が得られないから」が高いという結果となった。子ども有無別の回答では、子どもがいるでは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」、子どもがいないでは「欲しいけれどもできないから」「健康上の理由から」「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」と回答した割合が高い。特に、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」などに代表される経済的負担は高い割合を示しており、出生率の向上には、経済的負担の軽減が急務と言える。具体的には、教育費等の無料化など教育や子育てに係る経済支援の実現が望まれる。また、妻の年齢別結果では、30歳未満では「家が狭いから」「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」と回答した割合が高く、35歳以上では、「高年齢で生むのはいやだから」「欲しいけれどもできないから」「健康上の理由から」と、年齢・身体的理由を回答する割合が高いことが分かった。先にも触れたが、女性が第2子、第3子と、子どもを生み育てやすい環境を整えれば、人口減少の速度をある程度緩めることができる。そのためには、女性のライフスタイルの現状を分析し、女性の年齢層に応じた出産・育児支援を行い、女性が出産を選択しやすい環境を整えることが重要になると言える。また、経済的負担を軽減すること、育児に係る負担を軽減すること、不妊に悩む者への支援、妊孕性に代表される妊娠・出産の正しい知識の普及や情報提供が必要であることが分かる。

今後、持つつもりの子どもの数が、結果的に持てない場合の原因(可能性)としては、「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」が34.6%と最も高く、次いで「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」が25.5%、「収入が不安定なこと」が23.6%となっている(Q13)。しかし、予定子ども数が理想子ども数を下回る方の回答では、「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」「収入が不安定なこと」と回答した割合が高く、「予定子ども数を実現できている／実現できない可能性は低い」と回答した割合は低くなっている。調査対象者の理想の子どもの数を実現する社会をつくるためには、経済支援を拡充するとともに、高齢出産や出生前診断等に関する正しい情報発信や不妊治療や妊婦健診や出産にかかる費用助成など、子どもを生み、育てやすい社会の仕組みづくりが必要となる。

家庭での育児や家事の役割に関しては、「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」が41.0%と最も高く、次いで「妻も夫も同様に行う」が36.1%、「どちらか、できる方がすればよい」15.3%と続く(Q14)。全国調査と比べると、「妻の役割である」と回答した割合が低く、夫の育児・家事従事に関する意識の高さが分かる。また、子どもが小学校に入学するまでの間、育児や家事の中で夫も行った方がよいと思うことに関する調査では、「子どもを入浴させる」が78.6%と最も高く、次いで「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」が76.2%、「ふだん、子どもの話しや遊び相手をする」が71.1%と続き、洗濯・食事の準備といった中心的な家事は期待されていない(Q15)。また、性別では、男性は「食事の後片付けをする」「掃除をする」「日用品や食品の買い物をする」「洗濯をする」と回答した割合が高く、家事従事に関する役割意識が高いことが分かる。反対に女性は「子どもを入浴させる」「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」「ふだん、子どもの話しや遊び相手をする」「日常生活上のしつけをする」と回答した割合が高く、夫に対して育児従事に関する役割を期待していることが分かる。こうした、性別による役割意識の乖離は、妻（母親）の子育てに関する負担感や子育ての孤立感に繋がるものと推測され、性別役割分業意識にとらわれない意識の醸成や制度が必要である。

子どもが小学校に入学するまでの間、子どもからみた祖父母が、育児や家事の手助けに関する調査では、「ややそう思う」が38.9%と最も高く、次いで「とてもそう思う」が24.8%、「どちらともいえない」が23.6%と続き、全国調査と比べると「とてもそう思う」の割合が低いことが分かる(Q16)。また、具体的な手助けの内容に関する調査では、「子どもの話しや遊び相手をする」が53.5%と最も高く、次いで「子どもに自分の経験や知恵を伝える」が49.4%、「日常生活上のしつけをする」が34.6%と続き、家事への手助けよりも、育児への手助けを希望しており、両親とは異なる役割を期待している。(Q17)。また、祖母には「食事の用

意」「掃除・洗濯」「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」と家事従事や病気の子どもへの対応に関する手助けを希望していることが分かる(Q18)。

家庭における出産や子育てに関する意識は、全国調査と比較すると全体的に肯定的な回答の割合が高く、出産や子育てを前向きに受け止めていることが伺える。しかし、実際に子どもを生むことへの計画性や実行性については曖昧な回答がみられており、「子どもが欲しい」という希望から「子どもを生み、育てる」ことを実現できる支援が望まれる。そのためには、夫の育児に関する役割意識の向上と、ほどよい距離感を保ちつつ、必要に応じて手助けを頼める祖父母との関係性の構築が必要となる。

(3) 地域での子育て支援環境づくりについての意識

子どもの世話を頼める親族・友人・知人については距離等に関係なく76.4%がいると回答している(Q19)。こうした、身近な支援者の存在は、子育て中の親にとって不可欠である。しかし、「特に頼める人はいない」と回答した方が23.1%いる点については、地域での手助けが必要と考える。また、子育て家庭における地域支援の必要性については、「とても重要だと思う」が47.8%と最も高く、次いで「やや重要だと思う」が32.5%と続き、全体の80.3%が地域支援を重要と考えており、核家族化・都市化によって人間関係が希薄化しているが、地域のつながりを重視していることが分かる(Q20)。また、具体的な支援項目については、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が52.4%と最も高く、次いで「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」52.0%、「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」41.8%と続く(Q21)。また、全国調査と比較すると、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」では、10ポイント以上低い割合を示している。これは、岡山県内で実施されている「ももっこステーション」や「見守り隊」といった取り組みによる支援環境が整っていることの表れとも受け取れる。しかし、今後さらに核家族化や県外からの移住者への子育て支援、外国籍を有する子育て家庭への支援など、地域支援に求められるニーズは多様化するものと推測される。多様な子育てニーズに対応できる支援体制の拡充が必要である。

(4) 多子世帯に関する意識

自身の子どもについては「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない」が56.8%と最も高く(Q22)、これ以上子どもが欲しくない理由については、「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」が43.5%と最も高いこと(Q23)から、調査対象者の半数近くは、希望する数の子どもを持つことができている。しかし、続く回答では、「経済的に難しい」37.7%、「将来の教育費が心配」26.1%となっており、経済的不安感によって、これ以上子どもが欲しくないと思う傾向がみられる。多子世帯を推進していくためには、経済支援が不可欠であることが分かる。

現在の就労状況については、「正社員」が本人49.7%、配偶者56.9%と最も高く、次に本人の「無職(専業主婦(夫)を含む)」が23.5%、配偶者の「パート・アルバイト」が15.1%であった(Q24.25)。就労理由としては、「生計を維持するため」が全体で76.8%、男女比では、男性では「生計を維持するため」が92.3%、女性では「家計を補助するため」の58.5%が、それぞれ最も高い割合を示した(Q26)。

【会社・職場の育児制度の活用や子育てについての理解の度合い】については、「とても理解があると思う」「まあ理解があると思う」を合わせると57.3%が、理解があると感じている。しかし、女性に比べて男性は理解があると感じている割合が低い。同様の傾向は、【会社・職場の上司の、子育てについての理解】にもあてはまる(Q27)。

就労していない理由として「子育てに専念したいから」「条件に合う雇用先がない」「家事・育児が負担」が上位を占めている(Q28)。女性は「子育てに専念したいから」が、41.8%と高い割合を示しており、自らが就労よりも子育てを選択している傾向がある。しかし、続く女性の就労していない理由をみていくと、「条

件に合う雇用先がない」「子どもの預け先がない」といった潜在待機児童の問題や「しばらく仕事から離れ、自信がない」といった結婚・出産による離職の問題が露呈している。女性の就労支援においては、結婚・出産前の就労の継続や就労希望者への保育支援が不可欠である。そのためにも、認定こども園や保育園・幼稚園における一時預かり制度の拡充が求められる。

自身の子育ての分担については、理想とは異なり実際の子育て・家事は、主として妻が担当し、夫は手伝う程度であることが分かる(Q29・30)。これは、多子世帯においても同様の傾向を示しており、妻の負担の大きさが伺える。また、利用している(したことがある)子育て支援制度や施設としては、「ももっこカード」が47.0%と最も高く、次いで「幼稚園」「認可保育所」となっている(Q31)。岡山県独自の取り組みである「ももっこカード」の利用割合が高く、岡山県独自の施策が浸透していることが分かる。しかし、男性は「利用している(したことがある)ものはない」と回答した割合が高く、子育て支援制度に対する理解や利用できる施設に関する情報発信の必要性がある。また、男性(父親)を手伝いとしての子育てから、母親と同等に子育ての主体とする啓発活動も不可欠である。

祖父母からの子育て支援については、夫方、妻方それぞれの親から「よく支援をしてもらっている」という回答が最も高く、子育て支援を受けていると感じている(Q34.35)。具体的な支援内容については、夫方の親からの支援は「教育費以外の経済的支援をする」が49.9%と最も高く、次いで「子どもの話しや遊び相手をする」が46.6%、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」が31.7%と続く。妻方の親からの支援は、「子どもの話しや遊び相手をする」が54.4%と最も高く、次いで「教育費以外の経済的支援をする」が52.3%、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」が32.1%と続く(Q36.37)。

子育てにかかる費用のうち、特に経済的な負担と感じているのは「塾や習い事にかかる費用」が47.1%と最も高く、次いで「保育所、幼稚園又は小学校にかかる費用」が46.0%、「食費」が24.7%である(Q38)。また、子育てをしていて負担・不安に思うこととしては、「子育ての出費がかさむ」が46.1%と最も高く、次いで「将来予想される子どもにかかる経済的負担」が45.9%、「子どもが病気のとき」が36.8%と続く(Q39)。また、男性は、女性に比べると「負担・不安に思うことはない」と回答する割合が高く、「自分の自由な時間が持てない」や「子育てによる精神的負担が大きい」「仕事が十分にできない」とった項目については、回答する割合は低くなっている。子育てに関する負担や不安感については、女性の方が強く感じていることが分かる。

子どもが欲しいと思うために必要とされる支援については、「将来の教育費に対する補助」が46.9%と最も高く、次いで「幼稚園・保育所などの費用の補助」が42.6%、「妊娠・出産に伴う医療費の補助」が36.4%と続き、Q39の負担・不安を解消できる補助を期待している(Q40)。また、性別による回答では、女性は「配偶者の家事・子育てへの協力」の必要性を上位に挙げているが、男性の回答の割合は低い。こうした回答からも、子育てへの負担が女性に偏っている実態が分かるとともに、女性が子どもを欲しいと思うには、出産、子育て、教育等にかかる経済的負担軽減とともに、配偶者の協力が重要となっている。そのためにも、男性が子育てに参加することへの意識を社会全体で向上させる取り組みが必要となる。

(5) 三世同居・近居に関する意識

同居又は近居のきっかけは、「結婚をきっかけに同居又は近居した」が28.0%と最も高く、次いで「特にきっかけはない」が26.5%、「自宅又は親の住宅の購入をきっかけに同居又は近居した」が17.3%と続く(Q41)。また、同居又は近居のメリットは、「親に育児を手伝ってもらえる」が50.1%と最も高く、次いで「親の安否がすぐに確認できて安心である」35.0%、「親に家事を手伝ってもらえる」32.2%と続く(Q42)。反対に、同居又は近居で感じるデメリットについては「人間関係の面で気を使う」が55.4%と最も高い割合を示している(Q43)。また、男性と比べると、女性は、「人間関係の面で気を使う」以外にも「世代間に生活習慣の違いがあり、生活しづらい」「世代間に子育て方法の違いがあり、自分たちの子育てがしづらい」につい

て、デメリットと感じる傾向がある。こうしたデメリットからか、理想の家族の住まい方として、「同居が好ましいとは思わないが、近居(妻方の親)は好ましいと思う」が、男性では 32.6%、女性では 54.3%、全体では 44.6%と、その他すべての調査項目について最も高い割合を示している(Q44)。

同居が好ましいと思う理由は「親に育児を手伝ってもらえる」が 55.3%と最も高く、同居が好ましいと思うのにしていない理由については「仕事の関係で引っ越しや同居が困難である」が最も高い。さらに、同居が好ましいと思わない理由については、「人間関係の面で気を使う」が 77.2%と最も高い割合を示した。これは、近居についても同様の結果が得られている。

三世同居・近居には、メリット・デメリットがそれぞれあり、同居・近居の実現には、仕事の状況が影響している。また、世代間による生活習慣や子育て観の違いによる同居・近居の困難性が明らかとなった。そのため、上記のようなメリット・デメリット及び自らの生活を勘案し、同居・近居等を選択していくことが必要となっている。

【総括】

今回の調査結果から、岡山県内の回答者の結婚に関する意識が高いことが把握された。しかし、男女比で見ると、結婚に関する肯定的な意識は男性に高い割合を示し、女性は男性よりも低い割合を示していることが分かった。現在の我が国における出産や子育てに係る女性への負担の偏りが、女性の結婚に対する否定的な意識をつくっているのではないかと考察する。若者の未婚化が深刻化する中で、結婚を希望する若者の希望をかなえる環境をつくっていくことが重要であり、女性が結婚・出産・子育てに希望が持てる社会的支援が不可欠と考える。また、結婚・出産・育児に関する正しい情報発信を行うとともに、結婚の楽しさや有意義な点等を発信し結婚をする風潮を形成したり、若者の出会いの「場」を提供していく施策が必要となる。

調査対象者の理想の子どもの数の平均は、わが国の平成 26 年合計特殊出生率と比しても高い割合を示しているが、実際の出産行動(子どもを持つこと)に繋がる具体的な見通しが薄いことが明らかとなった。結婚・出産については、晩婚化や高齢出産が加速している現状では、出産間隔を短くし、子どもが欲しいと思っている人を具体的な出産行動へと繋げるための政策や支援が必要となる。また、理想の子ども数を持たない理由としては、子育てや教育にかかる経済的負担が上位に挙げられており、出生率の向上には経済的負担の軽減が急務と言える。具体的には、教育費等の無料化など教育や子育てに係る経済支援の実現が望まれる。さらに、女性が第2子、第3子と、子どもを生み育てやすい環境を整えるためには、女性のライフスタイルの現状を分析し、女性の年齢層に応じた出産・育児支援を行い、女性が出産を選択しやすい環境を整えることが重要である。

家庭での育児や家事の役割に関しては、男性は、家事従事に関する役割意識が高く、女性は、夫に対して育児従事に関する役割を期待していることが明らかとなった。こうした、性別による役割意識の乖離は、妻(母親)の子育てに関する負担感や子育ての孤立感に繋がるものと推測される。子育てに関する父親教育や父親の子育て参加型のひろばの拡充など、母親のみが育児・家事負担にかかわるのではなく、父親が子育てに参加することの必要性を伝えるとともに、子育てに参加できる「場」の提供を拡充していくことが望まれる。父親の育児休暇の取得を推進する広報を継続すること、行政が範を示していくことも必要である。

就労していない理由として、女性は「子育てに専念したいから」と、自らが就労よりも子育てを選択している傾向がある一方で、「子どもの預け先がない」といった潜在待機児童の問題や結婚・出産による離職の問題が挙げられている。女性の就労支援においては、結婚・出産前の就労の継続や就労希望者への保育支援が不可欠である。そのためにも、認定こども園や保育園・幼稚園における一時預かり制度の拡充が求められる。また、岡山県内における潜在待機児童の問題は未就学児にとどまらず、学童保育の拡充や専門性を備えた専従スタッフによる質的向上も急務的課題と言えるであろう。

地域での子育て支援環境については、岡山県独自の取り組みである「もっこカード」の利用割合が高く、岡山県内の子育て家庭において広く利用されていることが分かった。しかし、全体的な利用については、男性

の利用割合が低く、利用したことがないと回答する人の割合も高かった。地域の子育て支援拠点や児童センター等の公共施設を中心として、男性の子育て参加に関する取り組みを促進し、岡山県内の地域の中で男性が子育てを楽しみ、子どもの成長を感じる機会や場を提供する取り組みが求められる。

祖父母以外にも子どもの世話を頼める親族・友人・知人がいるという回答が多くを占めたが、血縁、地縁にとられない新しいネットワークを形成していくことも必要である。核家族化・都市化が進行している現代において、血縁・地縁に頼るには限界がある。同年代の子どもを持つ保護者のネットワークなどが血縁・地縁に代わる役割を果たすことができ、子育ての悩みを共有したり、負担を軽減したり、情報を共有する関係性をつくるのが急務である。子育てに悩む保護者を孤立化させないことが肝要である。子育て支援拠点や幼稚園・保育所・認定こども園の保護者会等にその機能を任せるような施策も検討する価値はある。

以上のように、全国平均値と比較しても岡山県内では、潜在的な結婚観、出産、子育て、育児に関する意識は肯定的であり、子どもを生み、育てたいと感じている割合が高い。そのため、実際の出産行動へと向かわせる動機付けに係る取り組みとして、結婚・出産・育児への助成や補助などの優遇策が拡充されることで、結婚及び出生率を引き上げることが可能であると考え。そのためにも、現在、岡山県が実施・推進している子ども・子育てに関する多様な施策を継続するとともに、父親や男性の子育てへの参加を促進する取り組みにも意識を向ける必要があると考える。加えて、岡山県内には、保育者養成に携わる大学、地域の子育て支援拠点として活動している保育施設や児童福祉センターなどが多数あり、それぞれが独自に取り組みを行っており、企業・学校・ボランティア・NPO 及び地域等が一体となった子育て支援をする必要がある。特に、経済的支援と子育てを母親のみに任せない状況づくりが急務である。岡山県には、こうした、岡山県内に点在している子育て支援に寄与する社会資源や人材を有効に活用し、子育て家庭と地域社会とを繋ぐ役割を期待する。

【用語説明】

●合計特殊出生率

その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に住むとしたときの子どもの数に相当する。

●合計結婚出生率

観察対象となる年次における夫婦の子どもの生み方を表す指標で、有配偶女性の結婚持続期間別出生率を合計することによって得られる。その値は一夫婦がその全出生過程を通して当該の結婚持続期間別出生率に従って子どもを生んだ場合に実現される完結出生児数を示す。ただし、夫婦の子どもの生み方（ペース）が複数年次にわたって変化しているときには、ある年次の結婚持続期間別出生率は実際の出生過程と大きく異なることがあるので、本指標の値の解釈には注意を要する。

●完結出生児数

夫婦が結婚後、十分に時間が経過して、もはや子どもを生まなくなった時点の子どもの数を完結出生児数とよぶ。

岡山県子育て家庭環境調査

平成 28 年 1 月

岡山県保健福祉部子ども未来課

〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目 4 番 6 号

T E L : 086-226-7347 F A X : 086-234-5770

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/40/>